



取扱書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

**COROLLA
SPORT**



安全・安心のために

お客様に必ずお読みいただきたいこと

(主な項目：チャイルドシートの取扱い、盗難防止装置)

1

走行に関する情報表示

走行に関する情報を表示する計器類の見方

(主な項目：メーター・マルチインフォメーションディスプレイ)

2

運転する前に

ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整

(主な項目：キー、ドア、シート)

3

運転

運転に必要な操作やアドバイス

(主な項目：エンジン始動のしかた、給油のしかた)

4

室内装備・機能

室内装備の使い方など

(主な項目：エアコン・収納装備の使い方)

5

お手入れのしかた

車のお手入れ・メンテナンスの方法

(主な項目：内装・外装の手入れ、電球の交換)

6

万一の場合には

故障したときや、緊急時などの対処

(主な項目：バッテリーあがりやタイヤがパンクしたときの対処)

7

車両情報

車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報

(主な項目：指定燃料、各オイル量、タイヤ空気圧)

8

さくいん

症状から検索

音から検索

アルファベットで検索

五十音で検索

知っておいていただきたいこと	5	スマートエントリー&スタートシステム	85
本書の見方	8		
検索のしかた	9		
イラスト目次	10		
1 安全・安心のために			
1-1. 安全にお使いいただくために			
運転する前に	20	フロントシート	90
安全なドライブのために	21	リヤシート	91
シートベルト	23	ヘッドレスト	92
SRS エアバッグ	26		
排気ガスに対する注意	32		
1-2. お子さまの安全			
お子さまを乗せるときは	33	ハンドル	95
チャイルドシート	34	インナーミラー	96
1-3. 盗難防止装置			
エンジンイモビライザーシステム	49	ドアミラー	97
2 走行に関する情報表示			
2-1. 計器の見方			
警告灯／表示灯	52	4-1. 運転にあたって	
計器類 (4.2 インチディスプレイ)	56	運転にあたって	104
計器類 (7 インチディスプレイ)	59	荷物を積むときの注意	111
マルチインフォメーションディスプレイ	62		
ヘッドアップディスプレイ	69	4-2. 運転のしかた	
燃費画面	73	エンジン (イグニッション) スイッチ	113
3 運転する前に		オートマチックトランスミッション	117
3-1. キー		マニュアルトランスミッション	121
キー	76	方向指示レバー	124
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた		パーキングブレーキ	125
ドア (フロントドア・リヤドア)	79	ブレーキホールド	128
バックドア	82		
4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方			
ランプスイッチ	130		
オートマチックハイビーム	132		
フォグランプスイッチ	135		
ワイパー＆ウォッシャー (フロント)	136		
ワイパー＆ウォッシャー (リヤ)	138		
4-4. 給油のしかた			
給油口の開け方	139		
4-5. 運転支援装置について			
Toyota Safety Sense	141		

PCS (プリクラッシュセーフティ)	145	5-4. その他の室内装備の使い方	258
LTA (レントレーシングアシスト)	152	その他の室内装備	
LDA (レーンディバーチャーラート [ステアリング制御機能付き])	161	6 お手入れのしかた	
RSA (ロードサインアシスト) ..	168	6-1. お手入れのしかた	
レーダークルーズコントロール (全車速追従機能付き) ..	171	外装の手入れ ..	266
レーダークルーズコントロール ..	180	内装の手入れ ..	268
先行車発進告知機能 ..	188	6-2. 簡単な点検・部品交換	
Stop & Start システム ..	190	ボンネット ..	271
BSM (ブライindsightスポットモニター)	198	ガレージジャッキ ..	272
クリアランスソナー ..	203	ウォッシャー液の補充 ..	273
RCTA (リヤクロストラフィックアラート) ..	209	タイヤについて ..	274
PKSB (パーキングサポートブレーキ) ..	213	タイヤ空気圧について ..	277
パーキングサポートブレーキ (静止物) ..	219	エアコンフィルターの交換 ..	278
パーキングサポートブレーキ (後方接近車両) ..	225	電子キーの電池交換 ..	279
ドライブモードセレクトスイッチ ..	229	ヒューズの点検・交換 ..	281
運転を補助する装置 ..	230	電球 (バルブ) の交換 ..	283
4-6. 運転のアドバイス		7 万一の場合には	
寒冷時の運転 ..	236	7-1. まず初めに	
5 室内装備・機能		故障したときは ..	288
5-1. エアコンとデフォッガーの使い方		非常点滅灯 (ハザードランプ) ..	289
オートエアコン ..	240	発炎筒 ..	289
ステアリングヒーター／シートヒーター ..	246	車両を緊急停止するには ..	290
5-2. 室内灯のつけ方		水没したときは ..	291
室内灯一覧 ..	248	7-2. 緊急時の対処法	
5-3. 収納装備		けん引について ..	292
収納装備一覧 ..	250	フューエルポンプシャットオフシステム ..	297
ラゲージルーム内装備 ..	253	警告灯がついたときは ..	298

電子キーが正常に働かないときは	327
.....	327
バッテリーがあがつたときは	329
.....	329
オーバーヒートしたときは	332
.....	332
スタックしたときは	334
.....	334

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）	338
.....	338

8-2. カスタマイズ機能

ユーザー カスタマイズ機能一覧	344
.....	344

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目	352
.....	352

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）	354
.....	354
車から音が鳴ったときは（音さくいん）	356
.....	356
アルファベット順さくいん	358
.....	358
五十音順さくいん	360
.....	360

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはSRSエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそ

れがあります。

- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。

- ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換

異なる種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。

- ・ 電気品・無線機の取り付け・取りはずし

電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

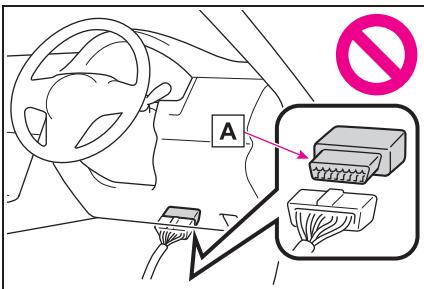
RF送信機の取り付けについては、P.7も参照してください。

- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクター[A]などに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

- ・エンジン回転数／電気モーター回転数
- ・アクセルペダルの操作状況
- ・ブレーキペダルの操作状況
- ・車速
- ・運転支援システムの作動状況
- ・カメラの画像情報

車両には複数のカメラがついています。どのカメラが画像を記録しているかは、トヨタ販売店にお問い合わせください。

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- ・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・トヨタが訴訟で使用する場合
- ・統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● 記録した画像情報はトヨタ販売店にて消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

T-Connectによるデータの取り扱いについて

お客様がT-Connectをご利用の場合、記録データとその使用について、T-Connect利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDRは、一定の衝突や衝突に近い状態（SRSエアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDRは車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

- ・車両の各システムの作動状況
- ・アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- ・車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはできません。

- ・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・トヨタが訴訟で使用する場合
- ・ただし、トヨタはデータを車両安全性能の研究に使用することがあります。

・使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することができます。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおぼす可能性があります。

- EFI コンピュータ
- Toyota Safety Sense
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

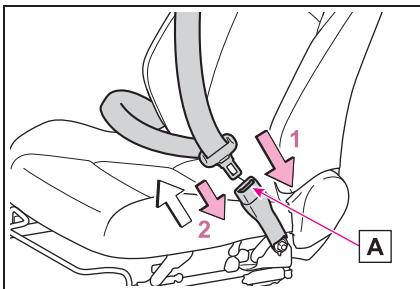
本書の見方

本書で使用している、記号について説明します。

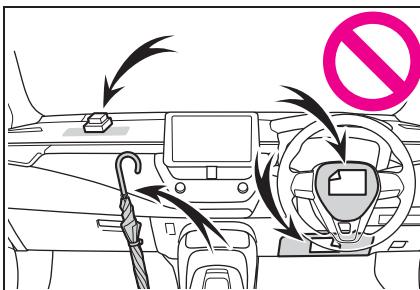
本文の記号について

記号	意味
	警告： お守りいただかないと、 お客様自身と周囲の人々 が死亡、または重大な傷 害につながるおそれがあ ることを説明していま す。
	注意： お守りいただかないと、 車や装備品の故障や破損 につながるおそれがあ ることを説明していま す。
1 2 3...	操作・作業の手順を示し ています。番号の順に 従ってください。
	機能や操作方法の説明以 外で知っておいていただき たい、知っておくと便 利なことを説明していま す。

イラスト上の記号について



記号	意味
	押す・まわすなど、して いただきたい操作を示し ています。
	フタが開くなど、操作後 の作動を示しています。

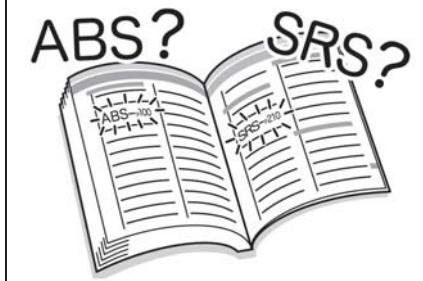
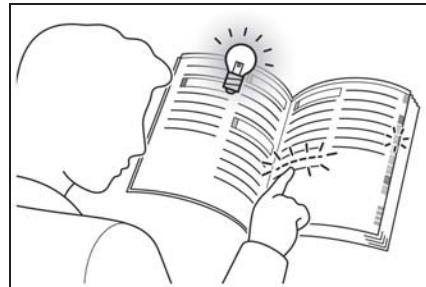


記号	意味
	説明の対象となるもの・ 場所を示しています。
	してはいけません、この ようにしないでくだ さい、このようなことを起 こさないでくださいとい う意味です。

検索のしかた

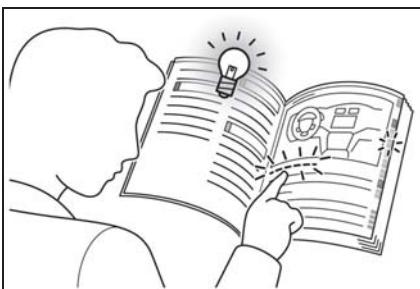
■ タイトルから探す

- 目次 : P.2



■ 取り付け位置から探す

- イラスト目次 : P.10



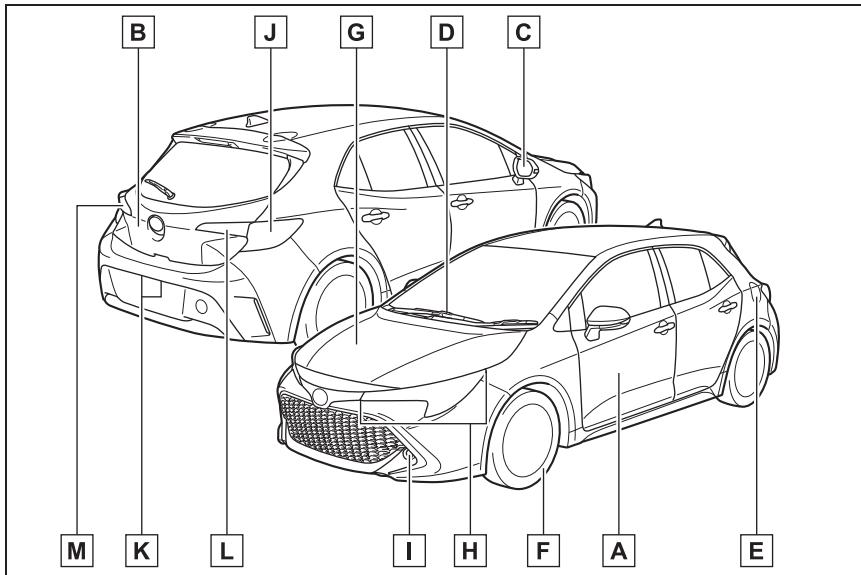
■ 症状や音から探す

- こんなときは (症状別さくいん) : P.354
- 車から音が鳴ったときは (音さくいん) : P.356



イラスト目次

■ 外観



A ドア	P.79
施錠／解錠	P.79
ドアガラスの開閉	P.99
メカニカルキーでの施錠／解錠	P.327
警告メッセージ	P.81
B バックドア	P.82
施錠／解錠	P.84
警告メッセージ	P.84
C ドアミラー	P.97
鏡面の角度調整	P.97
ミラーの格納	P.98
曇りを取る（ミラーヒーター）	P.242
D ワイパー	P.136
冬季の注意	P.236
凍結防止（フロントワイパーデアイサー）★	P.244

E	給油口	P.139
	給油方法.....	P.140
	燃料の種類・燃料タンク容量.....	P.338
F	タイヤ	P.274
	サイズ・空気圧	P.342
	冬用タイヤ・タイヤチェーン	P.236
	点検・ローテーション	P.274
	パンク時の対処	P.307, 318
G	ボンネット	P.271
	開け方	P.271
	エンジンオイル	P.338
	オーバーヒート時の対処	P.332

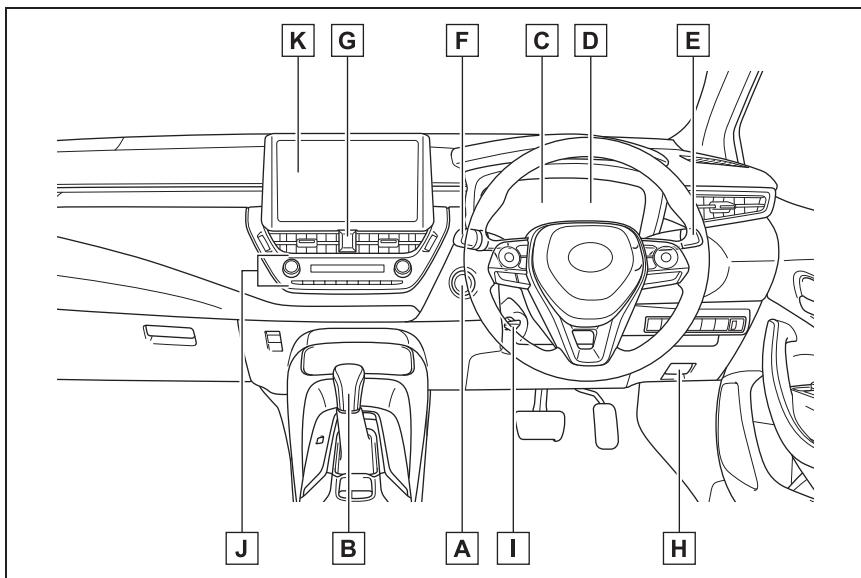
走行に関わる外装のランプバルブ

(交換要領: P.283, ワット数: P.343)

H	ヘッドランプ・車幅灯・LED デイライト★	
	・方向指示灯.....	P.124, 130
I	フロントフォグランプ★	P.135
J	尾灯・制動灯・方向指示灯.....	P.124, 130
K	番号灯	P.130
L	尾灯・リヤフォグランプ★	P.130, 135
	後退灯★	
	シフトポジションを R にする	P.117, 121
M	尾灯	P.130, 135
	後退灯	
	シフトポジションを R にする	P.117, 121

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ インストルメントパネル



A エンジンスイッチ	P.113
エンジンの始動・モード切りかえ	P.113
エンジンの緊急停止	P.290
エンジンが始動できないときの対処	P.325
警告メッセージ	P.305
B シフトレバー	P.117, 121
シフトポジションの切りかえ	P.117, 121
けん引時の注意	P.292
シフトレバーが動かないときの対処 ^{※1}	P.119
C メーター	P.56, 59
見方・明るさの調整	P.56, 59
警告灯／表示灯	P.52
警告灯点灯時の対処	P.298
D マルチインフォメーションディスプレイ	P.62
表示内容	P.62

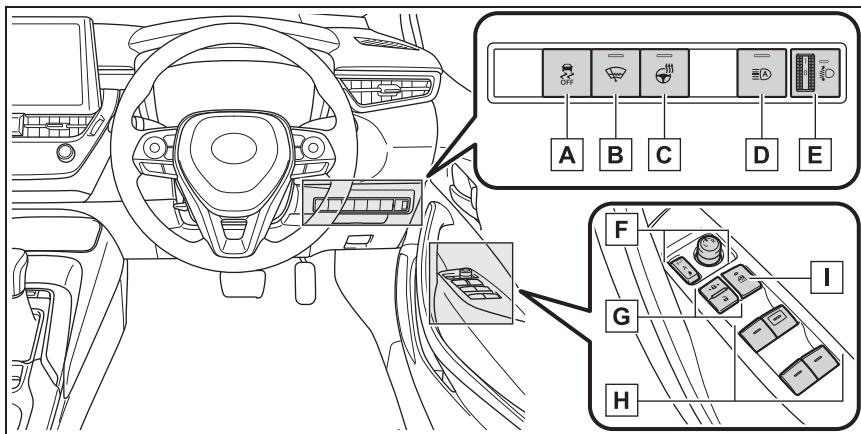
警告メッセージ表示時の対処	P.305
E 方向指示レバー	P.124
ランプスイッチ	P.130
ヘッドランプ・車幅灯・LED デイライト★・尾灯	P.130
フロントフォグランプ★・リヤフォグランプ★	P.135
F ワイパー&ウォッシャースイッチ	P.136, 138
使い方	P.136, 138
ウォッシャー液の補充	P.273
G 非常点滅灯スイッチ	P.289
H ボンネット解除レバー	P.271
I ハンドル位置調整レバー	P.95
J エアコン	P.240
操作方法	P.240
リヤウィンドウの曇り取り（リヤウィンドウデフォッガー）	P.242
K オーディオ★※2	
音楽を聴く※2	
電話をかける・受ける（ハンズフリー）※2	

※1 オートマチック車

※2 別冊「マルチメディア取扱書」または「ナビゲーション取扱書」を参照してください。

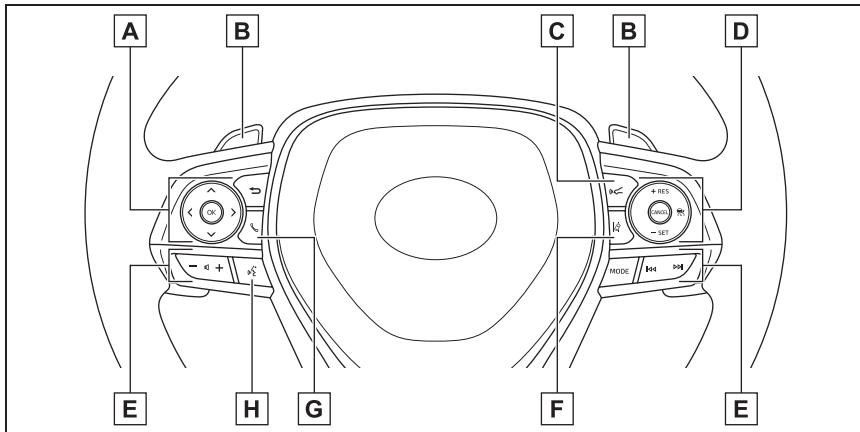
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■スイッチ類



- A** VSC OFF スイッチ P.231
- B** フロントワイパーデアイサー スイッチ★ P.244
- C** ステアリングヒーター スイッチ★ P.246
- D** オートマチックハイビームスイッチ P.132
- E** 手動光軸調整ダイヤル P.131
- F** ドアミラースイッチ P.97
- G** ドアロックスイッチ P.81
- H** パワーウィンドウスイッチ P.99
- I** ウィンドウロックスイッチ P.101

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



A メーター操作スイッチ P.63

B パドルシフトスイッチ★ P.119

C 車間距離切りかえスイッチ P.175, 183

D クルーズコントロールスイッチ
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）★ P.171
レーダークルーズコントロール★ P.180

E オーディオスイッチ*

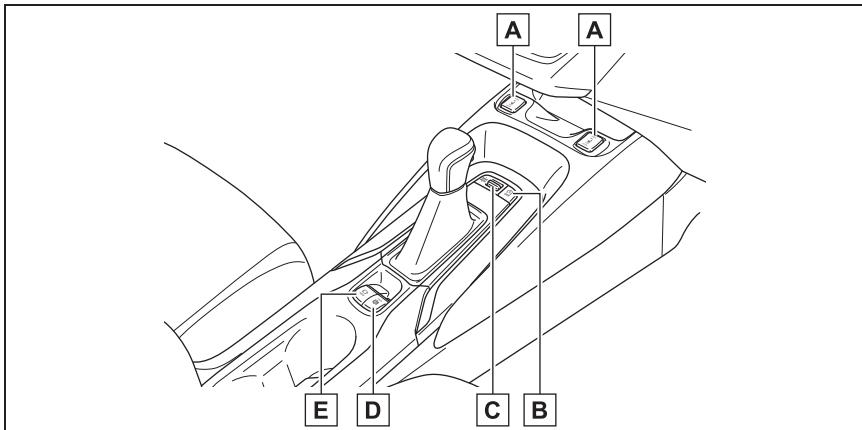
F LTA（レントレーシングアシスト）スイッチ★ P.152
LDA（レーンディバーチャーラート【ステアリング制御機能付き】）
スイッチ★ P.161

G 電話スイッチ*

H トーカスイッチ*

* 別冊「マルチメディア取扱書」または「ナビゲーション取扱書」を参照してください。

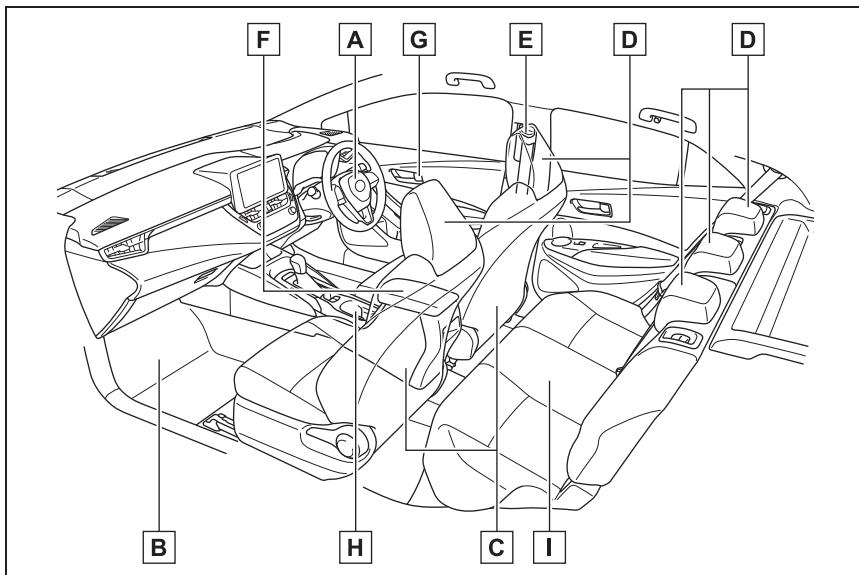
★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



- A** シートヒータースイッチ★ P.246
- B** Stop & Start キャンセルスイッチ★ P.196
- C** ドライブモードセレクトスイッチ P.229
- D** パーキングブレーキ P.125
冬季の注意 P.237
- E** ブレーキホールドスイッチ P.128

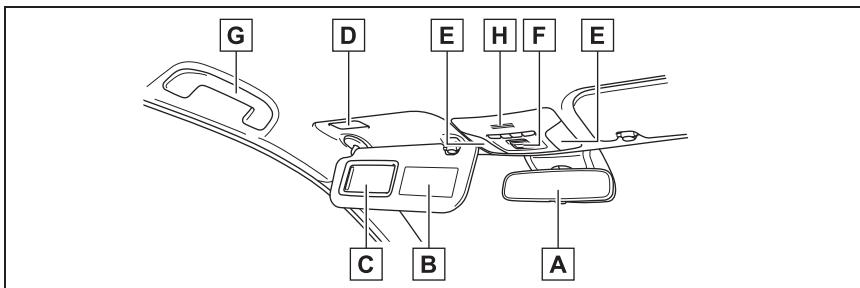
★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 室内



A	SRS エアバッグ	P.26
B	フロアマット	P.20
C	フロントシート	P.90
D	ヘッドレスト	P.92
E	シートベルト	P.23
F	コンソールボックス	P.252
G	ロックレバー	P.81
H	カップホルダー	P.251
I	リヤシート	P.91

■ 天井



A	インナーミラー.....	P.96
B	サンバイザー※1.....	P.264
C	バニティミラー.....	P.264
D	バニティミラーランプ.....	P.264
E	インテリアランプ／パーソナルランプ.....	P.248
F	ヘルプネットボタン※2	
G	アシストグリップ.....	P.263
H	マイク※2	

※1やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。 (→P.36)



※2別冊「マルチメディア取扱書」または「ナビゲーション取扱書」を参照してください。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に	20
安全なドライブのために	21
シートベルト	23
SRS エアバッグ	26
排気ガスに対する注意	32

1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは	33
チャイルドシート	34

1-3. 盗難防止装置

エンジンイモビライザーシステム	49
-----------------------	----

運転する前に

お車を安全に運転していただくために、運転する前は必ず次のことを確認してください。

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

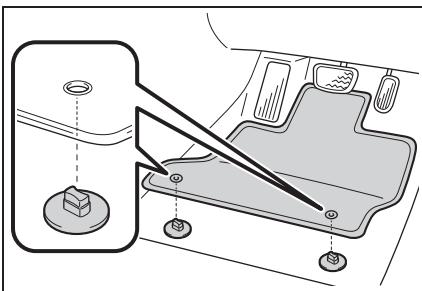
日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

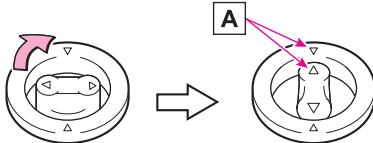
フロアマット

専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する



△ マークAを必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

▲ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わずスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

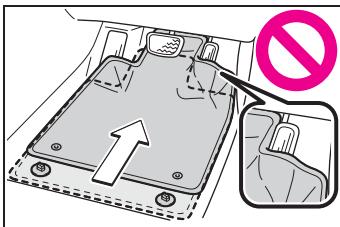
■ 運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

⚠ 警告

■ 運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック(クリップ)で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う

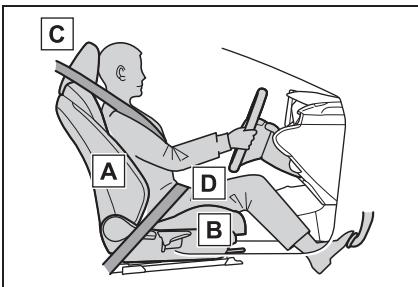


- エンジン停止およびシフトポジションがP(オートマチック車)またはN(マニュアル車)の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について



A まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する(→P.90)

B ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする(→P.90)

C ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする(→P.92)

D シートベルトを正しく着用する(→P.23)

⚠ 警告

■ 安全な運転のために

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドラレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。
お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。
周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。(→P.23)

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。(→P.34)

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。(→P.96, 97)

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

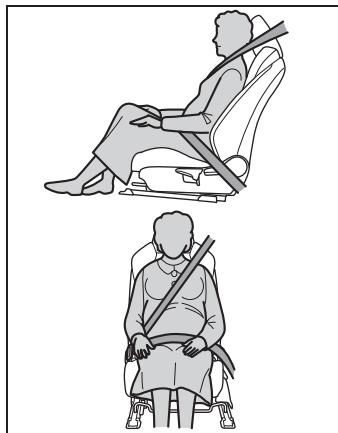
⚠ 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■ 妊娠中の女性の場合



医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。 (→P.24)

通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■ お子さまを乗せるとき

→P.45

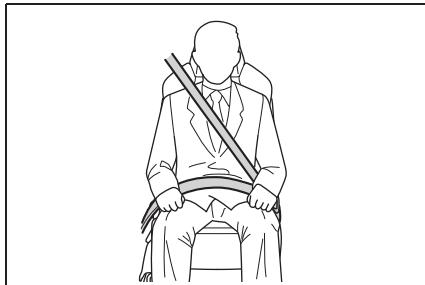
■ シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

⚠ 警告

- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていなかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

正しく着用する



- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする

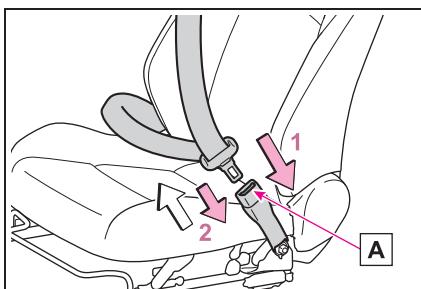
□ 知識

■ お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合った子供専用シートを使用してください。(→P.34)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。

着け方・はずし方



- 1 ベルトを固定するには、“力チッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む
- 2 ベルトを解除するには、解除ボタン[A]を押す

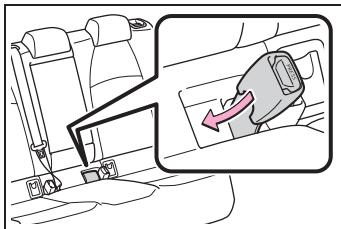
□ 知識

■ シートベルトロックの解除方法

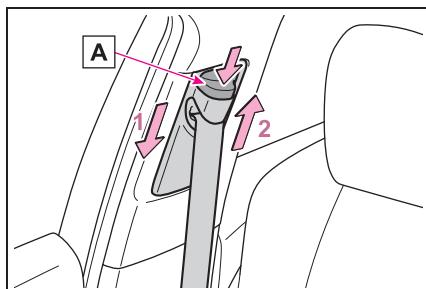
急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■ リヤ中央席シートベルトを使用したあとは

バックルを格納してください。



シートベルトの高さ調節（フロント席）

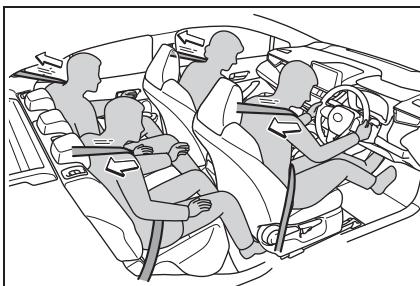


- 1 解除ボタンAを押しながら、アジャスターを下げる
- 2 解除ボタンAを押しながら、アジャスターを上げる

“カチッ”と音がして固定されるとこ

ろまで動かしてください。

シートベルトプリテンショナー（フロント席・リヤ外側席）



前方・側方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。

□ 知識

■ シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

⚠ 警告

■ プリテンショナー付きシートベルトについて

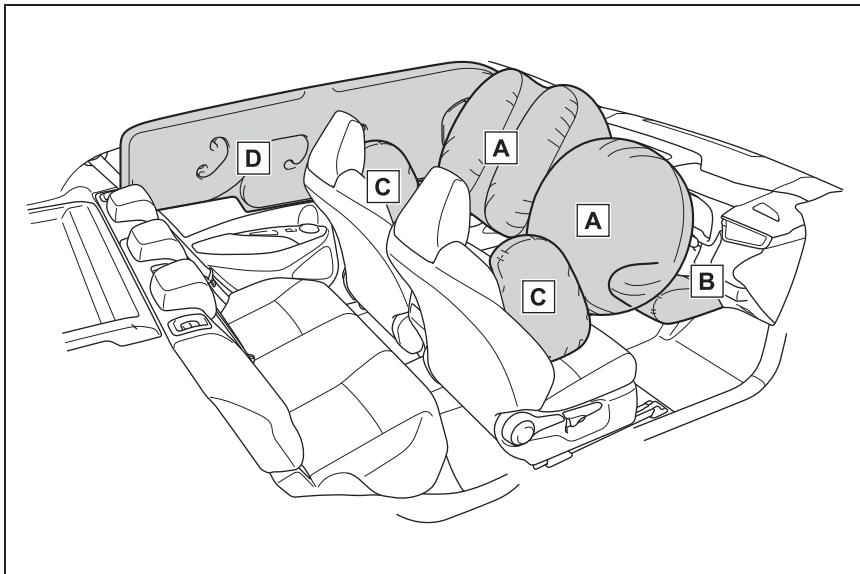
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRSエアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

SRS エアバッグシステム

■ SRS エアバッグの配置



▶ フロント SRS エアバッグ

A 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ

運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和します

B SRS ニーエアバッグ

運転者の衝撃緩和を補助します

▶ SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ

C SRS フロントサイドエアバッグ

フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和します

D SRS カーテンシールドエアバッグ

フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和します

□ 知識

■ SRS エアバッグが作動すると

- SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- フロント席・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなく、エアバッグ構成部品（ハンドルのハブ、エアバッグカバー、インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。
- 室内灯が自動で点灯します。
(→P.248)
- 非常点滅灯が自動で点滅します。
(→P.289)
- T-Connect の契約期間内は、次の場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両を手配します。
詳しくは「マルチメディア取扱書」または「ナビゲーション取扱書」を参照してください。
- ・ SRS エアバッグが作動した
- ・ シートベルトプリテンショナーが作動した
- ・ 後方から強い衝撃を受けた

■ SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20～30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグ

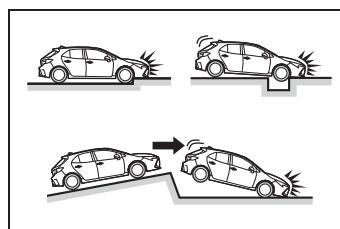
が作動する車速は設定値より高くなります。

- ・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
- ・ もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）
- 衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。
- SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ）
- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5 t の車両が約 20～30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
- 前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

■ 衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグと SRS サイド&カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

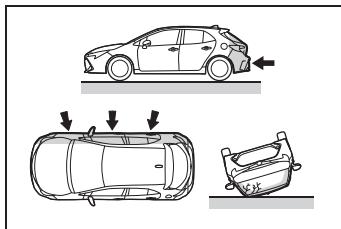
- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



■ SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

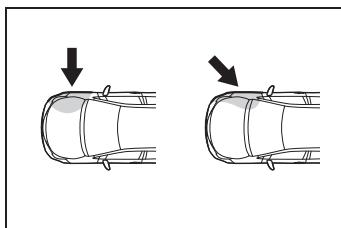
- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転



■ SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ）

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド&カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

- 客室部分以外の側面への衝撃
- 斜めからの衝撃

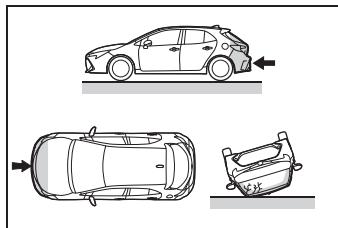


SRS サイドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

- 前方からの衝突

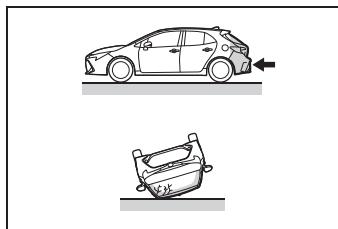
● 後方からの衝突

● 横転



SRS カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

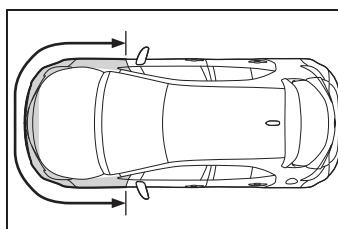
- 後方からの衝突
- 横転



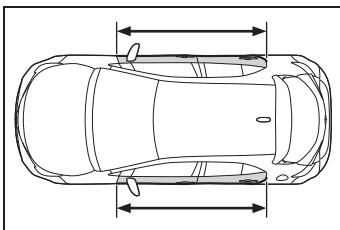
■ トヨタ販売店に連絡が必要な場合

次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

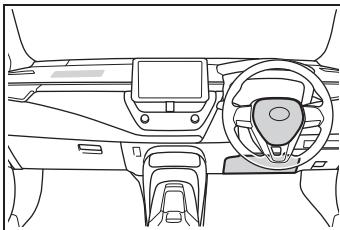
- いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき
- フロント SRS エアバッグはふくらまなかつたが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



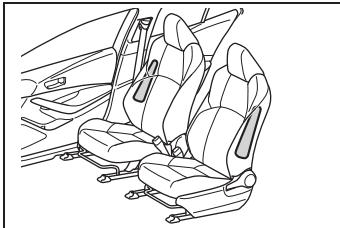
- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグはふくらまなかつたが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形・穴あきなどがあるとき



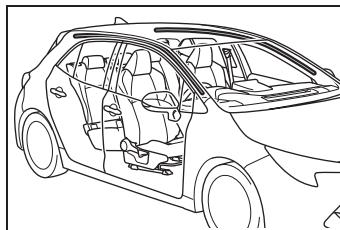
- ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラーパーク・リヤピラーパーク・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



!**警告**

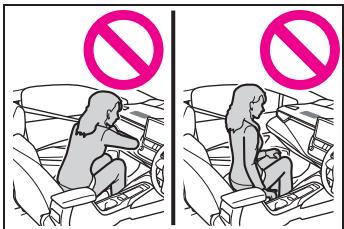
■ SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死ににつながるおそれがあります。

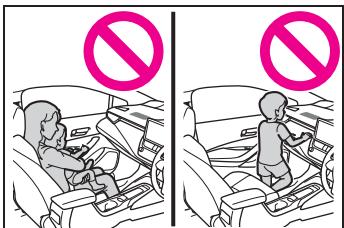
- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死ににつながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートができるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまがシートにしっかりと座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な障害におよぶか、最悪の場合死ににつながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかりと固定してください。お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用されることをおすすめします。
(→P.34)

⚠ 警告

- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない



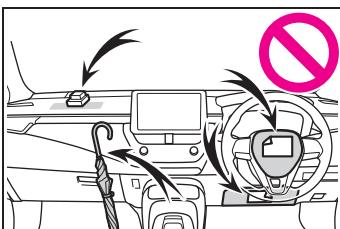
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない
- ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない（速度制限ラベルを除く
→P.309）



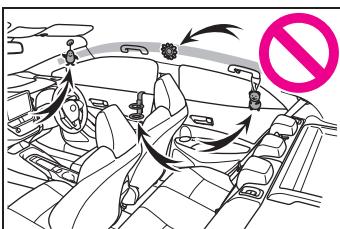
- 助手席では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



- ドア・フロントガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない（速度制限ラベルを除く
→P.309）



- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠️ 警告

- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。
- SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺およびフロントドアの周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せず、トヨタ販売店で交換してください。

■ 改造・廃棄について

- トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール・フロントドアパネル・フロントドアトリム・フロントドアスピーカー周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントドアパネルの穴あけなどの改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

⚠ 警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。

バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。やむを得ないとときは、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってるこことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。
(→P.34)
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウィンドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター(→P.81)・ウインドウロックスイッチ(→P.101)をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウィンドウ・ボンネット・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

▲ 警告

■ お子さまを乗せるときは

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシート」を参照してください。
(→P.34)

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。
- トヨタでは、より安全にお使いいただくために、トヨタ純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
トヨタ純正チャイルドシートは、トヨタ車のために作られたチャイルドシートです。トヨタ販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと：
P.34

チャイルドシートを使用するときは：P.35

シート位置別チャイルドシートの適合性について：P.38

チャイルドシートの取り付け方法：P.43
・ シートベルトで固定する：P.44

- ・ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する：P.46
- ・ トップテザーアンカレッジを使用する：P.47

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。
(→P.38)

▲ 警告

■ お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。

⚠️ 警告

- トヨタでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■ チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いため、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください(→P.38)。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。

- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートを使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

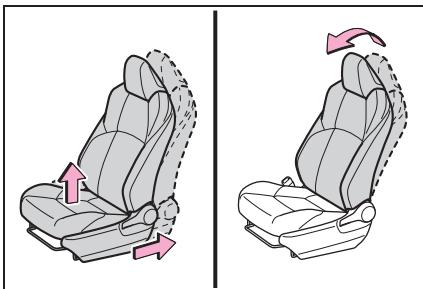
やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

- シートをいちばんうしろに下げる
- シートの高さをいちばん高い位置まで上げる
- 背もたれを可能な限り起こす

背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように調整してください。

- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずす

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。



⚠ 警告

■ チャイルドシートを使用するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

⚠ 警告



⚠ 警告

- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げる取り付けてください。
助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないで、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



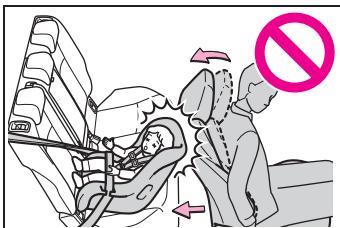
- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

⚠ 警告

- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。



- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

シート位置別チャイルドシートの適合性について

■ シート位置別チャイルドシートの適合性一覧表について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→P.39）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。

推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。

（→P.42）

次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

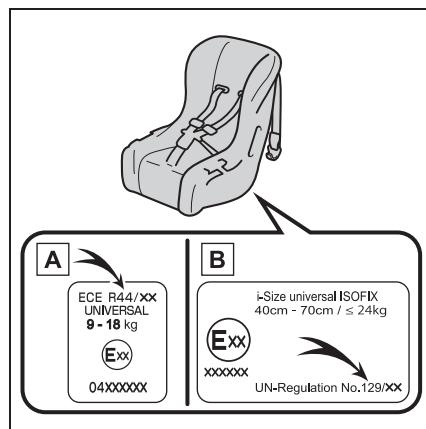
■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

- チャイルドシートの規格を確認する

UN(ECE) R44^{※1} または、UN(ECE) R129^{※1} に適合したチャイルドシートを使用してください。

適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。

チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。



法規番号の表示例

A UN(ECE) R44 認可マーク^{※2}
対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

B UN(ECE) R129 認可マーク^{※2}

対象となるお子さまの身長の範囲および使用可能な体重が記載されています。

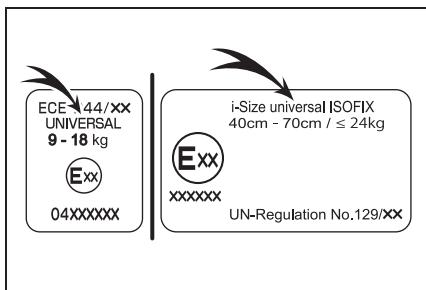
- チャイルドシートのカテゴリーを確認する

チャイルドシートのカテゴリー

が次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。

また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認頂くか、または販売業者へ確認してください。

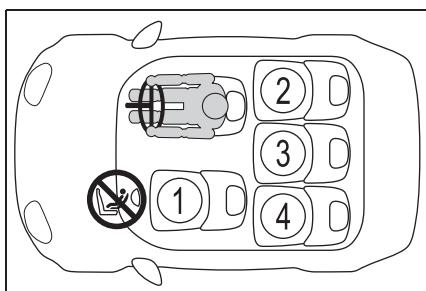
- ユニバーサル「universal (汎用)」
- セミユニバーサル「semi-universal (準汎用)」
- リストリクティッド「restricted (限定)」
- ビーカルスペシフィック「vehicle specific (特定車両)」



※¹UN(ECE) R44、UN(ECE) R129は、チャイルドシートに関する国連法規です。

※²表示されているマークは、商品により異なります。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性



① ※1, 2, 3		
② ※3		
③ ※3		
④ ※3		

車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→P.42）に記載されたチャイルドシートに適しています。

i-SizeチャイルドシートおよびISOFIXチャイルドシートに適しています。

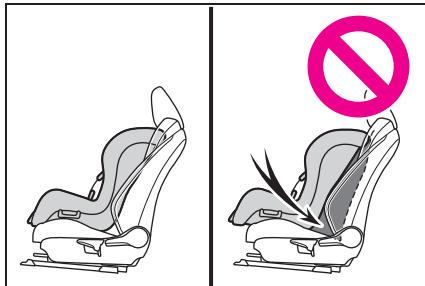
トップテザーアンカレッジが装備されています。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

※¹シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※²背もたれを可能な限り起こしてください。

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



※3ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

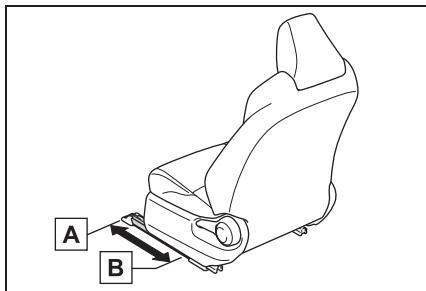
※4チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置				
シート位置の番号	①	②	③	④
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有 / 無）	有	有	有	有
アイサイズ着座位置（有 / 無）	無	有	無	有
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1/L2）	×	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1/R2X/R2/R3）	×	R1 ^{※1} , R2X ^{※1} , R2 ^{※1}	×	R1 ^{※2} , R2X ^{※3} , R2 ^{※3}
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X/F2/F3）	×	F2X, F2, F3	×	F2X, F2, F3
搭載可能なジュニアシートの治具（B2/B3）	×	B2, B3	×	B2, B3

※¹運転席をいちばん高い位置に調整してください。（→P.90）

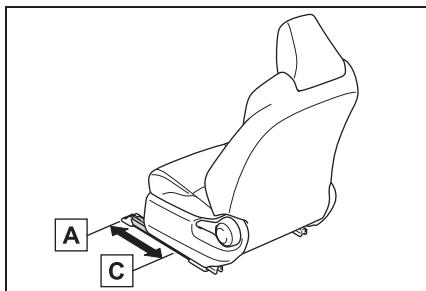
※²助手席の前後位置を1段目から11段目（後ろから15段目）の範囲で調整してください。



A 1 段目

B 11 段目

※³助手席の前後位置を 1 段目から 8 段目（後ろから 18 段目）の範囲で調整してください。



A 1 段目

C 8 段目

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にはない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート

治具	使用の向き・形状・大きさ
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

■ 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

質量グループ	推奨チャイルドシート	着座位置			
		①	②	③	④
0、0+ (13kgまで)	トヨタ純正 NEO G-Child baby	×	○	○	○
	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	×	○	×	○
I (9~18kg)	トヨタ純正 NEO G-Child baby	○ 前向き のみ	○	○	○
	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	×	○	×	○
II、III (15~36kg)	トヨタ純正 ジュニアシート	○	○	○	○

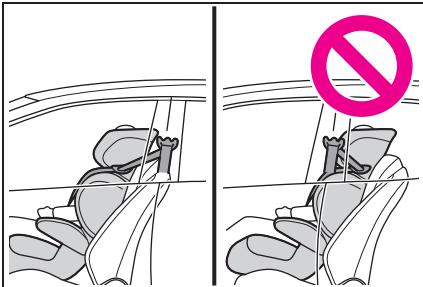
チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。
- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイル

ドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。

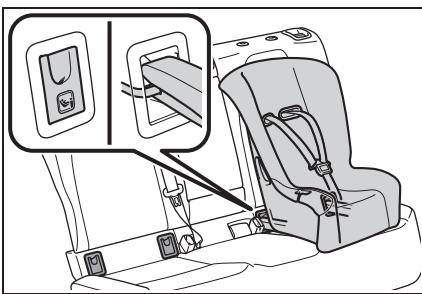
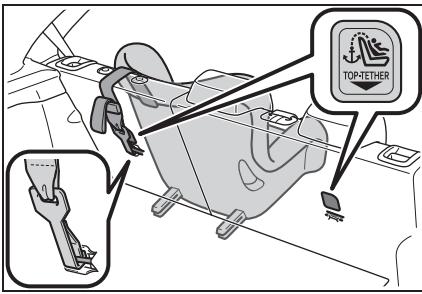
- シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。



- ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

固定方法	ページ	
シートベルトで固定する		P.44
ISOFIX ロアアンカレッジで固定する		P.46
テザーベルトを固定する		P.47

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にならない）場合は、チャイルドシート

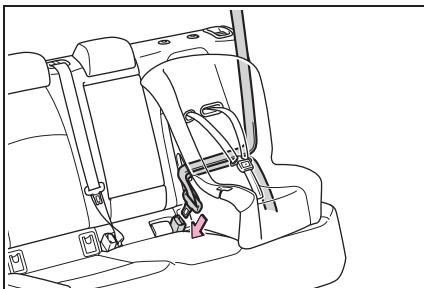
メーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→P.38, 39）

- 1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。（→P.35）
- 2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合

は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。
(→P.92)

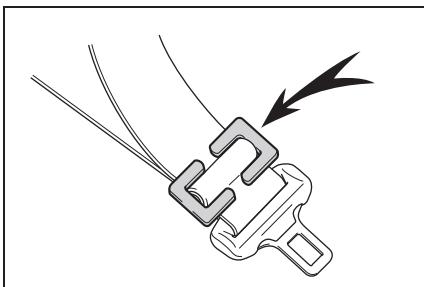
3 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバッブルに“力チッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



4 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ(別売)を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。(ロッキングクリップ品番: 73119-22010)



5 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。
(→P.45)

と固定されていることを確認してください。
(→P.45)

■ チャイルドシートの取りはずし

バッブルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バッブル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。

チャイルドシートを抑えながらバッブルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。

■ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせな
いでください。万一ベルトが首に巻
き付いた場合、窒息など重大な傷害
におよぶか、最悪の場合死亡につな
がるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしま
い、バッブルもはずせない場合は、
ハサミなどでシートベルトを切断し
てください。

- シートベルトのプレートとバッブル
がしっかりと固定されて、ベルトがね
じれていなか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆ
すって、しっかりと固定されているか
確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、
シートを調整しないでください。

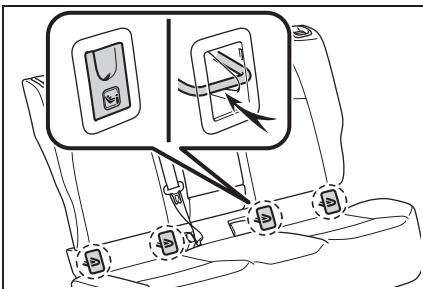
⚠️ 警告

- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

■ ISOFIX ロアアンカレッジについて

この車はリヤ外側席に ISOFIX ロアアンカレッジが装備されています。（ロアアンカレッジが装備されていることを示すマークのついたカバーがシートに付いています）



■ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にならない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者

へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→P.38, 39）

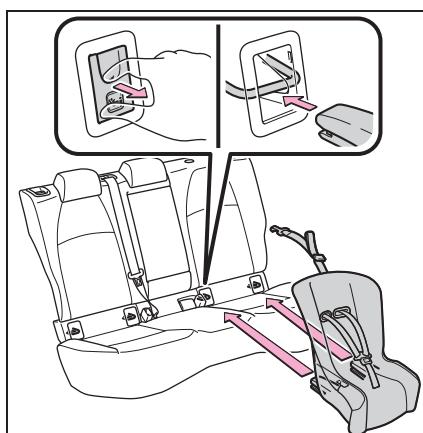
1 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→P.92）

2 ロアアンカレッジのカバーを取りはずし、チャイルドシートをシートに取り付ける

ロアアンカレッジはカバーのうしろにあります。

チャイルドシートのコネクタ（取り付け金具）をロアアンカレッジに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



3 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する（→P.45）

⚠ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

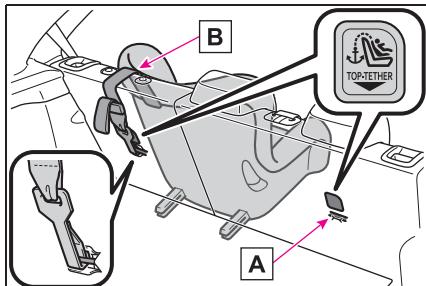
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカレッジを使用する

■ トップテザーアンカレッジについて

この車はリヤ外側席にトップテザーアンカレッジが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。



A トップテザーアンカレッジ

B テザーベルト

■ テザーベルトをトップテザーアンカレッジに固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

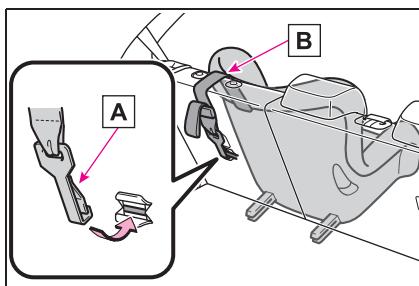
1 ヘッドレストを上げる

ヘッドレストとチャイルドシートまたはテザーベルトが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。
(→P.92)

2 トップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかりと固定されていることを確認します。
(→P.45)

ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。



A フック

B テザーベルト

⚠ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 **警告**

- テザーベルトがしっかりと固定されて、ベルトがねじれていなか確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカレッジ以外に掛けないでください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカレッジに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。

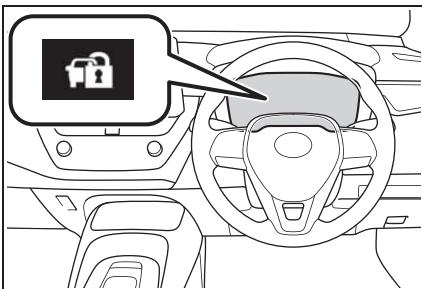
エンジンイモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

システムを作動させるには



エンジンスイッチを OFF になると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、エンジンスイッチを ACC または ON になるとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。

□ 知識

■メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

△ 注意

■エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。



2-1. 計器の見方

警告灯／表示灯	52
計器類 (4.2 インチディスプレイ)	56
計器類 (7 インチディスプレイ)	59
マルチインフォメーションディスプレイ	62
ヘッドアップディスプレイ	69
燃費画面	73

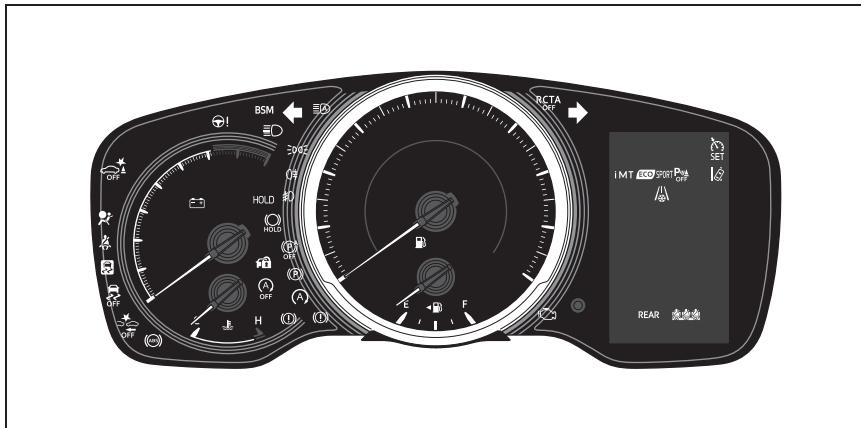
警告灯／表示灯

メーター・センター・パネル・ドアミラーの警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。

メーターの警告灯／表示灯

次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。

► 4.2 インチディスプレイ



► 7 インチディスプレイ (アナログスピードメーター選択時)



▶ 7インチディスプレイ (デジタルスピードメーター選択時)



警告灯一覧

システム異常などを警告します。

	ブレーキ警告灯 ^{※1} (→P.298)		パワーステアリング警告灯 ^{※1} (→P.300)
	ブレーキ警告灯 ^{※1} (→P.298)		パワーステアリング警告灯 ^{※1} (→P.300)
	高水温警告灯 ^{※2} (→P.298)		燃料残量警告灯 (→P.300)
	充電警告灯 ^{※1} (→P.298)		運転席・助手席シートベルト 非着用警告灯 (→P.301)
	油圧警告灯 ^{※2} (→P.299)		リヤ席シートベルト非着 用警告灯 (→P.301)
	エンジン警告灯 ^{※1} (→P.299)		LTA 表示灯★ (→P.301)
	SRSエアバッグ／プリテン ショナー警告灯 ^{※1} (→P.299)		LDA 表示灯★ (→P.301)
	ABS & ブレーキアシスト警告 灯 ^{※1} (→P.299)		Stop & Start キャンセル表示 灯★ ^{※1} (→P.301)
	ブレーキオーバーライドシス テム／ドライブスタートコン トロール警告灯 ^{※2} (→P.300)		クリアランスソナ OFF 表示 灯★ ^{※1} (→P.302)
			RCTA OFF 表示灯★ ^{※1} (→P.302)
			PKSB OFF 表示灯★ ^{※1} (→P.302)

	PCS 警告灯 ^{※1} (→P.303) (点滅または点灯)		方向指示表示灯 (→P.124)
	スリップ表示灯 ^{※1} (→P.303)		尾灯表示灯 (→P.130)
	パーキングブレーキ表示灯 (点滅)		ハイビーム表示灯 (→P.131)
	ブレーキホールド作動表示灯 ^{※1} (→P.303) (点滅)		オートマチックハイビーム表示灯 (→P.132)
	iMT 表示灯 ^{★※1} (→P.304) (橙色)		フロントフォグランプ表示灯 [★] (→P.135)
★ : グレード、オプションなどにより、 装備の有無があります。			リヤフォグランプ表示灯 [★] (→P.135)
※1 作動確認のためにエンジンスイッチを ON にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。			PCS 警告灯 ^{※1, 2} (→P.147)
※2 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。			クルーズコントロール表示灯 (→P.171, 180)
			レーダークルーズコントロール表示灯 (→P.171, 180)
			クルーズコントロールセット表示灯 (→P.171, 180)
			LTA 表示灯 [★] (→P.156) (白色)
			LDA 表示灯 [★] (→P.165) (緑色)
			LTA 表示灯 [★] (→P.157) (緑色)
			LDA 表示灯 [★] (→P.165) (橙色点滅)
			LTA 表示灯 [★] (→P.157) (橙色点滅)
			BSM ドアミラーインジケーター ^{★※1, 3} (→P.198, 209)
			BSM 表示灯 [★] (→P.198)
			クリアランスソナー OFF 表示灯 ^{★※1, 2} (→P.203)
			RCTA OFF 表示灯 ^{★※1, 2} (→P.209)
			PKSB OFF 表示灯 ^{★※1, 2} (→P.214)

警告

■ 安全装置の警告灯が点灯しないとき
ABS や SRS エアバッグなど安全装置の警告灯がエンジンスイッチを ON にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

表示灯一覧

システムの作動状況を表示します。

	Stop & Start 表示灯★※1 (→P.190)
	Stop & Start キャンセル表示 灯★※1, 2 (→P.196)
	スリップ表示灯※1 (→P.231) (点滅)
	VSC OFF 表示灯※1, 2 (→P.231)
	スマートエントリー＆スター トシステム表示灯※4 (→P.113)
	パーキングブレーキ表示灯 (→P.125)
	ブレーキホールドスタンバイ 表示灯※1 (→P.128)
	ブレーキホールド作動表示灯 ※1 (→P.128)
	AUTO EPB OFF 表示灯★ ※1, 2 (→P.125)
	エコドライブインジケーター ランプ★※1 (→P.65)
	低温表示灯※5 (→P.56, 59)
	セキュリティ表示灯 (→P.49)
	エコドライブモード表示灯 (→P.229)
	スポーツモード表示灯★ (→P.229)
	コンフォートモード表示灯★ (→P.229)
	スポーツ S モード表示灯★ (→P.229)
	スポーツ S+ モード表示灯★ (→P.229)
	iMT 表示灯★ (→P.122) (緑色)

★ : グレード、オプションなどにより、

装備の有無があります。

※¹作動確認のためにエンジンスイッチをONにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※²システムが OFF のときに点灯します。

※³ドアミラーに表示されます。

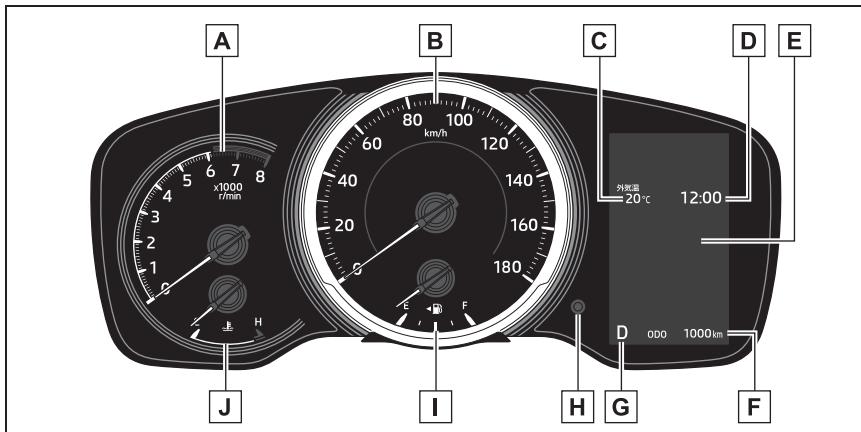
※⁴マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※⁵外気温が約 3°C 以下のとき、約 10 秒間点滅後に点灯します。

計器類 (4.2 インチディスプレイ)

メーターの表示について

■ 計器類の位置



A タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

B スピードメーター

C 外気温

外気温度を -40°C ~ 50°C のあいだで表示します。

D 時計

GPS の時刻情報 (GPS 時計) を利用して、時刻を自動で調整します。詳しくは別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

E マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。(\rightarrow P.62)

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(\rightarrow P.305)

F オドメーター／トリップメーターディスプレイ (\rightarrow P.57)

G シフトポジション表示灯 (\rightarrow P.117)

H 表示切りかえボタン (\rightarrow P.57)

I 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

- ・ 少量給油 (約 5L 以下) を行ったとき

- ・ 坂道など傾いた場所に停車したとき

- ・坂道やカーブを走行したとき

J 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

□ 知識

■ 燃料計と航続可能距離について

燃料計と航続可能距離は連動しています。少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行うことで表示を更新することができます。

- 1 車両を平坦な場所に停車させる
- 2 表示切りかえボタンを押してオドメーター／トリップメーターディスプレイをオドメーター表示に切りかえる
- 3 エンジンスイッチを OFF にする
- 4 表示切りかえボタンを押したまま、エンジンスイッチを ON にする
- 5 そのまま約 5 秒間表示切りかえボタンを押し続け、オドメーターが点滅を開始したら手をはなす

オドメーターが約 5 秒間点滅したあと通常の表示にもどれば、更新は終了です。

■ 外気温表示について

- 次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがあります。故障ではありません。
- ・ 停車しているときや、低速走行（約 25km/h 以下）のとき
- ・ 外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）
- “--” または “E” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 液晶ディスプレイについて

→P.63

⚠ 警告

■ 低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばギヤ段表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにギヤ段の表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。
- 水温計の針が H のレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→P.332）

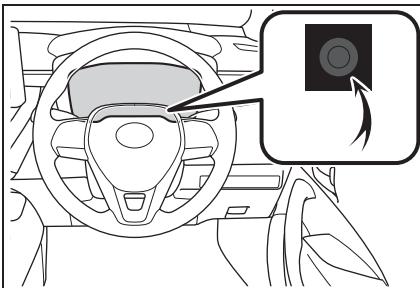
オドメーター／トリップメーターディスプレイ

■ 表示の切りかえ

表示を切りかえるには、表示切りかえボタンを押します。

ボタンを押すごとに表示される項目が切

りかわります。



■ 表示項目

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター A / トリップメーター B

リセットしてからの走行距離を表示します。トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

リセットするには、リセットしたい方のトリップメーターを表示中に表示切りかえボタンを長押しします。

● メーターの照度調整

メーターの明るさを表示します。

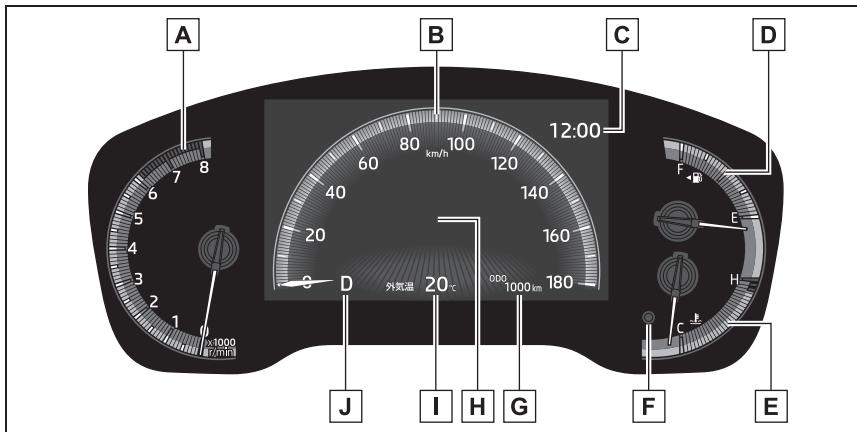
- ・ 車幅灯消灯時と点灯時それぞれの明るさのレベルを調節することができます。
- ・ 明るさを調整するには、メーター照度調整表示中に表示切りかえボタンを長押しします。

計器類 (7インチディスプレイ)

メーターの表示について

■ 計器類の位置

▶ アナログスピードメーター



【A】タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

【B】スピードメーター

【C】時計

GPS の時刻情報 (GPS 時計) を利用して、時刻を自動で調整します。詳しくは別冊「マルテメディア取扱書」を参照してください。

【D】燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

- ・ 少量給油 (約 5L 以下) を行ったとき
- ・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
- ・ 坂道やカーブを走行したとき

【E】水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

【F】表示切りかえボタン (→P.62)

【G】オドメーター／トリップメーターディスプレイ (→P.62)

【H】マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。 (→P.62)

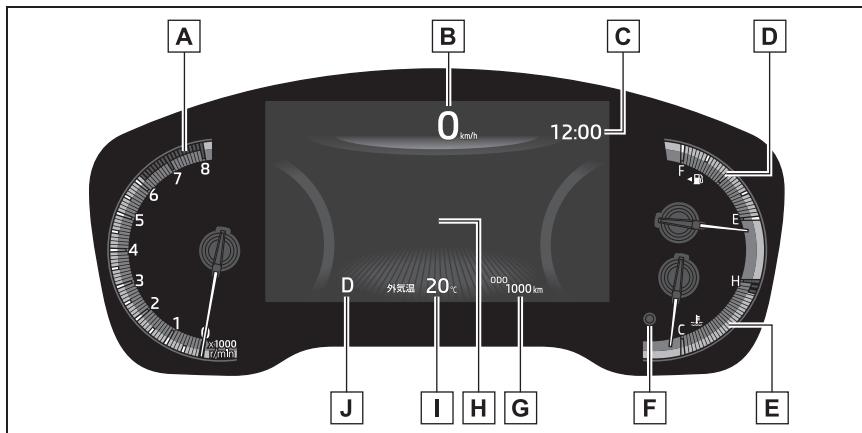
車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(\rightarrow P.305)

I 外気温

外気温度を -40°C ~ 50°C のあいだで表示します。

J シフトポジション表示灯 (\rightarrow P.117)

► デジタルスピードメーター



A タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

B スピードメーター

C 時計

GPS の時刻情報 (GPS 時計) を利用して、時刻を自動で調整します。詳しくは別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

D 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

- ・ 少量給油 (約 5L 以下) を行ったとき
- ・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
- ・ 坂道やカーブを走行したとき

E 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

F 表示切りかえボタン (\rightarrow P.62)

G オドメーター／トリップメーターディスプレイ (\rightarrow P.62)

H マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。(\rightarrow P.62)

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(\rightarrow P.305)

I 外気温

外気温度を -40°C ~ 50°C のあいだで表示します。

J シフトポジション表示灯 (→P.117)

□ 知識

■ 燃料計と航続可能距離について

燃料計と航続可能距離は連動しています。少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行うことで表示を更新することができます。

- 1 車両を平坦な場所に停車させる
- 2 表示切りかえボタンを押してオドメーター／トリップメーターディスプレイをオドメーター表示に切りかえる
- 3 エンジンスイッチを OFF にする
- 4 表示切りかえボタンを押したまま、エンジンスイッチを ON にする
- 5 そのまま約 5 秒間表示切りかえボタンを押し続け、オドメーターが点滅を開始したら手をはなす

オドメーターが約 5 秒間点滅したあと通常の表示にもどれば、更新は終了です。

■ 外気温表示について

- 次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがあります。故障ではありません。
- ・ 停車しているときや、低速走行 (約 25km/h 以下) のとき
- ・ 外気温が急激に変化したとき (車庫・トンネルの出入り口付近など)
- “--” または “E” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 液晶ディスプレイについて

→P.63

■ カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイ

の  で、計器類の表示を変更できます。

(→P.67)

⚠ 警告

■ 低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばギヤ段表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにギヤ段の表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

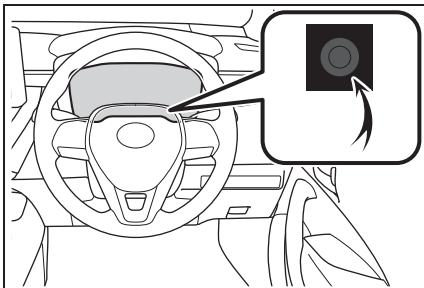
- タコメーターの針がレッドゾーン (エンジンの許容回転数をこえている範囲) に入らないようにしてください。
- 水温計の針が H のレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。 (→P.332)

オドメーター／トリップメーターディスプレイ

■ 表示の切りかえ

表示を切りかえるには、表示切りかえボタンを押します。

ボタンを押すごとに表示される項目が切りかわります。



■ 表示項目

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター A／トリップメーター B

リセットしてからの走行距離を表示します。トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

リセットするには、リセットしたい方のトリップメーターを表示中に表示切りかえボタンを長押しします。

● メーターの照度調整

メーターの明るさを表示します。

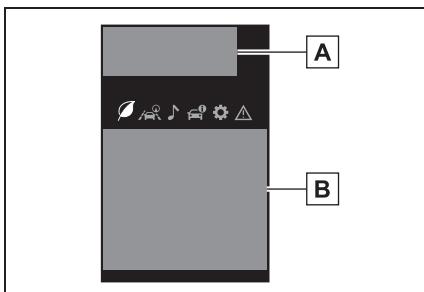
- 車幅灯消灯時と点灯時それぞれの明るさのレベルを調節することができます。
- 明るさを調整するには、メーター照度調整表示中に表示切りかえボタンを長押しします。

マルチインフォメーションディスプレイ

ディスプレイの表示／メニューアイコン一覧

■ ディスプレイの表示

▶ 4.2 インチディスプレイ



■ A 走行支援システム表示エリア

以外のメニューアイコンを選択している時に次のシステムが作動していると、システムの作動状況を表示します。

- LTA (レーントレーシングアシスト)
★
- LDA (レーンディパーチャーラート
[ステアリング制御機能付き]) ★
- レーダークルーズコントロール★
- レーダークルーズコントロール (全車速追従機能付き) ★
- RSA (ロードサインアシスト)
(→P.168)

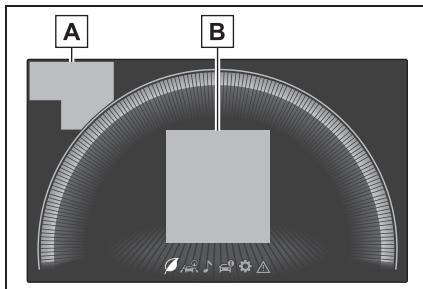
■ B コンテンツ表示エリア

メニューアイコンを選択し、走行に関するさまざまな情報を表示したり、車両設定を変更することができます。

また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ 7インチディスプレイ



■ A 走行支援システム表示エリア

以外のメニューアイコンを選択している時に次のシステムが作動していると、システムの作動状況を表示します。

- ・ LTA (レーントレーシングアシスト)
★
- ・ LDA (レーンディバーチャーラート [ステアリング制御機能付き]) ★
- ・ レーダークルーズコントロール★
- ・ レーダークルーズコントロール (全車速追従機能付き) ★
- ・ RSA (ロードサインアシスト)
(→P.168)

■ B コンテンツ表示エリア

メニューアイコンを選択し、走行に関するさまざまな情報を表示したり、車両設定を変更することができます。

また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ メニューアイコン

メーター操作スイッチの < または > を押すとメニューアイコンが表示されます。



走行情報表示 (→P.64)



運転支援機能情報表示
(→P.66)



オーディオシステム連携表示
(→P.66)



車両情報表示 (→P.66)



設定 (→P.67)



警告メッセージ (→P.305)



知識

■ 液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。



警告

■ 運転中の使用について

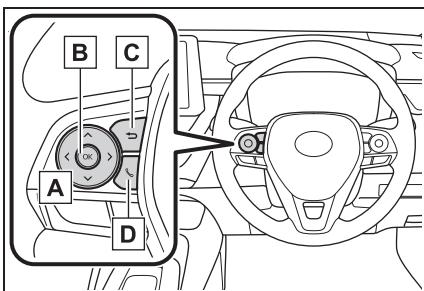
- マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。
- マルチインフォメーションディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがありますが危険です。

■ 低温時の画面表示について

→P.56, 59

表示を切りかえるには

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。



A </> : メニューの切りかえ
△/▽ : 表示項目の切りかえ・ページ送り・カーソル移動

B 短押し : 決定
長押し : リセット/詳細項目表示

C ひとつ前の画面にもどる

D 電話の発着信・履歴表示

ハンズフリーシステムと連携して、発着信の表示や操作を行うことができます。ハンズフリーシステムについて詳しくは、別冊「マルチメディア取扱書」または「ナビゲーション取扱書」を参照してください。

走行情報表示について

■ 表示項目

- 車速表示／航続可能距離 (4.2 インチディスプレイ)
- 燃費グラフ
- 燃費ランキング
- 燃費推移 (1分間／5分間燃費)
- 燃費履歴
- エコドライブインジケータ／航続可能距離★

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 車速表示／航続可能距離 (4.2 インチディスプレイ)

● 車速表示

● 航続可能距離

燃料残量による走行可能な距離を表示します。表示される数値は参考として利用してください。

運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費がかわるため、実際に走行できる距離とは異なります。

燃料給油量が少量（約 5L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。この場合、燃料計の表示とともに更新することができます。（→P.57, 61）

■ 燃費グラフ

表示される数値は参考として利用してください。



■ A リセット後平均燃費

平均燃費をリセットするには、メーター操作スイッチの OK を長押しします。

■ B 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

■ C 航続可能距離

燃料残量による走行可能な距離を表示します。

運転履歴から学習した燃費と現在の燃料

残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費がかわるため、実際に走行できる距離とは異なります。

燃料給油量が少量（約 5L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。この場合、燃料計の表示とともに更新することができます。（→P.57, 61）

平均燃費の表示は、メニューアイコンの  から変更することができます。

表示できる項目は次のとおりです。

● 始動後平均燃費

エンジン始動後の平均燃費を表示します。

● 給油後平均燃費

給油後の平均燃費を表示します。

■ 燃費ランキング

過去の燃費ベスト 3 を表示します。

エンジンを始動してからの走行距離が短い場合、燃費ランキングは更新されない場合があります。

リセットするには、メーター操作スイッチの **OK** を長押しします。

■ 燃費推移（1 分間／5 分間燃費）

エンジンを始動してからの燃費履歴を 1 分または 5 分刻みで表示します。

表示する項目は、メニューアイコンの  から変更することができます。

瞬間燃費と平均燃費を同時に表示し、6 分前（1 分刻み表示の場合）／30 分前（5 分刻み表示の場合）までの燃費と比較することができます。

瞬間燃費は、現在の瞬間燃費を表

示します。平均燃費は燃費グラフで表示している平均燃費を表示します。

■ 燃費履歴

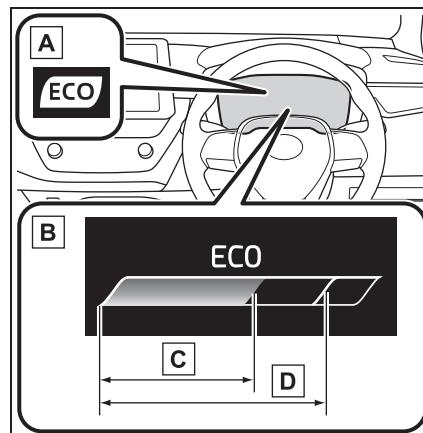
月ごとの平均燃費を表示します。

今月、過去 3 か月分と 1 年前の同月を表示し、比較することができます。

メーター操作スイッチの **OK** を長押しすると、月別平均燃費と月別走行距離をリセットすることができます。

■ エコドライブインジケーター／航続可能距離★

● エコドライブインジケーター



■ エコドライブインジケーターランプ

環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケーターランプが点灯します。必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。

■ エコドライブインジケーターゾーン表示

エコ運転の範囲と現状のアクセル開度を表示します。

■ 現状のアクセル開度

現状のアクセル開度がエコ運転の範囲をこえたとき、エコドライブインジケーターゾーン表示の右側が点灯します。このとき、エコドライブインジケーターランプは消灯します。

D エコ運転の範囲

● 航続可能距離

燃料残量による走行可能な距離を表示します。表示される数値は参考として利用してください。

運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費がかわるため、実際に走行できる距離とは異なります。

燃料給油量が少量（約 5L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。この場合、燃料計の表示とともに更新することができます。（→P.57, 61）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

□ 知識

■ 燃費ランキングを表示するには

メニューアイコンの  からカレンダーの設定が必要です。（→P.67）

■ エコドライブインジケーターについて★

次の場合、エコドライブインジケーターは作動しません。

- シフトポジションが D 以外にあるとき
- パドルシフトスイッチ★を操作しているとき
- 走行モードがノーマルモードまたはエコモード以外のとき
- 車速が約 100km/h 以上のとき

★：グレード、オプションなどにより、装

備の有無があります。

■ 運転支援機能情報表示について

次のシステムの作動状況を表示します。

- LTA（レーントレーシングアシスト）★（→P.152）
- LDA（レーンディパーチャーラート [ステアリング制御機能付き]）★（→P.161）
- レーダークルーズコントロール★（→P.180）
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）★（→P.171）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ オーディオシステム連携表示について

オーディオソースの選択、選曲などを操作することができます。

■ 車両情報表示について

■ 表示項目

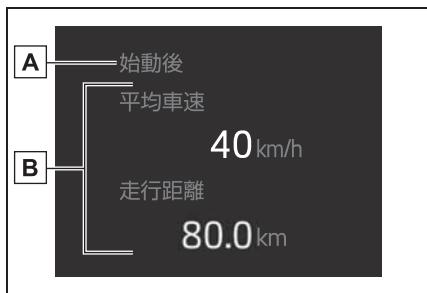
● ドライブインフォメーション

● トルク配分★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ドライブインフォメーション

表示される数値は参考として利用してください。



A ドライブインフォタイプ
B ドライブインフォ項目
 ドライブインフォタイプとドライブインフォ項目の組み合わせを から選択して表示させることができます。 (→P.67)

表示できる組み合わせは次のとおりです。

● 始動後

- ・ 距離：エンジン始動後の走行距離を表示
- ・ 走行時間：エンジン始動後の経過時間を表示
- ・ 平均車速：エンジン始動後の平均車速を表示

● リセット後

- ・ 距離：リセット後の走行距離を表示※
- ・ 走行時間：リセット後の経過時間を表示※
- ・ 平均車速：リセット後の平均車速を表示※

* リセットするには、リセットしたい項目を表示中にメーター操作スイッチのOKを長押しします。

■ トルク配分★

各輪にかかる駆動力を目盛りの数で表示します。

目盛りの数が多いほど、駆動力が大きいことを示しています。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 設定について

■ 変更できる項目（メーター表示）

● 言語

表示される言語を選択することができます。

● 単位

燃費単位を選択することができます。

● メーター表示（7インチディスプレイ）

スピードメーターの表示を、アナログ／デジタルから選択することができます。

● エコドライブインジケーターランプ★

エコドライブインジケーターランプの作動・非作動を切りかえることができます。



● 表示コンテンツ

燃費ランキング／燃費推移／燃費履歴の画面の表示・非表示を選択することができます。

● 燃費グラフ

平均燃費の表示を始動後／給油後から選択することができます。 (→P.64)

● 燃費推移（1分間／5分間燃費）

1分刻み／5分刻みを選択することができます。



● 表示コンテンツ

トルク配分画面の表示・非表示を選択することができます。★

- ・ ドライブインフォタイプ

始動後／リセット後から選択することができます。

- ・ ドライブインフォ項目

1行目と2行目の項目を別々に、平均車速／走行距離／走行時間から選択することができます。

- 割り込み表示

割り込み表示される項目の表示・非表示を、項目ごとに変更することができます。

- カレンダー

燃費データの記録に使用する年月日を変更することができます。

- マルチインフォメーションディスプレイの消灯

マルチインフォメーションディスプレイの表示をオフにすることができます。

再度表示させるには **▲ / ▼ / < /**

› / OK / ↲ のいずれかのスイッチを押してください。

- 初期化

メーターの表示設定をもとにもどすことができます。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- 変更できる項目（機能の切り替え・車両設定）

→P.344



- 設定画面の操作について

● 一部の項目を除き、車両走行中は設定画面を操作することができません。設定を変更するときは、安全な場所に停車して操作してください。

● 警告メッセージが表示されたときは、

設定画面の操作が一時中断されます。

⚠ 警告

■ ディスプレイの設定を変更するとき

エンジンがかかった状態で操作を行う場合、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ ディスプレイの設定を変更するとき

バッテリー上がりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

Stop & Start システム情報割り込み表示について★

■ Stop & Start システム情報

- エンジン始動後のアイドリングストップ時間／状態通知

現在のアイドリングストップ時間（Stop & Start システムによるエンジン停止時間）を表示します。

また、アイドリングストップの状態を状況に応じて割り込み表示でお知らせします。（→P.194）

- Stop & Start 設定

メニューアイコンの から、エアコンの“A/C”をONにしているときのアイドリングストップ時間を2段階から選択することができます。（→P.349）

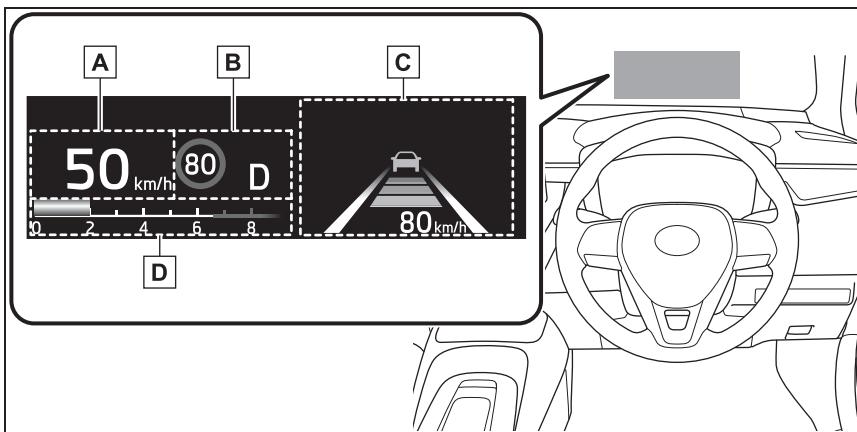
★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ヘッドアップディスプレイ★

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ヘッドアップディスプレイは、フロントウインドウガラスに運転支援システムの作動状況や走行に関するさまざまな情報を表示することができます。

システムの構成部品



イラストは説明のための例であり、実際の表示状況とは異なります。

A 車速表示

B シフトポジション★／RSA (ロードサインアシスト) 表示エリア
(→P.117, 168)

C 運転支援システム表示エリア (→P.71)

D タコメーター／エコドライブインジケーター★／外気温表示エリア
(→P.72)

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

□ 知識

■ ヘッドアップディスプレイの作動条件
エンジンスイッチが ON のとき

■ ヘッドアップディスプレイを使用する
ときは

サングラス（特に偏光サングラス）を着

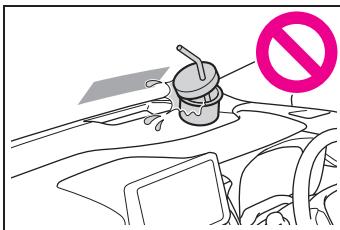
用していると、ヘッドアップディスプレイの表示が見づらくなる場合があります。表示が見づらい場合は、輝度を調整するか、サングラスをはずしてください。

⚠ 警告

- ヘッドアップディスプレイを使用するときは
 - 映像の明るさ、および表示位置は、安全運転に支障がないよう適切な状態に調整してください。
調整が不適切だと運転者の視界のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
 - ヘッドアップディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

⚠ 注意

- ヘッドアップディスプレイ映写部について
 - 映写部の付近に飲み物を置かないでください。水やその他の液体が映写部にかかると、装置が故障する原因になります。



- 映写部の上にものを見たり、シールなどを貼り付けたりしないでください。
ヘッドアップディスプレイの表示のさまたげとなります。
- 映写部の内部にふれたり、とがったものを押し付けたりしないでください。
装置が故障する原因となります。

ヘッドアップディスプレイの使い方

マルチインフォメーションディスプレイの から “HUD メイン” を選択します。 (→P.344)

■ ヘッドアップディスプレイの表示／非表示

メーター操作スイッチの OK を押すごとにヘッドアップディスプレイの表示／非表示を切りかえることができます。

■ ヘッドアップディスプレイの設定変更

メーター操作スイッチの OK を長押しすると次の設定を変更できます。

● 表示の明るさ／上下位置

表示の明るさや、上下の位置を調整することができます。

● 表示内容

次のいずれかから表示する項目を選択することができます。

- ・ 表示なし
- ・ エコドライブインジケーター表示★
- ・ タコメーター表示

次の内容の表示／非表示を設定することができます。

- ・ 運転支援

- ・ オーディオ表示

● 表示の傾き

表示の傾きを調整することができます。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

□ 知識

■ ヘッドアップディスプレイの表示／非表示について

ヘッドアップディスプレイを非表示にしたときは、エンジンスイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、非表示のままでです。

■ 表示の明るさについて

マルチインフォメーションディスプレイの  による明るさの調整に加えて、周囲の明るさに応じて表示の明るさが自動で調整されます。

⚠ 警告

■ ヘッドアップディスプレイの設定を変更するときは

エンジンがかかるたままで操作を行う場合、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素 (CO) により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ ヘッドアップディスプレイの設定を変更するときは

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかるたままで実施してください。

運転支援システム表示エリア

次のシステムの作動状況を表示します。

- LTA (レントレーシングアシスト) ★ (→P.152)
- LDA (レーンディパーチャーア

ラート [ステアリング制御機能付き] ★ (→P.161)

- レーダークルーズコントロール ★ (→P.180)
- レーダークルーズコントロール (全車速追従機能付き) ★ (→P.171)

表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイの表示と同様です。詳しくは各システムの説明を参照してください。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

割り込み表示について

状況に応じて、次の項目が割り込み表示されます。

■ 運転支援システム

次のシステムの警告／注意喚起／通知／作動状況を表示します。

- PCS (プリクラッシュセーフティ) (→P.145)
- 先行車発進告知機能 (→P.188)
- クリアランスソナー★ (→P.203)
- パーキングサポートブレーキ (静止物) ★ (→P.219)
- ブレーキオーバーライドシステム (→P.105)
- ドライブスタートコントロール ★ (→P.106)

表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイの表示と同様です。

詳しくは各システムの説明を参照してください。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ アイコン

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているときに表示されます。
(→P.305)

■ 警告メッセージ

一部の警告メッセージが表示されます。(マルチインフォメーションディスプレイの表示と同内容)

■ オーディオ表示

ハンドル上のオーディオ操作スイッチを使用したときに表示されます。

■ ハンズフリー作動表示

ハンズフリーの作動中に表示されます。



■ 割り込み表示について

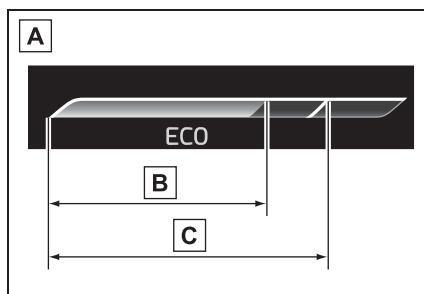
割り込み表示される項目によっては、一部の表示エリアが非表示になります。割り込み表示終了後、もとの表示にもどります。

タコメーター／エコドライブインジケーター★／外気温表示

■ タコメーター

毎分のエンジン回転数を表示します。

■ エコドライブインジケーター★



A エコドライブインジケーター
ゾーン表示

B 現状のアクセル開度

C エコ運転の範囲

表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイのエコドライブインジケーターと同様です。詳しくは、P.65 を参照してください。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 外気温表示

エンジンスイッチを ON にしたとき、または低温表示が点滅しているときに表示されます。



■ 外気温表示について

● 外気温が約 3° C 以下のとき、低温表示灯が約 10 秒間点滅し、外気温が非表示になります。

外気温が約 5° C 以上になると再度外気温が表示されます。

● 次の場合は、正しい外気温が表示されなかつたり、温度表示の更新が遅くなつたりすることがあります。故障ではありません。

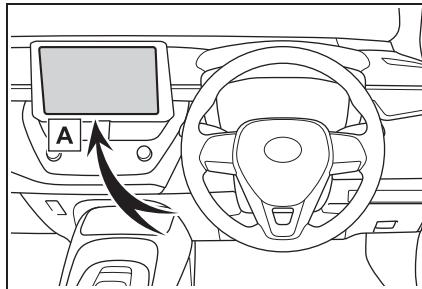
- ・ 停車しているときや、低速走行（約 25km/h 以下）のとき
- ・ 外気温が急激に変化したとき（車庫・

トンネルの出入り口付近など)

- “-” または “E” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

燃費画面

燃費に関する情報をマルチメディア画面に表示します。

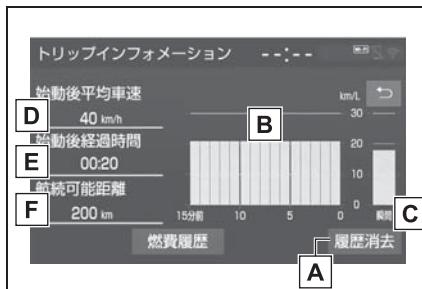


A マルチメディア画面

燃費画面の見方

■ トリップインフォメーションの見方

“MENU” スイッチを押し、「情報」を選択する



A 履歴消去

B 過去 15 分間の 1 分ごとの燃費 (平均燃費)

C 瞬間燃費

D エンジン始動後平均車速

E エンジン始動後経過時間

F 航続可能距離 (→P.74)

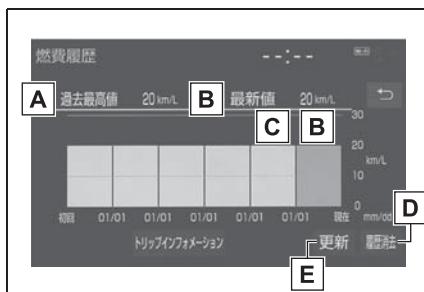
平均燃費はエンジンスイッチをイグニッションONモードにしてから、前回走行時で色分けして表示されます。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ 燃費履歴の見方

燃費履歴画面以外が表示されたときは、「燃費履歴」を選択します。



A 過去最高値表示

B 最新値表示

C 過去平均燃費表示

D 履歴消去

E 最新値更新

平均燃費は最後に更新してからの平均、過去の平均で色分けして表示されます。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

に平均燃費の記録を開始します。

■ 燃費データをリセットするには

“履歴消去”を選択すると、燃費データがリセットされます。

■ 航続可能距離について

●運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費がかかるため、実際に走行できる距離とは異なります。

●燃料給油量が少量（約5L以下）のとき、表示が更新されないことがあります。

この場合、燃料計の表示と共に更新することができます。（→P.57, P.61）

□ 知識

■ 過去の区間平均燃費の記録を更新するには

燃費履歴画面で“更新”を選択すると、平均燃費の値とグラフが更新され、新た

3-1. キー

キー	76
----	----

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた

ドア（フロントドア・リヤドア）	79
バックドア	82
スマートエントリー&スタートシステム	85

3-3. シートの調整

フロントシート	90
リヤシート	91
ヘッドレスト	92

3-4. ハンドル位置・ミラー

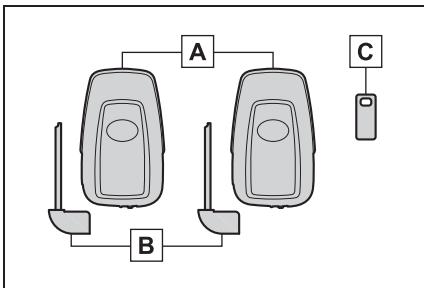
ハンドル	95
インナーミラー	96
ドアミラー	97

3-5. ドアガラスの開閉

パワーウィンドウ	99
----------	----

キー**キーについて**

お客様へ次のキーをお渡しします。

**A 電子キー**

- ・スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→P.85)
- ・ワイヤレス機能の作動 (→P.77)

B メカニカルキー**C キーナンバープレート****□ 知識****■ 航空機に乗るとき**

航空機にキーを持ち込む場合は、航空機内でキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■ 電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は1～2年です。
- 電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- 電子キーを長時間使用しないときは、節電モードに設定することで、電池の消耗を抑えることができます。

(→P.86)

●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。(→P.279)

- ・スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
- ・作動範囲が狭くなった
- ・電子キーのLEDが点灯しない

●電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の1m以内に電子キーを置かないでください。

- ・TV
- ・パソコン
- ・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
- ・電気スタンド
- ・電磁調理器

●スマートエントリー&スタートシステムによる操作をしなくても、車両周辺に長時間いると、電池の消耗は早くなります。操作をしない場合は、車両周辺に長時間いないことをおすすめします。

■ 電池が切れたとき

→P.279

■電子キーの取り扱いについて

電子キーは電波法の認証に適合しています。

必ず以下のことをお守り下さい。

・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

・必ず日本国内でご使用下さい。

■マルチインフォメーションディスプレイに“新しいキーが登録されました 詳しくは販売店に問い合わせください”と表示されたときは

追加で新しく電子キーが登録された場合、車外から解錠して運転席ドアを開けたときにメッセージが表示されることが10日ほど続きます。電子キーの登録をした覚えがないにも関わらずメッセージが表示されたときは、お持ちの電子キー以外に登録されている電子キーがないかをトヨタ販売店で確認してください。



注意

■キーの故障を防ぐために

- 落としたり、強い衝撃を与えたまま、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- ぬらしたり超音波洗浄器などで洗つたりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは10cm以上離して携帯してください。10cm以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

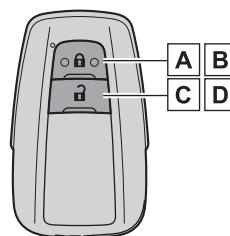
→P.327

■電子キーを紛失したとき

→P.326

ワイヤレス機能について

キーには次のワイヤレス機能が搭載されています。



A ドアを施錠する (→P.79)

B ドアガラスを閉める※
(→P.79)

C ドアを解錠する (→P.79)

D ドアガラスを開く※ (→P.79)

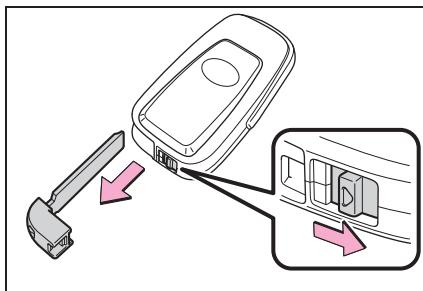
* トヨタ販売店での設定変更が必要です。

メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出してください

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。
(→P.327)



□ 知識

■ メカニカルキーを紛失したとき

→P.326

■ 不正キーの使用について

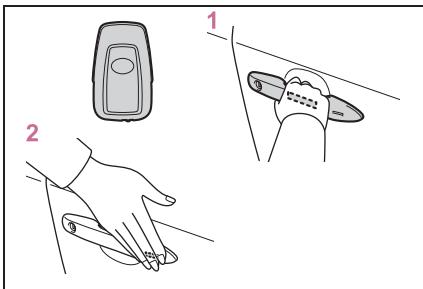
指定のキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

ドア（フロントドア・リヤドア）

車外から解錠／施錠するには

■ スマートエントリー＆スタートシステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。



1 フロント席のドアハンドルを握って解錠する

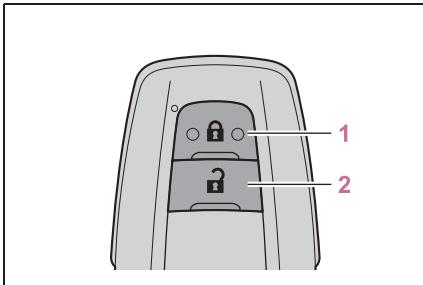
ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

2 フロント席ドアハンドル表面のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

■ ワイヤレス機能を使用する



1 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。
押し続けるとドアガラスが閉まりま

す。※

2 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスが開きます。※

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。



■ 解錠するドアを切りかえるには

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー＆スタートシステムで解錠できるドアの設定を切りかえることができます。

1 エンジンスイッチを OFF にする

2 キー表面のインジケーターが消灯しているときに ボタンと同時に、 ボタンを約 5 秒間押し続ける

操作を行うごとに次のように設定が切りかわります。（続けて切りかえ操作を行う場合は、ボタンから手を離したあと 5 秒以上間隔をあけてから手順 2 を行ってください）

マルチインフォメーションディスプレイ表示／ブザー音	解錠できるドア
	運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠
車外：“ピピッ” (3 回) 車内：“ポーン” (1 回)	助手席のドアハンドルを握ると全席解錠
	フロント席のいずれかのドアハンドルを握ると全席解錠

■ 作動の合図

スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は1回、解錠は2回)
ドアガラスの開閉をブザーで知らせます。

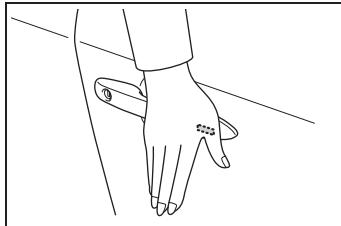
■ 解錠操作のセキュリティ機能

スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンによる解錠操作後、約30秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。セキュリティ機能で施錠されたときは、電子キーの位置によって室内の作動範囲内に電子キーがあると検知されると、再度解錠することができます。

■ ドアハンドル表面のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル表面のロックセンサー部に指でふれても施錠できないときは、てのひらでロックセンサー部にふれてください。

手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。



■ 半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態で、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使ってドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■ スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況

→P.87

■ スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P.327)

キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。(→P.279)

■ バッテリーがあがったときは

スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンでドアを施錠・解錠することはできません。

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠をしてください。(→P.327)

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.344)



警告

■ 事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアレバーを引かない
特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

⚠ 警告

■ ドアを開閉するときの留意事項

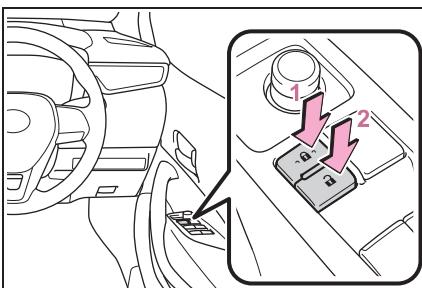
傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

■ ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスを操作するとき

ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

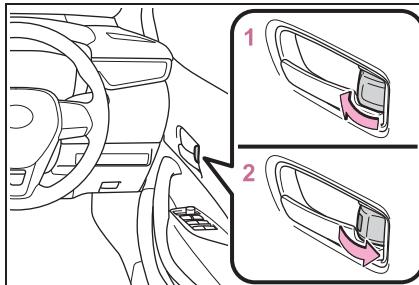
車内から解錠／施錠するには

■ ドアロックスイッチを使用する



- 1 全ドアを施錠する
- 2 全ドアを解錠する

■ ロックレバーを使用する



- 1 ドアを施錠する

- 2 ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開きます。

□ 知識

■ キーを使わずに外側からフロント席を施錠するとき

- 1 ロックレバーを施錠側にする
- 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

エンジンスイッチが ACC または ON のときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

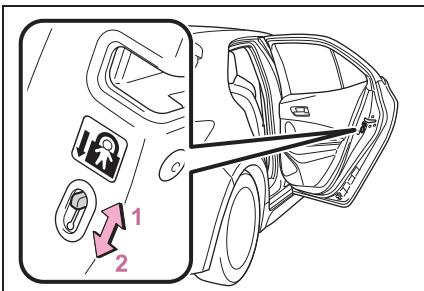
キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

■ 半ドア走行時警告ブザー

各ドアまたはバックドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえると警告ブザーが鳴り、開いているドアがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。



1 解錠

2 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。

□ 知識

■ チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

バックドア

バックドアは次の方法で施錠解錠および開けることができます。

!**警告**

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行する前に

- 走行前にバックドアが閉まっていることを確認してください。
完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ラゲージルームの中でお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

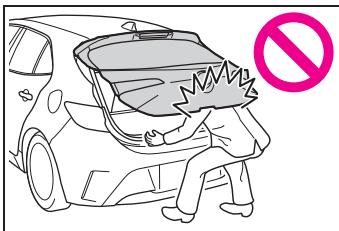
ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ バックドアの操作にあたって

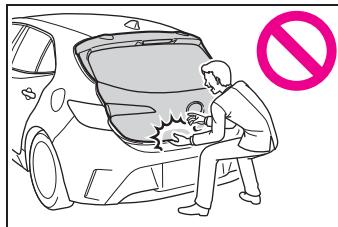
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

⚠️ 警告

- バックドアを開ける前に、バックドア上の雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- 半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりする恐れがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。



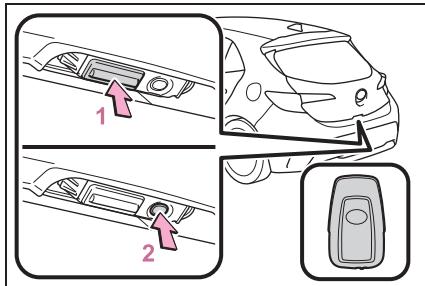
- バックドアを閉めるときは、バックドアで指などを挟まないよう十分注意してください。



- バックドアは必ず外からバックドア上面を軽く押して閉めてください。バックドアハンドルで直接バックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。
- バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。
手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

車外から解錠／施錠するには

■ スマートエントリー＆スタートシステムを使用する



1 バックドアオープンスイッチを押して解錠する

施錠操作後3秒間は解錠できません。

2 ロックスイッチを押して施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

■ ワイヤレスリモコンを使用する

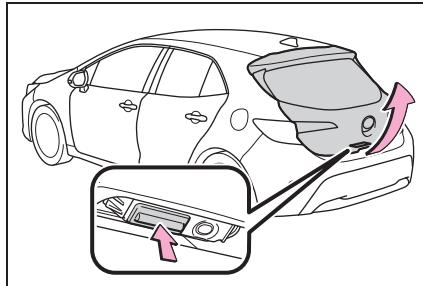
→P.79



■ 作動の合図

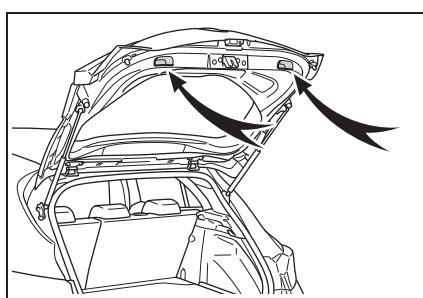
→P.80

ん。



■ 閉める

バックドアハンドルを持って、横方向に力をかけないように引き下げ、必ず外から押して閉めてください。



■ 半ドア走行時警告ブザー

→P.81

■ ラゲージルームランプ

バックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。



注意

■ ダンパーステーについて

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

車内から解錠／施錠するには

■ ドアロックスイッチを使用する

→P.81

バックドアを開閉するには

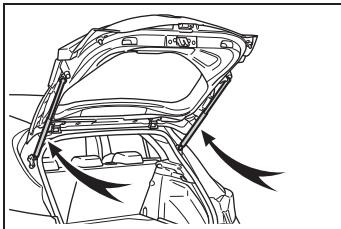
■ 開ける

バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げる

バックドアオープンスイッチを押した直後はバックドアを閉めることができませ

⚠ 注意

- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない



- ロッド部を軍手などでふれない
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品をつけてない
- ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

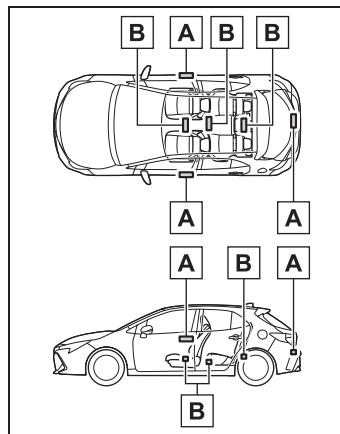
スマートエントリー&スタートシステム

電子キーをポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。必ず運転者が携帯してください。

- ドアを施錠・解錠する
(→P.79)
- バックドアを施錠・解錠する
(→P.84)
- エンジンを始動する
(→P.113)

□ 知識

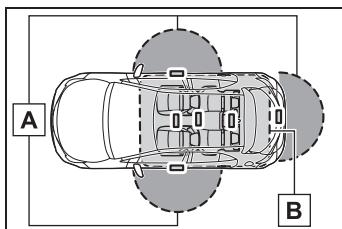
■ アンテナの位置



[A] 車外アンテナ

[B] 車室内アンテナ

■作動範囲（電子キーの検知エリア）



A ドアの施錠・解錠時

フロント席ドアハンドル／バックドアオープ・ロックスイッチから周囲約70cm以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアのみ作動します）

B エンジン始動時またはエンジンスイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■警告音が鳴ったり警告表示が出たりしたとき

誤動作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されることがあります。メッセージが表示された場合は、状況に応じて適切に対処してください。（→P.305）

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次の通りです。

●車外から警告音が“ピー”と5秒鳴るとき

状況	対処方法
いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー＆スタートシステムもしくは、ワイヤレス機能で施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠する

●車内から警告音が“ポン、ポン”

と鳴り続けるとき

状況	対処方法
運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチをACCにした（エンジンスイッチがACCのとき運転席ドアを開いた）	エンジンスイッチをOFFにしたあと、運転席ドアを閉める
運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチをOFFにした	運転席ドアを閉める

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両のバッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

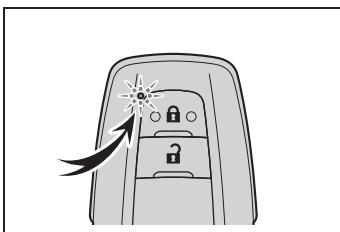
- 次の状況では、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。
 - 車の外約3.5m以内に電子キーを2分以上放置した
 - 5日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった
- 14日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■電子キーの節電モードについて

節電モードに設定すると、電子キーによる、電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーのを押しながら、を2回押し、電子キーのインジケーターが4回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー＆スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。



■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン、エンジンイモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。

- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- 電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・アルミ箔を使用したタバコの箱
 - ・金属製の財布やかばん
 - ・小銭
 - ・カイロ
 - ・CDやDVDなどのメディア
- 近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- 電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
 - ・他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
 - ・パソコンや携帯情報端末（PDAなど）
 - ・デジタルオーディオプレーヤー

・ポータブルゲーム機器

- リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき
- 充電器など電子機器の近くに電子キーを置いたとき
- コインパーキングなど通信をさまたげる電波がある場所に駐車したとき

スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠・解錠できない場合は、次の方法を試してください。

- ドアハンドルに電子キーを近づけて操作する
- ワイヤレス機能を使用する

上記の方法でも施錠・解錠できない場合は、メカニカルキーを使用してください。（→P.327）

また、スマートエントリー＆スタートシステムでエンジンが始動できない場合は、P.328を参照してください。

■ご留意いただきたいこと

- 電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
 - ・ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
 - ・エンジン始動時またはエンジンスイッチの切りかえ時に電子キーがインストルメントパネルやフロア上・リヤシート後方のパッケージトレイ上・ドアポケット、またはグローブボックス内などに置かれていた場合
- インストルメントパネル上面・ドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があり、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。

- 電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外では、解錠できません。
- 車外でもドアガラスに近い位置に電子キーがあるときは、エンジンの始動が可能になる場合があります。
- 電子キーが作動範囲内にある場合、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することができます。(解錠された場合でも、ドアの開閉操作がなければ約30秒後に自動的に施錠されます)
- 車両に近い位置に電子キーがあるときにワイヤレスリモコンなどで施錠を行うと、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。(ワイヤレスリモコンで解錠すると復帰します)
- 手袋を着用していると施錠・解錠しないことがあります。
- ロック操作は、連続で2回まで有効で、3回目以降はロック動作しません。
- キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。
 - ・電子キーを車両から2m以上離れた場所に保管する(電子キーの盗難に注意してください)
 - ・電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する(→P.86)
- 車内にキーがあるときに、洗車機で洗車するなどして水をドアハンドルにかけた場合、警報がマルチインフォメーションディスプレイに表示され、車外のブザーが吹鳴することがあります。その場合は全ドアを施錠すれば警報は表示されなくなります。
- ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着した場合、センサーが反応しない場合があります。反応しない場合は表面に付着した氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。
- すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにぶれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。
- 作動範囲内に他の電子キーがあるときは、ドアハンドルを握ってから解錠するまでの時間が少し長くなる場合があります。

■長期間運転しないとき

- 盗難防止のため、電子キーを車両から2m以上離しておいてください。
- あらかじめスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることができます。(→P.344)
- 電子キーを節電モードに設定すると、電池の消耗を抑えることができます。(→P.86)

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。

作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります。)

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき

- ドアの施錠・解錠: →P.327
- エンジンの始動: →P.328

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。→P.344)

■カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたとき

- ドアの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。→P.79, 327)
- エンジンの始動・エンジンスイッチのモード切りかえ：→P.328
- エンジンの停止：→P.114

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

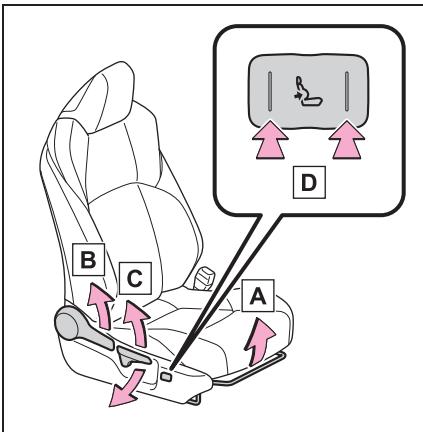
!**警告**

■電波がおよぼす影響について（スマートエントリー&スタートシステムアンテナ）

- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ（→P.85）から約22cm以内に近付かないようしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

フロントシート

調整のしかた



A 前後位置調整

B リクライニング調整

C クッション全体の上下調整（運転席のみ）

D 腰部位置調整★（運転席のみ）

★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

■シート調整について

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。

必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

注意

■シートを調整するときは

ヘッドレストが天井にあたらないように注意してください。ヘッドレストや天井が損傷するおそれがあります。

⚠ 警告

■シートを調整するときは

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

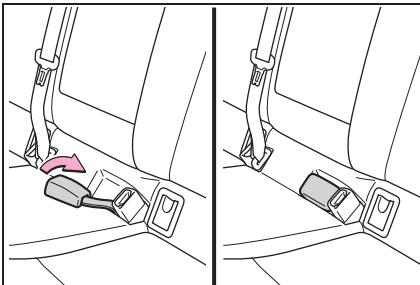
- 足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

リヤシート

リヤシートは折りたたむことができます。

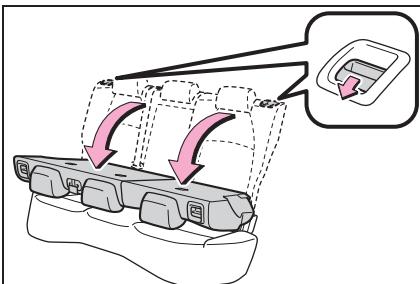
背もたれを前に倒す

- 1 フロントシートを前方に移動する (→P.90)
- 2 リヤアームレストを格納する (→P.263)
- 3 リヤ中央席シートベルトのバッブルを格納する



- 4 ヘッドラストをいちばん下まで下げる (→P.92)
- 5 ロック解除レバーを引きながら、背もたれを前方に倒す

ロックが確実に解除されるまで、レバーを引いてください。



! 警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

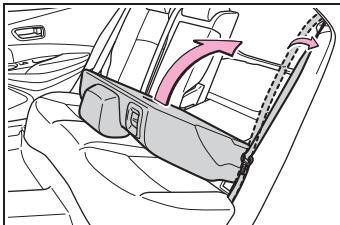
- リヤシートを操作するときは
 - 走行中にリヤシートを操作しない
 - 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをオートマチック車ではP、マニュアル車ではNにする
 - 操作をするときに、可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意する
 - 倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない
 - お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する
- 背もたれをもとにもどしたあとは
 - シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する

シートが確実に固定されていないときは、レバーに赤色が見えます。赤色が見えていないことを確認してください。



⚠️ 警告

- シートベルトを挟み込まないように背もたれをもとにもどしてください。シートベルトが背もたれ固定フックに挟まり、シートベルトを損傷させるおそれがあります。



ヘッドレスト

ヘッドレストはすべてのシートに装備されています。

⚠️ 警告

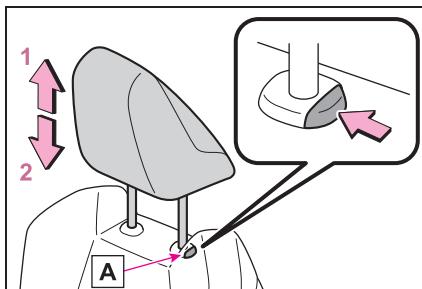
■ ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

上下調整するには

■ フロント席

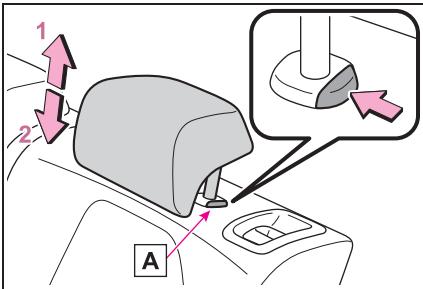


1 上げる

2 下げる

下げるときは、解除ボタン[A]を押しながら操作します。

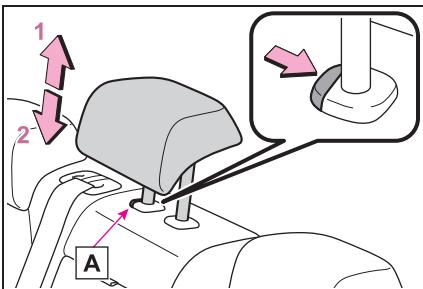
■ リヤ外側席



1 上げる
2 下げる

下げるときは、解除ボタン**A**を押しながら操作します。

■ リヤ中央席



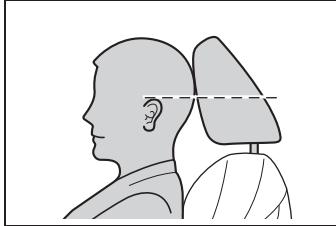
1 上げる
2 下げる

下げるときは、解除ボタン**A**を押しながら操作します。

□ 知識

■ ヘッドレストの高さについて（フロント席）

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



■ リヤ席のヘッドレストについて

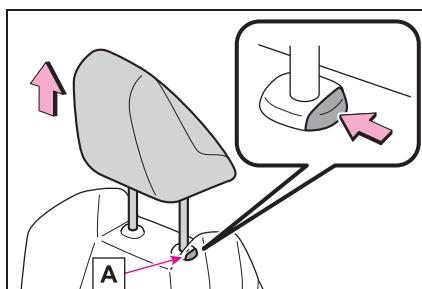
使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

ヘッドレストを取りはずすには

■ フロント席・リヤ外側席

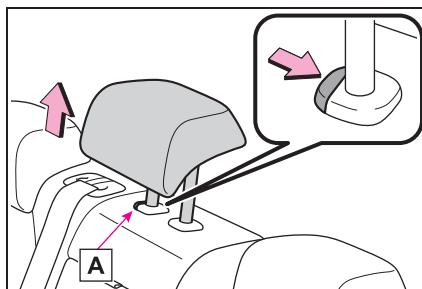
解除ボタン**A**を押しながらヘッドレストを引き上げます。

イラストはフロント席で代表しています。



■ リヤ中央席

解除ボタン**A**を押しながらヘッドレストを引き上げます。



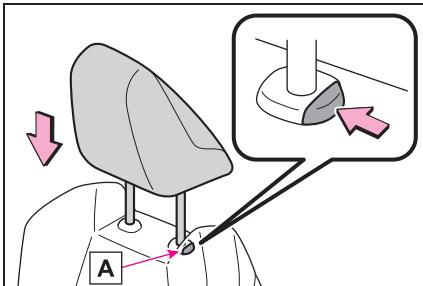
ヘッドレストを取り付けるには

■ フロント席・リヤ外側席

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

さらに下げるときは、解除ボタン**A**を押しながら操作してください。

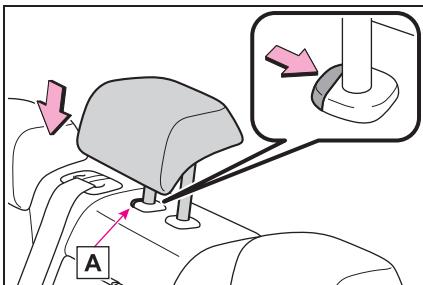
イラストはフロント席で代表しています。



■ リヤ中央席

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

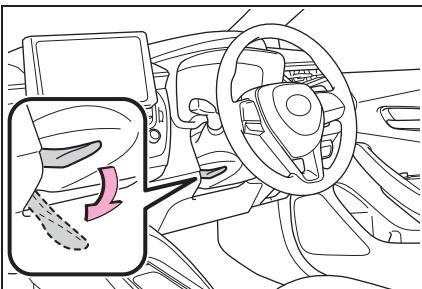
さらに下げるときは、解除ボタン**A**を押しながら操作してください。



ハンドル

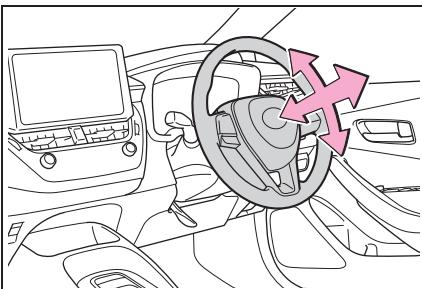
調整のしかた

- 1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



- 2 ハンドルを上下・前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



⚠ 警告

■走行中の警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。

運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

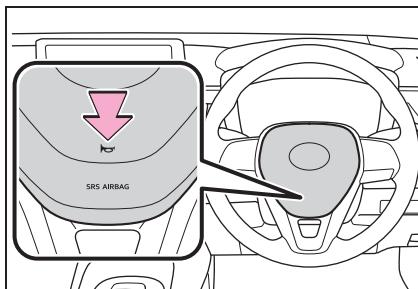
■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。

固定が不十分だと、ハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。

ホーン（警音器）

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。



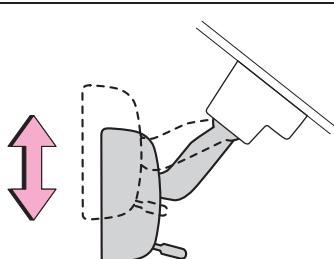
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



⚠ 警告

■ 走行中の留意事項

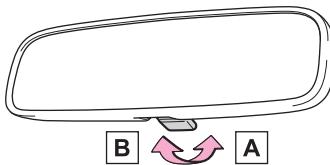
走行中はミラーの調整をしないでください。

運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

防眩機能

▶ 手動防眩タイプ装着車

レバーを操作することで、後続車のヘッドライトによる反射光を減少させます。



■ A 通常使用時

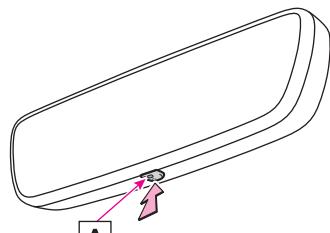
■ B 防眩時

▶ 自動防眩タイプ装着車

後続車のヘッドライトのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

自動防眩機能の切りかえ ON / OFF

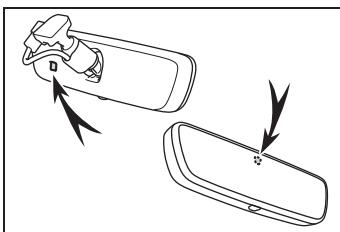
ONのときはインジケーターAが点灯します。エンジンスイッチをONにしたときは、ミラーは常に自動防眩機能がONになっています。ボタンを押すとOFFになりインジケーターAが消灯します。



□ 知識

■ センサーの誤作動防止（自動防眩タイプ装着車）

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



ドアミラー

安全に運転していただくために
は、運転する前に視界が確保で
きるようミラーの角度を調整し
てください。

⚠ 警告

■走行中の留意事項

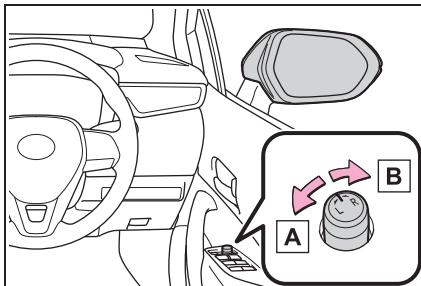
走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死
亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手
席側のミラーをもとの位置にもどし
て、正しく調整する

調整するには

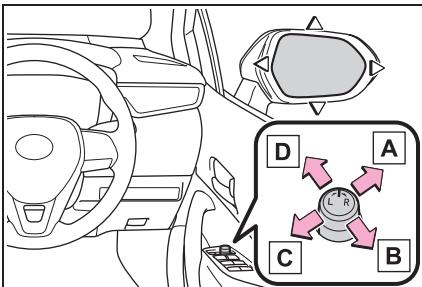
- 1 調整するミラーを選ぶには、ス
イッチをまわす



A 左

B 右

2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを操作する



- A** 右
- B** 下
- C** 左
- D** 上



■ 鏡面調整の作動条件

エンジンスイッチが ACC または ON のとき

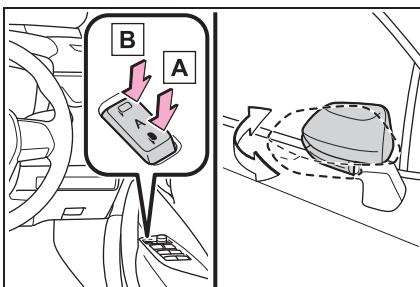
■ ミラーが曇ったとき

リヤウインドウデフオッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。→P.242



- ミラーヒーターが作動しているとき
ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

ドアミラーを格納・復帰するには



- A** ミラーを格納する
- B** ミラーをもとの位置にもどす

オート電動格納ミラー装着車は、スイッチを中立の位置 “A” にするとオート作動に切りかわり、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠と連動して作動します。



■ 寒冷時にオート作動で使用するとき (オート電動格納ミラー装着車)

寒冷時にオート作動で使用しているとき、ドアミラーが凍結すると、自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、格納スイッチを押すか、手で動かしてください。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。→P.344



- ミラーが動いているとき

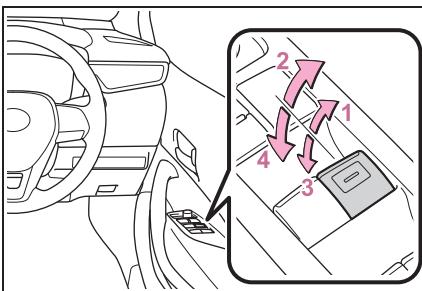
手をふれないでください。
手を挟んでがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

パワーウィンドウ

ドアガラスを開閉するには

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。



1 閉める

2 自動全閉 *

3 開ける

4 自動全開 *

* 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

□ 知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■ エンジン停止後の作動

エンジンスイッチを ACC または OFF にしたあとでも、約 45 秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ 挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まるとき、作動が停止し、少し開きます。

■ 巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

■ ドアガラスを開閉することができないときは

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウィンドウスイッチで、次の操作を行ってください。

●車を停止し、エンジンスイッチを ON の状態で、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウィンドウスイッチを自動全閉の位置で引き続ける。または、自動全開の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。

●上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

1 エンジンスイッチを ON にする

2 パワーウィンドウスイッチを自動全閉の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする

3 いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを自動全閉の位置で約 6 秒以上引き続ける

4 パワーウィンドウスイッチを自動全開の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを 1 秒以上押し続ける

5 いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを自動全開の位置で約 4 秒以上押し続ける

6 度、パワーウィンドウスイッチを自動全閉の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ ドアロック運動ドアガラス開閉機能

● メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。※ (→P.327)

● ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。※ (→P.79)

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

■ 窓開警告ブザー

エンジンスイッチが OFF でドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.344)

⚠ 警告

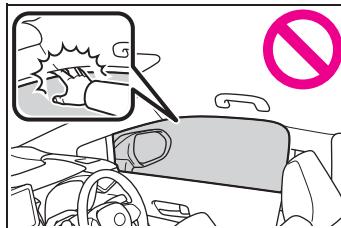
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ドアガラスを開閉するとき

● 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。(→P.101)

● ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



● ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

● 車から離れるときはエンジンスイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能

● 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

● 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

■ 巻き込み防止機能

● 巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。

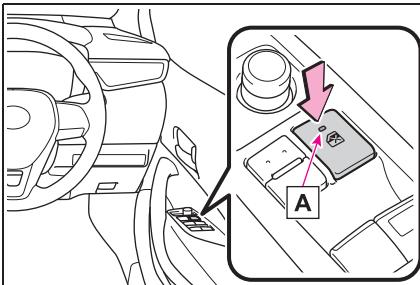
⚠ 警告

- 巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などが巻き込まないように注意してください。

誤操作を防止するには（ワインドウロックスイッチ）

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

スイッチを押すと、インジケーター[A]が点灯し、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。



□ 知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■ バッテリーをはずしたとき

ウインドウロックスイッチが OFF になるため、バッテリーを接続したあと、再度ウインドウロックスイッチを ON にする必要があります。

4-1. 運転にあたって	
運転にあたって	104
荷物を積むときの注意	111
4-2. 運転のしかた	
エンジン (イグニッション) スイッチ	113
オートマチックトランスミッション	117
マニュアルトランスミッション	121
方向指示レバー	124
パーキングブレーキ	125
ブレーキホールド	128
4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方	
ランプスイッチ	130
オートマチックハイビーム	132
フォグランプスイッチ	135
ワイパー＆ウォッシャー (フロント)	136
ワイパー＆ウォッシャー (リヤ)	138
4-4. 給油のしかた	
給油口の開け方	139
4-5. 運転支援装置について	
Toyota Safety Sense	141
PCS (プリクラッシュセーフティ)	145
LTA (レーントレーシングアシスト)	152
LDA (レーンディバーチャーアラート [ステアリング制御機能付き])	161
RSA (ロードサインアシスト)	168
レーダークルーズコントロール (全車速追従機能付き)	171
レーダークルーズコントロール	180
先行車発進告知機能	188
Stop & Start システム	190
BSM (ブラインドスポットモニター)	198
クリアランスソナー	203
RCTA (リヤクロストラフィックアラート)	209
PKSB (パーキングサポートブレーキ)	213
パーキングサポートブレーキ (静止物)	219
パーキングサポートブレーキ (後方接近車両)	225
ドライブモードセレクトスイッチ	229
運転を補助する装置	230
4-6. 運転のアドバイス	
寒冷時の運転	236

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

安全に走行するには

■ エンジンをかける

→P.113

■ 発進する

▶ オートマチック車

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーをDにする
(→P.117)

- 2 パーキングブレーキがマニュアルモードのときは、パーキングブレーキを解除する
(→P.125)

- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

▶ マニュアル車

- 1 クラッチペダルを踏んだまま、シフトレバーを1速にする
(→P.121)

- 2 パーキングブレーキがマニュアルモードのときは、パーキングブレーキを解除する
(→P.125)

- 3 クラッチペダルから徐々に足を離し、同時にアクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

▶ オートマチック車

- 1 シフトレバーはDのまま、ブレーキペダルを踏む

Stop & Start システムが作動可能状態のときは、ブレーキを踏み車両が停止すると、エンジンが自動的に停止します。

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーをPにします。(→P.117)

▶ マニュアル車

- 1 クラッチペダルを踏んだまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーをNにします。(→P.121)

■ 駐車する

▶ オートマチック車

- 1 シフトレバーはDのまま、ブレーキペダルを踏み、車を完全に停止させる

Stop & Start システムが作動可能状態のときは、ブレーキを踏み車両が停止すると、エンジンが自動的に停止します。

2 パーキングブレーキをかけて (→P.125)、シフトレバーをPにする (→P.117)

パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

- 3 エンジンスイッチを押してエンジンを停止する

- 4 ブレーキペダルからゆっくり足を離す

- 5 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め[※]を使用してください。

▶ マニュアル車

1 クラッチペダルを踏んだまま、ブレーキペダルを踏み、車を完全に停止させる

2 パーキングブレーキがマニュアルモードのときは、パーキングブレーキをかける（→P.125）

パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

3 シフトレバーを N にする
(→P.121)

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じてシフトレバーを 1 速または R にし、輪止め* を使用してください。

4 エンジンスイッチを押してエンジンを停止する

5 ブレーキペダルからゆっくり足を離す

6 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

* 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

■ 上り坂で発進する

▶ オートマチック車

1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを D にする

2 アクセルペダルをゆっくり踏む

3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

▶ マニュアル車

1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを 1 速にする

2 アクセルペダルを軽く踏み、同時にクラッチペダルから徐々に足を離す。

3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

□ 知識

■ 雨の日の運転について

● 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

● 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

● 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ 走行中のエンジン回転数について
(オートマチック車)

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなることがあります。これは走行状況に合わせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うためで、急加速を示すものではありません。

● 車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき

● アクセルペダルを離したとき

● スポーツモード選択時に、ブレーキペダルを踏んだとき

■ エンジン出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

● アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、エンジン出力を抑制する場合があります。

● ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール [オートマチック車]）

- 次のような通常と異なる操作が行われた場合、エンジン出力を抑制する場合があります。
 - ・アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトレバーを操作した（RからD、DからR、NからR、PからD、PからR）とき。（DはMポジションを含む）この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。
 - ・後退時にアクセルペダルを踏みすぎたとき
- ドライブスタートコントロールが作動していると、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合があります。そのようなときは、TRCの作動を停止（→P.231）することにより、ドライブスタートコントロールが停止し、脱出しやすくなります。

■運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミ部分に取り付けることはできません。

■オーバーヒートについて

次のようなきびしい走行状況ではオーバーヒートになるおそれがあります。

- 暑い日に長い上り坂を走行する
- 高速走行直後に急減速や急停止をする

■エンジン停止前のアイドル運転について

ターボ装置などの損傷を防ぐため、高速走行・登坂走行直後は、アイドル運転を行ってからエンジンを停止してください。

走行状況	アイドル運転時間
市街地、郊外などの一般走行および高速走行（高速道路の法定または制限速度）	不要
山岳ドライブウェイなどの急な登坂路走行およびサークルなどの連続走行	約1分

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき（オートマチック車）

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

- 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。
- ・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
- ・車を少し移動させるとともに正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
- ・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

- 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。
排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。
- 通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路わきに停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P.290 を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードをおとしてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。
(→P.117,121)
- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
- 4WD車：オフロード走行をしないでください。
本格的なオフロード走行を目的とした4WD車ではありません。やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。

- 渡河などの水中走行はしないでください。

電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。

■ すべりやすい路面を運転するとき

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていらない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■ シフトレバーを操作するとき

- オートマチック車では、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- オートマチック車では、車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れないとください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

⚠ 警告

- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーをRに入れないとください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないとください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーをNにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限度をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■ 停車するとき

- 空ぶかしをしないでください。
シフトレバーがP（オートマチック車）またはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- オートマチック車では、車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

- 停車中に空ぶかしをしないでください。

排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■ 駐車するとき

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火したりする
- プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
- 炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートしたりする原因になる

- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしたりすると、荷物を押し込んだりシートを動かしたりしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

⚠️ 警告

- ウィンドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをP（オートマチック車）に入れ、エンジンを停止し、施錠してください。エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトレバーをPにした状態では、車が動き思わず事故につながるおそれがあり危険です。
- エンジン回転中またはエンジン停止直後は排気管にふれないでください。やけどをするおそれがあります。

■ 仮眠するとき

必ずエンジンを停止してください。
エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。ブレーキがぬれると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとからないおそれもあります。
- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付かないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- 万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。
- ブレーキシステムは2つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があります。制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■ 万一脱輪したとき

駆動輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わず事故につながるおそれがあり危険です。



■ 運転しているとき（オートマチック車）

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、エンジン出力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■ 運転しているとき（マニュアル車）

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、エンジン出力を抑制する場合があります。
- クラッチペダルを確実に踏み込んでいない状態で、シフトレバーを操作しないでください。クラッチやトランスミッションが損傷するおそれがあります。
- クラッチの摩耗・損傷を防ぐため、次のことをお守りください。
クラッチが摩耗・損傷すると、アクセルを踏んでも車両が加速しにくくなったり、最悪の場合車両が発進できなくなったりします。その場合はトヨタ販売店で点検を受けてください。
 - ・ シフト操作時以外は、クラッチペダルから足を離して運転する
 - ・ 1速以外での発進は避ける
 - ・ クラッチペダルで車速を調整しない
 - ・ シフトレバーをN以外に入れたまま停止するときは、クラッチペダルを踏み込んでブレーキを使用する

- 車両が完全に停止してからRに入れてください。

クラッチ・トランスミッション・ギアに損傷を受けるおそれがあります。

■ 駐車するとき（オートマチック車）

必ずパーキングブレーキをかけシフトレバーをPにしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーをPにしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進したりするおそれがあります。

■ 部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ ターボ装置の故障を防ぐために

- 高負荷走行直後は、エンジンを停止しないでください。必ずアイドル運転を行い、ターボ装置などを冷却してからエンジンを停止してください。（→P.106）
- 排気管・エアクリーナ・スパークプラグなどには純正部品または同等品をお使いください。
- 排気管の改造は絶対にしないでください。
- エンジンが冷えているときは、空ぶかしや急加速は絶対に行わないでください。
- 定期的なオイル交換を必ず行ってください。

⚠ 注意

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかりと持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法はP.307、318を参照してください。

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときや、泥や砂に埋もれてしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン・トランスマッision・クラッチ・トランスファー（4WD車）・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト（4WD車）・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

⚠ 警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、クラッチペダル（マニュアル車）・ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかつたり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。
 - ・ 運転席足元
 - ・ 助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
 - ・ パッケージトレイ
 - ・ インストルメントパネル
 - ・ ダッシュボード
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
- シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。

⚠ 警告

- 後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。
- ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。

■ 荷物の重量・荷重のかけ方について

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤや駆動系部品に負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

エンジン（イグニッショ ン）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行ってこと、エンジンの始動またはエンジンスイッチのモードを切りかえることができます。

エンジンをかけるには

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを引く
(→P.125)

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

- 2 シフトレバーが P (オートマチック車) もしくは N (マニュアル車) の位置にあることを確認する
- 3 ブレーキペダル (オートマチック車) もしくはクラッチペダルとブレーキペダル (マニュアル車) をしっかりと踏む

マルチインフォメーションディスプレイに  とメッセージが表示されます。表示されないと、エンジンは始動しません。

- 4 エンジンスイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

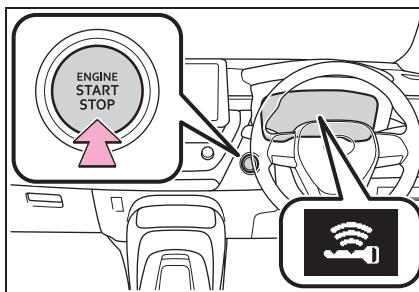
エンジンが始動するまで最大 30 秒間スタートーターが回転します。

オートマチック車：完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

マニュアル車：完全にエンジンが始動す

るまでクラッチペダルとブレーキペダルを踏み続けてください。

エンジンスイッチのどのモードからでもエンジンを始動できます。



知識

■ エンジンが始動しないとき

- エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。
(→P.49)
トヨタ販売店へご連絡ください。
- 始動操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されている場合は、画面の指示に従ってください。

■ バッテリーがあがったときは

スマートエントリー＆スタートシステムでエンジンを始動することができません。エンジンを始動するには、P.329 を参照してください。

■ 電子キーの電池の消耗について

→P.76

■ スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P.87

■ ご留意いただきたいこと

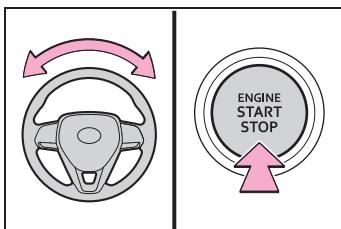
→P.87

■ ステアリングロック機能

- エンジンスイッチを OFF にしたあとに

ドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。エンジンスイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

- ステアリングロックが解除できないときは、マルチインフォメーションディスプレイに“ハンドルを左右に回しながらエンジンスイッチを押してください”が表示されます。シフトレバーがP（オートマチック車）もしくはN（マニュアル車）にあることを確認して、ハンドルを左右にまわしながらエンジンスイッチを短く確実に押してください。



- 短時間にエンジンの始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。10秒程度でもとの状態にもどります。

■電子キーの電池交換

→P.279

■エンジンスイッチの操作について

- スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切り替えやエンジンの始動ができない場合があります。
- エンジンスイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、エンジンが始動しない場合があります。エンジンスイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■カスタマイズ機能

カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたとき

は、P.327を参照してください。

⚠ 警告

■エンジンを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。

思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

エンジンの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■エンジンを始動するとき

●エンジンが冷えた状態で空ぶかしないでください。

●もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■エンジンスイッチの操作について

エンジンスイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

エンジンを停止するには

▶ オートマチック車

1 車両を完全に停止させる

**2 パーキングブレーキをかけて
(→P.125)、シフトレバーを P
の位置にする**

メーター内のパーキングブレーキ表示灯
が点灯していることを確認します。

3 エンジンスイッチを押す

エンジンが停止し、メーター表示が消え
ます。

**4 ブレーキペダルから足を離して
マルチインフォメーションディ
スプレイの “アクセサリー”
や “イグニッション ON” の
表示が消灯していることを確認
する**

▶ マニュアル車

1 車両を完全に停止させる

**2 パーキングブレーキがマニュア
ルモードのときは、パーキング
ブレーキをかける (→P.125)**

メーター内のパーキングブレーキ表示灯
が点灯していることを確認します。

**3 シフトレバーを N にする
(→P.121)**

4 エンジンスイッチを押す

エンジンが停止し、メーター表示が消え
ます。

**5 ブレーキペダルから足を離して
マルチインフォメーションディ
スプレイの “アクセサリー”
や “イグニッション ON” の
表示が消灯していることを確認
する**

⚠ 警告

■緊急時のエンジン停止方法

●走行中にエンジンを緊急停止したい
場合には、エンジンスイッチを 2 秒
以上押し続けるか、素早く 3 回以上
連続で押してください。(→P.290)
ただし、緊急時以外は走行中にエン
ジンスイッチにふれないでください。
走行中にエンジンを停止してもハン
ドルやブレーキの操作は可能ですが、
操作力補助がなくなり、ハンドルと
ブレーキの操作が困難になります。
安全を確認した上で、すみやかに道
路脇に停車してください。

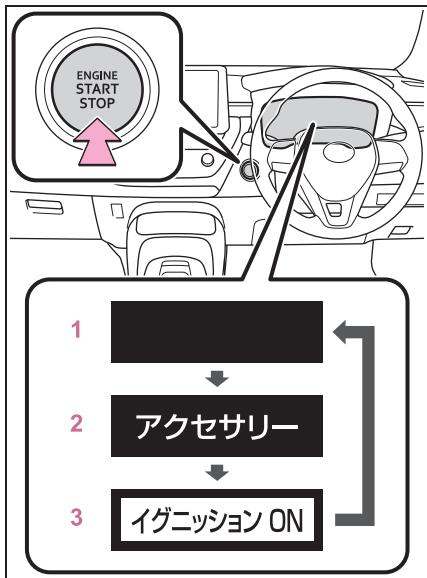
●走行中にエンジンスイッチを操作す
ると、マルチインフォメーション
ディスプレイに警告メッセージが表
示され、警告ブザーが鳴ります。

●オートマチック車：走行中にエンジ
ンを緊急停止したあと、走行中にエン
ジンを再始動させる場合は、シフ
トレバーを N にし、エンジンスイッ
チを押してください。

●マニュアル車：走行中にエンジンを
緊急停止したあと、走行中にエンジ
ンを再始動させる場合は、クラッチ
ペダルを踏み、エンジンスイッチを
押してください。

**エンジンスイッチを切りかえる
には**

ブレーキペダル（オートマチック
車）もしくはクラッチペダル（マ
ニュアル車）を踏まずにエンジン
スイッチを押すと、モードを切り
かえることができます。（スイッチ
を押すごとにモードが切りかわり
ます）



1 OFF*

非常点滅灯が使用できます。

2 ACC

オーディオなどの電装品が使用できます。
マルチインフォメーションディスプレイに“アクセサリー”が表示されます。

3 ON

すべての電装品が使用できます。
マルチインフォメーションディスプレイに“イグニッション ON”が表示されます。

* オートマチック車：シフトレバーが P 以外のときは ACC になり、OFF にななりません。

□ 知識

■自動電源 OFF 機能

オートマチック車：シフトレバーが P にあるとき、20 分以上 ACC か 1 時間以上 ON (エンジンがかかっていない状態) にしたままにしておくと、エンジンスイッチが自動で OFF になります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、バッテ

リーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチを ACC、または ON にしたまま長時間放置しないでください。

マニュアル車：20 分以上 ACC か 1 時間以上 ON (エンジンがかかっていない状態) にしたままにしておくと、エンジンスイッチが自動で OFF になります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチを ACC、または ON にしたまま長時間放置しないでください。

△ 注意

■バッテリーあがりを防止するために

● エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。

● エンジンがかかっていないときに、マルチインフォメーションディスプレイの“アクセサリー”または“イグニッション ON”的表示が消灯していない場合、エンジンスイッチが OFF にならないません。エンジンスイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止したとき（オートマチック車）

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンは停止しますが、エンジンスイッチのモードは OFF にはなりません。次の手順で OFF にしてください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーを P の位置にする

- 3 マルチインフォメーションディスプレイに“アクセサリー”が表示されていることを確認し、エンジンスイッチを短く確実に押す
- 4 マルチインフォメーションディスプレイの“アクセサリー”または“イグニッションON”的表示が消灯していることを確認する

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防止するためにシフトレバーがP以外でエンジンを停止させないでください。シフトレバーがP以外でエンジンを停止させた場合、エンジンスイッチがACCとなるため、そのまま放置するとバッテリーあがりの原因となります。

オートマチックトランスミッション★

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

目的や状況に応じてシフトポジションを選択してください。

シフトポジションの使用目的について

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはエンジンの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※
M	10速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行(→P.120)

※ 燃費向上や騒音の低減のために、通常はDポジションを使用してください。

□ 知識

■リバース警告ブザー

シフトレバーをRに入れるとブザーが鳴り、Rにあることを運転者に知らせます。

■レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）★を使って走行しているとき

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

エンジンブレーキを目的に走行モードをスポーツモードにしても、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が解除されないためエンジンブレーキは効きません。(→P.229)

■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

→P.106

■G AI-SHIFTについて

G AI-SHIFTは、運転者の運転操作と走行状況により、自動的にスポーツ走行に適切な変速比を選択します。

G AI-SHIFTは、シフトレバーをDポジションでスポーツモードにしているとき自動的に作動します（ノーマルモードにするか、シフトレバーをMポジションにすると機能が解除されます）。

■バッテリーを脱着したとき

→P.330



警告

■すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

■シフトレバーの動かし方



←：エンジンスイッチがONの状態で、ブレーキペダルを踏んだままシフトレバーのボタンを押しながら操作します。※

↖：シフトレバーのボタンを押しながら操作します。

↙：シフトレバーのボタンを押さずそのまま操作します。

PとDのあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

※シフトレバーのボタンを押す前にブレーキペダルを踏んでください。シフトレバーのボタンを始めに押してもシフトロックは解除されません。



■シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフ

トレバーの誤操作を防ぐシステムです。エンジンスイッチが ON でブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーを P からシフトできません。

■シフトレバーを P からシフトできないとき

ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。

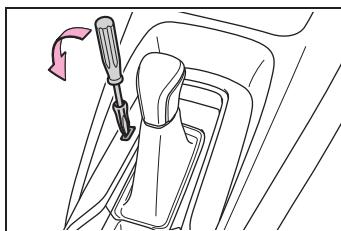
ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

シフトロックの解除のしかた：

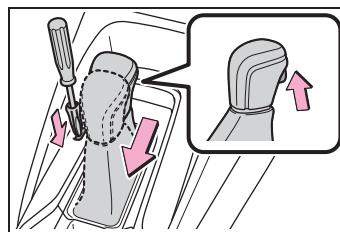
- 1 パーキングブレーキをかける
- 2 エンジンスイッチを OFF にする
- 3 ブレーキペダルを踏む
- 4マイナスドライバーなどを使ってカバーを取りはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 5 シフトロック解除ボタンを押しながらシフトレバーのボタンを押す

ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



■警告

■シフトロック解除時の事故を防ぐために

シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。

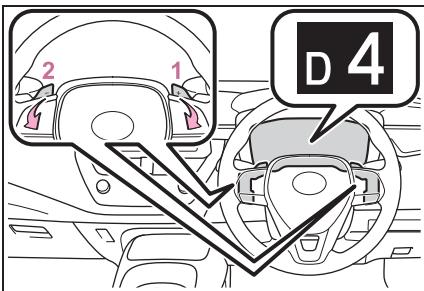
誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害およびか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

走行モードの選択

→P.229

一時的な 10 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードについて (パドルシフトスイッチ装着車)

シフトレバーを D の位置で走行中、パドルシフトスイッチを操作することにより任意の変速段を選択することができます。この場合、シフトポジション・シフトレンジ表示灯に D が点灯し、変速段が表示されます。



1 シフトアップ

2 シフトダウン

D1 から D10 レンジのあいだで選択されている変速段がメーターに表示されます。

知識

■変速段機能

- エンジンブレーキ力は、10段階から選択が可能です。
- シフトレンジの数字が小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。

■D ポジションでの一時的な 10 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードの解除（パドルシフトスイッチ装着車）

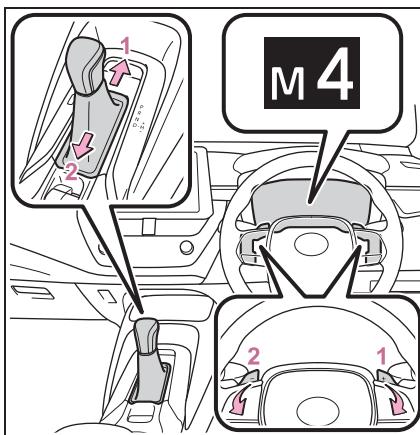
次のとき、自動的に D ポジションでの一時的な 10 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードが解除されます。

●停車状態のとき

- 同一変速段で、アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき
- アクセルペダルを大きく踏みこんだとき
- シフトレバーを D 以外にしたとき
- パドルシフトスイッチの “+” 側を一定時間以上押し続けたとき

10 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードでの変速段切りかえ

シフトレバーを M ポジションにすると、10 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードに切りかわります。シフトレバーまたはパドルシフトスイッチ（パドルシフトスイッチ装着車）の操作で思い通りの変速段を選択し、運転することができます。シフトレバーまたはパドルシフトスイッチの “-” 側または “+” 側の操作で変速段を選択することができます。



1 シフトアップ

2 シフトダウン

シフトレバーまたはパドルシフトスイッチを操作するごとに 1 速ずつ変速します。

M1 から M10 の中で選択した変速段がメーターに表示されます。

M ポジションで走行しているときでも、エンジン回転数が上がりすぎそうなとき、または下がりすぎそうなときは、自動的に変速段が

切りかわる場合があります。

□ 知識

■ 变速段機能

- エンジンブレーキ力は、10段階から選択が可能です。
- シフトレンジの数字が小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。

■ M ポジションで走行中に停車したときは

- 停車すると自動的にM1にシフトダウンされます。
- 停止後走行するときはM1からの発進となります。
- 停車後はM1に固定されます。

■ シフトダウン制限警告ブザー（10速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行時）

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーまたはパドルシフトスイッチ（パドルシフトスイッチ装着車）を操作してもシフトダウンできない場合があります。（このときブザーが2回鳴ります）

■ シフトレバーをMにしても、M表示灯が点灯しないときまたは点滅したときは

システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

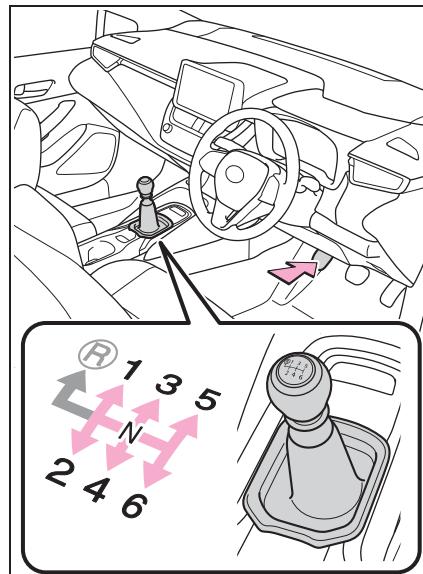
この場合、シフトレバーをDにしているときと同じ制御になります。

マニュアルトランスマッショング★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

操作のしかた

■ シフト操作のしかた



- 1 クラッチペダルをしっかりと踏む
- 2 シフトレバーを希望のシフト位置に入れる

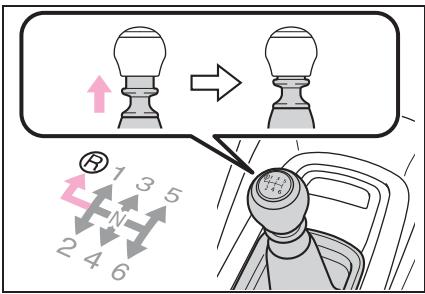
シフト操作は一段ずつ行ってください。

- 3 クラッチペダルから徐々に足を離す

シフトレバーがRに入りにくいときは、シフトレバーをNに入れ、クラッチペダルを踏み直してから、再度シフト操作してください。

■ Rへのシフト操作

ブレーキを引き上げながら、Rに入れます。



□ 知識

■ 各シフトの速度限界

エンジンを過回転させないために各シフト位置での速度が次に記載してある数値をこえないようにしてください。

シフト位置	最高速度 (km/h)
1	48
2	88
3	137

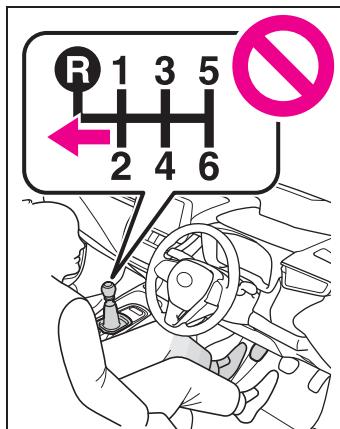
⚠ 注意

■ 損傷を防ぐために

シフト操作時は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、エンジン、トランスミッションやクラッチを損傷させるおそれがあります。

- クラッチペダルを踏まずにシフトレバーをRに入れないでください。



- Rへシフトするとき以外は、プルラーを上へ引かないでください。
- Rへシフトするときは、車が停止した状態でおこなってください。
- シフト操作時以外は、シフトレバーから手を離してください。
- エンジンを過回転させないよう、シフト操作は一段ずつ行ってください。
- クラッチペダルを一気に離す操作はしないでください。

iMT (インテリジェントマニュアルトランスミッション)

iMTは、クラッチペダルとシフトレバーの操作を検知し、シフト操作時のエンジン回転数を適切に制

御することで、スムーズな変速を支援します。変速ショックを軽減することで、曲がりくねった道や登降坂路などでも軽快な変速が行えます。

次のいずれかのモードのとき iMT 表示灯（緑）が点灯し、iMT が作動可能状態になります。

（→P.229）

▶ AVS 非装着車

● スポーツモード

▶ AVS 装着車

● スポーツ S モード

● スポーツ S + モード

□ 知識

■ iMT が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状態では、iMT が正常に作動しないおそれがありますが、故障ではありません。

- クラッチペダルをしっかりと踏み込んでいない
- クラッチペダルから足を完全に離していない
- シフトレバーが N の状態で走行中にシフト操作をした
- クラッチペダルを踏み込んでから、シフトレバーを操作するまでの間隔があいている

シフト操作後、クラッチペダルから足を完全に離さずに次のシフト操作をすると、iMT は作動しません。iMT を作動させるには、クラッチペダルから足を完全に離した後、シフト操作してください。

■ iMT 表示灯（橙）が点灯したとき

システムが一時的に作動しない、またはシステムに異常があるおそれがあります。

トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

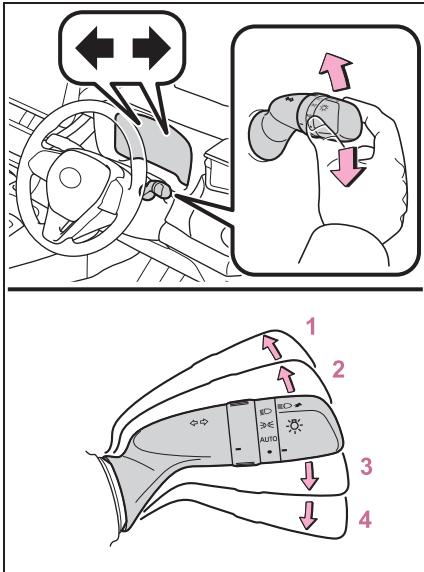
■ 安全にお使いいただくために

iMT は、シフト操作のミスやエンジンの過回転を防止するシステムではありません。状況によっては、システムが作動せず、スムーズに変速できないことがあります。システムに過度に依存すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

方向指示レバー

操作のしかた

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。



1 左折

2 左側へ車線変更
(レバーを途中で保持)

レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

3 右側へ車線変更
(レバーを途中で保持)

レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。

4 右折



■作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったとき

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

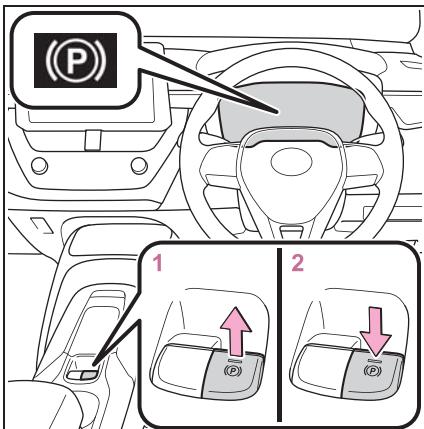
自動または手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

オートモードのときは、パーキングブレーキが自動で作動します。また、オートモードのときでも手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

操作のしかた

■ マニュアルモード

手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。



1 スイッチを引き、パーキングブレーキをかける

作動後、パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが点灯します。

緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるときは、スイッチを引き続けてください。

2 スイッチを押し、パーキングブレーキを解除する

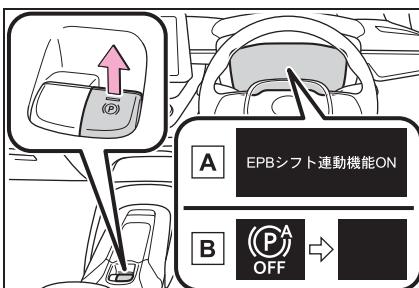
- ブレーキペダルを踏みながら操作してください。

- パーキングブレーキ自動解除機能により、アクセルペダルを踏むことでパーキングブレーキを解除することができます。アクセルペダルを踏むときはゆっくり踏んでください。

解除後、パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが消灯します。

■ オートモードを ON にする

停車中に、オートマチック車ではマルチインフォメーションディスプレイにメッセージ[A]が出るまで、マニュアル車では AUTO EPB OFF 表示灯[B]が消灯するまでスイッチを引き続ける



オートモードを ON になると、パーキングブレーキが次のように作動します。

▶ オートマチック車

- シフトレバーをPからP以外にすると、パーキングブレーキが解除され、パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが消灯します。

- シフトレバーをP以外からPにすると、パーキングブレーキがかかり、パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが点灯します。

シフトレバーは、停車した状態でブレーキペダルを踏みながら操作してください。

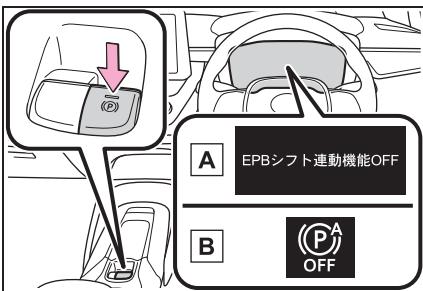
急なシフトレバー操作を行うと、オートモードが作動しない場合があります。その場合、手動でパーキングブレーキを操作してください。(→P.125)

▶ マニュアル車

エンジンを停止すると、パーキングブレーキがかかり、パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが点灯します。

■ オートモードを OFF にする

停車中にブレーキペダルを踏みながら、オートマチック車ではマルチインフォメーションディスプレイにメッセージ[A]が出るまで、マニュアル車では AUTO EPB OFF 表示灯[B]が点灯するまでスイッチを押し続ける



□ 知識

■ パーキングブレーキの作動

- エンジンスイッチが ON 以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。
- エンジンスイッチが ON 以外では、オートモードによる作動（かける・解除する [オートマチック車]）はできません。

■ パーキングブレーキ自動解除について

次の条件をすべて満たしたとき、アクセルペダルを踏むことによりパーキングブレーキを解除することができます。

- 運転席ドアが閉まっているとき
- 運転席シートベルトを着用しているとき
- シフトレバーが前進もしくは後退の位置にある
- エンジン警告灯やブレーキ警告灯が消灯している

アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが解除しない場合は、手動で解除してください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに “EPB が連続で操作されました しばらくお待ちください” と表示されたときは

短時間に作動をくり返すと、システム過熱防止のために作動制限があります。その場合は、操作を控えてください。1 分程度でもとの状態にもどります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに “EPB 動作が途中で停止しました” または “EPB 現在使用できません” と表示されたときは

パーキングブレーキスイッチを操作してください。何度か操作しても表示が消えない場合は、システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ パーキングブレーキの作動音

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ ウィーン ” という音）が聞こえることがあります。異常ではありません。

■ パーキングブレーキ表示灯について

- パーキングブレーキをかけたとき、エンジンスイッチのモードによって、次

のようにパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

ON：パーキングブレーキを解除するまで点灯します。

ON以外：約15秒間点灯します。

- パーキングブレーキをかけた状態でエンジンスイッチをOFFにしたとき、パーキングブレーキ表示灯が約15秒間点灯したままになりますが、異常ではありません。

■パーキングブレーキスイッチが故障したとき

自動的にオートモードがONになります。

■駐車するとき

→P.104

■パーキングブレーキ未解除警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに“EPBがロックされています”と表示されます。

■ブレーキ警告灯が点灯したとき

→P.298

■冬季のパーキングブレーキの使用について

→P.236

■パーキングブレーキスイッチについて

パーキングブレーキスイッチの周辺にものを置かないでください。ものとスイッチが干渉して、思わぬパーキングブレーキの作動につながるおそれがあります。



注意

■駐車するとき

車から離れるときは、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをP（オートマチック車）もしくはN（マニュアル車）にし、車が動かないことを確認してください。（→P.104）

■システムに異常が発生したら

安全な場所に車を停め、警告メッセージを確認してください。

■故障などでパーキングブレーキが解除できないとき

パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。この場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。



警告

■駐車するとき

お子さまだけを車の中に残したままにしないでください。お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ブレーキホールド

● オートマチック車

シフトレバーが D・M または N でブレーキホールドシステムが ON のとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトレバーが D または M のとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます。

● マニュアル車

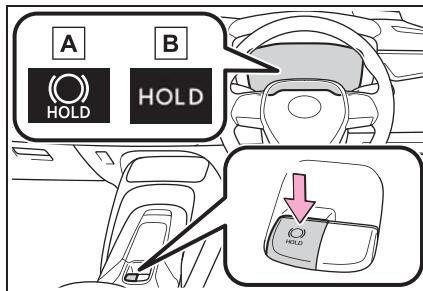
シフトレバーが前進側のシフトポジションまたは N でブレーキホールドシステムが ON のとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトレバーが前進側のシフトポジションのとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます。

システムを作動させるには

スイッチを押して、ブレーキホールドシステムを ON にする

ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）**A**が点灯します。ブレーキ保持中はブ

レーキホールド作動表示灯（黄）**B**が点灯します。



□ 知識

■ システムの作動条件

次のときはブレーキホールドシステムを ON にできません。

- 運転席ドアが閉まっていない
- 運転席シートベルトを着用していない

ブレーキホールドシステムが ON のときに上記いずれかを検出したときは、システムが OFF になり、ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が消灯します。ブレーキ保持中に検出した場合は、さらに警告音と共にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。

■ ブレーキ保持について

- ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約 3 分継続すると、自動的にパーキングブレーキがかかります。このときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

● 急坂路ではブレーキ保持できないことがあります、その場合運転者が、ブレーキをかける必要があります。このときブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

- ブレーキ保持中にシステムを OFF にするときは、ブレーキペダルをしっかりと

踏み、もう一度スイッチを押してください。

■ ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかかったときは

発進時は次のいずれかの操作でパーキングブレーキを解除してください。

● 運転席シートベルトを着用した状態でアクセルペダルを踏む

● ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキスイッチを操作して手動で解除する

操作したあとパーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。
(→P.298)

■ トヨタ販売店で点検が必要なときは

ブレーキホールドシステムの作動条件を満たしているときに、ブレーキホールドスイッチを押してもブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が点灯しないときはシステムの異常が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに” BrakeHold 故障 ” が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 警告メッセージ・警告ブザーについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ ブレーキホールド作動表示灯（黄）が点滅したときは

→P.298

⚠ 警告

■ 急坂路では

急坂路でブレーキホールドシステムを使用するときは注意してください。急坂路ではブレーキホールドシステムにてブレーキを保持できないことがあります。

■ すべりやすい路面では

タイヤのグリップ限界をこえて停車させることはできません。すべりやすい路面での使用は控えてください。

⚠ 注意

■ 駐車するとき

ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にエンジンスイッチを OFF になると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。エンジンスイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P (オートマチック車) または N (マニュアル車) にしてください。

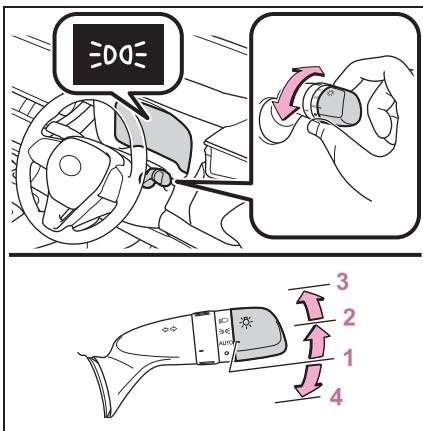
→P.298

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯できます。

操作のしかた

次のように  スイッチを操作すると、ランプが点灯します。



- 1 AUTO ヘッドランプ・LED デイライト★ (→P.130)・車幅灯などを自動点灯・消灯
- 2  車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプを点灯
- 3  上記ランプとヘッドランプを点灯
- 4  消灯

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ AUTO モードの作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■ LED デイライト★

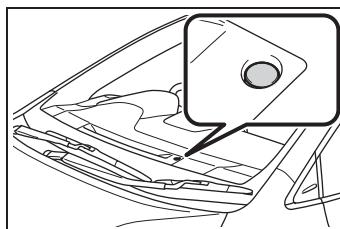
日中の走行時、自車が他の運転者から見やすくなるように、エンジン始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチを AUTO にすると、LED デイライトが自動で点灯します。(車幅灯より明るく点灯します。)

LED デイライトは夜間の使用を意図したものではありません。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ライトセンサー

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ ランプ消し忘れ防止機能

エンジンスイッチを ACC または OFF にして運転席ドアを開けるとすべてのランプが自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、エンジンスイッチを ON にするか、一度ランプスイッチを AUTO または  にもどし、再度

 または  の位置にします。

■ ランプ消し忘れ警告ブザー

ヘッドライト・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■ ワイパー連動ヘッドライト点灯機能 *

日中の走行時、ランプスイッチが AUTO でワイパーを作動してしばらくすると、自車が他車から見やすくなるようにヘッドライトが自動点灯します。

* トヨタ販売店での設定変更が必要です。

■ 節電機能

車両のバッテリーあがりを防止するため、エンジンスイッチが ACC または OFF の状態でヘッドライトまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後にすべてのランプが自動消灯します。次のいずれかを行った場合、節電機能はいったん解除され、再度節電機能が働き、約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

- エンジンスイッチを ON にしたとき
- ランプスイッチを操作したとき
- ドアまたはバックドアを開閉したとき

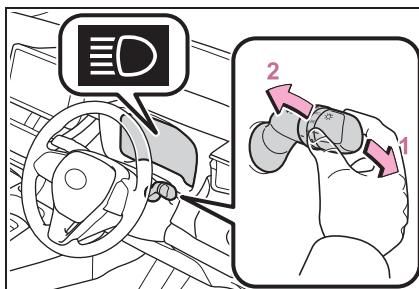
■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。 (→P.344)



■ バッテリーあがりを防止するために
エンジンを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

ハイビームにするには



1 ヘッドライト点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

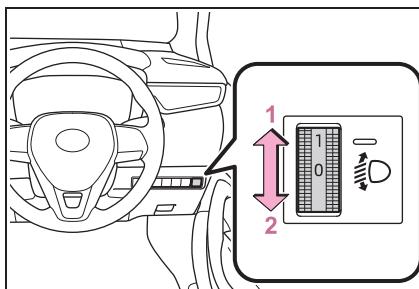
ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

4

車両

手動光軸調整ダイヤル

乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドライトの光軸を調整することができます。



1 上向きに調整

2 下向きに調整

■ 目盛り設定の目安

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員	なし	0
全乗員	なし	1.5
全乗員	ラゲージルーム満載時	3
運転者	ラゲージルーム満載時	4.5

オートマチックハイビーム

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置されたカメラセンサーにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切り替えます。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

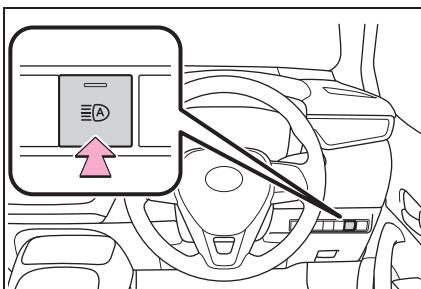
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■ オートマチックハイビームの誤作動を防ぐために

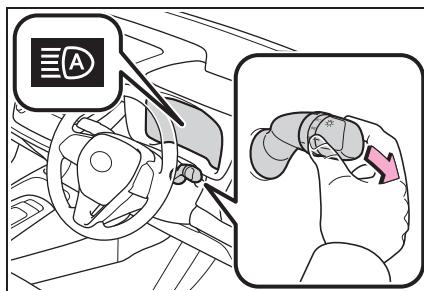
荷物を積み過ぎないでください。

オートマチックハイビームを使うには

1 オートマチックハイビームスイッチを押す

2 ランプスイッチを AUTO または AUTO にし、レバーを前方へ押す
オートマチックハイビームが作動すると、

オートマチックハイビーム表示灯が点灯します。



知識

■ハイビームとロービームの自動切り替え条件

●次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。

- ・車速が約 30km/h 以上
- ・車両前方が暗い
- ・前方にランプを点灯した車両がない
- ・前方の道路沿いの街路灯の光が少ない

●次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。

- ・車速が約 25km/h 以下
- ・車両前方が明るい
- ・前方車両がランプを点灯している
- ・前方の道路沿いの街路灯の光が多い

■カメラセンサーの検知について

●次のような状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。

- ・見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
- ・他車が前方を横切ったとき
- ・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
- ・前方車両が離れた車線から接近してきたとき
- ・前方車両が無灯火のとき

●前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合

があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。

●次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります

- ・前方車両のランプの明るさ
- ・前方車両の動きや向き
- ・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
- ・前方車両が二輪車のとき
- ・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
- ・乗車人数や荷物の量

●ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

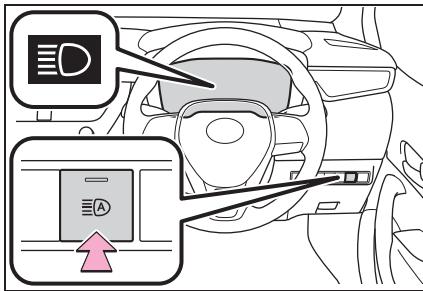
●次のような状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

- ・悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
- ・フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
- ・フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
- ・前方カメラが変形しているときや、汚れているとき
- ・前方カメラが極端に高温になっているとき
- ・周囲にヘッドライトや尾灯などに似た光があるとき
- ・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があつたり光軸がずれているとき
- ・先行車から水・雪・土埃などの巻き上

げがあるとき

- ・急激な明るさの変化が連続するとき
- ・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
- ・カーブが多い道路を走行しているとき
- ・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
- ・コンテナなど、先行車の後部が光を強く反射するとき
- ・自車のヘッドライトが破損または汚れているとき
- ・パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
- ・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
- ・ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき

オートマチックハイビームにもどすには、再度スイッチを押します。



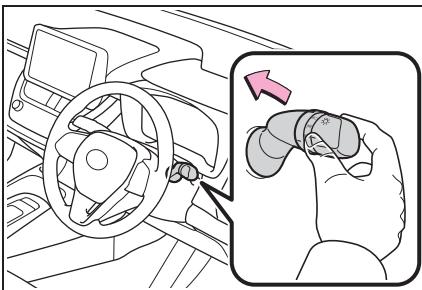
手動制御に切りかえるには

■ ロービームへの切りかえ

レバーをもとの位置にもどす

オートマチックハイビーム表示灯が消灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーを前方に押します。



■ ハイビームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビーム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

フォグランプスイッチ★

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

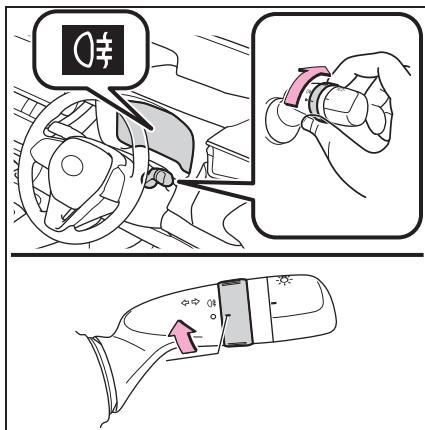
雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

操作のしかた

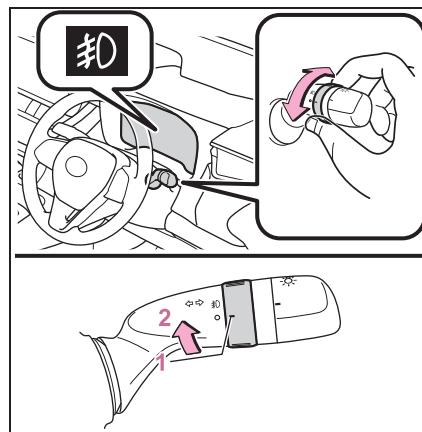
▶ リヤフォグランプ装着車

リヤフォグランプを点灯する

操作後に手を離すと ● の位置までもどります。再度操作すると消灯します。



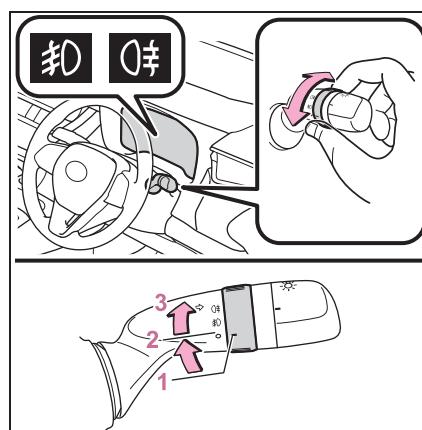
▶ フロントフォグランプ装着車



1 ● 消灯する

2 ⚡ 点灯する

▶ フロント&リヤフォグランプ装着車



1 ● 消灯する

2 ⚡ フロントフォグランプを点灯する

3 ⚡ フロント&リヤフォグランプを点灯する

③の操作後に手を離すと**約**の位置までもどります。

再度③の操作をするときリヤフォグランプのみ消灯します。

□ 知識

■ 点灯条件

フロントフォグランプ：ヘッドライトまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

リヤフォグランプ：ヘッドライトが点灯しているときに使用できます。

■ リヤフォグランプについて

● リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。

● 雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。

視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。

必要なとき以外は使用しないでください。

ワイパー＆ウォッシャー（フロント）

レバー操作でワイパーを作動させたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。

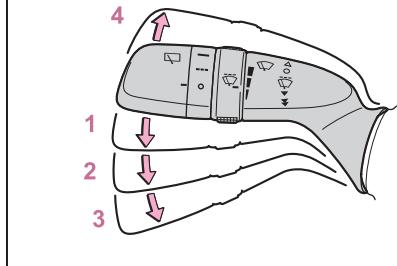
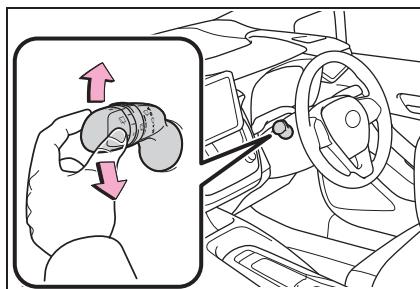
△ 注意

■ フロントウインドウガラスが乾いているとき

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

次のように  レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。



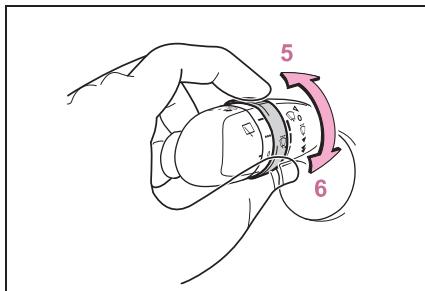
1  間欠作動 (INT)

2 ▼ 低速作動 (LO)

3 ▼ 高速作動 (HI)

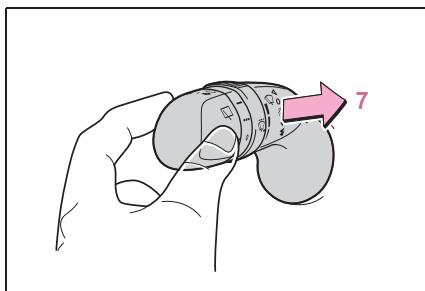
4 △ 一時作動 (MIST)

間欠作動を選択しているとき、間欠時間調整することができます。
(間欠時間調節式ワイパー装着車)



5 間欠ワイパーの作動頻度 (増)

6 間欠ワイパーの作動頻度 (減)

7  ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

 知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■ 走行中にエンジンを緊急停止したときは

エンジンを停止したときにワイパーが作動していた場合は、高速作動でワイパーの作動が継続します。車両停止後にエンジンスイッチを ON にすると通常作動を再開し、運転席ドアを開けるとワイパーの作動を停止します。

 警告

■ ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまつたとき

ノズルがつまつたときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ワイパー&ウォッシャー (リヤ)

レバー操作でワイパーを作動させたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。

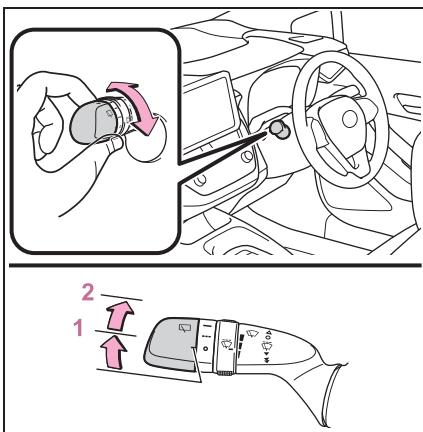
⚠ 注意

■リヤウインドウガラスが乾いているとき

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

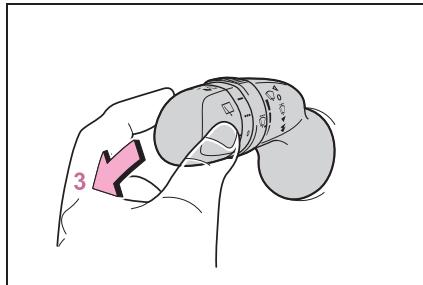
操作のしかた

次のように  スイッチを操作すると、リヤワイパーまたはウォッシャーが作動します。



1 --- 間欠作動 (LO)

2 一 通常作動 (HI)



3 ウオッシャー液を出す

レバーを前方へ押すとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■ ウオッシャー液が出ないとさ

ウォッシャー液量が不足していないのに
ウォッシャー液が出ないときは、ノズル
のつまりを点検してください。

■ バックドア開運動リヤワイパー停止機能

停車状態でリヤワイパーが作動しているときにバックドアを開けると、ワイパーの水しぶきが車両の近くにいる人にかかるのを防ぐためにワイパーの作動が停止します。バックドアを閉めると作動を再開します。

⚠ 注意

■ ウオッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください)。

ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまつたときは

ノズルがつまつたときはトヨタ販売店へご連絡ください。

ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

給油口の開け方

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、エンジンスイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

□ 知識

■ 燃料の種類について

- 無鉛レギュラーガソリン
- バイオ混合ガソリン（レギュラー）

■ バイオ混合ガソリンについて

エタノールの混合率 10% 以下、または ETBE の混合率 22% 以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。



警告

■ 給油するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。
また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

- キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。

すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。

- 気化した燃料を吸わないようにしてください。

燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

- 噫煙しないでください。

- 給油口にノズルを確実に挿入してください。

- 繰ぎ足し給油をしないでください。

- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。



注意

■ 給油するとき

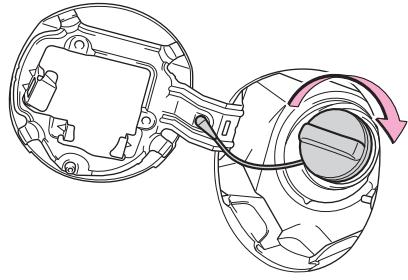
指定のガソリンを使用してください。
指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。

次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

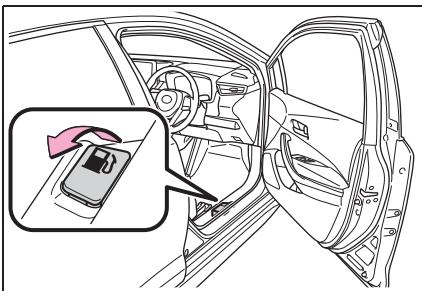
⚠ 注意

* エタノール混合率 10% をこえるもの、または ETBE 混合率 22% をこえるもの

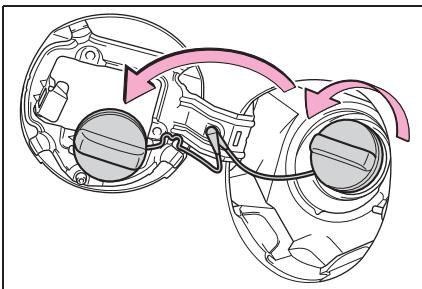


給油口を開けるには

- 1 オープナーを上げて、給油扉を開ける



- 2 キャップをゆっくりまわして開け、ハンガーにかける



⚠ 警告

■ キャップが正常に閉まらないとき

必ずトヨタ販売店へご連絡ください。正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

給油口の閉め方

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。

Toyota Safety Sense

Toyota Safety Sense は、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

運転支援装置

■ PCS (プリクラッシュセーフティ)

→P.145

■ LTA (レーントレーシングアシスト) ★

→P.152

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ LDA (レーンディパーサーチアラート [ステアリング制御機能付き]) ★

→P.161

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ AHB (オートマチックハイビーム)

→P.132

■ RSA (ロードサインアシスト)

→P.168

■ レーダークルーズコントロール (全車速追従機能付き) ★

→P.171

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ レーダークルーズコントロール

★

→P.180

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 先行車発進告知機能

→P.188

⚠ 警告

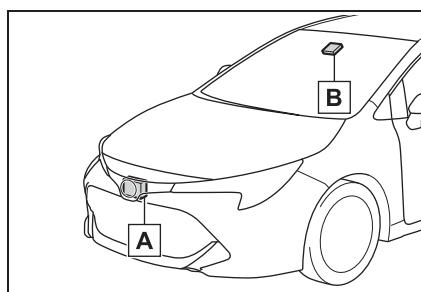
■ Toyota Safety Sense について

Toyota Safety Sense は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

前方センサー

フロントグリルとフロントウインドウガラスにある 2 種類のセンサーにより、各運転支援装置に必要な情報を認識します。



A レーダー

B 前方カメラ

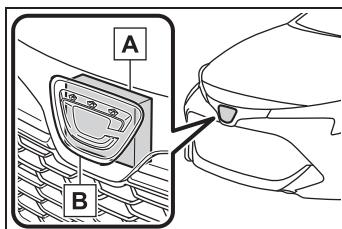
⚠ 警告

■ レーダーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく



A レーダー

B レーダー専用カバー

レーダー前面やレーダー専用カバー前面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。

- レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない

● レーダー周辺への強い衝撃を避ける
レーダー・フロントグリル・フロントバンパーに強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

- レーダーを分解しない

- レーダーやレーダー専用カバーを改造したり、塗装したりしない

● 次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

- ・ レーダー・フロントグリルを脱着や交換したとき
- ・ フロントバンパーを交換したとき

■ 前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

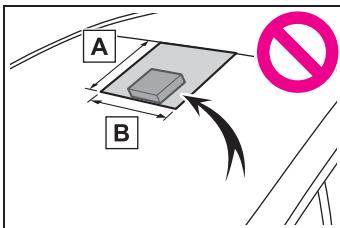
お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく

- ・ フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
- ・ フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
- ・ フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠️ 警告

- フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない



A フロントウインドウガラス上端から
前方カメラ下端より下約 1cm まで

B 約 20cm (前方カメラ中心から左
右約 10cm)

- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する（フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→P.242）

- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパークリーナーを交換する

- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない

- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する

フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

- 前方カメラに液体をかけない
- 前方カメラに強い光を照射しない

- 前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない

フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。

レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

- 前方カメラに強い衝撃を加えない
- 前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方カメラを分解しない
- インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない

詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

 知識

■ レーダーの取り扱い

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

■ マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

前方センサーが一時的に作動しない、または異常があるおそれがあります。

- 次の状況が改善されると警告メッセージが消え、作動可能状態になります。

対処を行っても警告メッセージが表示されたままの場合はトヨタ販売店にご相談ください。

状況	対処法
前方センサー周辺に汚れや付着物（曇り、結露、凍結などを含む）があるとき	<ul style="list-style-type: none"> ・汚れや付着物を取り除く。 ・前方カメラ周辺の汚れや付着物の場合は、ワイバーやエアコンの機能などを使用する (フロントウインドウガラスの曇りを取るには: →P.242)
炎天下や極寒の環境など、前方カメラ周囲の温度などが作動条件外のとき	<p>炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を下げる 特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります。</p> <p>極寒での駐車時など、前方カメラが低温のときは、エアコンで前方カメラ周辺の温度を上げる</p>
ボンネットが開いているときや、フロントウインドウガラスの前方カメラ前部にステッカーが貼り付けられているときなど、前方カメラの前方がさえぎられているとき	ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、前方カメラの視界がさえぎられないようにする

- 次のときは周囲の環境が前方センサーの作動可能状態になれば警告メッセージが消えます。

周囲の環境が改善されたり、しばらく走行したりしても警告メッセージが表示されたままの場合はトヨタ販売店にご相談ください。

- ・炎天下や極寒の環境など、レーダー周囲の温度などが作動条件外のとき
- ・暗闇・逆光・雪・霧など、前方カメラが周囲の状況を認識できないとき

PCS (プリクラッシュセーフティ)

進路上の作動対象 (→P.145) を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まると判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティの ON/OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。 (→P.147)

システムの作動対象

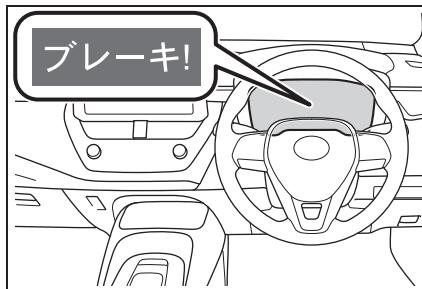
システムは次のものを作動対象として検出しています。

- 車両
- 自転車運転者
- 歩行者

機能一覧

■ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ・・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、回避操作をうながします。



■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに応じてブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の低減に寄与します。

■ サスペンションコントロール★

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、AVS (→P.231) によってショックアブソーバーの減衰力を制御することで、安定した車両姿勢の維持に寄与します。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠️ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。
 - ・ 衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき：→P.149
 - ・ システムが正常に作動しないおそれがあるとき：→P.150
- お客様ご自身でプリクラッシュセーフティの作動テストを行わないでください。
対象（マネキンや段ボールで作動対象を模したものなど）や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ プリクラッシュブレーキについて

- プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。
- プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、約2秒後にプリクラッシュブレーキが解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。
- プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。
- プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。
- ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

■ プリクラッシュセーフティをOFFにするとき

次のときは、システムをOFFにしてください。

システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- けん引されるとき
- けん引するとき
- トラック・船舶・列車などに積載するとき

⚠️ 警告

- 車両をリフトで上げ、エンジンを始動しタイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- 事故などにより、フロントバンパー やフロントグリルに強い衝撃が加わったとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- メーカー指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 応急用タイヤやタイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- 車両に前方センサーをさえぎるような装備品（除雪装置など）を一時的に取り付けているとき

プリクラッシュセーフティの設定変更

■ プリクラッシュセーフティの ON / OFF を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの  (→P.344) から、プリクラッシュセーフティの ON (作動) / OFF (非作動) を変更することができます。

エンジンスイッチがイグニッション ON モードになるとシステムは ON になります。

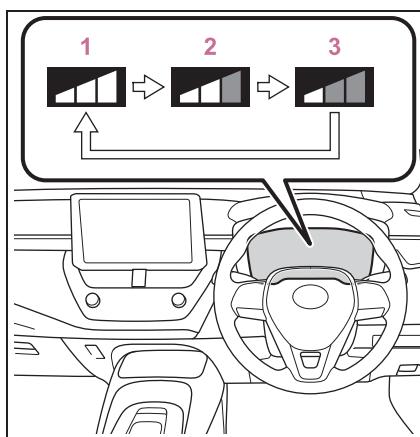
システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



■ 衝突警報の作動タイミングを変更する

マルチインフォメーションディスプレイの  (→P.344) から、衝突警報の作動タイミングを変更することができます。

変更した作動タイミングはエンジンスイッチを OFF にしても継続しますが、プリクラッシュセーフティを OFF から ON の状態にすると「中間」に戻ります。



1 早い

2 中間

初期設定

3 遅い



■システムの作動条件

プリクラッシュセーフティがONで、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。

各機能の作動速度は次のとおりです。

●衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約10～180km/h	約10～180km/h
自転車運転者・歩行者	約10～80km/h	約10～80km/h

●プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約30～180km/h	約30～180km/h
自転車運転者・歩行者	約30～80km/h	約30～80km/h

●プリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約10～180km/h	約10～180km/h
自転車運転者・歩行者	約10～80km/h	約10～80km/h

ただし、次のときシステムは作動しません。

●バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ

●シフトレバーがRのとき

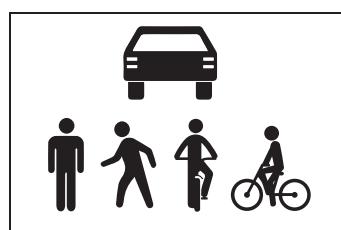
●VSC OFF表示灯が点灯しているとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

■作動対象の検出

大きさ・輪郭・動きなどから検出します。

周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出で

きず、システムが正常に作動しないおそれがあります。（→P.150）
図は作動対象として検出する対象のイメージです。



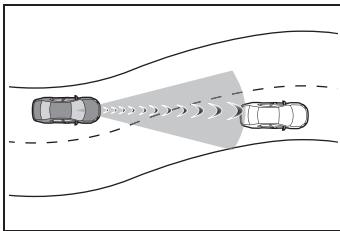
■ プリクラッシュブレーキの作動解除

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

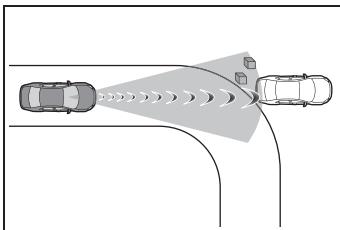
- アクセルペダルを強く踏み込む
- ハンドルを大きくきる、またはすばやく操作する

■ 衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

- 例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。
- ・ 作動対象などのすぐそばを通過するとき
- ・ 車線を変更して作動対象などを追いこすとき
- ・ 進路変更時や曲がりくねった道を走行時など、自車前方の隣車線や路側に作動対象が存在するとき



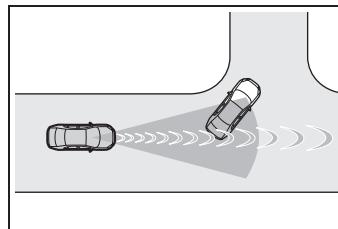
- ・ 作動対象などに急接近したとき
- ・ 道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）などに近付いたとき
- ・ カーブ入り口の道路脇に作動対象や物体などが存在するとき



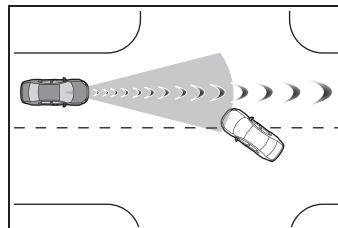
- ・ 自車の前方に作動対象との区別がつき

にくい模様・ペイントがあるとき

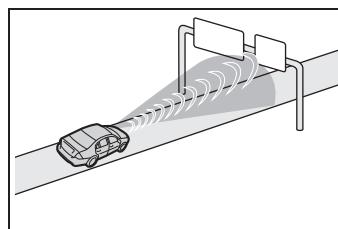
- ・ 自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき
- ・ 車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき



- ・ 右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき

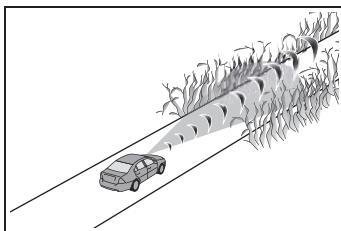


- ・ 作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき
- ・ 路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
- ・ 構造物に囲まれた道（トンネルや鉄橋など）を走行するとき
- ・ 自車の前方に金属物（マンホール・鉄板など）・段差・突起物があるとき
- ・ 道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき



- ・ ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
- ・ 洗車機を使用するとき

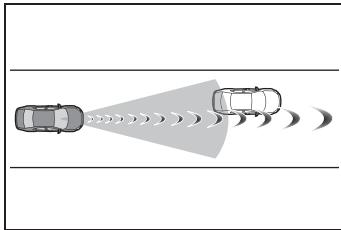
- ・自車に覆い被さるような障害物（生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など）がある場所を走行するとき



- ・自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
- ・電波の反射が強い物体（大型トラック・ガードレールなど）の横を走行するとき
- ・テレビ塔・放送局・発電所など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき

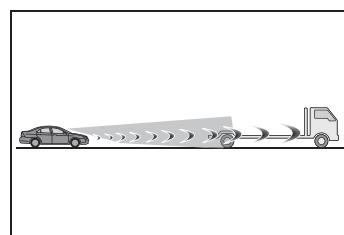
■ システムが正常に作動しないおそれがあるとき

- 例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
- ・自車に向かって作動対象が近付いてくるとき
- ・自車や作動対象がふらついているとき
- ・作動対象が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
- ・作動対象に急接近したとき
- ・作動対象が自車の中心軸からずれてい るとき

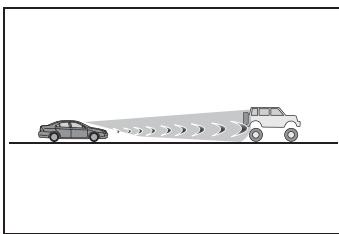


- ・作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車

- ・両などのそばにいるとき
- ・上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
- ・作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
- ・作動対象が複数重なっているとき
- ・作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
- ・作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
- ・作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
- ・作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
- ・自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき
- ・自車の正面方向から強い光（太陽光や対向車のヘッドライト光など）が前方カメラにあたっているとき
- ・横向き、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき
- ・前方車両がオートバイのとき
- ・前方車両の全幅が狭いとき（超小型モビリティなど）
- ・前方車両の後端面積が小さいとき（空荷のトラックなど）
- ・前方車両の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）

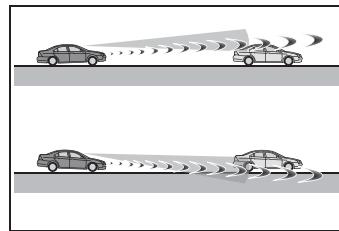


- ・前方車両の最低地上高が極端に高いとき



- ・前方車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
- ・前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
- ・子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
- ・歩行者・自転車運転者の大きさが約1m以下、または約2m以上のとき
- ・歩行者・自転車運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
- ・歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
- ・歩行者・自転車運転者の移動速度が速いとき
- ・歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
- ・悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき
- ・自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
- ・周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
- ・周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）
- ・エンジンを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- ・右左折中および右左折後の数秒間
- ・カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間

- ・自車が横すべりしているとき
- ・車両姿勢が変化しているとき



- ・ホイールアライメントがずれているとき
- ・ワイパー・ブレードが前方カメラの視界をさえぎっているとき
- ・過度な高速走行をしているとき
- ・坂道を走行しているとき
- ・前方センサーの向きがずれているとき

● 例えば次のような状況では、制動力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。

- ・ブレーキ性能が十分に発揮できない場合（ブレーキ部品が極度に冷えている・過熱している・ぬれているなど）
- ・車両の整備状態（ブレーキ部品・タイヤの摩耗や空気圧など）が良好でないとき
- ・砂利道やすべりやすい路面を走行しているとき

■ VSC を停止したとき

● VSC の作動を停止（→P.232）したときは、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。

● PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに“VSC が Off のためプリクラッシュブレーキも停止します”が表示されます。

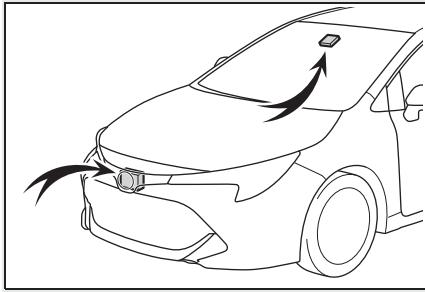
LTA（レーントレーシングアシスト）★

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

白（黄）線が整備された高速道路または自動車専用道路を走行中、車線または走路[※]からの逸脱の可能性を警告するとともに、車線または走路[※]からの逸脱を避けるためのハンドル操作の一部を支援します。また、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）の作動中は、車線維持に必要なハンドルの操作を支援します。

白（黄）線または走路[※]を前方カメラで認識します。また、先行車を前方カメラやレーダーで認識します。

[※] アスファルトと草・土・縁石等の境界



⚠ 警告

■ LTA をお使いになる前に

- LTA を過信しないでください。LTA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。
- 適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- LTA を使用しないときは、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。

■ LTA を使用してはいけない状況

次の状況では、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 雨天時や積雪・凍結などで、すべりやすい路面を走行しているとき
- 雪道を走行しているとき
- 水たまりや雨・雪・霧・砂ぼこりなどで白（黄）線が見えにくいとき
- 工事によって規制された車線・仮設の車線を走行しているとき
- 工事区間を走行しているとき
- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき
- タイヤの残り溝が十分がないとき、または空気圧が不足しているとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- 高速道路または自動車専用道以外の車線を走行しているとき

⚠️ 警告

● 車両けん引時

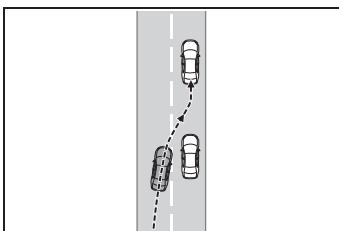
■ LTA の故障、または誤作動を防ぐために

- ヘッドライトランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。
- サスペンションなどを改造しないでください。交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。
- フロントウインドウガラスの修理が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■ 機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

- 先行車追従表示中（→P.157）に、先行車が車線変更したとき（先行車の動きに合わせて自車も車線変更するおそれがあります）



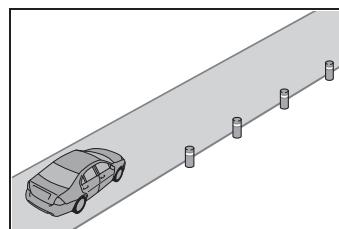
- 先行車追従表示中（→P.157）に、先行車がふらついたとき（先行車の動きに合わせて自車もふらついて走行しレーンをはみ出すおそれがあります）

- 先行車追従表示中（→P.157）に、先行車が車線から逸脱したとき（先行車の動きに合わせて自車も車線から逸脱するおそれがあります）

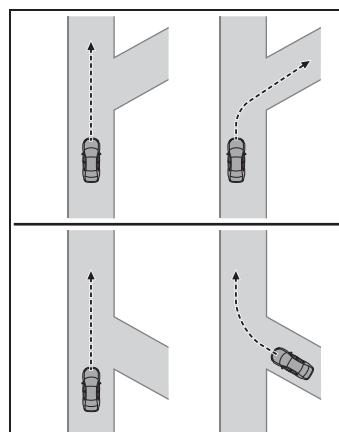
- 先行車追従表示中（→P.157）に、先行車がレーン内を右、または左に片寄って走行したとき（先行車の動きに合わせて自車も片寄って走行しレーンをはみ出すおそれがあります）

- 急カーブを走行しているとき

- 路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物や模様があるとき（ガードレール・反射ポールなど）

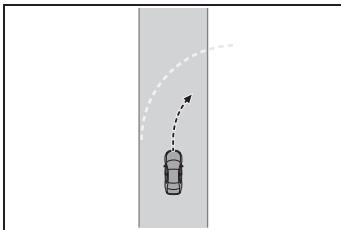


- 分岐・合流路などを走行するとき



⚠ 警告

- 道路の修復で、アスファルト修復後や白（黄）線の跡が残っているとき



- 白（黄）線に平行するような影がある、または白（黄）線が影の中にあるとき
- 料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき
- 白（黄）線がかすれている、またはキャツツアイ（道路鉄）や置き石などがあるとき
- 白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき
- 雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行しているとき
- 車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）
- 白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき
- コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき
- アスファルトと草・土・縁石等の境界が不明瞭または直線的でないとき
- 照り返しなどにより明るくなった路面を走行しているとき
- トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行しているとき

- 対向車のヘッドライト光・太陽光などが前方カメラに入射しているとき
- 坂道を走行しているとき
- 左右に傾いた道路やうねった道路を走行しているとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき
- 車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- 走行中の路面状況（悪路・道路の継ぎ目など）により、車両が上下に大きく揺れているとき
- 夜間やトンネル内などでヘッドライトを点灯していない、またはレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- 横風を受けているとき
- 周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後
- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用したとき
- 冬用タイヤなどを装着しているとき
- 過度な高速走行をしているとき

LTAに含まれる機能

■ 車線逸脱警報機能

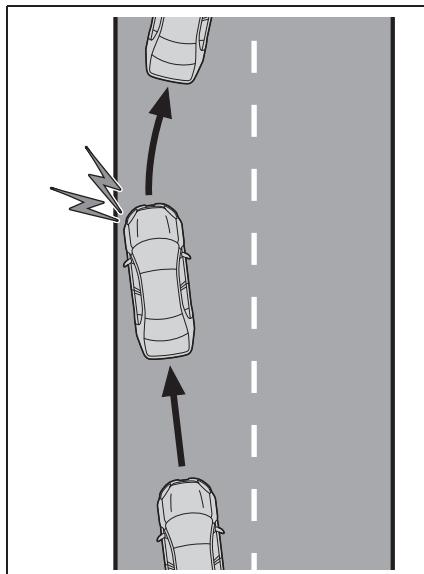
車両が車線または走路*から逸脱する可能性がある場合に、マルチ

インフォメーションディスプレイの表示および、警報ブザーにより注意をうながします。

警報ブザーが鳴ったときは、まわりの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白（黄）線または走路^{*}内の中央付近にもどってください。

BSM 装着車：車線逸脱により、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断した場合、方向指示灯の点滅中も車線逸脱警報機能が作動します。

* アスファルトと草・土・縁石等の境界



■ 車線逸脱抑制機能

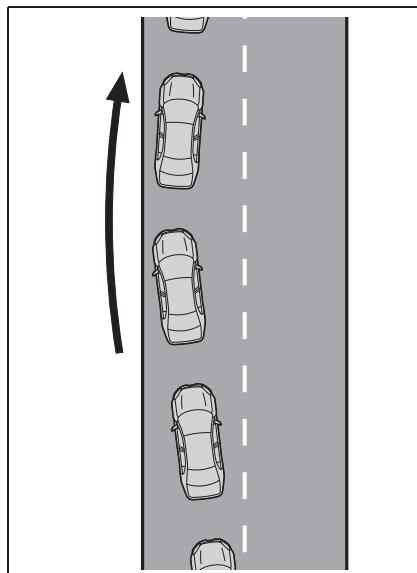
車両が車線または走路^{*}から逸脱する可能性がある場合に、短時間、小さな操舵力をハンドルに与えて、車線からの逸脱を避けるために必要なハンドル操作の一部を支援します。

一定時間ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態で

の運転が続いたりしたときは、マルチインフォメーションディスプレイの表示により注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。

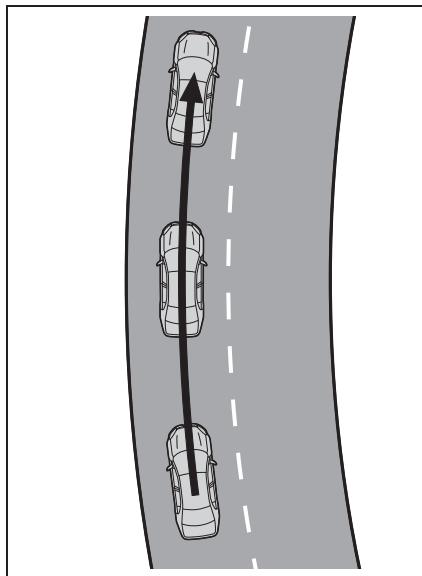
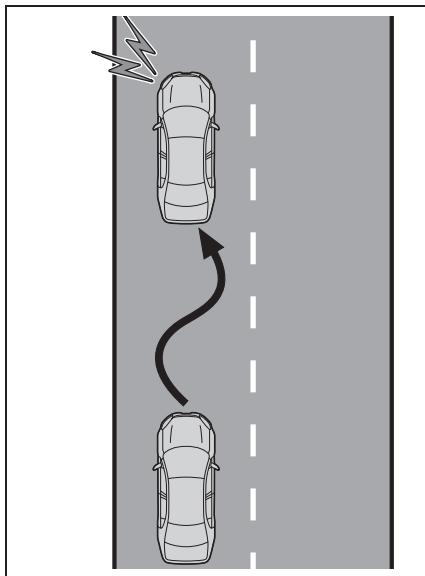
BSM 装着車：車線逸脱により、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断した場合、方向指示灯の点滅中も車線逸脱抑制機能が作動します。

* アスファルトと草・土・縁石等の境界



■ ふらつき警報機能

車両がふらついて走行しているときに、警報ブザーおよびマルチインフォメーションディスプレイの表示により注意をうながします。



■ 車線維持支援機能

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）と連携し、現在の車線内を走行するために必要なハンドル操作の一部を、システムが支援します。

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が作動していないときは、車線維持支援機能は作動しません。

渋滞のときなど白（黄）線が見えにくい、または見えない場合、先行車の軌跡を利用して先行車に追従する支援を行います。

一定時間ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかりと握っていない状態での運転が続いたりしたときは、マルチインフォメーションディスプレイの表示により注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。

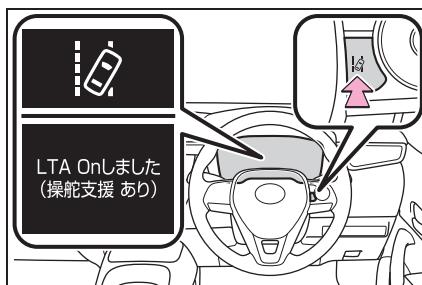
設定のしかた

LTAをONにするにはLTAスイッチを押す

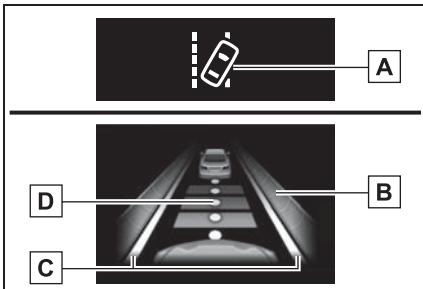
LTA表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

OFFにするには、再度スイッチを押します。

いったんLTAをON／OFFすると、次回エンジンを始動したときにも、そのままの状態が続きます。



マルチインフォメーションディスプレイ表示



A LTA 表示灯

表示灯の点灯状態で、システムの作動状況をお知らせします。

白色に点灯：車線逸脱監視中

緑色に点灯：車線逸脱抑制機能、または車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中

橙色に点滅：車線逸脱警報中

B ハンドル操舵支援の作動表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報に切りかえると表示されます。

車線逸脱抑制機能、または車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中であることを示しています。

両側点灯：車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中

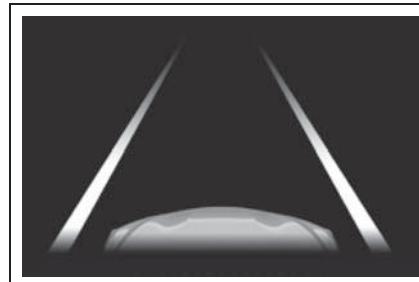
片側点灯：車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援が作動中

両側点滅：車線維持支援機能の注意喚起が作動中

C 車線逸脱警報機能表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報に切りかえると表示されます。

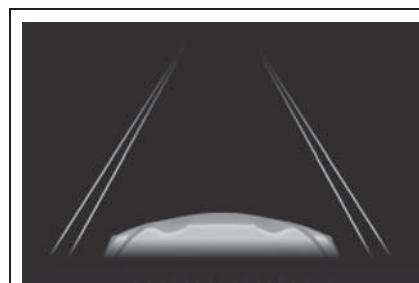
▶ 白線表示の内側が白いとき



システムが白（黄）線または走路

※ を認識していることを示しています。車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が橙色で点滅します。

▶ 白線表示の内側が黒いとき



システムが白（黄）線または走路

※ を認識できていない、またはシステムが一時的に解除されていることを示しています。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

D 先行車追従表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報に切りかえると表示されます。

車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中（先行車に追従中）であることを示しています。

先行車の動きに合わせて自車も同じ動きをする場合があります。運転者は常に自

らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。

□ 知識

■ 各機能の作動条件

● 車線逸脱警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ LTA を ON にしているとき
- ・ 車速が 50km/h 以上 のとき ^{※1}
- ・ システムが白（黄）線または走路 ^{※2} を認識しているとき（白〔黄〕線または走路 ^{※2} が片側しかないと、認識している方向のみ作動します）
- ・ 車線の幅が約 3m 以上 のとき
- ・ 方向指示レバーを操作していないとき（BSM 装着車：方向指示灯方向に車両がいる場合は除く）
- ・ 急カーブを走行していないとき
- ・ システムの異常が検知されていないとき（→P.160）

^{※1}車線維持支援機能作動中は約 50km/h 以下でも作動します

^{※2}アスファルトと草・土・縁石等の境界

● 車線逸脱抑制機能

車線逸脱警報機能の作動条件に加えて、次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ マルチインフォメーションディスプレイの  で “操舵支援” を “有” に設定しているとき（→P.344）
- ・ 一定以上の加減速がないとき
- ・ 車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
- ・ ABS・VSC・TRC・PCS が作動していないとき
- ・ TRC または VSC を OFF にしているとき
- ・ 手放し運転に対する注意喚起

（→P.159）が行われていないとき

● ふらつき警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ マルチインフォメーションディスプレイの  で “ふらつき検知” を “有” に設定しているとき（→P.344）
- ・ 車速が約 50km/h 以上 のとき
- ・ 車線の幅が約 3m 以上 のとき
- ・ システムの異常が検知されていないとき（→P.160）

● 車線維持支援機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ LTA を ON にしているとき
- ・ マルチインフォメーションディスプレイの  で “操舵支援” を “ON” かつ “センタートレース” を “ON” に設定しているとき（→P.344）
- ・ システムが白（黄）線を認識しているとき、または先行車の軌跡を認識しているとき（先行車が二輪車の場合を除く）
- ・ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が車間制御モードで作動しているとき
- ・ 車線の幅が約 3～4m のとき
- ・ 方向指示レバーを操作していないとき
- ・ 急カーブを走行していないとき
- ・ システムの異常が検知されていないとき（→P.160）
- ・ 一定以上の加減速がないとき
- ・ 車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
- ・ ABS・VSC・TRC・PCS が作動していないとき
- ・ TRC または VSC を OFF にしているとき
- ・ 手放し運転に対する注意喚起

（→P.159）が行われていないとき

- ・車線中央付近を走行しているとき
- ・車線逸脱抑制機能が作動していないとき

■機能の一時解除

- 作動条件（→P.158）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。
- 車線維持支援機能作動中に、作動条件（→P.158）が満たされなくなった場合、“ピピッ”とブザー音で、一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。

■車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能について

- 車速や車線の逸脱状況・路面状況などにより、車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能の作動を感じなかったり、車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能が作動しなかったりすることがあります。
- これらの各機能によるステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。
- 車線逸脱抑制機能の作動テストを行わないでください。

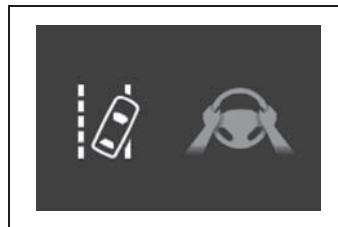
■車線逸脱警報機能について

- 外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。
- 走路[※]がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は走路逸脱に対する警報・制御が作動しない場合があります。
- BSM装着車：となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性を判断できない場合があります。
- 車線逸脱警報機能の作動テストを行わないでください。

[※] アスファルトと草・土・縁石等の境界

■手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。



- システムの作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

- カーブを走行中に曲がりきれず車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断したとき

車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。また、システムがカーブを走行中と判断した場合は、直線走行時に比べて早いタイミングで注意喚起が行われます。

- 車線逸脱抑制機能による車線逸脱を避けるためのハンドル操舵支援中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに、操作しない状態が続きハンドル操舵支援が行われると、ブザーが鳴り注意喚起が行われます。ハンドル操舵支援の回数が増えるごとに、ブザーの継続時間が長くなります。

■ ふらつき警報機能について

システムの作動中に、車両がふらついて走行しているとシステムが判断したとき、ブザーと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに休憩をうながすメッセージと図で示すシンボルで注意喚起を行います。



車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。

■ 警告メッセージ

次のメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示され、LTA 表示灯が橙色で点灯した場合は、対処方法に従って適切に対処してください。また、その他の警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

- “LTA 故障 販売店で点検してください”

システムが正常に作動しなくなっているおそれがあります。

トヨタ販売店で点検を受けてください。

- “LTA 現在利用できません”

前方カメラ以外のセンサーの異常によりシステムが一時停止しています。いったん LTA を OFF にして、しばらくしてから再度、LTA を ON してください。

- “LTA 現在の車速では使用できません”

車速が LTA の作動可能範囲をこえたため、使用できません。車速を落として走行してください。

■ カスタマイズ機能

機能の設定を変更することができます。
(カスタマイズ一覧: →P.344)

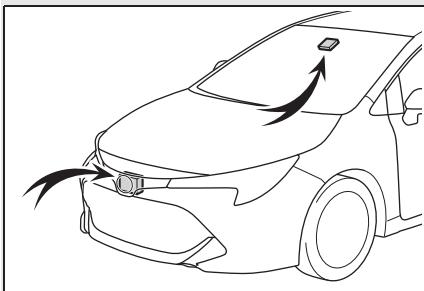
LDA (レーンディパー チャーアラート [ステアリ ング制御機能付き]) ★

★ : グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

白（黄）線が整備された高速道
路または自動車専用道路を走行
中、車線または走路[※]からの逸
脱の可能性を警告するとともに、
車線または走路[※]からの逸脱を
避けるためのハンドル操作の一
部を支援します。

白（黄）線または走路[※]を前方
カメラで認識します。また、先
行車を前方カメラやレーダーで
認識します。

[※] アスファルトと草・土・縁石等の境
界



⚠ 警告

■ LDA をお使いになる前に

- LDA を過信しないでください。LDA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。

- 適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- LDA を使用しないときは、LDA スイッチでシステムを OFF にしてください。

■ LDA を使用してはいけない状況

次の状況では、LDA スイッチでシステムを OFF にしてください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 雨天時や積雪・凍結などで、すべりやすい路面を走行しているとき

- 雪道を走行しているとき

- 水たまりや雨・雪・霧・砂ぼこりなどで白（黄）線が見えにくいとき

- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき

- タイヤの残り溝が十分がないとき、または空気圧が不足しているとき

- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき

- 高速道路または自動車専用道以外の車線を走行しているとき

- 車両けん引時

⚠ 警告

■ LDA の故障、または誤作動を防ぐために

- ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。
- サスペンションなどを改造しないでください。交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。

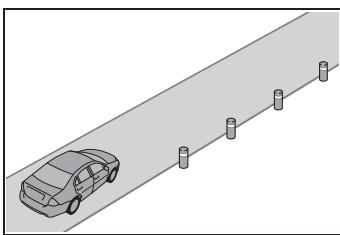
■ フロントウインドウガラスの修理が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■ 機能が正常に作動しないおそれのある状況

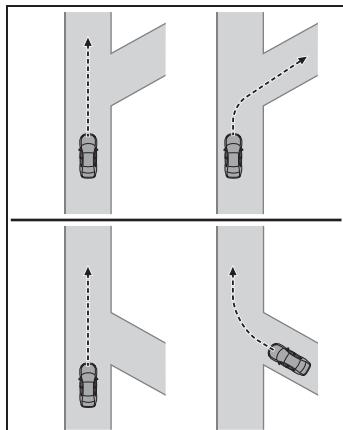
次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

● 急カーブを走行しているとき

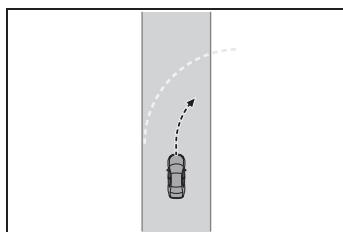
● 路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物や模様があるとき（ガードレール・反射ポールなど）



● 分岐・合流路などを走行するとき



● 道路の修復で、アスファルト修復後や白（黄）線の跡が残っているとき



● 白（黄）線に平行するような影がある、または白（黄）線が影の中にあるとき

● 料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき

● 白（黄）線がかすれている、またはキャツツアイ（道路鉄）や置き石などがあるとき

● 白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき

● 雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行しているとき

● 車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）

⚠️ 警告

- 白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき
- コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき
- アスファルトと草・土・縁石等の境界が不明瞭または直線的でないとき
- 照り返しなどにより明るくなつた路面を走行しているとき
- トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行しているとき
- 対向車のヘッドライト光・太陽光などが前方カメラに入射しているとき
- 坂道を走行しているとき
- 左右に傾いた道路やうねった道路を走行しているとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき
- 車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなつたとき
- 走行中の路面状況（悪路・道路の継ぎ目など）により、車両が上下に大きく揺れているとき
- 夜間やトンネル内などでヘッドライトを点灯していない、またはレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- 横風を受けているとき
- 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後

- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用したとき
- 冬用タイヤなどを装着しているとき

LDAに含まれる機能

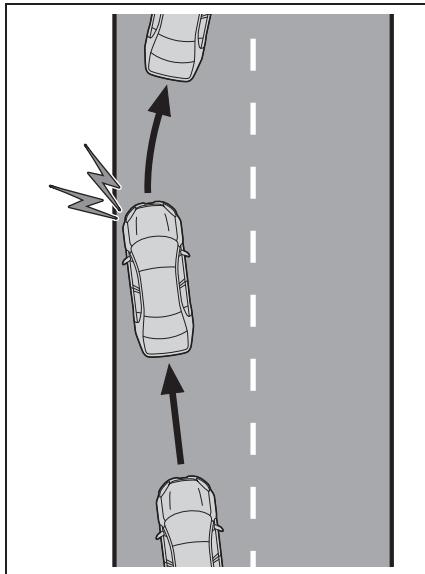
■ 車線逸脱警報機能

車両が車線または走路[※]から逸脱する可能性がある場合に、マルチインフォメーションディスプレイの表示および、警報ブザーにより注意をうながします。

警報ブザーが鳴ったときは、まわりの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白（黄）線または走路[※]内の中央付近にもどってください。

BSM 装着車：車線逸脱により、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断した場合、方向指示灯の点滅中も車線逸脱警報機能が作動します。

[※] アスファルトと草・土・縁石等の境界



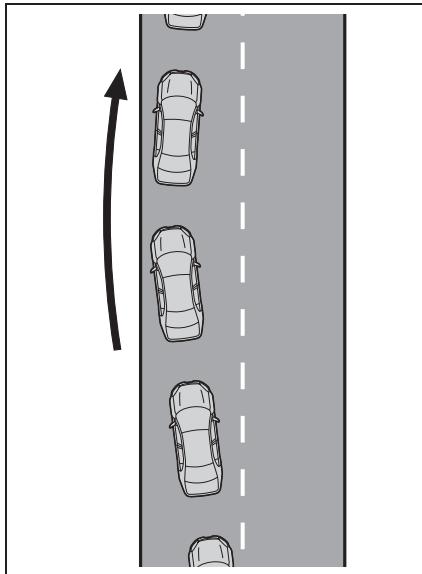
■ 車線逸脱抑制機能

車両が車線または走路[※]から逸脱する可能性がある場合に、短時間、小さな操舵力をハンドルに与えて、車線からの逸脱を避けるために必要なハンドル操作の一部を支援します。

一定時間ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは、マルチインフォメーションディスプレイの表示により注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。

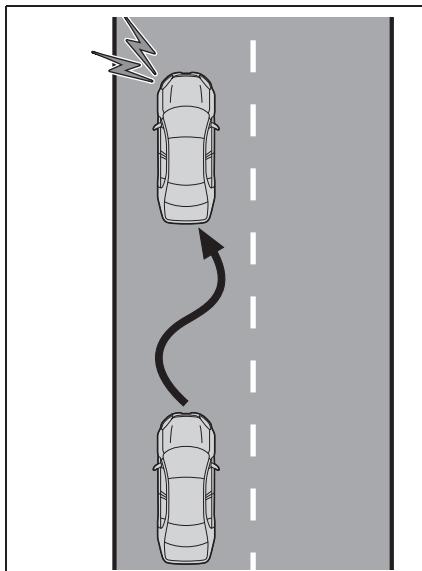
BSM 装着車：車線逸脱により、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断した場合、方向指示灯の点滅中も車線逸脱抑制機能が作動します。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



■ ふらつき警報機能

車両がふらついて走行しているときに、警報ブザーおよびマルチインフォメーションディスプレイの表示により注意をうながします。



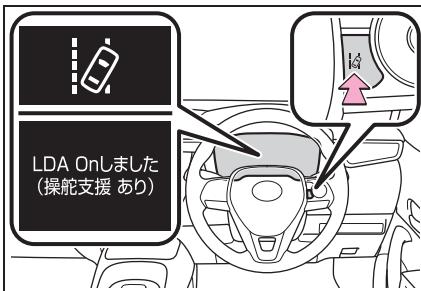
設定のしかた

LDA を ON にするには LDA スイッチを押す

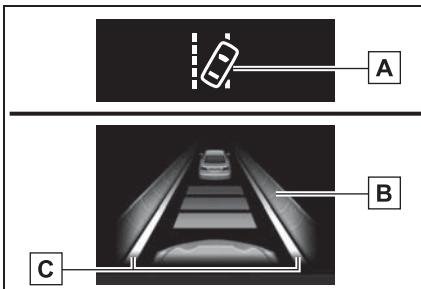
LDA 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

OFF にするには、再度スイッチを押します。

いったん LDA を ON / OFF すると、次回エンジンを始動したときにも、そのままの状態が続きます。



マルチインフォメーションディスプレイ表示



A LDA 表示灯

表示灯の点灯状態で、システムの作動状況をお知らせします。

白色に点灯：車線逸脱監視中

緑色に点灯：車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援が作動中

橙色に点滅：車線逸脱警報中

B ハンドル操舵支援の作動表示

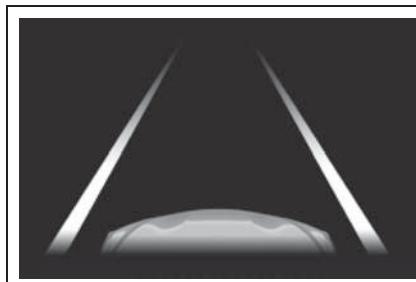
マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報に切りかえると表示されます。

車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援が作動中であることを示しています。

C 車線逸脱警報機能表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報に切りかえると表示されます。

▶ 白線表示の内側が白いとき



システムが白（黄）線または走路

※ を認識していることを示しています。車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が橙色で点滅します。

▶ 白線表示の内側が黒いとき



システムが白（黄）線または走路

※ を認識できていない、またはシステムが一時的に解除されていることを示しています。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

□ 知識

■ 各機能の作動条件

● 車線逸脱警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ LDA を ON しているとき
- ・ 車速が約 50km/h 以上のとき
- ・ システムが白（黄）線または走路[※]を認識しているとき（白〔黄〕線または走路[※]が片側しかないとき、認識している方向のみ作動します）
- ・ 車線の幅が約 3m 以上のとき
- ・ 方向指示レバーを操作していないとき（BSM 装着車：方向指示灯方向に車両がいる場合は除く）
- ・ 急カーブを走行していないとき
- ・ システムの異常が検知されていないとき（→P.167）

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

● 車線逸脱抑制機能

車線逸脱警報機能の作動条件に加えて、次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ マルチインフォメーションディスプレイの  で “操舵支援” を “有” に設定しているとき（→P.344）
- ・ 一定以上の加減速がないとき
- ・ 車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
- ・ ABS・VSC・TRC・PCS が作動していないとき
- ・ TRC または VSC を OFF にしていないとき
- ・ 手放し運転に対する注意喚起（→P.166）が行われていないとき

● ふらつき警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ マルチインフォメーションディスプレイの  で “ふらつき検知” を “有” に設定しているとき（→P.344）
- ・ 車速が約 50km/h 以上のとき
- ・ 車線の幅が約 3m 以上のとき
- ・ システムの異常が検知されていないとき（→P.167）

■ 機能の一時解除

- 作動条件（→P.166）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

■ 車線逸脱抑制機能について

- 車速や車線の逸脱状況・路面状況などにより、車線逸脱抑制機能の作動を感じなかつたり、車線逸脱抑制機能が作動しなかつたりすることがあります。
- この機能によるステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。
- 車線逸脱抑制機能の作動テストを行わないでください。

■ 車線逸脱警報機能について

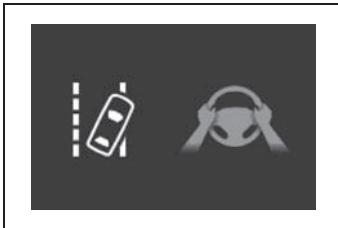
- 外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。
- 走路[※]がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は走路逸脱に対する警報・制御が作動しない場合があります。
- BSM 装着車：となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性を判断できない場合があります。
- 車線逸脱警報機能の作動テストを行わないでください。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

■ 手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル保持をうながす

メッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。



- システムの作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき
さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。
- カーブを走行中に曲がりきれず車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断したとき

車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。また、システムがカーブを走行中と判断した場合は、直線走行時に比べて早いタイミングで注意喚起が行われます。

- 車線逸脱抑制機能による車線逸脱を避けるためのハンドル操舵支援中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに、操作しない状態が続きハンドル操舵支援が行われると、ブザーが鳴り注意喚起が行われます。ハンドル操舵支援の回数が増えるごとに、ブザーの継続時間が長くなります。

■ ふらつき警報機能について

システムの作動中に、車両がふらついて走行しているとシステムが判断したとき、

ブザーと同時にマルチインフォメーションディスプレイに休憩をうながすメッセージと図で示すシンボルで注意喚起を行います。



車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。

■ 警告メッセージ

次のメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示され、LDA 表示灯が橙色で点灯した場合は、対処方法に従って適切に対処してください。また、その他の警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

- “LDA 故障 販売店で点検してください”

システムが正常に作動しなくなっているおそれがあります。

トヨタ販売店で点検を受けてください。

- “LDA 現在利用できません”

前方カメラ以外のセンサーの異常によりシステムが一時停止しています。いったん LDA を OFF にして、しばらくしてから再度、LDA を ON してください。

- “LDA 現在の車速では使用できません”

車速が LDA の作動可能範囲をこえたため、使用できません。車速を落として走行してください。

- “LDA 約 50km/h 以下で使用できません”

車速が約 50km/h 以下のため、使用できません。約 50km/h より速い速度で走行

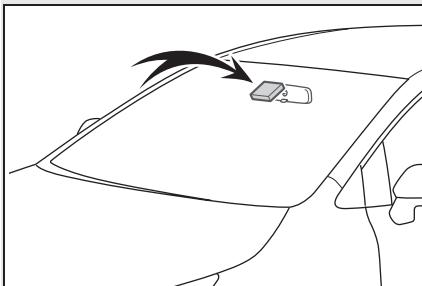
してください。

■カスタマイズ機能

機能の設定を変更することができます。
(カスタマイズ一覧: →P.344)

RSA (ロードサインアシスト)

前方カメラまたはナビゲーションシステム★（情報を取得した場合）を使って特定の道路標識を認識し、ディスプレイ表示によって道路標識の情報を運転者にお知らせします。



認識した道路標識の制限速度に對し、運転者が制限速度を超過して走行、または禁止行為を行っている等とシステムが判断した場合に、告知表示およびブザー音で運転者に告知します。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

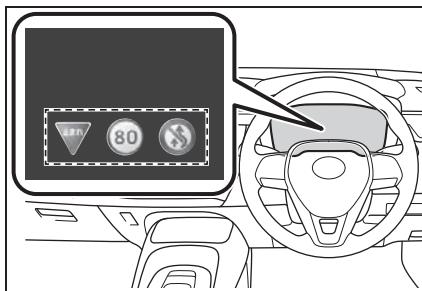
■ RSA をお使いになる前に

RSA は、道路標識の情報を知らせることで運転者を支援しますが、運転者自身の確認や認識を代行するものではありません。安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

マルチインフォメーションディスプレイ表示

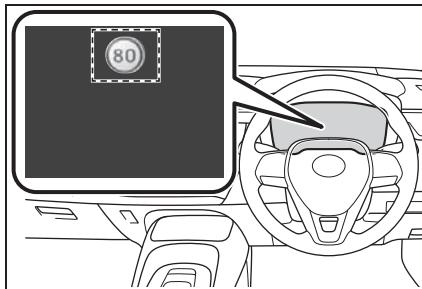
前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）によって標識を認識すると、マルチインフォメーションディスプレイに表示します。

- 運転支援機能情報を選択したときは、最大3つの標識を表示できます。（→P.62）



- 運転支援機能情報以外を選択したときは、次のいずれかの標識が表示されます。（→P.62）

- ・ 最高速度標識
- ・ 車両進入禁止標識（告知時のみ）



速度制限標識以外を認識した場合、速度標識の重複表示にてお知らせします。

認識される道路標識の種類

電光標識も含めて、次の種類の道

路標識を認識します。

ただし、規定外の標識、新しく導入された標識は認識されない場合があります。



最高速度



車両進入禁止



一時停止



はみ出し通行禁止



終わり *

* マルチインフォメーションディスプレイに、表示されません。

告知機能

次の状況では、システムが告知表示で運転者に告知します。

- 自車の車速がマルチインフォメーションディスプレイに表示されている制限速度より、一定の速度を超過すると、最高速度標識の強調やブザーの吹鳴をします。
- システムが進入禁止の標識を認識し、自車が進入禁止区域に進入したと判定したときには、マルチインフォメーションディスプレイに表示される車両進入禁

止標識の点滅やブザーの吹鳴をします。

- はみ出し通行禁止標識がマルチインフォメーションディスプレイに表示されているときに、自車の追い越しを検出すると、はみ出し通行禁止標識の点滅やブザーの吹鳴をします。

状況によっては、告知表示が正常に作動しない場合があります。

□ 知識

■ 設定のしかた

- メーター操作スイッチの < または > を押して  を選択する
- メーター操作スイッチの ▲ または ▼ を押して  を選択し、OK を押す

■ RSA 標識表示

次の状況では、最高速度・はみ出し通行禁止・車両進入禁止の標識表示が消えます。

- 一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき
- 終わり標識の下に対象標識を認識したとき

次の状況では、一時停止の標識表示が消えます。

- 標識を通過したとシステムが判定したとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき

■ 機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正常に標識を認識できず、正しい標識の表示がされない場合があります。

- 前方カメラやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- 汚れ・雪・ステッカー等がフロントウインドウの前方カメラの近くにあるとき
- 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
- 強い光（太陽光や対向車のヘッドライト光など）が前方カメラに直接あたっているとき
- 標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき
- 電光標識のコントラストが低いとき
- 標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき
- 前方カメラが標識を認識する時間が短いとき
- 運転の状況（曲がる、車線変更等）が誤って判断されたとき
- 標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき
- 先行車の後部分にステッカーが貼ってあるとき
- システムが対応している標識と類似した標識が認識されたとき
- 側道の速度標識が前方カメラの認識範囲内に入ったとき
- ロータリー（環状交差路）を走行しているとき
- 重い荷物を積むなど車両が傾いているとき
- 十分な光がなかったり、明るさが急激に変化したりしたとき

- トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき
- ナビゲーションシステムの地図情報が古いとき
- ナビゲーションシステムを利用できないとき
- マルチインフォメーションディスプレイとナビゲーションシステムに表示される最高速度標識が異なる場合があります。

■ 速度制限標識表示

マルチインフォメーションディスプレイに最高速度標識が表示されているときに、エンジンスイッチを OFF にすると、次回エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたときには再度同じ標識が表示されます。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「RSA 故障 販売店で点検してください」が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ カスタマイズ機能

一部の機能は、設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.344）

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）★

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行い、自動的に加速・減速・停止をします。定速制御モードでは、一定の車速で走行できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

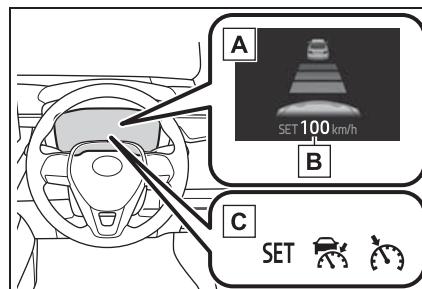
- 車間制御モード（→P.174）
- 定速制御モード（→P.177）

4

運転

システムの構成部品

■ メーター表示

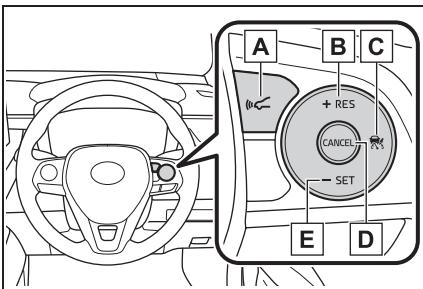


A マルチインフォメーションディスプレイ

B 設定速度

C 表示灯

■ 操作スイッチ



- A** 車間距離切りかえスイッチ
- B** “+RES” スイッチ
- C** クルーズコントロールメインスイッチ
- D** キャンセルスイッチ
- E** “-SET” スイッチ

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。
 - ・ センサーが正しく検知しないおそれのある先行車：→P.178
 - ・ 車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況：→P.179

● 設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

● システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使わないときはクルーズコントロールメインスイッチでシステムを OFF してください。

■ システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。

運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

⚠️ 警告

● 運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

● 運転者が操作する過程での支援内容

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用してはいけない状況

次の状況では、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 歩行者や自転車等が混在している道

● 交通量の多い道

● 急カーブのある道

● 曲がりくねった道

● 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面

● 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂

急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。

● 高速道路や自動車専用道路の出入り口

- センサーが正しく検知できないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）

- レーダー前面または、前方カメラ前面に雨滴や雪などが付着しているとき

- ひんぱんに加速・減速をくり返すような交通状況のとき

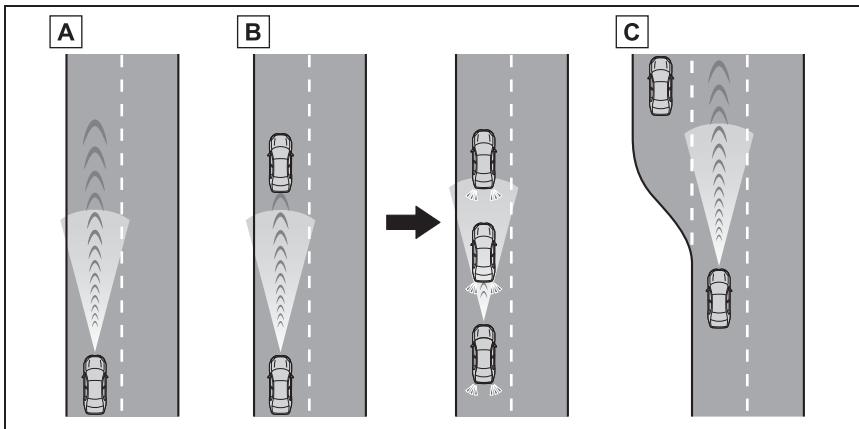
- 車両けん引時

- 接近警報がひんぱんに鳴るとき

車間制御モードでの走行

車間制御モードでは、レーダーにより車両前方約100m以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

下り坂を走行しているときは、車間距離が短くなることがあります。



A 定速走行：

先行車がいないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。

B 減速走行—追従走行：

設定した速度より、遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

先行車が停止したときは、続いて停止します（制御停車）。先行車の発進後、“+RES”スイッチを押すか、アクセルペダルを踏むと追従走行にもどります（発進操作）。自車が発進操作を行わなかった場合は、制御停車を続けます。

約80km/h以上で走行中に追い越し車線側へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して設定速度まで加速することで、追い越しを支援します。

C 加速走行：

設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき

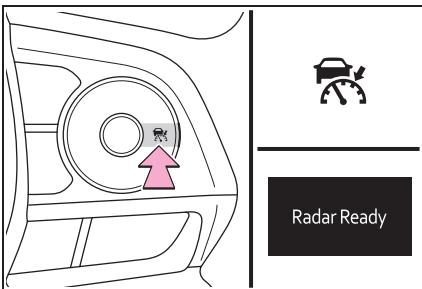
設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

速度を設定する（車間制御モード）

1 クルーズコントロールメインスイッチを押して、システムをONにする

レーダークルーズコントロール表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。OFFにするには再度スイッチを押します。

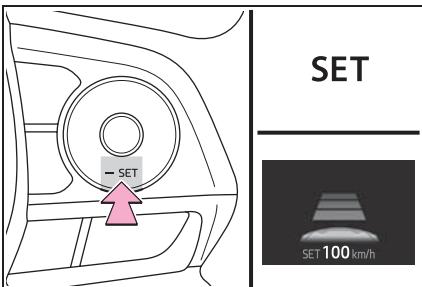
クルーズコントロールメインスイッチを1.5秒以上押し続けると定速制御モードでシステムがONします。（→P.177）



2 希望の車速（約30km/h以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、“-SET”スイッチを押して速度を設定する

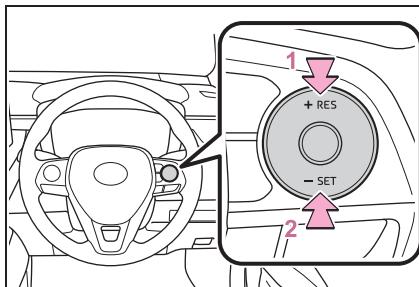
クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

スイッチを離したときの車速で定速走行できます。



設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで“+RES”スイッチまたは“-SET”スイッチを押します。



1 速度を上げる（車間制御モードの制御停車中は除く）

2 速度を下げる

微調整：スイッチを押す

大幅調整：スイッチを押し続けて速度をかえ、希望の速度で手を離す

車間制御モードでは、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：スイッチを押すごとに1km/h

大幅調整：スイッチを押し続けているあいだ、5km/hずつ

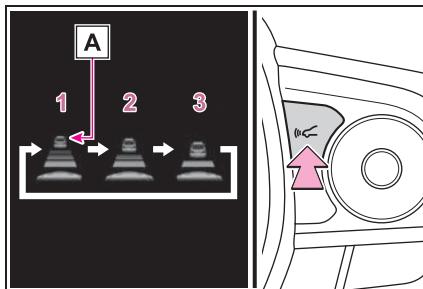
定速制御モード（→P.177）では、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：スイッチを押すごとに1km/h

大幅調整：スイッチを押し続けているあいだ連続して変化

車間距離を変更する（車間制御モード）

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。



- 1 長い
- 2 中間
- 3 短い

エンジンスイッチをイグニッションONモードにするたびに車間距離は 1 にもどります。

先行車がいる場合、先行車マーク A が表示されます。

車間距離選択の目安（車間制御モード）

次の目安を参考に車間距離を選択してください。

（車速 80km/h で走行している場合）

なお、車速に応じて車間距離は増減します。また、制御停車時は設定にかかわらず状況に応じた車間距離で停車します。

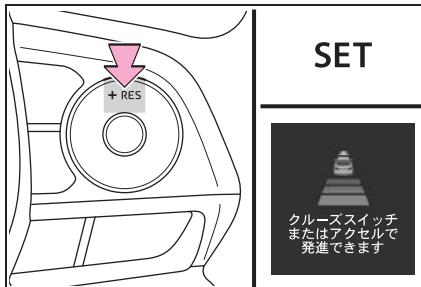
車間距離選択	車間距離
長い	約 50m
中間	約 40m
短い	約 30m

制御停車から追従走行に復帰させる（車間制御モード）

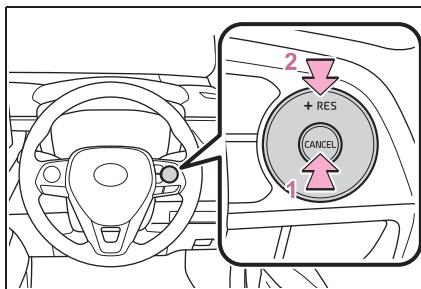
先行車の発進後、“+RES”スイッチを押す

イッチを押す

先行車の発進後にアクセルペダルを踏んでも追従走行に復帰します。



制御を解除する・復帰させる



- 1 制御を解除するには、キャンセルスイッチを押す

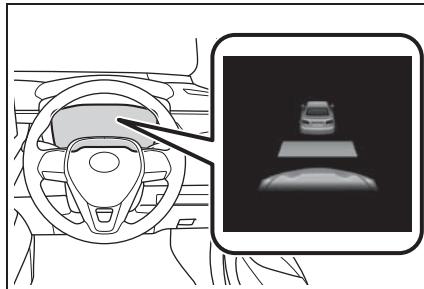
ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。（車間制御モードの制御停車中は、ブレーキペダルを踏んでも解除されません）

- 2 制御を復帰させるには、“+RES”スイッチを押す

接近警報（車間制御モード）

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を

確保してください。



■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルを踏んだとき

定速制御モードでの走行

定速制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行わず、一定の車速で走行します。

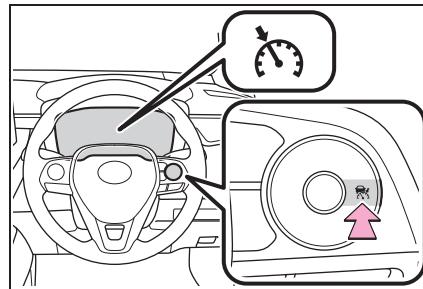
レーダーの汚れなどにより、車間制御モードで走行できない場合のみご使用ください。

- 1 クルーズコントロールが OFF の状態で、クルーズコントロールメインスイッチを 1.5 秒以上押し続ける

クルーズコントロールメインスイッチを押した直後は、レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。その後、クルーズコントロール表示灯に切りかわります。

システムが OFF の状態から操作したと

きのみ、定速制御モードへの切りかえが可能です。



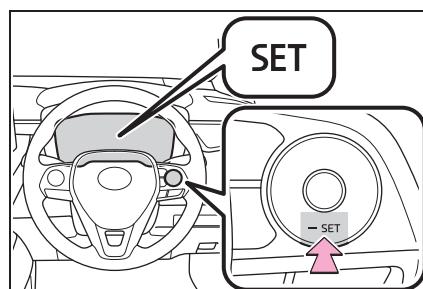
- 2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、“SET”スイッチを押して速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

スイッチを離したときの車速で定速走行できます。

設定速度をかえる（→P.175）

制御を解除する・復帰させる（→P.176）



□ 知識

■ 設定条件について

- シフトレバーが D のとき設定できます。
- 車速が約 30km/h 以上のとき、希望の設定速度に設定できます。

（ただし車速が約 30km/h 未満で設定したときは、設定速度が約 30km/h に設定

されます)

■車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■追従走行中の停車制御について

- 制御停車中に“+RES”スイッチを押した場合、約3秒以内に先行車が発進すれば追従走行にもどります。
- 先行車に続いて停車したあと約3秒以内に先行車が発進した場合、追従走行にもどります。

■車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

- VSC が作動したとき
- TRC が一定時間作動したとき
- TRC または VSC を OFF にしたとき
- センサーが何かでふさがれて正しく検知できないとき
- プリクラッシュブレーキが作動したとき
- パーキングブレーキが作動したとき
- 急坂路で制御停車したとき
- 制御停車中に次を検出したとき
 - ・運転席シートベルトを着用していない
 - ・運転席ドアが開いた
 - ・車両が停止したあと約3分経過した

上記以外の理由で車間制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■定速制御モードの自動解除

次のとき、自動的に定速制御モードが解除されます。

- 設定速度より車速が約16km/h以上低下したとき
- 車速が約30km/h未満になったとき
- VSC が作動したとき
- TRC が一定時間作動したとき
- TRC または VSC を OFF にしたとき
- プリクラッシュブレーキが作動したとき

上記以外の理由で定速制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■ブレーキが作動したとき

ブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えがかわったりすることがありますが異常ではありません。

■レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。(→P.144, 305)

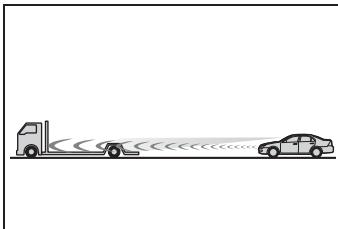
■センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。

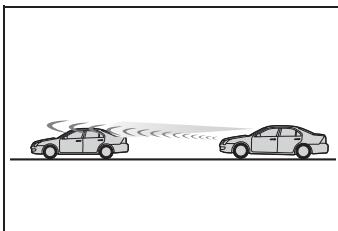
センサーが正しく車両を検知できず、接近警報(→P.176)も作動しないおそれがあります。

- 先行車が急に割り込んできたとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 同じ車線に停車中の車がいるとき
- 先行車の後部分が小さすぎるとき(荷

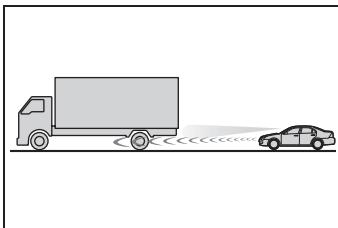
物を積んでいないトレーラーなど)



- 同じ車線を二輪車が走行中のとき
- 周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーの検知のさまたげになる場合
- 自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）



- 先行車の車高が極端に高いとき

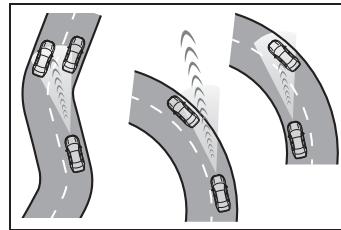


■車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況

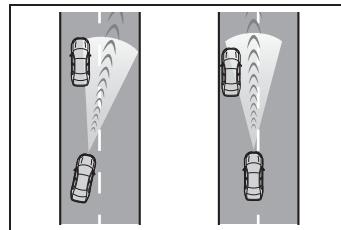
次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってアクセルペダルを操作）してください。

センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- カーブや車線幅が狭い道路などを走行する場合



- ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合



- 先行車が急ブレーキをかけた場合
- 道路脇に構造物がある道（トンネル・橋など）を走行する場合
- アクセルペダルを踏んで加速したあと、車速が設定速度にもどるとき

レーダークルーズコントロール★

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

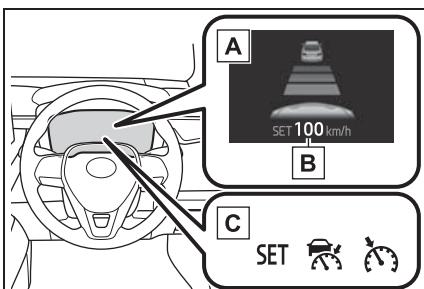
アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行い、自動的に加速・減速をします。定速制御モードでは、一定の車速で走行できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

- 車間制御モード (→P.182)
- 定速制御モード (→P.185)

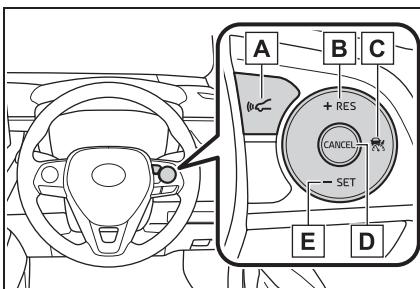
システムの構成部品

■ メーター表示



- A** マルチインフォメーションディスプレイ
- B** 設定速度
- C** 表示灯

■ 操作スイッチ



- A** 車間距離切りかえスイッチ
- B** “+RES” スイッチ
- C** クルーズコントロールメインスイッチ
- D** キャンセルスイッチ
- E** “-SET” スイッチ

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。
 - ・ センサーが正しく検知しないおそれのある先行車 : →P.186
 - ・ 車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況 : →P.187
- 設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

⚠️ 警告

- システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- レーダークルーズコントロールを使わないときはクルーズコントロールメインスイッチでシステムをOFFにしてください。

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。

運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●歩行者や自転車等が混在している道

●交通量の多い道

●急カーブのある道

●曲がりくねった道

●雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面

●急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂

急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。

●高速道路や自動車専用道路の出入り口

●センサーが正しく検知できないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）

●レーダー前面または、前方カメラ前面に雨滴や雪などが付着しているとき

●ひんぱんに加速・減速をくり返すような交通状況のとき

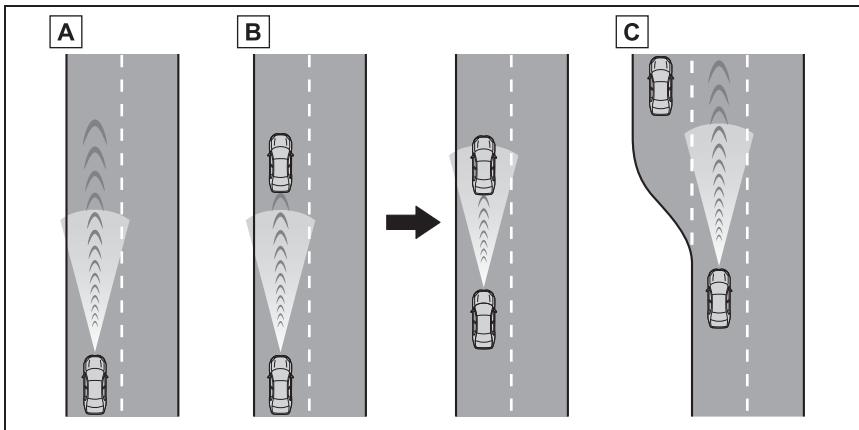
●車両けん引時

●接近警報がひんぱんに鳴るとき

車間制御モードでの走行

車間制御モードでは、レーダーにより車両前方約100m以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

下り坂を走行しているときは、車間距離が短くなることがあります。



A 定速走行：

先行車がいないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。

B 減速走行—追従走行：

設定した速度より、遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

約80km/h以上で走行中に追い越し車線側へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して設定速度まで加速することで、追い越しを支援します。

C 加速走行：

設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき

設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

速度を設定する（車間制御モード）

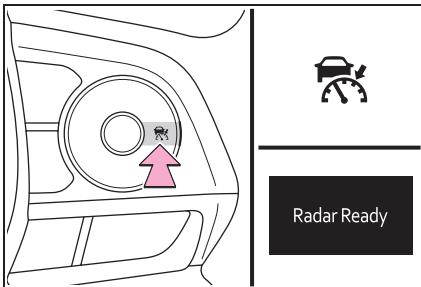
- 1 クルーズコントロールメインスイッチを押して、システムを

ONにする

レーダークルーズコントロール表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

OFF にするには再度スイッチを押します。

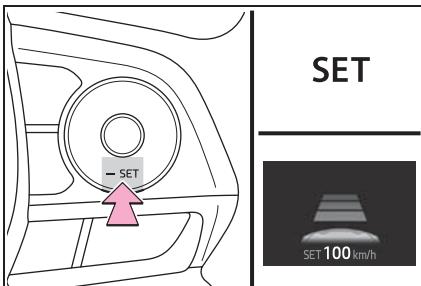
クルーズコントロールメインスイッチを 1.5 秒以上押し続けると定速制御モードでシステムが ON します。 (→P.185)



2 希望の車速 (約 30km/h 以上) までアクセルペダル操作で加速／減速し、“-SET”スイッチを押して速度を設定する

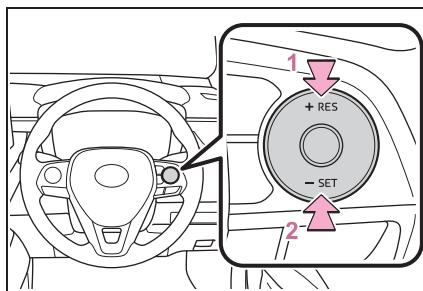
クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

スイッチを離したときの車速で定速走行できます。



設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで “+RES” スイッチまたは “-SET” スイッチを押します。



1 速度を上げる

2 速度を下げる

微調整：スイッチを押す

大幅調整：スイッチを押し続けて速度をかえ、希望の速度で手を離す

車間制御モードでは、設定速度は、次のとおりに増減されます

微調整：スイッチを押すごとに 1km/h

大幅調整：スイッチを押し続けているあいだ、5km/h ずつ

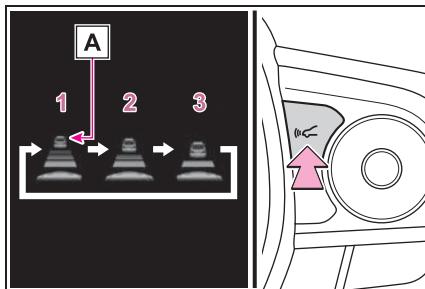
定速制御モード (→P.185) では、設定速度は、次のとおりに増減されます

微調整：スイッチを押すごとに 1km/h

大幅調整：スイッチを押し続けているあいだ連続して変化

車間距離を変更する (車間制御モード)

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。



1 長い

2 中間

3 短い

エンジンスイッチをイグニッションONモードにするたびに車間距離は1にもどります。

先行車がいる場合、先行車マークAも表示されます。

車間距離選択の目安（車間制御モード）

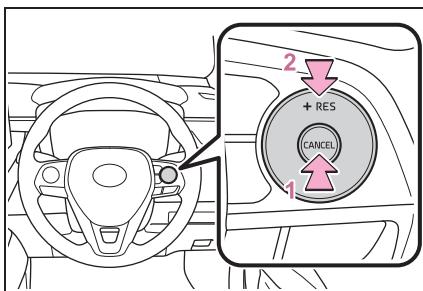
次の目安を参考に車間距離を選択してください。

（車速80km/hで走行している場合）

なお、車速に応じて車間距離は増減します。

車間距離選択	車間距離
長い	約50m
中間	約40m
短い	約30m

制御を解除する・復帰させる



1 制御を解除するには、キャンセルスイッチを押す

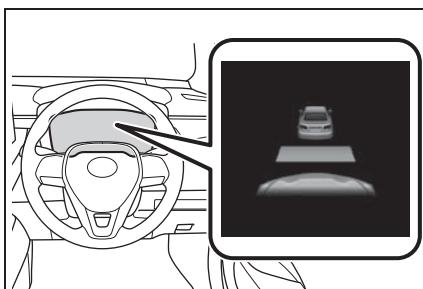
ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。

2 制御を復帰させるに

は、“+RES”スイッチを押すただし、車速が約25km/h未満のときは復帰しません。

接近警報（車間制御モード）

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。



■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような

場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルを踏んだとき

定速制御モードでの走行

定速制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行わず、一定の車速で走行します。

レーダーの汚れなどにより、車間制御モードで走行できない場合のみご使用ください。

- 1 クルーズコントロールが OFF の状態で、クルーズコントロールメインスイッチを 1.5 秒以上押し続ける

クルーズコントロールメインスイッチを押した直後は、レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。その後、クルーズコントロール表示灯に切りかわります。

システムが OFF の状態から操作したときのみ、定速制御モードへの切りかえが可能です。

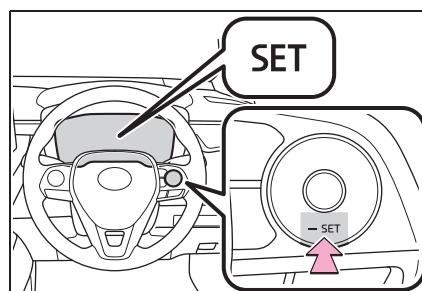
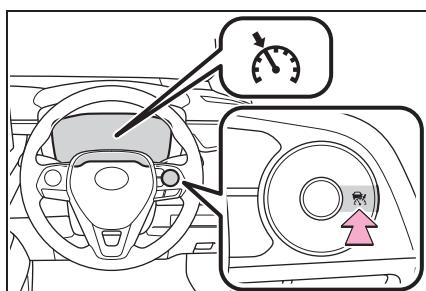
- 2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、“-SET”スイッチを押して速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

スイッチを離したときの車速で定速走行できます。

設定速度をかえる（→P.183）

制御を解除する・復帰させる（→P.184）



□ 知識

■ 設定条件について

- シフトレバーが 2 速以上のとき設定できます。
- 制御モードによって、設定できる車速は次のとおりです。
 - ・車間制御モード：約 30km/h 以上のとき
 - ・定速制御モード：約 30km/h 以上のとき

■ 車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■ シフトポジションの選択について

車速に応じたシフトポジションを選択し

てください。エンジン回転数が高くなりすぎたり低くなりすぎたりすると、自動的に制御が解除されることがあります。

■車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

- 車速が約 25km/h 未満になったとき
- VSC が作動したとき
- TRC が一定時間作動したとき
- TRC または VSC を OFF にしたとき
- センサーが何かでふさがれて正しく検知できないとき
- プリクラッシュブレーキが作動したとき
- シフトレバーをNに入れた状態またはクラッチペダルを踏んだ状態で一定時間経過したとき

上記以外の理由で車間制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■定速制御モードの自動解除

次のとき、自動的に定速制御モードが解除されます。

- 設定速度より車速が約 16km/h 以上低下したとき
- 車速が約 30km/h 未満になったとき
- VSC が作動したとき
- TRC が一定時間作動したとき
- TRC または VSC を OFF にしたとき
- プリクラッシュブレーキが作動したとき
- シフトレバーをNに入れた状態またはクラッチペダルを踏んだ状態で一定時間経過したとき

上記以外の理由で定速制御モードが自動解除されるときは、システムが故障して

いる可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■ブレーキが作動したとき

ブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えがかわったりすることがありますが異常ではありません。

■レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

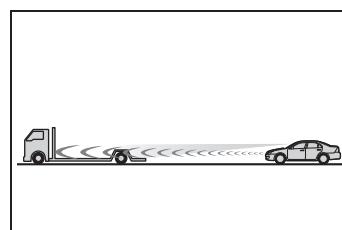
走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。 (→P.144, 305)

■センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。

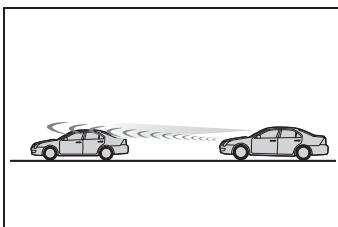
センサーが正しく車両を検知できず、接近警報 (→P.184) も作動しないおそれがあります。

- 先行車が急に割り込んできたとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 同じ車線に停車中の車がいるとき
- 先行車の後部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）

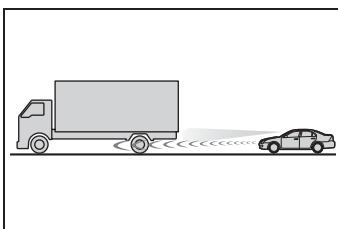


- 同じ車線を二輪車が走行中のとき
- 周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーの検知のさまたげになる場合

- 自車の車両姿勢が上向きになる場合
(重い荷物を積んだときなど)



- 先行車の車高が極端に高いとき

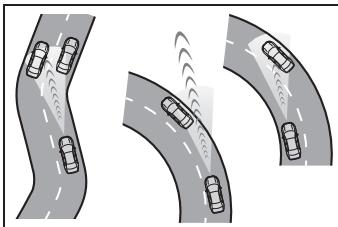


■車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況

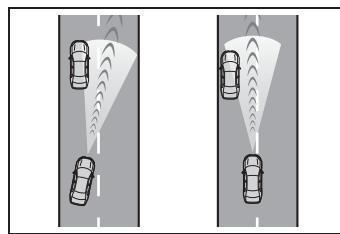
次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってアクセルペダルを操作）してください。

センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- カーブや車線幅が狭い道路などを走行する場合



- ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合



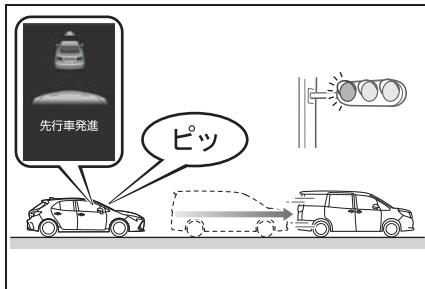
- 先行車が急ブレーキをかけた場合
- 道路脇に構造物がある道（トンネル・橋など）を走行する場合
- アクセルペダルを踏んで加速したあと、車速が設定速度にもどるとき

先行車発進告知機能

先行車の発進後、自車が停止し続けた場合、警告ブザーとマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いている車が停止しているときに先行車を認識し続け、先行車が発進してしばらく進んでも自車が停止し続けた場合にお知らせします。



□ 知識

■ 作動条件

次のいずれかの条件を満たしたときに作動します。

- シフトレバーが P・R 以外でブレーキペダルを踏んで、停止している、またはシフトレバーが N で停止しているとき（オートマチック車）
- シフトレバーが R 以外で、ブレーキペダルを踏んで停止しているとき（マニュアル車）
- ブレーキホールドが作動中のとき
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が作動していて、制

御停車中のとき

■ 先行車が発進していても告知しない場合があるとき

例えば次のような状況では、前方カメラとレーダーが対象を検出できず、システムが正常に作動しない場合があります。

- 自車と先行車の停止位置がずれており、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなり、先行車を正しく認識できないとき
- 坂道やカーブなどにより、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車の背面形状（けん引をしている車両や荷物を積んでいないトレーラー、雪や泥などが大量に付着している車両など）やボデーカラーなどにより、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車がオートバイ・自転車などのとき
- 先行車の右左折や車線変更などにより、先行車を認識できなくなったとき
- 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）・煙・水蒸気などにより、先行車を認識できないとき
- 前方カメラとレーダー前面に雨滴、雪などが付着し、先行車を正しく認識できないとき
- 前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車を正しく認識できないとき
- プリクラッシュセーフティが一時的に使用できないときや、故障などによりPCS警告灯が点滅または点灯しているとき
- 右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき

■先行車が発進していないなくても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場合があります。

- 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）により、先行車の発進を誤認識したとき
- 坂道やカーブなどにより、先行車ではないものを先行車と認識しているとき
- 前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車ではないものを先行車と認識しているとき
- 先行車がいない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき
- 自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき

■先行車発進告知機能の設定を変更するには

- 先行車発進告知機能の ON / OFF システムの ON / OFF を切りかえることができます。

- 1 メーター操作スイッチの < または > を押して  を選択する
- 2 ▲ または ▼ を押して “車両設定” を選択し、OK を長押しする
- 3 ▲ または ▼ を押して “先行車発進告知” を選択し、OK を押す
- 4 ▲ または ▼ を押して “先行車発進告知” を選択し、OK を押す

- 先行車発進告知機能の告知距離
告知する距離を切りかえることができます

す。

- 1 メーター操作スイッチの < または > を押して  を選択する
- 2 ▲ または ▼ を押して “車両設定” を選択し、OK を長押しする
- 3 ▲ または ▼ を押して “先行車発進告知” を選択し、OK を押す
- 4 ▲ または ▼ を押して “告知距離” を選択し、OK を押す

Stop & Start システム★

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

赤信号や交差点などの一時的な停車中、燃費向上やアイドリング騒音低減のため、エンジンスイッチを操作することなく、ブレーキペダルなどの操作によってエンジンを停止・再始動させるシステムです。

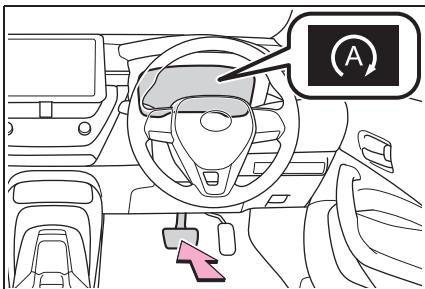
Stop & Start システムの操作

■ D レンジアイドリングストップ (ブレーキホールドシステムが OFF のとき)

▶ エンジンが停止する

シフトレバーを D で走行中、ブレーキペダルを踏み車両を完全に停止させると、エンジンが自動的に停止します。

Stop & Start 表示灯が点灯します。



▶ エンジンが再始動する

ブレーキペダルから足を離すと、エンジンが再始動します。

Stop & Start 表示灯が消灯します。

■ D レンジアイドリングストップ (ブレーキホールドシステムが ON のとき)

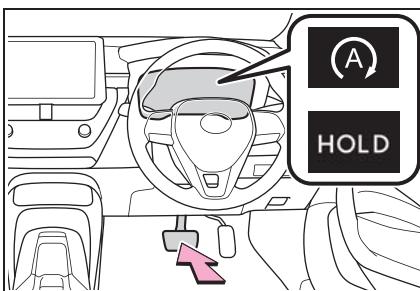
ブレーキホールドシステム作動時(→P.128)も、Stop & Start システムは作動します。

▶ エンジンが停止する

シフトポジションを D で走行中、ブレーキペダルを踏み車両を完全に停止させると、エンジンが自動的に停止します。

Stop & Start 表示灯が点灯します。

ブレーキホールドシステム作動中は、ブレーキホールド作動表示灯が点灯します。このときブレーキペダルから足を離しても、Stop & Start システムによるエンジン停止状態を継続します。



▶ エンジンが再始動する

アクセルペダルを踏むと、エンジンが再始動します。(ブレーキペダルから足を離してもエンジンは再始動しません)

Stop & Start 表示灯とブレーキホールド作動表示灯が消灯します。

■ D レンジアイドリングストップ (レーダークルーズコントロール [全車速追従機能付]★が作動しているとき)

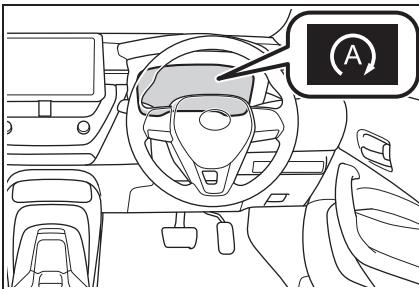
レーダークルーズコントロール

(全車速追従機能付)による制御停車時(→P.171)も、Stop & Startシステムは作動します。

▶ エンジンが停止する

レーダークルーズコントロール(全車速追従機能付)の車間制御モードで走行中、制御停車で車両が完全に停止すると、エンジンが自動的に停止します。(ブレーキペダルを踏まなくてもエンジンが自動的に停止します)

Stop & Start表示灯が点灯します。



▶ エンジンが再始動する

先行車が発進すると、エンジンが再始動します。

Stop & Start表示灯が消灯します。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

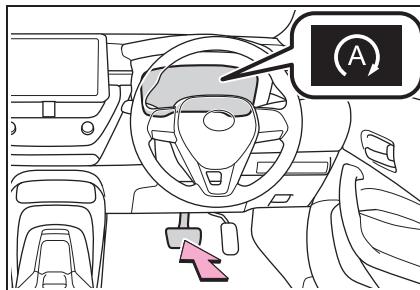
■ P レンジアイドリングストップ

▶ エンジンが停止する

1 シフトレバーをDで走行中、ブレーキペダルを踏み車両を完全に停止させると、エンジンが自動的に停止します。

Dレンジアイドリングストップによりエンジンが停止し、Stop & Start表示灯

が点灯します。



2 シフトレバーをPにする
(→P.117)

エンジンの停止状態が継続します。

Dレンジでアイドリングストップした直後にシフトレバーをPにすると、エンジンが再始動することがあります。また、Dレンジアイドリングストップしていないなくても、シフトレバーをPにするとアイドリングストップすることがあります。

▶ エンジンが再始動する

ブレーキペダルをしっかりと踏み、シフトレバーをP以外にする
(→P.117)

Pレンジアイドリングストップ後、ブレーキペダルから足を離していたときは、再びブレーキペダルを踏んだときにエンジンが再始動します。Pレンジアイドリングストップ後、ブレーキペダルを踏んだままのときは、シフトレバーをP以外にしたときにエンジンが再始動します。

Stop & Start表示灯が消灯します。

□ 知識

■ 効動条件

- 次の条件がすべて満たされたとき、Stop & Startシステムが作動可能状態になります。
 - ・ブレーキペダルをしっかりと踏んでいるとき(レーダークルーズコントロー

ル [全車速追従機能付] ★の車間制御モードの制御停車中を除く)

- ・エンジンが十分暖まっているとき
- ・外気温が -5° C 以上のとき
- ・シフトレバーが D または P のとき
- ・フロントデフロスタースイッチが OFF のとき
- ・ボンネットが閉まっているとき
- ・運転席シートベルトを着用しているとき
- ・運転席ドアが閉まっているとき
- ・アクセルペダルを踏んでいないとき
- ・走行モードがノーマルまたはエコドライブモードのとき

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

●次の状況では、Stop & Start システムによるエンジン停止が行われない場合がありますが、異常ではありません。

- ・エアコンを使用しているとき
- ・定期的な充電中のとき
- ・バッテリーが十分に充電されていないとき（例：長期間の駐車後などバッテリーの充電量が低下、電気負荷が大きい、バッテリー液温が低い、バッテリーが劣化）
- ・ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき
- ・勾配が急な坂道で停車したとき
- ・ハンドル操作をしているとき
- ・渋滞などで断続的に停車し、エンジン停止時間が長くなったとき
- ・標高が高いとき
- ・エンジン冷却水温やトランスマッショングル油温が低いとき、または高すぎるとき
- ・バッテリー液温が低いとき、または高すぎるとき
- ・バッテリーを交換したあとしばらくの期間、またはバッテリー端子をはずしたあとしばらくの期間
- ・エンジン再始動後の経過時間が短いとき

● Stop & Start システムによるエンジン停止中、次のときはエンジンが自動的に再始動します。（Stop & Start システムによるエンジン停止を再度行うには、一度走行してください）

- ・エアコンを ON にしたとき
- ・フロントデフロスタースイッチを ON にしたとき
- ・ハンドルを操作したとき
- ・D レンジアイドリングストップ中に、シフトレバーを M・N・R のいずれかにしたとき
- ・P レンジアイドリングストップ中に、シフトレバーを P 以外にしたとき
- ・運転席シートベルトをはずしたとき
- ・運転席ドアを開けたとき
- ・アクセルペダルを踏んだとき
- ・Stop & Start キャンセルスイッチを押したとき
- ・坂道などで車両が動き出したとき
- ・レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）★による制御停車中に先行車が発進したとき
- ・先行車発進告知機能が作動したとき
- ・走行モードをノーマルまたはエコドライブモード以外にしたとき

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● Stop & Start システムによるエンジン停止中、次のときはエンジンが自動的に再始動する場合があります。（Stop & Start システムによるエンジン停止を再度行うには、一度走行してください）

- ・ブレーキペダルをさらに強く踏み込む、またはポンピングブレーキをしたとき
- ・エアコンを使用しているとき
- ・バッテリーの充電量が低下しているとき
- ・エアコンに関わる操作をしたとき（フロントデフロスタースイッチなど）

■ ブレーキホールドシステム作動時の Stop & Start システムの作動について

- Stop & Start システムによりエンジンが自動的に再始動してもブレーキホールドシステムによるブレーキ保持は継続します。
- Stop & Start システムによるエンジン停止中に、ブレーキホールドシステムの作動条件 (→P.128) が満たされなくなるとブレーキホールドシステムは OFF になります。

このとき自動的にパーキングブレーキがかかりエンジンが自動的に再始動します。

■ レーダークルーズコントロール（全車 速追従機能付）★による制御停車時の Stop & Start システムの作動について

Stop & Start システムによりエンジンが自動的に再始動しても制御停車は継続します。（制御停車から追従走行に復帰させる：→P.176）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ボンネットを開けたとき

- Stop & Start システムによるエンジン停止中にボンネットを開けたときは、Stop & Start システムによるエンジン停止状態からエンスト状態に移行され、エンジンが自動で再始動しません。その場合は通常のエンジン始動操作 (→P.113) でエンジンを始動してください。

- ボンネットが開いている状態でエンジンを始動したときは、ボンネットを閉めても Stop & Start システムは作動しません。ボンネットを閉め一度エンジンスイッチを OFF にし、30 秒以上待ってからエンジンを始動してください。

■ Stop & Start システムについて

- 長時間停車する場合には、エンジンスイッチを OFF にし、エンジンを停止してください。
- Stop & Start システムが作動しないときやキャンセルされたとき、または Stop & Start システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意を促します。 (→P.305)
- Stop & Start システムによるエンジン停止中にエンジンスイッチを押すと、Stop & Start システムによるエンジン停止状態からエンスト状態に移行され、エンジンが自動で再始動しません。その場合は通常のエンジン始動操作 (→P.113) でエンジンを始動してください。
- Stop & Start システムによりエンジンが再始動するとき、一時的にアクセサリーソケットやアクセサリーコンセントなどが使用できないことがありますが異常ではありません。
- 電気品・無線機の取り付け・取りはずしは Stop & Start システムに悪影響をおよぼす可能性があります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- Stop & Start システムによりエンジンが再始動するとき、一時的にハンドル操作が重く感じることがあります。
- Stop & Start システムによるエンジン停止中、フロントウインドウガラスが曇ったとき

フロントデフロスター スイッチを ON にしてください。（エンジンが自動的に再始動します）: →P.242

断続的にフロントウインドウガラスが曇るときは、Stop & Start キャンセルスイッチを押し、Stop & Start システムを非作動にしてください。

■ Stop & Start システムによるエンジン停止中のエアコンについて

- オート設定で空調システムを使用しているときに、Stop & Start システムによりエンジンが停止した場合は、冷房時の温度上昇や暖房時の温度低下を抑えるため、ファンの風量を弱めたり、停止したりすることがあります。
- 空調の効きをより良くしたいときは、Stop & Start キャンセルスイッチを押し、Stop & Start システムを非作動にしてください。

■ Stop & Start システムによるエンジン停止中に、エアコン吹き出し口から臭いが発生したときは

Stop & Start キャンセルスイッチを押して Stop & Start システムを非作動にしてください。

■ エアコンがONのときのアイドリングストップ時間の長さの切りかえについて

マルチインフォメーションディスプレイの (→P.62) から、エアコンが ON のときの Stop & Start システムによるエンジン停止時間の長さを切りかえることができます。(エアコンが OFF のときの Stop & Start システムによるエンジン停止時間の長さは切りかえできません)

■ ブザーが鳴ったとき

Stop & Start システムによるエンジン停止中、シフトレバーが D のまま運転席ドアが開いたときは、警告ブザーが鳴ると同時に Stop & Start 表示灯が点滅します。ブザーを止めるには、運転席ドアを閉めてください。

■ Stop & Start システム保護機能

- バッテリーの急な消費を抑えるために、オーディオを大音量で使用していると、突然音が停止することがあります。オーディオ停止を防ぐには、音量を下げて使用してください。

止まってしまったオーディオを再開するには、いったんエンジンスイッチを OFF にし、3 秒以上たってから、再度 ACC または ON にしてください。

- バッテリーの端子を外して再接続したときに、オーディオ（メカーオプションのナビゲーションシステムを除く）が作動しないことがあります。この場合、いったんエンジンスイッチを OFF にし、次の操作を 2 回繰り返すことでオーディオが作動します。

- ・ エンジンスイッチを ON にし、再度エンジンスイッチを OFF にする

■ バッテリーを交換するとき

→P.330

■ Stop & Start システム情報割り込み表示について

→P.68

■ マルチインフォメーションディスプレイのメッセージについて

次のとき、マルチインフォメーションディスプレイに とメッセージが表示されることがあります。

- Stop & Start システムによるエンジン停止が行われないとき

 “ブレーキをもう少し踏んでください”

- ・ ブレーキペダルを踏む力が足りない
→ 停車後にブレーキペダルを踏み足すと作動します。

 “エアコン優先”

- ・ 外気温が高い、または低いときにエアコンを使用している

→ エアコンの設定温度と室内温度の差が小さくなると作動可能状態になります。

- ・ フロントデフロスタースイッチを ON にしている

“バッテリー充電中”

- ・バッテリーの充電量が低下している可能性がある
- バッテリーの充電を優先するため、一時的にアイドリングストップを禁止していますが、エンジンをしばらく作動させると作動可能状態になります。
- ・リフレッシュ充電中の可能性がある
(参考シーン: 定期的な充電中、バッテリー交換したあとしばらくの期間、またはバッテリー端子をはずしたあとしばらくの期間など)
- 5分～60分間のリフレッシュ充電が完了すると作動可能状態になります。
- ・長期間(60分以上)にわたって継続的に表示される場合
- バッテリ劣化の可能性がありますのでトヨタ販売店に相談してください。

“作動準備中”

- ・標高が高い
- ・ブレーキ倍力装置の負圧が低下した
- ブレーキ倍力装置の負圧が所定値まで生成されると作動可能状態になります。

“アイドリングストップできません”

- ・一時的にアイドリングストップを禁止している
- エンジンをしばらく作動させると作動可能状態になります。
- ・ボンネットが開いている状態でエンジンを始動した可能性がある
- ボンネットを閉め一度エンジンスイッチをOFFにして、30秒以上待ってからエンジンを始動すると作動可能状態になります。

“専用バッテリー非装着”

- ・Stop & Startシステム専用品以外のバッテリーを装着した可能性がある

→Stop & Startシステムが作動しません。トヨタ販売店で点検を受けてください。

- Stop & Startシステムによるエンジン停止中にエンジンが自動的に再始動したとき

“エアコン優先”

- ・エアコンをONにした、またはエアコンを使用している
- ・フロントデフロスタースイッチをONにした

“作動準備中”

- ・ブレーキペダルをさらに踏み込んだ、またはポンピングブレーキをした
- 走行することによりブレーキ倍力装置の負圧が所定値まで生成されると作動可能状態になります。

“バッテリー充電中”

- ・バッテリーの充電量が低下している可能性がある
- バッテリーの充電を優先させるため、エンジンが再始動しました。エンジンをしばらく作動させると作動可能状態になります。

■ Stop & Startシステムの警告メッセージ

システムに異常が発生したときは、警告メッセージで注意をうながします。
(→P.305)

■ Stop & Start キャンセル表示灯が点滅したままのとき

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

■ Stop & Startシステムが作動しているとき

- Stop & Start システムによるエンジン停止中 (Stop & Start 表示灯が点灯中) は、ブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。(ブレーキホールド作動中とレーダークルーズコン

トロール [全車速追従機能付] ★の制御停車中は除く)

エンジンが自動的に始動する場合があるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- Stop & Start システムによるエンジン停止中 (Stop & Start 表示灯が点灯中) は、車から離れないでください。

エンジンが自動的に始動する場合があるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 換気が悪い場所では、Stop & Start システムを非作動にしてください。エンジンが自動的に再始動する場合があるため、排気ガスが充満し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

■ Stop & Startシステムを正常に作動させるために

次のようなときは Stop & Start システムが正常に作動しないおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

- 運転席シートベルトを着用しているときに、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点滅するとき

● 運転席シートベルトをはずしているときに、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点灯しないとき

● 運転席ドアを閉めているにもかかわらず、マルチインフォメーションディスプレイにドア開警告表示が表示される、またはインテリアランプがドア開閉運動 ON のときにインテリアランプが点灯するとき

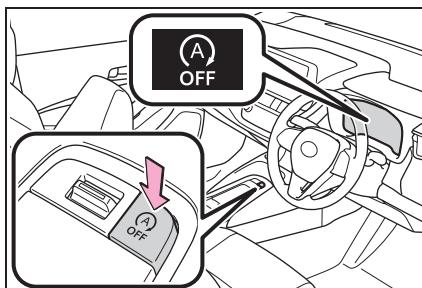
● 運転席ドアを開けているにもかかわらず、マルチインフォメーションディスプレイにドア開警告表示が表示されない、またはインテリアランプがドア開閉運動 ON のときにインテリアランプが点灯しないとき

Stop & Start システムを非作動にするには

Stop & Start システムを非作動にするには Stop & Start キャンセルスイッチを押す

Stop & Start キャンセル表示灯が点灯します。

もう一度 Stop & Start キャンセルスイッチを押すと、作動可能状態にもどり、Stop & Start キャンセル表示灯が消灯します。



□ 知識

■ Stop & Start システムの自動再開

Stop & Start システムを Stop & Start キャンセルスイッチによって非作動にしている場合、一度エンジンスイッチを OFF にしてから ON にすることによって、Stop & Start システムは自動的に作動可能状態にもどります。

■ Stop & Start キャンセルスイッチを押したとき

- Stop & Start システムによるエンジン停止中、Stop & Start キャンセルスイッチを押すとエンジンが再始動します。
- Stop & Start システムが非作動のとき、もう一度 Stop & Start キャンセルスイッチを押すと、Stop & Start システムが作動可能状態にもどりますがエンジンは停止しません。

次に車両が停止したときに、Stop & Start システムによってエンジンが停止します。

坂道発進補助機能（□ レンジアイドリングストップ）

Stop & Start システムによるエンジン停止後、エンジンが再始動し駆動力が発生するまでのあいだ、ブレーキ力を一時的に保持し坂道での車両後退を抑制します。

駆動力が発生すると、保持していたブレーキ力を自動的に解除します。

- 坂道だけでなく、平坦な場所でも作動します。
- ブレーキから音が発生することがありますが異常ではありません。

BSM（ブラインドスポットモニター）★

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ブラインドスポットモニターは、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、運転者による車線変更時の判断を支援するシステムです。

警告

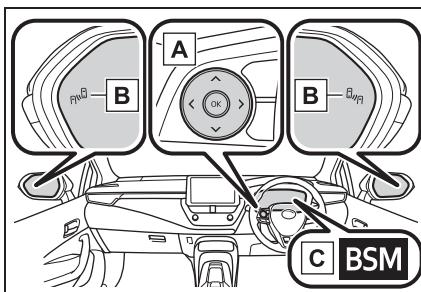
■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

ブラインドスポットモニターは、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけでは安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認をおこなう必要があります。

システムの構成部品



A メーター操作スイッチ

ブラインドスポットモニターの ON / OFF を切り替えます。

B ドアミラーインジケーター

ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近してくる車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーターが点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

C BSM 表示灯

ブラインドスポットモニターが ON のときに点灯します。

知識

■ ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに“BSM 現在使用できません”が表示されたときは

センサー周辺のバンパーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。センサー周辺のバンパーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合、正常に作動しないことがあります。

ます。

■マルチインフォメーションディスプレイに“BSM 故障 販売店で点検してください”が表示されたときは
センサーの故障や電圧異常などが考えら

れます。トヨタ販売店にて点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.344)

■後側方レーダーセンサーの取り扱いについて

本製品は各国の電波法に適合しています。製品表面の印字はその証明ですので、
消さないでください。

製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。



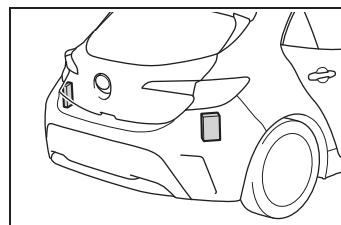
▲ 警告

■後側方レーダーセンサーの取り扱い

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

- センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておく

センサー周辺のリヤバンパーに汚れや着雪がある場合、警告表示(→P.198)とともにシステムが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落としたあと、BSM 機能の作動条件(→P.201)でしばらく走行してください(目安: 約 10 分)。それでも警告表示が消えない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。



- センサー やセンサー周辺のリヤバンパーにアクセサリーを付けたり、ステッカー(透明なものを含む) やアルミテープなどを貼ったりしない

⚠️ 警告

- センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける
センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなったりするおそれがあります。
次のような場合には、必ずトヨタ販売店にて点検を受けてください。
 - ・ センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた
 - ・ センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部が外れている
- センサーを分解しない
- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーを改造しない
- センサーやリヤバンパーの脱着や交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

- リヤバンパーの塗装修理の際にはトヨタ設定色以外への変更は行わないでください

ブラインドスポットモニターのON／OFFを切りかえるには

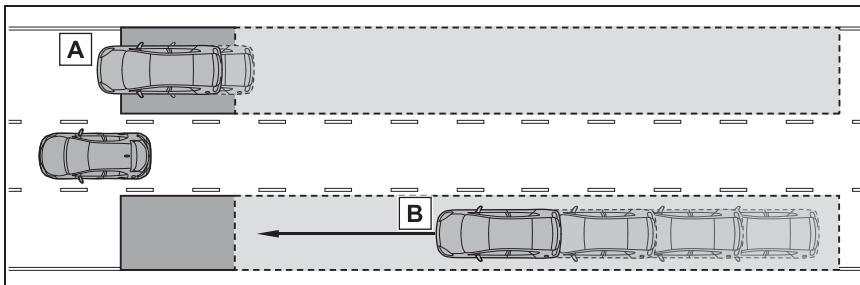
メーター操作スイッチを使ってON／OFFを切りかえます。

- 1 < または > を押して  を選択する
- 2 ▲ または ▼ を押して  を選択し、OKを押す

ブラインドスポットモニターの作動

■ 検知できる車両

ブラインドスポットモニターは後側方レーダーセンサーにより隣の車線を走行する次の車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによってその車両の存在を運転者に知らせます。

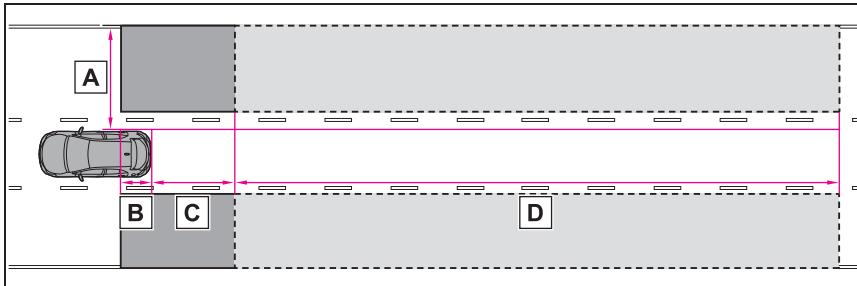


A ドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両

■ **B** 後方からドアミラーに映らない領域（死角領域）に急速に接近してくる車両

■ 検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



検知できる範囲：

A 車両の両側面について、側面から約 0.5m 離れた面から約 3.5m の領域 ※1

B リヤバンパーから約 1m 前方の領域

C リヤバンパーから約 3m 後方の領域

D リヤバンパーから後方約 3m ~ 60m の領域 ※2

※1 車両側面から外側に約 0.5m は検知しません。

※2 自車と他車の速度差が大きいほど、ドアミラーインジケーターは他車がより遠くにいる状況で点灯・点滅します。

□ 知識

■ 作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- ブラインドスポットモニターがONのとき
- シフトレバーがR以外のとき
- 車速が約 16km/h 以上のとき

■ センサーが車両を検知する条件

ブラインドスポットモニターは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

- 隣の車線を走行する他車に自車が追い

こされるとき

- 小さい速度差で隣の車線を走行する他車を追いこすとき
- 他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

■ センサーが検知しない条件

ブラインドスポットモニターは、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 小型の二輪車・自転車・歩行者など ※
- 対向車
- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※

- 同じ車線を走行する後続車*

- 2つ隣の車線を走行する他車*

- 大きい速度差で自車が追いこす他車*

* 状況によっては検知をすることがあります。

■ ブラインドスポットモニターが正しく作動しないおそれがある状況

- 次のような状況では車両を正しく検知しないおそれがあります。

- ・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき

- ・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき

- ・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき

- ・複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき

- ・自車と後続車の車間距離が短いとき

- ・検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき

- ・自車と他車の速度差に変化があるとき

- ・検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき

- ・停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき

- ・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき

- ・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき

- ・車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき

- ・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき

- ・検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき

- ・ブラインドスポットモニターをONにした直後

- 特に次のような状況では不要な検知が

増えることがあります。

- ・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき

- ・ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき

- ・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき

- ・車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき

- ・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき

- ・タイヤがスリップ（空転）しているとき

- ・自車と後続車の車間距離が短いとき

- ・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき

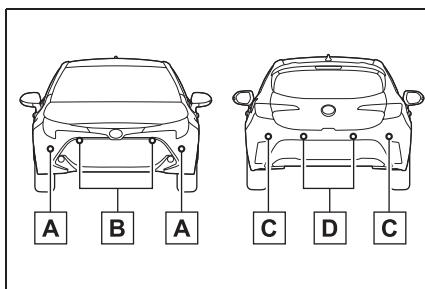
クリアランスソナー★

クリアランスソナーは、車両と壁などの静止物とのおおよその距離を超音波センサーによって検知して、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイおよびヘッドアップディスプレイ★の距離表示とブザー音で運転者にお知らせします。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

システムの構成部品

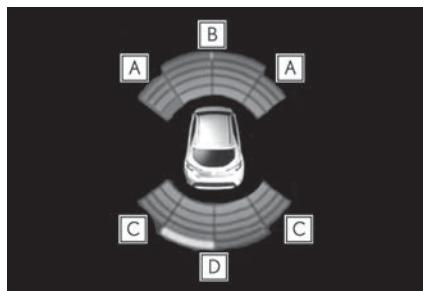
■ センサーの種類



- A フロントコーナーセンサー
- B フロントセンターセンサー
- C リヤコーナーセンサー
- D リヤセンターセンサー

■ クリアランスソナーの表示のしかた

壁などの静止物を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイまたはヘッドアップディスプレイ★に表示されます。



■ A フロントコーナーセンサー作動表示

■ B フロントセンターセンサー作動表示

■ C リヤコーナーセンサー作動表示

■ D リヤセンターセンサー作動表示

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

システムを作動させるには

メーター操作スイッチを使って ON / OFF を切りかえます。
(→P.63)

- 1 < または > を押して を選択する
- 2 ▲ または ▼ を押して を選択し、OK を押す

クリアランスソナー機能が OFF の時は、クリアランスソナー OFF 表示灯 (→P.54) が点灯します。

OFF (停止) に切りかえて、クリアランスソナーを停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの から を ON (作動) にし、システム作動状態にしないとクリアランスソナーは復帰しません。(エンジンスイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、復帰しません)

⚠ 警告

■クリアランスソナーをお使いになる前に

必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車両の速度が約 10km/h をこえないようにしてください。
- センサーの検知範囲、作動速度には限界があります。車を前進・後退するときは、必ず車両周辺（特に車両側面など）の安全を確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください。
- センサーの検知範囲にはアクセサリー用品を取り付けないでください。
- バンパー真下付近は検知しません。センサーより低いものや細い杭などは、一度検知しても接近すると突然検知しなくなることがあります。

■クリアランスソナーを OFF にするとき

次のときはシステムを OFF してください。クリアランスソナーが正常に作動しないことがあります。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 市販のフェンダーポール・無線機アンテナ・フォグランプを車に付けたとき
- バンパーやセンサー部付近にものをぶつけたときや、たたくなどの強い衝撃を与えたとき
- トヨタ純正品以外のサスペンションを取り付けたとき
- けん引フックを取り付けたとき
- 字光式ナンバープレートを取り付けたとき

■クリアランスソナー使用時の注意

次のとき、センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっていることがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

- 静止物を検知していない状態で、クリアランスソナーの作動表示が点灯もしくは点滅し、ブザーが鳴ったとき
- センサー部付近にものをぶつけたときや、たたくなどの強い衝撃を与えたとき
- バンパーをぶつけたとき
- ブザー音がしないのにクリアランスソナー表示が点灯もしくは点滅したままのとき（ミュート選択時は除く）

■洗車時の注意

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

□ 知識

■作動条件

- エンジンスイッチが ON のとき
- クリアランスソナー機能が ON のとき
- 車両の速度が約 10km/h 以下のとき
- シフトポジションが P 以外にあるとき

■マルチインフォメーションディスプレイに“クリアランスソナー使用できません ソナーの汚れを除去してください”が表示されたときは

クリアランスソナーのセンサーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。

この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。

また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、静止物があっても検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

氷・雪・泥がないのに異常表示が出ている場合は、センサーの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに“クリアランスソナー使用できません”が表示されたときは

●センサー表面に水が継続的に流れている可能性があります。システムが正常と判断した場合に復帰します。

●バッテリーを脱着したあとに、初期化がされていないことが考えられます。システムの初期化を行ってください。初期化を行っても表示が消えない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■センサーの検知について

●センサーの検知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。

●静止物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。

●センサーが静止物に近づきすぎると検知できないことがあります。

●静止物を検知してから、表示が出る（ブザーが鳴る）までに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示が出る（ブザーが鳴る）までに、静止物

まで約30cm以内に接近するおそれがあります。

●オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。

●他システムのブザー音などにより本システムの音が聞き取りづらくなる場合があります。

■システムが正常に作動しないおそれがあるときは

次のような状況では、センサーが正常に作動しないことがあります。

●センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）

●センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、壁などの静止物があっても検知しないことがあります。

●センサーを手などで覆ったとき

●炎天下や寒冷時

●凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など

●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のクリアランスソナーなどの超音波を発生するものが付近に存在するとき

●どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき

●冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき

●車両姿勢が大きく傾いたとき

●背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき

●センサーに静止物が近付きすぎたとき

■正しく検知できないことがある静止物

静止物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、次のようなも

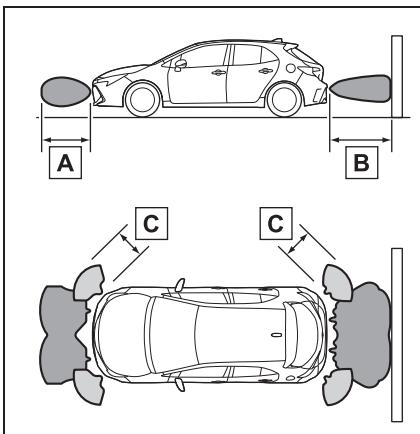
のは検知しないことがあります。注意して運転してください。

- 針金・フェンス・ロープなどの細いもの
- 綿・雪などの音波を吸収しやすいもの
- 鋭角的な形のもの
- 背の低いもの
- 背が高く上部が張り出しているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

距離表示の見方

■ 静止物を検知できる範囲



A 約 100cm

B 約 150cm

C 約 60cm

検知できる範囲は図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

静止物の形状・条件によっては、検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。

■ 画面表示

壁などの静止物を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイまたはヘッドアップディスプレイ★に表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- 静止物までのおおよその距離：約 150cm～60cm※（リヤセンターセンサー）

マルチインフォメーションディスプレイ	ヘッドアップディスプレイ

※ 自動ミュート機能あり（→P.208）

- 静止物までのおおよその距離：約 100cm～60cm[※]（フロントセンターセンサー）

マルチインフォメーションディスプレイ	ヘッドアップディスプレイ

* 自動ミュート機能あり (→P.208)

- 静止物までのおおよその距離：約 60cm～45cm[※]

マルチインフォメーションディスプレイ	ヘッドアップディスプレイ

* 自動ミュート機能あり (→P.208)

- 静止物までのおおよその距離：約 45cm～30cm[※]

マルチインフォメーションディスプレイ	ヘッドアップディスプレイ

* 自動ミュート機能あり (→P.208)

- 静止物までのおおよその距離：約 30cm～15cm^{※1}

マルチインフォメーションディスプレイ ※2	ヘッドアップディスプレイ

*1 自動ミュート機能なし (→P.208)

*2 点灯および枠が遅い点滅

- 静止物までのおおよその距離：約 15cm 以下^{※1}

マルチインフォメーションディスプレイ ※2	ヘッドアップディスプレイ
	

※¹自動ミュート機能なし (→P.208)

※²点灯および枠が早い点滅

ブザー音

■ ブザー動作と静止物までの距離

静止物を検知すると、ブザーが鳴ります。

- 静止物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。静止物との距離が約 30cm 以下のとき、ブザーは断続音「ピピ」から連続音「ピー」になります。
- 複数のセンサーが同時に静止物を検知しているときは、もっとも近い静止物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。
- ブザー吹鳴後、静止物との距離が近づかない場合は、自動でブザーが消音されます。(自動ミュート機能)

■ ブザー音量調整

マルチインフォメーションディスプレイ上でブザー音量の調整ができます。

クリアランスソナー、RCTA のブザー音を一括で調整します。

メーター操作スイッチを使って設定を変更します。(→P.63)

1 < または > を押して  を選択する

2 ▲ または ▼ を押して  を選択し、OK を押し続ける

3 音量を選択し、OK を押す

1,2,3 の間で音量が切りかわります。

■ ブザー音の一時ミュート (消音)

作動対象を検知した場合、マルチインフォメーションディスプレイ上に一時ミュート (消音) スイッチが表示されます。

OK を押すとクリアランスソナー、RCTA のブザー音が一括でミュート (消音) されます。

一時ミュート (消音) が解除されるとき :

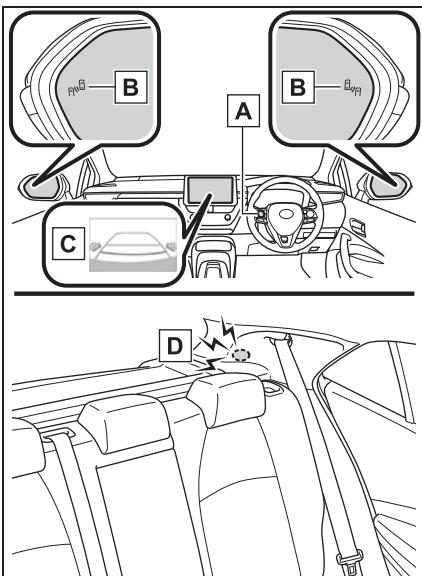
- シフトポジションを切りかえたとき
- 車速が一定値以上になったとき
- センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
- 使用中の機能を OFF にしたとき
- エンジンスイッチを OFF にしたとき

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能はリヤバンパー内側にあるブラインドスポットモニターの後側方レーダーセンサーを使用し、運転者の目視だけでは感知しづらい領域の確認を補助する機能です。後退時に運転者を支援します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

システムの構成部品



A メーター操作スイッチ

メーター操作スイッチを操作して、マルチインフォメーションディスプレイ上で RCTA 機能の ON / OFF を切りかえます。

B ドアミラーインジケーター

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、両側のドアミラーインジケーターが点滅します。

C マルチメディア画面

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、マルチメディア画面に検知した側の RCTA アイコン（→P.211）が点灯します。

イラストは両後方から車両が接近している例です。

D RCTA ブザー

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、ブザーが鳴ります。

設定のしかた

メーター操作スイッチを使って ON / OFF を切りかえます。（→P.63）

- 1 < または > を押して  を選択する
- 2 ▲ または ▼ を押して “RCTA” を選択し、OK を押す

RCTA 機能が OFF の時は、RCTA OFF 表示灯（→P.54）が点灯します。エンジンスイッチが ON になるたび、RCTA 機能は ON になります。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

RCTA 機能は自車の右後方または左後方から接近してくる車両の存在を運転者に提供する補助的なシステムです。

RCTA 機能を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ 安全にお使いいただくために

センサー周辺に障害物を置かないでください。

□ 知識

■ ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■ RCTA ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオなど大きな音がする場合、RCTA ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに“RCTA 現在使用できません”が表示されたときは

センサー周辺のバンパーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。センサー周辺のバンパーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合、正常に作動しないことがあります。

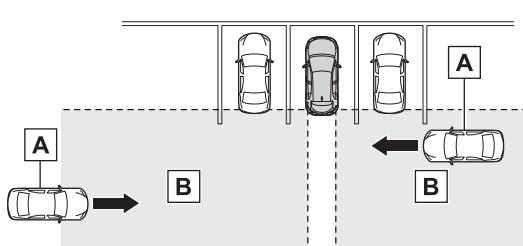
■ 後側方レーダーセンサーについて

→P.199

RCTA 機能

■ RCTA 機能の作動

RCTA 機能は後側方レーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、ドアミラーのインジケーターとブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。



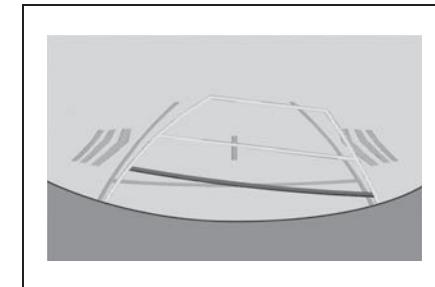
A 接近車両

B 接近車両を検知できる範囲

■ RCTA アイコンの表示

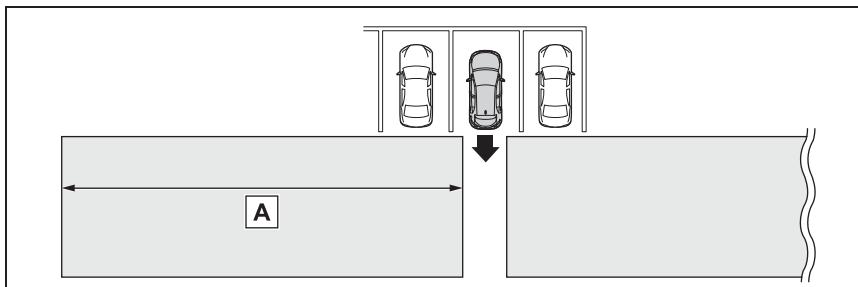
自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、マルチメディア画面上に次の表示をします。

例：両方向から車両が接近しているとき



■ RCTA 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



速度が速い車両に対しては、より離れた位置で警報ブザーを鳴らします。

例：

接近車両の速度	A 警報距離（概算）
28km/h（速い）	20m
8km/h（遅い）	5.5m

□ 知識

■ RCTA 機能の作動条件

RCTA 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●エンジンスイッチが ON のとき

- RCTA 機能が ON のとき
- シフトポジションが R のとき
- 自車の車速が約 8km/h 以下のとき
- 接近する他車の車速が約 8km/h ~ 28km/h のあいだのとき

■ ブザー音量調整

マルチインフォメーションディスプレイ上でブザー音量の調整ができます。
クリアランスソナー、RCTA のブザー音を一括で調整します。

メーター操作スイッチを使って設定を変更します。 (→P.63)

- 1 < または > を押して  を選択する

2 ▲または▼を押して“RCTA”を選択し、OKを押し続ける

3 音量を選択し、OKを押す

1,2,3の間で音量が切りかわります。

■ ブザー音の一時ミュート（消音）

作動対象を検知した場合、マルチインフォメーションディスプレイ上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。

OKを押すとクリアランスソナー、

RCTAのブザー音が一括でミュート（消音）されます。

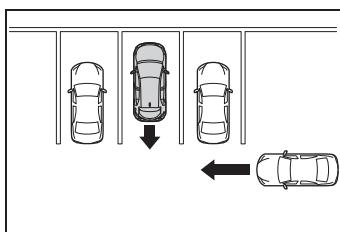
一時ミュート（消音）が解除されるとき：

- シフトポジションを切りかえたとき
- 車速が一定値以上になったとき
- センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
- 使用中の機能をOFFにしたとき
- エンジンスイッチをOFFにしたとき

■ RCTA機能が検知しない車両について

RCTA機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 真後ろから接近する車両
- 自車の隣の駐車スペースで後退する車両
- 障害物のためにセンサーが検知できない車両



- ガードレール・壁・標識・駐車車両な

どの静止物

●小型の二輪車・自転車・歩行者など

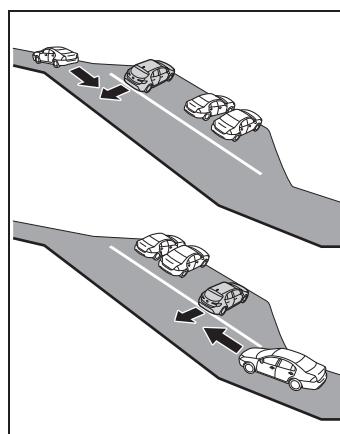
●自車から遠ざかる車両

●自車の隣の駐車スペースから接近する車両

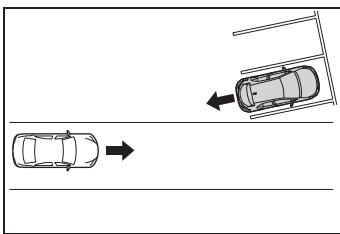
■ RCTA機能が正常に作動しないおそれがある状況

●RCTA機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。

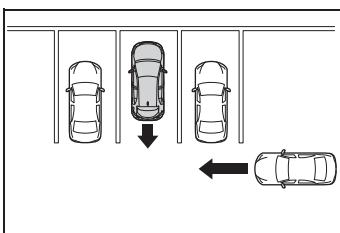
- ・センサーヤやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- ・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
- ・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき
- ・複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
- ・車両が高速で接近するとき
- ・車両後部にけん引フックを装着しているとき
- ・勾配の変化が激しい坂で後退しているとき



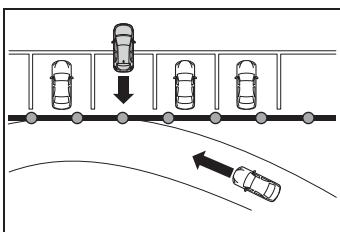
- ・浅い角度での駐車時



- ・RCTA 機能を ON にした直後
- ・RCTA 機能を ON にした状態で、エンジンを始動した直後
- ・障害物のためにセンサーが検知できない車両



- RCTA 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。
- ・自車の横を車両が通過するとき
- ・駐車場に面した道を車両が走行しているとき



- ・車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき
- ・車両後部にけん引フックを装着しているとき

PKSB (パーキングサポートブレーキ) ★

PKSB (パーキングサポートブレーキ) は、駐車時などの低速走行時に作動対象を検知した場合、警報と自動ブレーキ制御で作動対象との衝突被害の軽減に寄与するシステムです。壁などの静止物を検知するパーキングサポートブレーキ（静止物）、後退時に後方接近車両を検知するパーキングサポートブレーキ（後方接近車両）があります。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

駐車支援機能

■ パーキングサポートブレーキ (静止物) ★

→P.219

■ パーキングサポートブレーキ (後方接近車両) ★

→P.225

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

- PKSB（パーキングサポートブレーキ）を安全にお使いいただくためにシステムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。
道路状況、車両状態および天候など、状況によっては作動しない場合があります。
センサー、レーダーでの検知には限界があります。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。
- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。PKSB（パーキングサポートブレーキ）は作動対象への衝突を緩和し、衝突被害軽減に寄与できる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約2秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。

⚠ 注意

- マルチインフォメーションディスプレイに“パーキングサポートブレーキ 現在使用できません”が表示され、PKSB OFF表示灯が点滅したときは

エンジンスイッチをONにした直後に、上記表示が出ることがあります。その場合は周囲を確認しながら注意して走行してください。一定距離の走行で使用可能となります。使用できない場合は安全な場所に車を停止し、カメラレンズの汚れを取り除いてください。

システムを作動させるには

パーキングサポートブレーキ（静止物）、パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）を一括でON/OFFします。

メーター操作スイッチを使ってON／OFFを切りかえます。
(→P.63)

- 1 < または > を押して  を選択する
- 2 ▲ または ▼ を押して  を選択し、OKを押す

PKSBシステムをOFFした場合、PKSB OFF表示灯(→P.54)が点灯します。

OFF（停止）に切りかえて、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの  から  をON（作動）にし、システム作動状態にしないとPKSB（パーキングサポートブレーキ）は復帰しません。(エンジンスイッチの操作では復帰しません)

エンジン出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

エンジン出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチメディア画面、マルチインフォメーションディスプレイおよびヘッドアップディスプレイ★にメッセージが表示されます。

出力抑制制御は状況により、加速制限御か出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイの表示と同様です。

● エンジン出力抑制制御作動中（加速制限御）

一定以上の加速をシステムが制限しているとき：

マルチメディア画面表示：表示なし

マルチインフォメーションディスプレイ表示： “ 加速抑制中です ”

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：吹鳴なし

● エンジン出力抑制制御作動中（出力最大抑制制御）

通常よりやや強めのブレーキ操作が必要だとシステムが判断したとき：

マルチメディア画面表示： “ ブレーキ ! ”

マルチインフォメーションディスプレイ表示： “ ブレーキ ! ”

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：ポン（単発音）

● ブレーキ制御作動中

急ブレーキが必要だとシステムが判断したとき：

マルチメディア画面表示： “ ブレーキ ! ”

マルチインフォメーションディスプレイ表示： “ ブレーキ ! ”

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：ポン（単発音）

● システム作動により車両停止

ブレーキ制御作動後に車両が停止したとき：

マルチメディア画面表示： “ ブレーキを踏んでください ”

マルチインフォメーションディスプレイ表示： “ アクセルが踏まれています ブレーキを踏み直してください ”

アクセルが踏まれていない場合は “ ブレーキを踏み続けてください ” が表示されます。

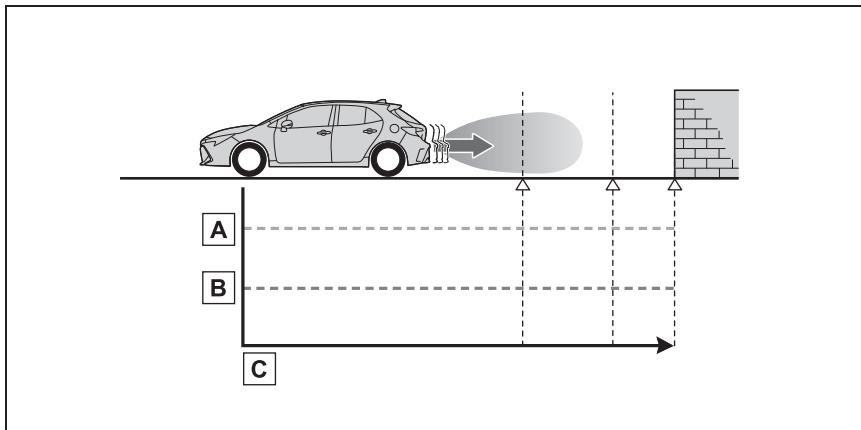
PKSB OFF 表示灯：点灯

ブザー：ポン（単発音）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）の作動について

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、衝突の可能性がある作動対象（壁などの静止物や後方接近車両）を検知したとき、エンジンの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます。（エンジン出力抑制制御：図 2）また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます。（ブレーキ制御：図 3）

● 図 1 (PKSB (パーキングサポートブレーキ) 非作動時)

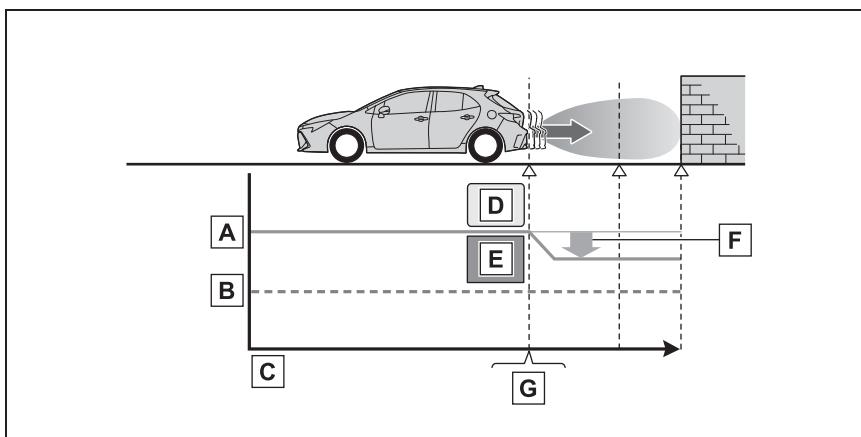


[A] エンジン出力

[B] 制動力

[C] 時間

● 図 2 (エンジン出力抑制制御時)



[A] エンジン出力

[B] 制動力

[C] 時間

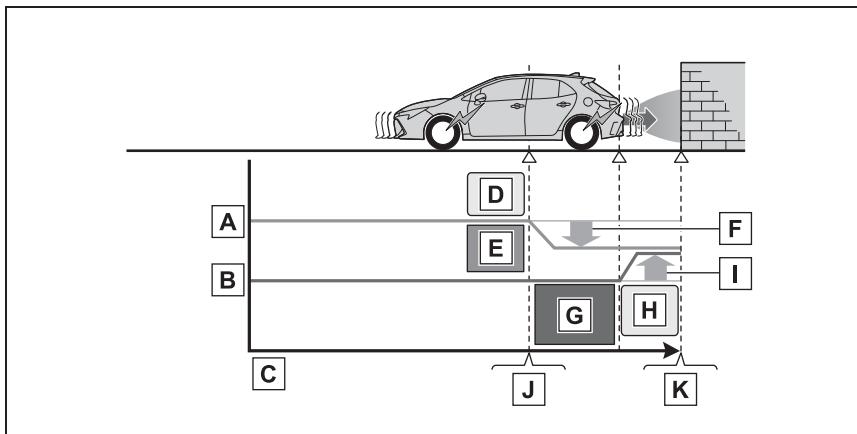
[D] エンジン出力抑制制御開始

[E] 作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき

[F] エンジン出力を抑える

■例：マルチインフォメーションディスプレイ表示 “ブレーキ！”

●図3（エンジン出力抑制制御かつブレーキ制御時）



- A エンジン出力
- B 制動力
- C 時間
- D エンジン出力抑制制御開始
- E 作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき
- F エンジン出力を抑える
- G 作動対象と衝突の可能性が非常に高いとシステムが判断したとき
- H ブレーキ制御開始
- I ブレーキ制御を上げる
- J 例：マルチインフォメーションディスプレイ表示 “ブレーキ！”
- K 例：マルチインフォメーションディスプレイ表示 “アクセルが踏まれています ブレーキを踏み直してください”

知識

■PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動したときは

システム作動により車両が停止した場合、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止して、PKSB OFF表示灯が点灯します。また、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動した場合でもブレーキ制御は2秒で解除されるため、そのま

ま発進できます。また、ブレーキペダルを踏んでも解除されるため、再度アクセルペダルを踏むと発進できます。

■PKSB（パーキングサポートブレーキ）の復帰について

システム作動によりPKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止した場合に、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を復帰させたい場合は、再度、PKSB

(パーキングサポートブレーキ) を ON に(→P.214) するか、エンジンスイッチをいったん OFF にしてから再度、ON にしてください。また、進行方向の作動対象がなくなった状態で車両を走行させたとき、または車両の進行方向が入れかわった(前進から後退、または後退から前進に切りかえた)ときはシステムが自動的に復帰します。

■マルチインフォメーションディスプレイに“パーキングサポートブレーキ現在使用できません”が表示され、PKSB OFF 表示灯が点滅したときは

- クリアランスソナーセンサーのバンパー周辺の汚れを取り除いてください。
- バッテリーを脱着したあとにシステムの初期化がされていないことが考えられます。システムの初期化を行ってください。初期化を行っても表示が消えない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに“パーキングサポートブレーキ現在使用できません”と“クリアラ nsソナー使用できません ソナーの汚れを除去してください”が表示され、PKSB OFF 表示灯が点滅したときは

- センサー部に氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。センサーの汚れを取り除いても表示が出るとき、またはセンサーが汚れていないくとも表示ができるときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- センサーが凍結している可能性があります。氷が解ければ正常に復帰します。
- センサー表面に水が断続的に流れている可能性があります。システムが正常と判断した場合に復帰します。

■バッテリーを脱着したときは

システムを初期化する必要があります。約 35km/h 以上の車速で 5 秒以上直進走行することで初期化できます。

パーキングサポートブレーキ（静止物）★

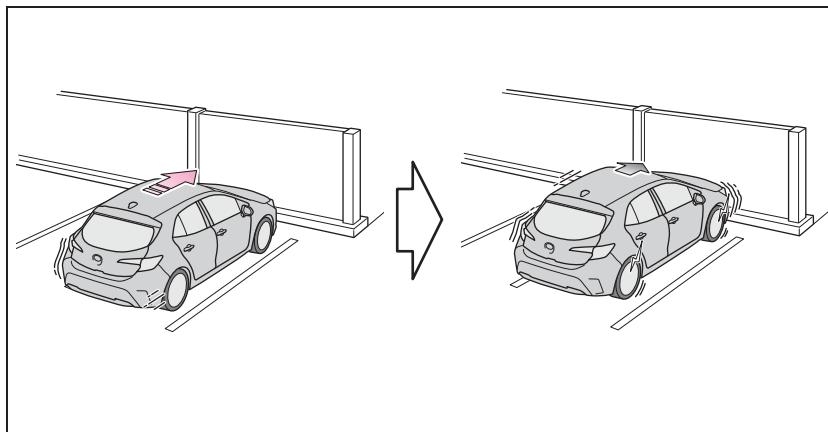
駐車時や低速走行時において、壁などの静止物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトレバーの入れ間違いによる発進時に、センサーが前後進行方向の静止物を検知するとシステムが作動し、衝突を緩和し衝突被害低減に寄与します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

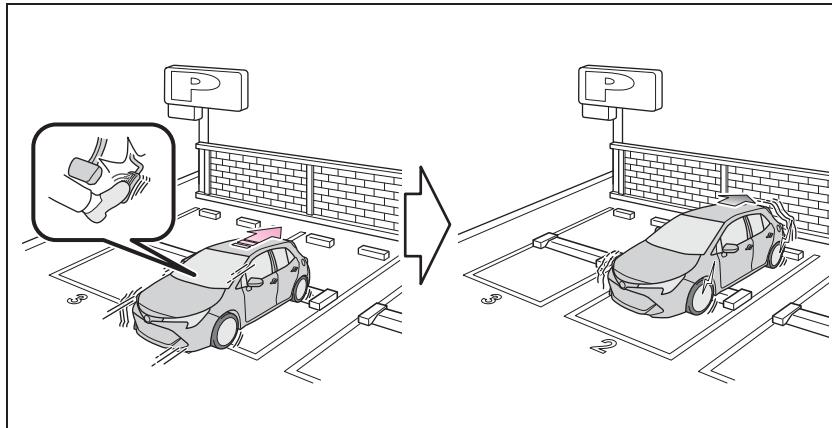
システム作動例

次のようなときに進行方向の静止物を検知してシステムが作動します。

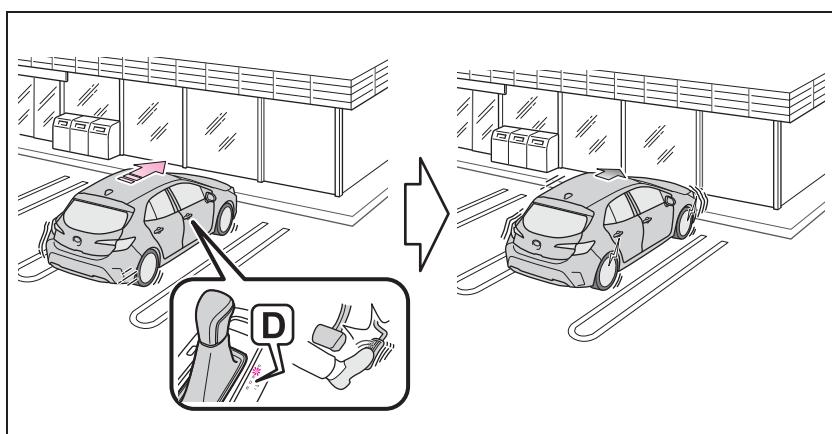
- 低速走行時にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき



■ アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき



■ 誤ってシフトレバーを D に入れ前進してしまったとき



センサーの種類

→P.203

警告

■ パーキングサポートブレーキ（静止物）のシステムを正しく作動させるために

センサー（→P.203）について、以下のことをお守りください。お守りいただかないとい、センサーが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 改造・分解・塗装などをしない

⚠ 警告

- 純正品以外に交換しない
- センサー周辺へ衝撃を与えない
- センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておく

■ **サスペンションの取り扱いについて**

車高や車の傾きが変化すると、センサーが作動対象物を正しく検知できなくなり、システムが正しく作動しなくなるおそれがあり危険です。サスペンションの改造はしないでください。

■ **万一、踏切内などでパーキングサポートブレーキ（静止物）が誤って作動したときは**

万一、踏切内などでパーキングサポートブレーキ（静止物）が誤って作動しても、ブレーキ制御は約2秒で解除されるため、そのまま前進することで脱出できます。また、ブレーキペダルを踏むことで、ブレーキ制御は解除されるため、再度アクセルペダルを踏むことで前進し、脱出できます。

■ 洗車時の注意

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

■ **パーキングサポートブレーキ（静止物）を OFF にするとき**

次のときは、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF にしてください。衝突の可能性がなくともシステムが作動する場合があります。

- 点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用する場合
- 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けた場合
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- けん引フックを取り付けた場合
- 自走式洗車機を使用する場合

□ 知識

■ **パーキングサポートブレーキ（静止物）の作動開始条件**

PKSB OFF 表示灯が点灯・点滅（→P.54, 53）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

● エンジン出力抑制制御

- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
- ・ 車速が 15km/h 以下
- ・ 車両進行方向に作動対象となる静止物があるとき（2～4m 先まで）
- ・ 衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

● ブレーキ制御

- ・ エンジン出力抑制制御作動中
- ・ 衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■ **パーキングサポートブレーキ（静止物）の作動終了条件**

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

● エンジン出力抑制制御

- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）

を OFF (非作動) にしたとき

- 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとシステムが判断したとき
- 車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき (2 ~ 4m 先まで)

● ブレーキ制御

- PKSB (パーキングサポートブレーキ) を OFF (非作動) にしたとき
- ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
- ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
- 車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき (2 ~ 4m 先まで)

■ パーキングサポートブレーキ (静止物) の復帰について

→P.217

■ パーキングサポートブレーキ (静止物) の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ (静止物) の検知範囲は、クリアランスソナーの検知範囲 (→P.206) とは異なります。そのため、クリアランスソナーが静止物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ (静止物) は作動を開始していない場合があります。

■ パーキングサポートブレーキ (静止物) が検知しないおそれのある作動対象について

次のようなものは、センサーが検知しない場合があります。

● 歩行者

● 縄、雪など音波を反射しにくいもの

● 地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凸凹なもの、波打っているもの

● 背の低いもの

● 針金、フェンス、ロープ、標識の支柱などの細いもの

● バンパーに非常に近いもの

● 鋭角的な形のもの

● 背が高く上部が張り出しているもの

■ パーキングサポートブレーキ (静止物) のシステムが作動しないおそれのある状況

シフトポジションが N のとき

■ クリアランスソナーのブザーについて

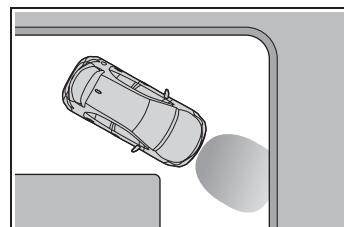
クリアランスソナーの ON/OFF に関する (→P.203)、パーキングサポートブレーキ (静止物) を停止させていなければ (→P.214)、前側センサーまたは後側センサーが作動対象を検知してブレーキ制御とエンジン出力抑制制御が作動すると、クリアランスソナーのブザーも鳴り、作動対象とのおよその距離をお知らせします。

■ 衝突の可能性がなくてもパーキングサポートブレーキ (静止物) のシステムが作動する状況

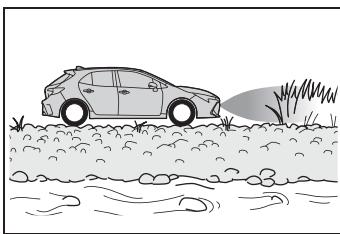
次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

● 周辺環境の影響

- 狭い道路を走行するとき



- 砂利道・草むらなどを走行するとき



- ・垂れ幕や旗やのれん、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETCのバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき
- ・道路脇に構造物があったとき（狭いトンネル・狭い鉄橋・狭い道路などを走行したとき）
- ・縦列駐車時
- ・地面にわだちや穴がある場合
- ・排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時
- ・急な登坂路や降坂路を走行するとき
- ・冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき

●天候の影響

- ・センサーに氷、雪、泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- ・どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- ・霧、雪、砂嵐などの悪天候の状況
- ・風が強いとき

●他の音波の影響を受けたとき

- ・他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のアブレーキ音、車両感知器、他車のクリアランスソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
- ・センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート＜特に蛍光灯タイプ＞・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けているとき

●車両の変化

- ・車両姿勢が大きく傾いたとき
- ・積載状況などにより車高が著しく変化

した場合（ノーズアップ・ノーズダウンなど）

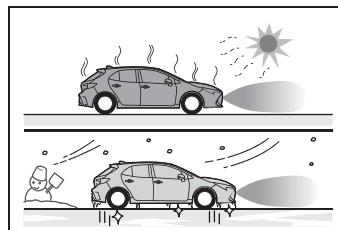
- ・衝突などで、センサーの方向ズレが発生したとき

■パーキングサポートブレーキ（静止物）のシステムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正常に作動しない場合があります。

●天候の影響

- ・炎天下や寒冷時でセンサー周辺部が著しく高温または低温の場合



・風が強いとき



- ・センサーに氷、雪、泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- ・どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- ・霧、雪、砂嵐などの悪天候の状況
- ・センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）

●周辺環境の影響

- ・作動対象物と車両のあいだに、検知できない対象物がある場合
- ・車、二輪車、自転車、歩行者などの作動対象が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき
- ・背の高い縁石や直角の縁石に向かって

進んだとき

- ・ 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など
- ・ センサーに静止物が近づきすぎたとき

●他の音波の影響

- ・ 他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のクリアランスソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
- ・ センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート＜特に蛍光灯タイプ＞・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けたとき

●車両の変化

- ・ 車両姿勢が大きく傾いたとき
- ・ 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- ・ 衝突などで、センサーの方向ズレが発生したとき
- ・ バンパープロテクター、バンパトリム、サイクルキャリア、除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき
- ・ ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤ等を取り付けたとき
- ・ センサーにペイントやステッカーなどを貼ったとき

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）★

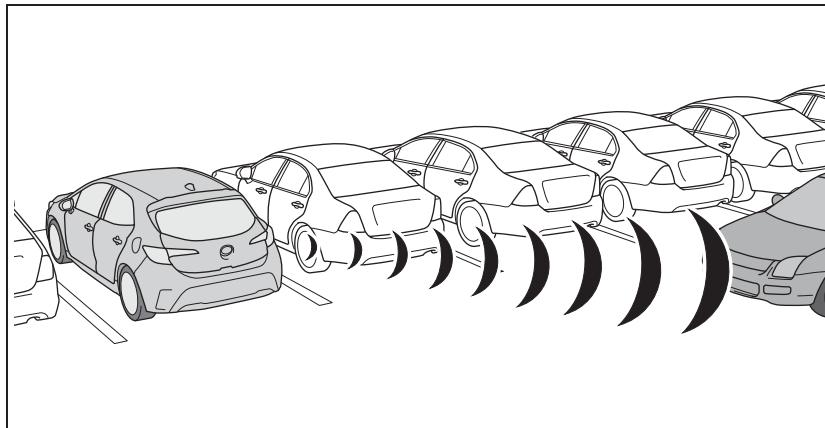
後側方レーダーセンサーで自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、システムが衝突の危険性があると判断した場合にブレーキ制御をすることで、接近車両への衝突を緩和し衝突被害軽減に寄与します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

システム作動例

次のようなときに進行方向の車両を検知してシステムが作動します。

- 後退時、近接車両接近中にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき



センサーの種類

→P.199

警告

- パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）のシステムを正しく作動させるために

後側方レーダーセンサー（→P.199）について、以下のことをお守りください。お守りいただかないと、センサーが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 改造・分解・塗装などをしない
- 純正品以外に交換しない

⚠ 警告

- センサー周辺へ衝撃を与えない
- センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておく
- センサー周辺に衝撃を受けたときは、センサーの故障などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 後側方レーダーセンサーの取り扱い（→P.199）をお守りください。

□ 知識

■ パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯・点滅（→P.54, 53）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

● エンジン出力抑制制御

- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
- ・ 車速が 15km/h 以下
- ・ 後側方から接近する車両の車速が 8km/h 以上
- ・ シフトポジションが R のとき
- ・ 後側方からの接近車両への衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

● ブレーキ制御

- ・ エンジン出力抑制制御作動中
- ・ 接近車両への衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■ パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

● エンジン出力抑制制御

- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）

を OFF（非作動）にしたとき

- ・ 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
- ・ 自車後側方への接近車両がなくなったとき

● ブレーキ制御

- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- ・ ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
- ・ ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
- ・ 自車後側方への接近車両がなくなったとき

■ パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の復帰について（→P.217）

■ パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の検知範囲は、RCTA の検知範囲（→P.211）とは異なります。そのため、RCTA が障害物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）は作動を開始していない場合があります。

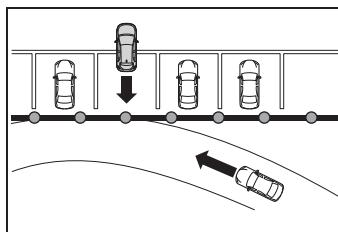
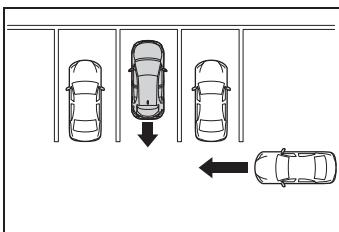
■ パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）が検知しない車両について

次のような車両や車両以外のものは検知対象としません。

● 真後ろから接近する車両

● 自車の隣の駐車スペースで後退する車両

● 障害物のためにセンサーが検知できない車両



- 自車近くで急加速または急減速した車両
- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物
- 小型の二輪車、自転車、歩行者など
- 自車から遠ざかる車両
- 自車の隣の駐車スペースから接近する車両
- センサーと接近物との距離が近すぎる場合
- 自車後側方から接近車両の速度が約8km/h未満のとき
- 自車後側方から接近車両の速度が約24km/hより大きいとき

■ RCTA のブザーについて

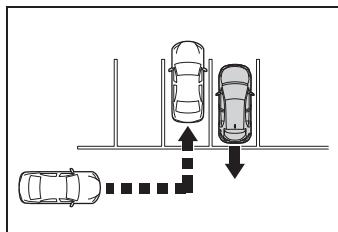
RCTA機能のON/OFFに関係なく（→P.209）、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を停止させていなければ（→P.214）、ブレーキ制御が作動すると、ブザーが鳴り注意喚起をおこないます。

■ 衝突の可能性がなくてもパーキングサポートブレーキ（後方接近車両）のシステムが作動する状況

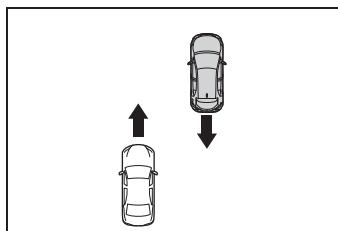
次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 駐車場に面した道を車両が走行しているとき

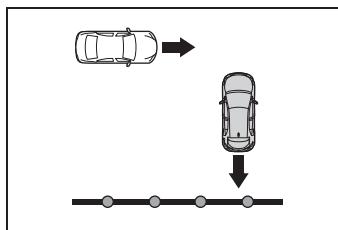
- 自車近くで旋回していく移動物が存在するとき



- 自車の横を車両が通過するとき



- 車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき



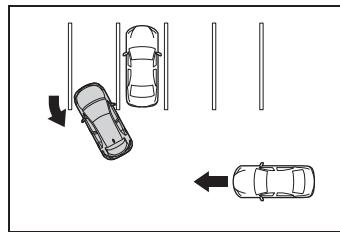
- 自車近くに室外機などの回転体が存在するとき

- センサーに向けてスプリンクラーなどによる水の飛散があったとき

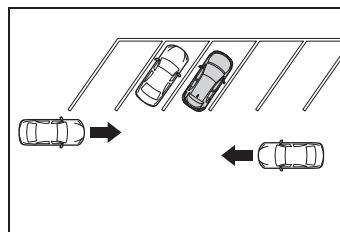
■パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）のシステムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、センサーが作動対象を正しく検知せず、システムが正常に作動しない場合があります。

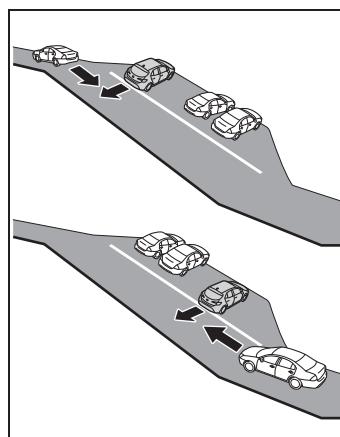
- 作動対象が停止しているとき
- 炎天下や寒冷時
- リヤバンパーに氷、雪、泥などが付着したとき
- リヤバンパーに大雨や水しぶきが掛ったとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- センサー付近にけん引フック、バンパープロテクター、バンパトリム、サイクルキャリア、除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき
- ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤ等を取り付けたとき
- 車高が極端に変化している場合（ノーズアップ、ノーズダウン等）
- センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート、フォグランプ、フェンダーポール、無線アンテナ等）を取り付けたとき
- センサーの位置や向きがずれているとき
- 複数台の車両が狭い間隔で連続で接近するとき
- 車両が高速で接近するとき
- センサーが検知しない可能性がある状況または作動対象
- ・自車角度がついた場合等、後方付近からの接近車両
- ・自車が旋回しているとき



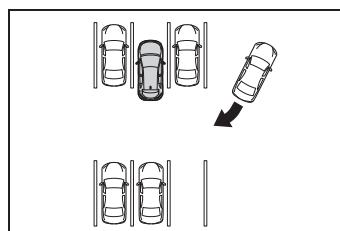
・斜めの駐車場から出庫するとき



・勾配の変化が激しい坂で後退しているとき



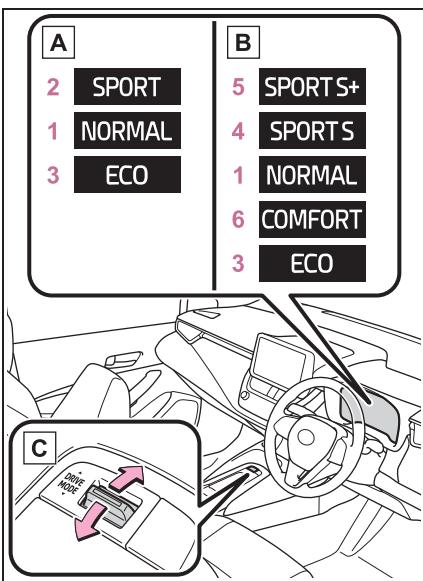
・旋回しながら車両が近づいてきた場合



ドライブモードセレクトスイッチ

走行・使用状況に合わせて次のモードを選択できます。

走行モードを選択するには



A マルチインフォメーションディスプレイ表示 (AVS 非装着車)

B マルチインフォメーションディスプレイ表示 (AVS 装着車)

C ドライブモードセレクトスイッチ

ドライブモードセレクトスイッチを前後に操作し、マルチインフォメーションディスプレイ表示からドライブモードを選択します。

1 ノーマルモード

燃費性能、静肅性、運動性能のバランスがよく、通常の走行に適しています。

2 スポーツモード

トランスミッション（オートマチック車）とエンジンの制御により、アクセル操作に対する反応を早め、力強い加速が可能です。また、ステアリングのフィーリングも変化し、コーナーの多い道などで、きびきびした走りを楽しみたいときに適しています。

スポーツモード表示灯が点灯します。

マニュアル車では、スポーツモードを選択すると iMT がオンになります。

(→P.122)

3 エコドライブモード

アクセル操作に対する駆動力を穏やかにすると同時に、エアコン（暖房／冷房）の作動を抑えます。燃費の向上を意識した走行に適しています。

エコドライブモード表示灯が点灯します。

4 スポーツ S モード

トランスミッション（オートマチック車）とエンジンの制御により、アクセル操作に対する反応を早め、力強い加速が可能です。コーナーの多い道などで、きびきびした走りを楽しみたいときに適しています。

スポーツ S モード表示灯が点灯します。

マニュアル車では、スポーツ S モードを選択すると iMT がオンになります。

(→P.122)

5 スポーツ S+ モード

スポーツ S モードの制御に加え、ステアリングやサスペンションのフィーリングも変化し、コーナーの多い道などで、よりスポーティな走りを楽しみたいときに適しています。

スポーツ S+ モード表示灯が点灯します。

マニュアル車では、スポーツ S+ モードを選択すると iMT がオンになります。

(→P.122)

6 コンフォートモード

サスペンションを制御することにより、

より快適な乗り心地になります。さまざまなシーンでの走行に適しています。
コンフォートモード表示灯が点灯します。

□ 知識

■ エコドライブモード時のエアコン作動について

エコドライブモードは、暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。

- エコ空調モードを OFF にする
(→P.242)
- 風量を調整する (→P.241)
- エコドライブモードを解除する

■ スポーツ／スポーツ S／スポーツ S+ モードの自動解除

スポーツ／スポーツ S／スポーツ S+ モードを選択して走行後、エンジンスイッチを OFF にすると、自動でノーマルモードにもどります。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

運転を補助する装置について

■ ABS (アンチロックブレーキシステム)

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC (ビークルスタビリティコントロール)

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ S-VSC (ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール)

ABS・TRC・VSC・EPS を協調して制御します。

すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

■ セカンダリーコリジョンブレーキ

SRS エアバッグのセンサーが衝突

を検知したとき、自動的にブレーキと制動灯を制御することで、車両を減速させ、二次衝突による被害の軽減に寄与します。

■ TRC (トラクションコントロール)

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

■ アクティブコーナリングアシスト (ACA)

旋回中に加速しようとするとき、内輪にブレーキ制御を行うことで、車両が外側に膨らむことを抑制します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

■ EPS (エレクトリックパワーステアリング)

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ アクティブトルクコントロール 4WD ★

通常走行からコーナリング時、登坂時、発進時、加速時や雪や雨などですべりやすい路面など様々な走行状態に応じて、FF (前輪駆動) 走行状態から 4WD (4輪駆動) 走行状態まで自動的に制御し、安定した操縦性・走行安定性の確保に貢献します。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ AVS (アダプティブバリアブル サスペンションシステム) ★

路面の状態や運転操作などに応じ、ショックアブソーバーの減衰力を4輪独立に制御することで、なめらかな乗り心地と優れた安定感の確保に貢献し、車両の姿勢維持に寄与します。

また、ドライブモードセレクトスイッチで走行モードを選択することで、減衰力を切りかえることができます。 (→P.229)

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

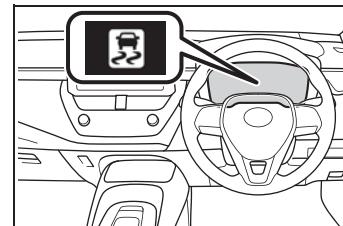
■ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

□ 知識

■ TRC・VSC が作動しているとき

TRC・VSC が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



■ TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がりせず、脱出が困難な場合があります。

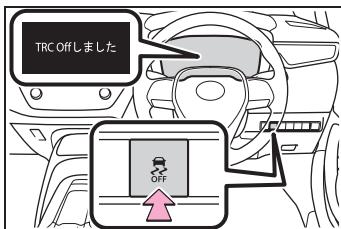
このようなときに  オフスイッチを押すこ

により、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには  OFF スイッチを押します。

マルチインフォメーションディスプレイに “TRC Off しました” と表示されます。

もう一度  OFF スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。



■ TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に

 OFF スイッチを押し 3 秒以上保持する

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに “TRC Off しました” と表示されます。*

もう一度  OFF スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

* PCS 装着車は、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
(→P.151)

■ OFF スイッチを押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに TRC OFF 表示がされたとき

TRC が一時的に作動できない状態になっています。表示が継続する場合はトヨタ販売店にご相談ください。

■ ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときにシステムが作動します。

- オートマチック車：シフトレバーの位置が P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）
- マニュアル車：前進での上り坂発進時にシフトレバーの位置が R 以外のとき、または後退での上り坂発進時にシフトレバーの位置が R のとき

■ 車両停止状態

- アクセルペダルを踏んでいない
- パーキングブレーキがかからっていない

■ ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- オートマチック車：シフトレバーを P または N の位置にした
- マニュアル車：前進での上り坂発進時にシフトレバーの位置を R にしたとき、または後退での上り坂発進時にシフトレバーの位置を R 以外にしたとき
- アクセルペダルを踏んだ
- パーキングブレーキをかけた
- ブレーキペダルから足を離して最大2秒経過した

■ ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

- エンジン始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジルームから作動音が聞こえることがあります、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

- ・車体やハンドルに振動を感じる
- ・車両停止後もモーター音が聞こえる
- ・ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
- ・ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■アクティブコーナリングアシストの作動音と振動

アクティブコーナリングアシストが作動したときに、ブレーキシステムから作動音や振動が発生することがありますが、異常ではありません。

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがあります、異常ではありません。

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、次のときはシステム作動可能状態にもどります。

- エンジンスイッチを OFF にしたとき
- (TRC のみを作動停止にしている場合) 車速が高くなったとき
ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■アクティブコーナリングアシストの作動条件

次のときシステムが作動します。

- TRC・VSC が作動可能状態
- 旋回中に加速しようとするとき
- 車両が外側に膨らんでいるとシステムにより判断された
- ブレーキを踏んでいない

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が

下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。
その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■セカンダリーコリジョンブレーキの作動条件

車速が約 10km/h 以上で、SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知したとき（車速が約 10km/h 未満では作動しません）

■セカンダリーコリジョンブレーキの自動解除

次のとき、自動的にセカンダリーコリジョンブレーキが解除されます。

- 車速が約 10km/h 未満になったとき
- 作動して一定時間経過したとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだとき

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

- 非常点滅灯が点滅していないこと
- 車速 55km/h 以上
- ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだとシステムにより判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- 非常点滅灯を点滅させた
- ブレーキペダルを離した
- 車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

⚠ 警告

■ ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロブレーニング現象が発生したとき

■ ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だらみなどの悪路を走行しているとき

■ TRCやVSCの効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ アクティブコーナリングアシストの効果を発揮できないとき

- アクティブコーナリングアシストを過信しないでください。下り坂での加速中やすべりやすい路面などでは、アクティブコーナリングアシストが効かないことがあります。

- アクティブコーナリングアシストが頻繁に作動したときは、ブレーキ・TRC・VSC を正常に機能させるために、アクティブコーナリングアシストが一時的に作動しないことがあります。

■ ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

- ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

- ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ スリップ表示灯が点滅しているときは

TRC・VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■ TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

⚠ 警告

■ セカンダリーコリジョンブレーキについて

セカンダリーコリジョンブレーキを過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ タイヤまたはホイールを交換するときは

4輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。
(→P.342)

異なるタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSCなど、運転を補助するシステムが正常に作動しません。

タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■ タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

■ アクティブラトルクコントロール4WDについて

● ラリー走行などが目的ではなく、一般道での走行安定性の確保を目的とした4WDですので、無理な走行はしないでください。

● すべりやすい路面での走行は慎重に行ってください。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える前の準備について

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル
 - ・ 冷却水
 - ・ ウオッシャー液
- バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を使用してください。
タイヤは4輪とも同一サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
(タイヤについて: →P.274)

□ 知識

■ タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 前2輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う
- 取り付け後約0.5~1.0km走行したら締め直しを行う

⚠ 警告

■ 冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず4輪とも装着する

■ タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは30km/hのどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ
- LTA（レントレーシングアシスト）★を使用しない
- LDA（レーンディパーチャーラート〔ステアリング制御機能付き〕）★を使用しない

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



■タイヤチェーンの使用について

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。

トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。

詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

□ 知識

■寒冷地用ワイパープレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパープレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のプレードをお求めください。

- 高速走行時は、通常のワイパープレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。



■ガラスに付いた氷を除去するとき

氷をたたいて割らないでください。ガラスがひび割れるおそれがあります。

運転するときは

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するときは

- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをオートマチック車はP、マニュアル車は下り坂ではR上り坂では1速に入れて駐車し、必ず輪止め^{※1}をしてください。
- 輪止めをしないと、車が動き思わず事故につながるおそれがあり危険です。

- オートマチック車:パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーをPに入れた状態でシフトレバーが動かないこと^{※2}を確認してください。

^{※1}輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

^{※2}ブレーキペダルを踏まないでPからシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロッ

クシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

5-1. エアコンとデフォッガーの使い方

オートエアコン 240

ステアリングヒーター／シートヒーター 246

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 248

5-3. 収納装備

収納装備一覧 250

ラゲージルーム内装備 253

5-4. その他の室内装備の使い方

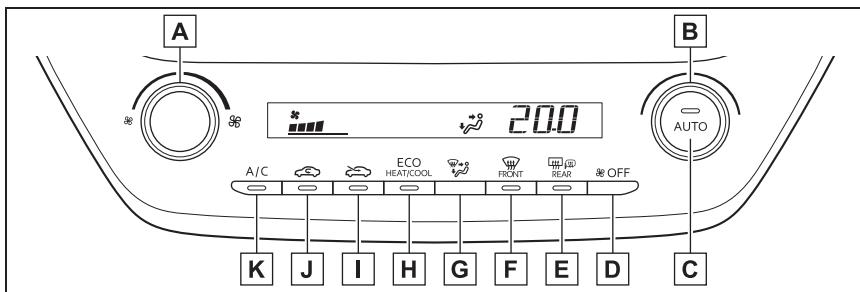
その他の室内装備 258

オートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

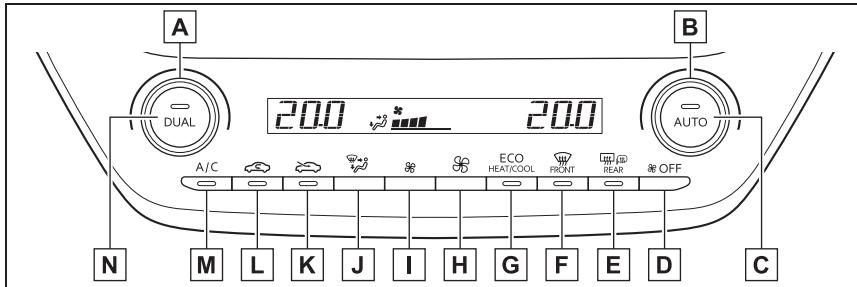
エアコン操作スイッチについて

▶ シングルエアコン



- A** 風量調整スイッチ
- B** 温度調整スイッチ
- C** AUTO スイッチ
- D** OFF スイッチ
- E** リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒータースイッチ
- F** フロントデフロスタースイッチ
- G** 吹き出し口切りかえスイッチ
- H** エコ空調スイッチ
- I** 外気導入スイッチ
- J** 内気循環スイッチ
- K** 冷房・除湿スイッチ

► デュアルエアコン



- A** 助手席側温度調整スイッチ
- B** 運転席側温度調整スイッチ
- C** AUTO スイッチ
- D** OFF スイッチ
- E** リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒータースイッチ
- F** フロントデフロスター スイッチ
- G** エコ空調スイッチ
- H** 風量増スイッチ
- I** 風量減スイッチ
- J** 吹き出し口切りかえスイッチ
- K** 外気導入スイッチ
- L** 内気循環スイッチ
- M** 冷房・除湿スイッチ
- N** DUAL スイッチ

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは温度調整スイッチを右へまわし、下げるときは左へまわす

冷房・除湿スイッチが押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。

■ 風量を切りかえる

► シングルエアコン

風量を増やすときは風量調整スイッチを右へまわし、減らすときは風量調整スイッチを左へまわす

OFFスイッチを押すと、ファンが止まります。

► デュアルエアコン

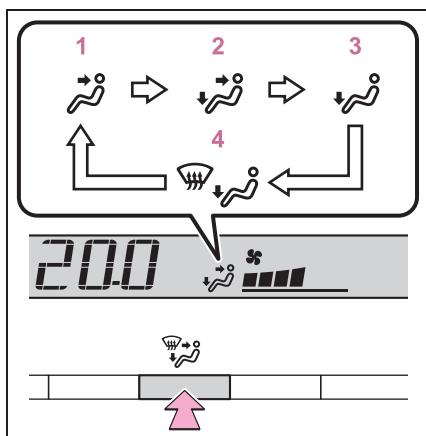
風量を増やすときは風量増スイッチを押し、減らすときは風量減スイッチを押す

OFFスイッチを押すと、ファンが止まります。

■ 吹き出し口を切りかえる

吹き出し口切りかえスイッチを押す

押すたびに次のように吹き出し口が切りかわります。



- 1 上半身に送風
- 2 上半身と足元に送風
- 3 足元に送風
- 4 足元に送風・フロントウインドウガラスの曇りを取る

■ 内気循環／外気導入を切りかえる

- 内気循環に切りかえるときは、内気循環スイッチを押す

内気循環スイッチの作動表示灯が点灯します。

- 外気導入に切りかえるときは、外気導入スイッチを押す

外気導入スイッチの作動表示灯が点灯します。

■ 冷房・除湿機能

冷房・除湿スイッチを押す

ONのときは、作動表示灯が点灯します。

■ フロントウインドウガラスの曇りを取り

フロントデフロスタースイッチを押す

冷房・除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環している場合は、外気導入してください。(自動的に外気導入に切りかわることがあります。)

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度フロントデフロスタースイッチを押すと前のモードにもどります。

フロントデフロスタースイッチが ON のときは、作動表示灯が点灯します。

■ リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用してください。

リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒータースイッチを押す

リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒータースイッチが ON のときは、作動表示灯が点灯します。

リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターは、しばらくすると自動的に OFF になります。

■ エコ空調モード

燃費を優先するため冷房／暖房の効きを抑えます。

エコ空調スイッチを押す

エコ空調モードが ON のときは、作動表示灯が点灯します。

□ 知識

■ ガラスの曇りについて

● 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、冷房・除湿機能を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

● 冷房・除湿機能を ON から OFF にする

と、ガラスが曇りやすくなります。

- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■外気導入・内気循環について

●トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

●設定温度や室内温度により、自動的に切りかわる場合があります。

■エコ空調モード

ドライブモードセレクトスイッチのエコドライブモードを選択すると、エコ空調モードがONになります。（→P.229）

エコドライブモード以外を選択したときは、エコ空調モードがOFFになる場合があります。

■エコドライブモードのエアコン作動について

●エコドライブモードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。

- ・エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房／冷房の能力を抑制します。
- ・オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。

●空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。

・エコ空調モードをOFFにする（→P.242）

・風量を調整する

・エコドライブモードを解除する（→P.229）

■外気温度が0°C近くまで下がったとき
冷房・除湿機能をONにしても冷房・除湿機能が動かない場合があります。

■換気とエアコンの臭いについて

- 車室外の空気を車室内に取り入れたい

ときは、外気導入にしてください。

●エアコン使用中に、車内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出入口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

●駐車時に自動的に外気導入に切りかえることにより駐車中の換気をうながし、始動時に発生するにおいを緩和します。

■エアコンフィルターについて

→P.278

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.344）

⚠ 警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、フロントデフロスター・スイッチを押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

■リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター作動中の警告

ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

⚠ 注意

■ バッテリーあがりを防ぐために
エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

オート設定で使用する

- 1 AUTO スイッチを押す
- 2 温度を設定する
- 3 冷房・除湿スイッチを押す
押すたびに冷房・除湿機能の ON/OFF が切りかわります。
- 4 ファンを止めたいときは、OFF スイッチを押す

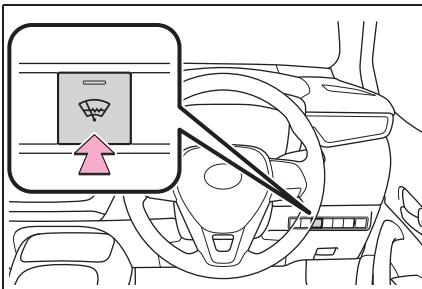
風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

□ 知識

■ オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTO スイッチを押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

フロントワイパーデアイサー★



フロントウインドウガラスとワイ

パー ブレードの凍結を防ぐために使用ください。

フロントワイパーデアイサーが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

フロントワイパーデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■ ウィンドシールドデアイサー作動中の警告

フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっています。やけどをするおそれがあるので、お手を離してください。

運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（左右独立モード）★

次のいずれかの操作をすると、左右独立モードが ON になります。

- DUAL スイッチを押す
- 助手席の設定温度を変更する

左右独立モードになり作動表示灯が点灯します。

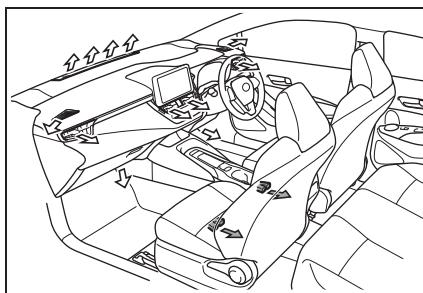
作動表示灯が点灯しているときに DUAL スイッチを押すと、左右独立モードが OFF になり、助手席の設定温度が運転席と同じ設定温度になります。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

吹き出し口の配置・操作

■ 吹き出し口の位置

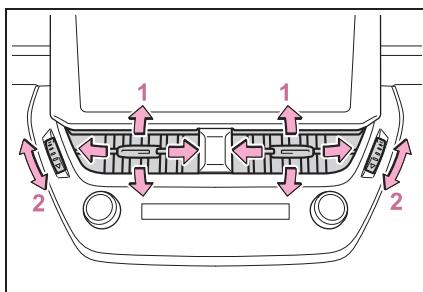
吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。



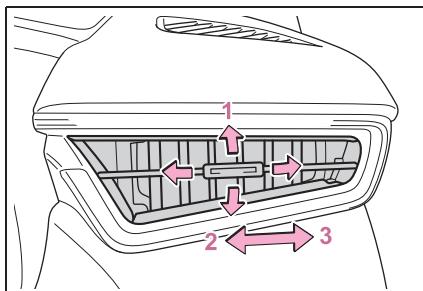
← : 仕様により設定の有無あり

■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ センター

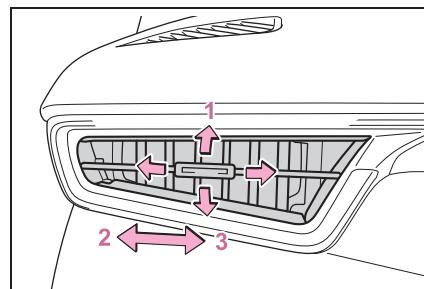


1 風向きを調整する
2 吹き出し口を開閉する
▶ 運転席サイド



1 風向きを調整する
2 吹き出し口を開ける
3 吹き出し口を閉じる

▶ 助手席サイド

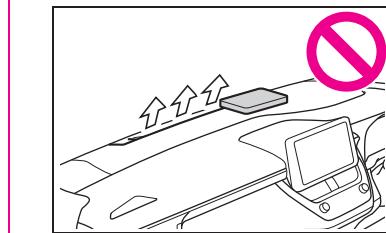


1 風向きを調整する
2 吹き出し口を閉じる
3 吹き出し口を開ける

⚠ 警告

■ フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために

フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなることがあります。



ステアリングヒーター★／シートヒーター★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● ステアリングヒーター

ハンドルのグリップ部を暖めることができます。

● シートヒーター

シートの表面を暖めることができます。



警告

■ 低温やけどについて

次の方がステアリングヒーター／シートヒーターにふれないようにご注意ください。

- 乳幼児、お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬・風邪薬など）を服用された方



注意

■ シートヒーターの損傷を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■ バッテリーあがりを防ぐために

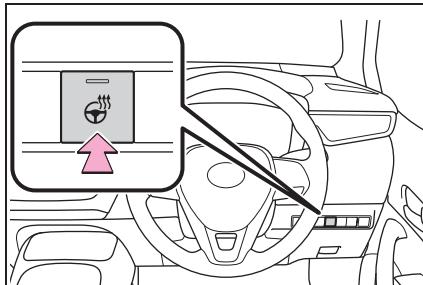
エンジンが停止した状態で使用しないでください。

操作スイッチについて

■ ステアリングヒーター

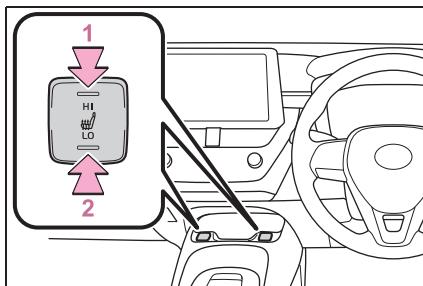
システムの ON / OFF を切りかえる

作動中は作動表示灯が点灯します。



■ シートヒーター

スイッチを押してシートヒーターを作動させる



1 HI (強)

2 LO (弱)

作動中は作動表示灯が点灯します。

作動を停止するときは、押した側と反対側のスイッチを軽く押してください。スイッチが中立の位置にもどり、作動表示灯が消灯します。



知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

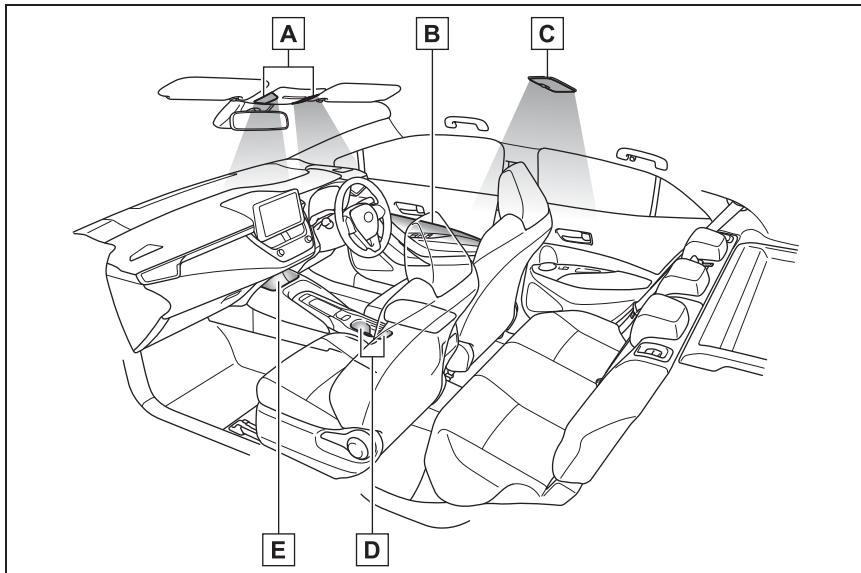
 **警告****■異常加熱や低温やけどを防ぐために**

シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。

- 長時間連続使用しないでください。
- 毛布・クッションなどを使用しないでください。

室内灯一覧

室内灯の位置



A フロントインテリア／パーソナルランプ (→P.248,249)

B ドアトリム照明★

C リヤインテリアランプ (→P.249)

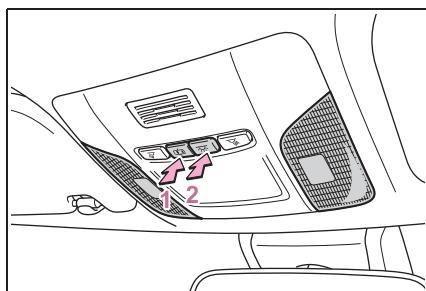
D カップホルダ照明★

E センタートレイ照明★

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

インテリアランプを操作するには

■ フロント

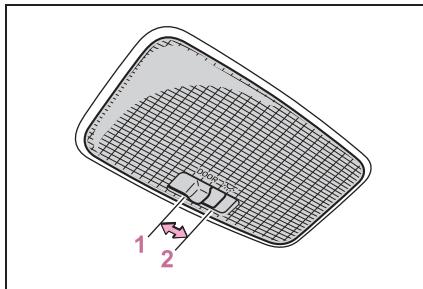


1 ドアの開閉に連動してランプの

点灯・消灯を切りかえる

2 ランプを点灯・消灯する

■ リヤ

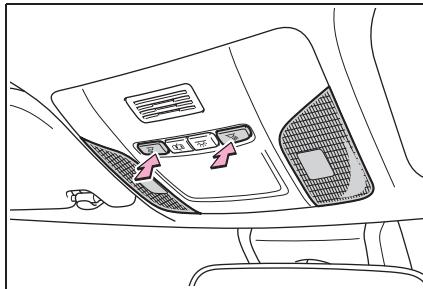


1 ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯を切りかえる

フロントインテリアランプに連動して作動し、スイッチ状態が OFF のときはランプが点灯しません。

2 ランプを点灯する

パーソナルランプを操作するには



ランプを点灯・消灯する

□ 知識

■ イルミネーテッドエントリーシステム

電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・エンジンスイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジンスイッチを OFF にしたときに、室内灯が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

■ SRS エアバッグが作動すると

SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、室内灯が約 20 分間自動で点灯します。

手動操作で消灯することもできますが、2 次災害を防ぐため、安全が確保できるまでは消灯しないことをおすすめします。(衝撃の度合いや事故の状況によっては点灯しないことがあります。)

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。 (→P.344)

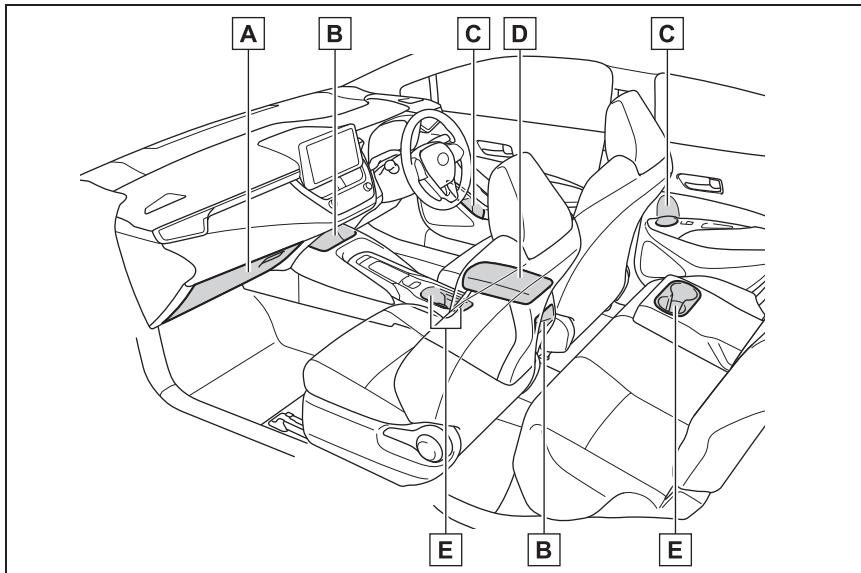
⚠ 注意

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

収納装備一覧

収納装備の位置



- A** グローブボックス (→P.251)
- B** オープントレイ (→P.252)
- C** ボトルホルダー (→P.251)
- D** コンソールボックス (→P.252)
- E** カップホルダー (→P.251)

⚠ 警告

■ 収納装備に放置してはいけないもの

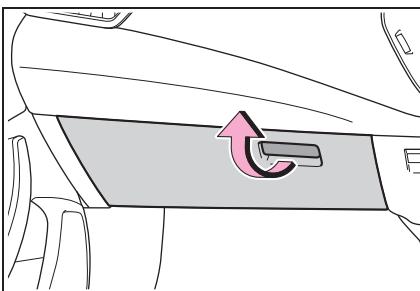
メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。

放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす

- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

グローブボックス

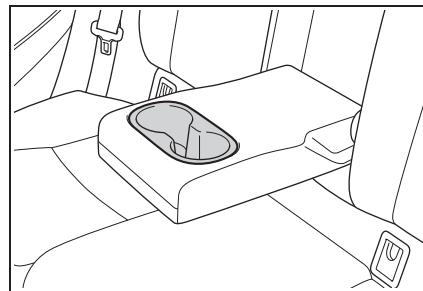


レバーを引いて開ける

!**警告**

■走行中の警告

グローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



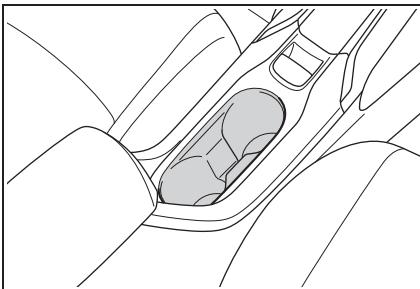
!**警告**

■収納してはいけないもの

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

カップホルダー

▶ フロント

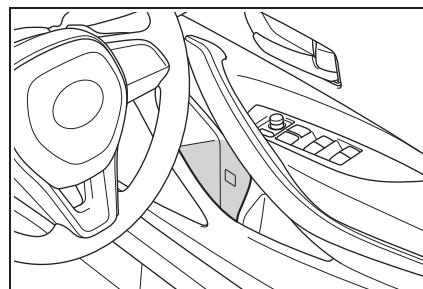


▶ リヤ

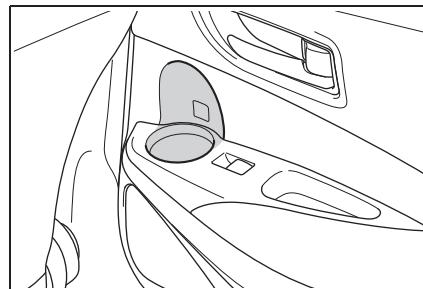
アームレストを手前に倒す

ボトルホルダー

▶ フロント



▶ リヤ



知識

■ ボトルホルダーについて

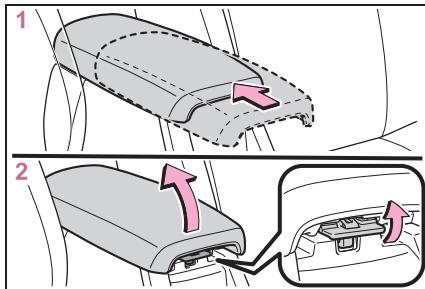
- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

⚠ 警告

■ 収納してはいけないもの

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。
ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

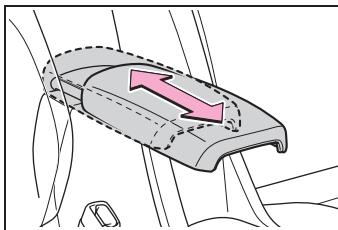
コンソールボックス



- 1 ふたをいちばんうしろまでスライドさせる（スライド機能装着車）
- 2 レバーを引いてふたを開ける

知識

■ スライド機能について（スライド機能装着車）



ふたを前後にスライドすることができます。

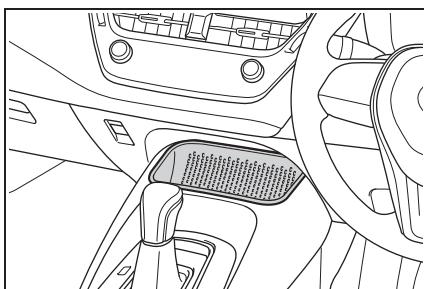
⚠ 警告

■ 走行中の警告

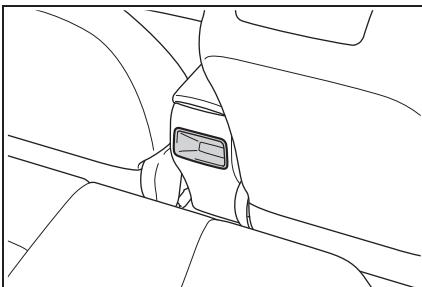
コンソールボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

オープントレイ

▶ フロント



▶ リヤ



⚠ 警告

■ 走行中の警告

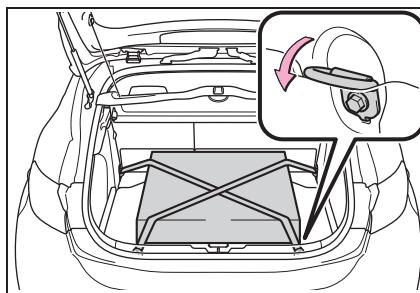
オープントレイにものを置くときは、次の注意事項を守ってください。
急ブレーキや急ハンドル時などに収納していたものが飛び出し、ペダル操作のさまたげとなるおそれがあるほか、運転者の注意力がにぶり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 転がりやすいものや凹面より高さがあるものを置かないでください。
- トレイの端よりも高くものを積み重ねないでください。
- トレイの端からはみ出してものを置かないでください。

ラゲージルーム内装備

デッキフック

フックを使って荷物を固定することができます。

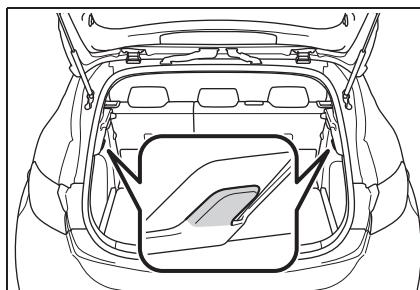


⚠ 警告

■ デッキフックを使用しないときは

必ずデッキフックをもとの位置にもどしておいてください。

買い物フック



⚠ 警告

■ 買い物フックの破損を防ぐために

2kg以上のものを買い物フックに吊り下げないでください。

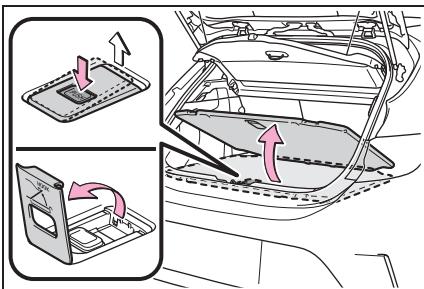
デッキボード★

★: グレード、オプションなどにより、

装備の有無があります。

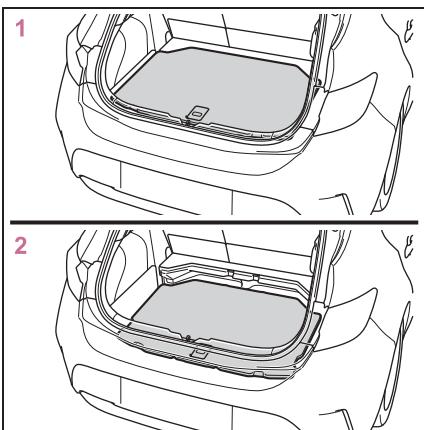
■ デッキボードの開け方

ボタンを押してハンドルを立て、デッキボードを持ち上げる



■ 荷室床面の高さを調節する（アジャスタブルデッキボード装着車）

デッキボードのセット位置を変更することで、床面の高さを調節できます。



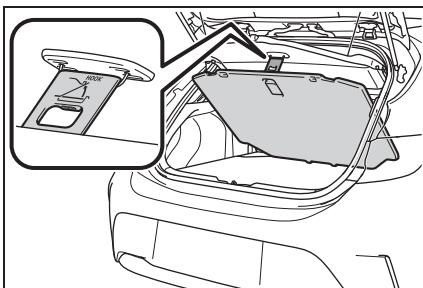
1 上段

2 下段

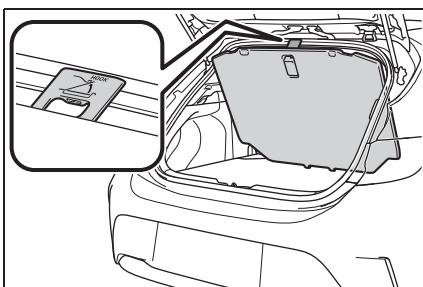
■ デッキボードを固定する（上段時）

▶ パッケージトレイ未収納時
デッキボードのハンドルをパッ

ケージトレイのフックに引っかけて固定する



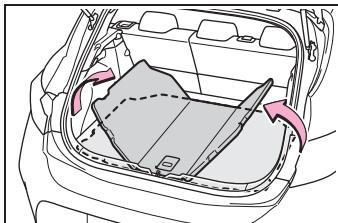
▶ パッケージトレイ収納時
デッキボードのハンドルをバックドア開口部の上端に引っかけて固定する



□ 知識

■ アジャスタブルデッキボードについて

アジャスタブルデッキボードは左右から開くことができます。

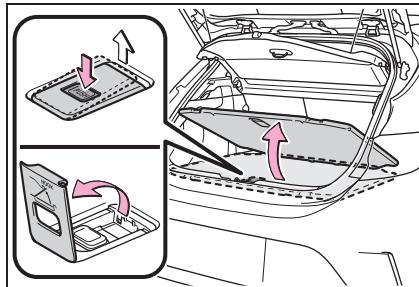


⚠ 警告

■ アジャスタブルデッキボードを操作するときは

荷物を載せた状態で操作しないでください。

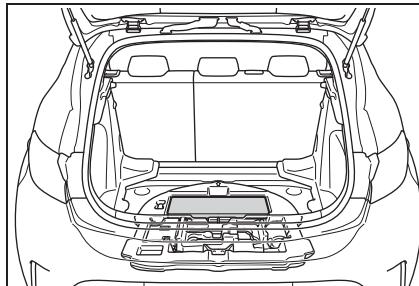
指をはさむなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。



⚠ 注意

■ デッキボードを固定しているときは

デッキボードのハンドルをパッケージトレイ及び、バックドア開口部に引っかけたままバックドアを閉めないでください。内装部品が破損する恐れがあります。

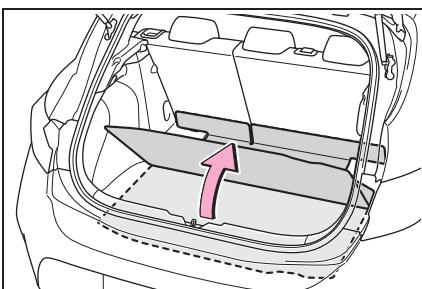


ラゲージアンダートレイ★

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ アジャスタブルデッキボード非装着車

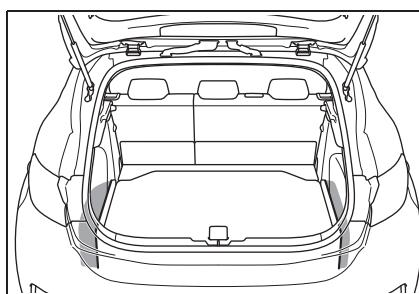
デッキマットを持ち上げる



▶ アジャスタブルデッキボード装着車

ボタンを押してハンドルを立て、デッキボードを持ち上げる

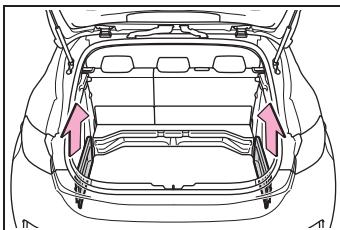
ラゲージサイドトレイ（デッキボード装着車）



□ 知識

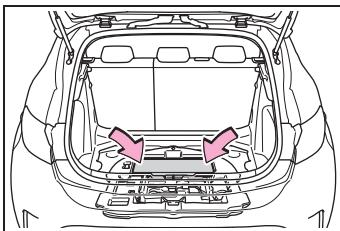
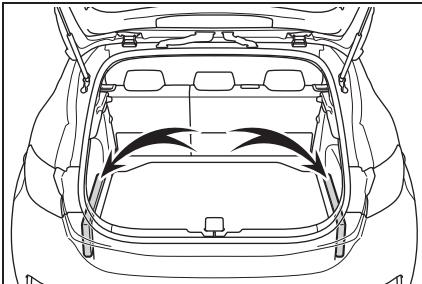
■ ラゲージサイドトレイのセパレーターについて（アジャスタブルデッキボード装着車）

● アジャスタブルデッキボードを下段の位置で使用するときは、セパレーターを取りはずして使用することができます。

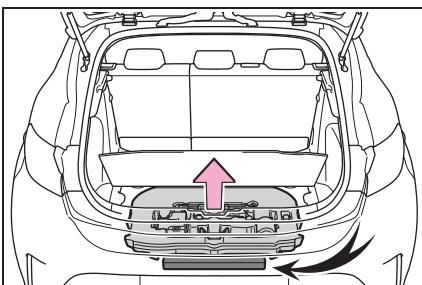


●取り外したセパレーターは、ラゲージアンダートレイに収納することができます。

▶ タイプ B



▶ タイプ C

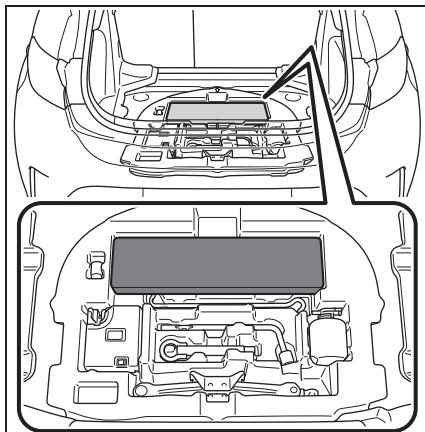


停止表示板収納スペース

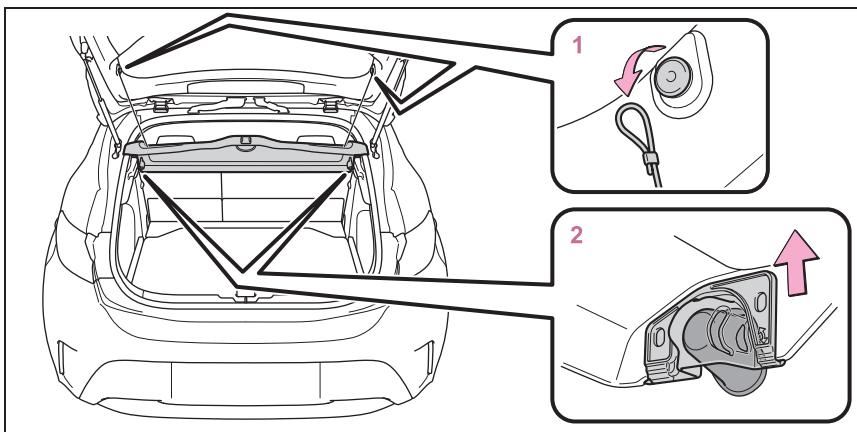
ラゲージルームに停止表示板を収納することができます。

停止表示板のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

▶ タイプ A



パッケージトレイの取りはずし

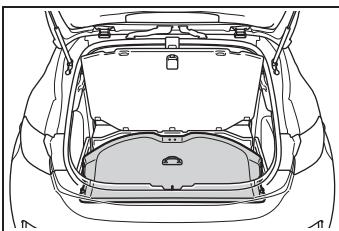


- 1 止めヒモを左右のフックからはずす
- 2 トレイを取りはずす

□ 知識

■取りはずしたパッケージトレイの収納について（アジャスタブルデッキボード装着車）

アジャスタブルデッキボードを上段の位置で使用することで、パッケージトレイを床下に収納することができます。

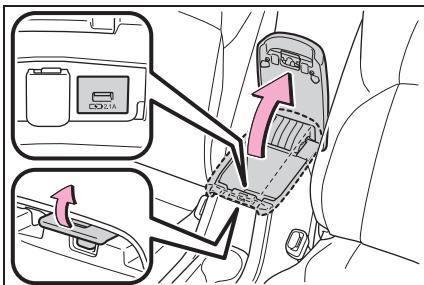


その他の室内装備

充電用 USB 端子

DC5V/2.1A (消費電力 10.5W) の電源としてお使いください。この USB 端子は充電専用でありデータ転送などは行えません。また、使用する機器によっては、正常に充電できない場合があります。ご使用になる機器に付属の取扱説明書もお読みください。

■ 充電用 USB 端子を使用するには フタを開けて使用する



□ 知識

■ 充電用 USB 端子の作動条件

エンジンスイッチが ACC または ON のとき

■ 充電用 USB 端子が正常に働かないおそれのある状況

- DC5V/2.1A (消費電力 10.5W) をこえる電力を要求する機器を接続したとき
- パソコンと通信を行う機器を接続したとき
- 接続機器の電源が OFF のとき (機器により異なります)
- 炎天下に駐車したあとなど、車室内の温度が高いとき

■ 使用する外部機器について

一部の機器では、充電中に充電がいったん停止後、再充電を開始する場合がありますが、故障ではありません。

⚠ 注意

■ 充電用 USB 端子の損傷を防ぐために

- 端子部に異物を入れないでください。
- 水や液体をかけないでください。
- 強い力や衝撃を加えないでください。
- 分解や改造、取りはずしをしないでください。

■ 外部機器の損傷を防ぐために

- 機器を車室内に放置しないでください。車室内が高温となり、故障の原因となります。
- 機器が接続されているときに、外部機器や外部機器のケーブルを押し下げたり、不要な力を加えたりしないでください。

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、充電用 USB 端子を長時間使用しないでください。

■ おくだけ充電 (ワイヤレス充電器) ★を使うには

■ 「Qi」マークについて

「Qi」、Qi マークは、ワイヤレスパワーコンソーシアム (WPC) の登録商標です。



★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

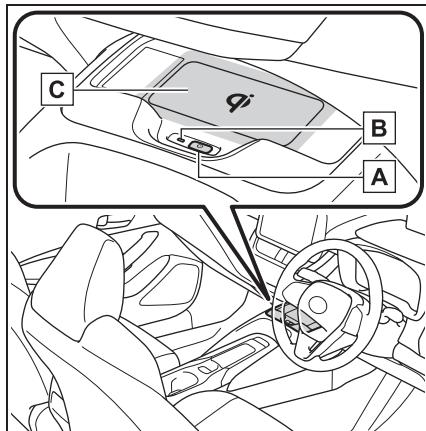
ワイヤレスパワーコンソーシアム

(WPC) によるワイヤレス充電規格 Qi に適合したスマートフォンやモバイルバッテリーなどの携帯機器を充電エリアに置くだけで、携帯機器を充電することができます。

充電エリアより大きい携帯機器には本機能を使用できません。また、携帯機器によっては、正常に作動しない場合があります。

ご使用になる携帯機器に付属の取扱説明書もお読みください。

■ 各部の名称



A 電源スイッチ

B 作動表示灯

C 充電エリア

■ 充電する

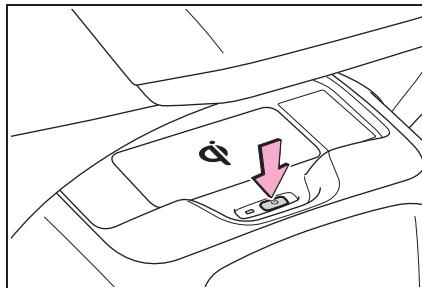
1 電源スイッチを押す

押すごとに ON と OFF が切りかわります。

ON にすると作動表示灯が緑色に点灯します。

ワイヤレス充電器の電源の状態 (ON / OFF) はエンジンスイッチを OFF にし

ても記憶されます。



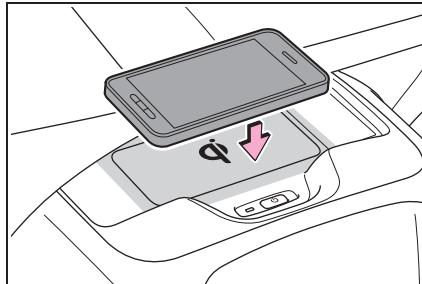
2 充電エリアに携帯機器を置く

携帯機器の充電面が下になるように置いてください。

充電中は作動表示灯が橙色に点灯します。

充電が行われないときは、できるだけ充電エリアの中央付近に携帯機器を置き直してください。

充電が完了すると作動表示灯が緑色に点灯します。



■ 再充電機能

● 充電が完了し、充電停止状態が一定時間経過すると充電を再開します。

● 携帯機器が移動すると、いったん充電が停止しますが、ただちに充電を再開します。

■ 作動表示灯の点灯状況

作動表示灯	状況
消灯	ワイヤレス充電器の電源が OFF のとき
緑（点灯）	待機中（充電可能状態）
	充電完了時 *
橙（点灯）	充電エリアに携帯機器を置いたとき（携帯機器を検出中）
	充電中

* 携帯機器によっては、充電完了後も表示灯が橙色に点灯し続ける場合があります。

■ 作動表示灯が点滅したときは

エラーが発生した場合の作動表示灯の状況と、想定される原因の対処方法は次の通りです。

- 1秒間に1回の点滅をくり返す（橙色）

想定される原因	対処方法
車両とワイヤレス充電器の通信不良	トヨタ販売店へお問い合わせください。

- 3回連続の点滅をくり返す（橙色）

想定される原因	対処方法
異物検知：携帯機器と充電エリアの間に異物がある	携帯機器と充電エリアのあいだにある異物を取り除いてください。
携帯機器のずれ：置かれた場所から携帯機器がずれている	携帯機器を充電エリアの中央付近に置き直してください。

- 4回連続の点滅をくり返す（橙色）

想定される原因	対処方法
ワイヤレス充電器内の温度上昇	いったん充電を停止し、しばらく待ってから充電を開始してください。

□ 知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのとき

■ 使用できる携帯機器について

- ワイヤレス充電規格 Qi 準拠機器を使用できます。ただし、すべての Qi 準拠機器と互換性を保証しているものではありません。

- 携帯電話やスマートフォンをはじめとする携帯機器を対象とした 5W 以下の低電力給電を対象としています。

■ 携帯機器にカバーやアクセサリーを付けるときは

携帯機器に、「Qi」非対応のカバーやアクセサリーを付けた状態で充電しないでください。カバーやアクセサリーの種類によっては充電できない場合があります。充電エリアに携帯機器を置いても充電が

行われないときは、カバーやアクセサリーをはずしてください。

■充電中に、AMラジオにノイズが入るときは

ワイヤレス充電器の電源をOFFにして、ノイズが低減するか確認してください。ノイズが低減する場合は、充電中にワイヤレス充電器の電源スイッチを約2秒間押し続けることで、充電の周波数を切りかえてノイズを低減することができます。また、その際、作動表示灯が橙色に2回点滅します。

■充電についての留意事項

- 車室内で電子キーを検出できない場合は、充電することができません。ドアの開閉時は、一時的に充電が停止することがあります。

- 充電中は、ワイヤレス充電器と携帯機器が温かくなりますが、異常ではありません。充電中に携帯機器が温かくなったときは、携帯機器側の保護機能により、充電が停止することがあります。この場合、携帯機器の温度が十分に下がってから、再度、充電を行ってください。

■作動中の音について

電源スイッチを押して電源をONにしたときや、携帯機器を検出中は“ジー”と作動音がしますが、異常ではありません。

■清掃について

→P.268



■運転中の注意

携帯機器を充電する場合、安全のため、運転者は運転中に携帯機器本体の操作をしないでください。

■電波がおよぼす影響について

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器などの医療用電気機器を装着されている方は、ワイヤレス充電器のご使用にあたっては医師とよくご相談ください。ワイヤレス充電器の動作が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。

■故障ややけどを防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと装置の故障や損傷、発火、発熱によるやけどにつながるおそれがあります。

- 充電中に、充電エリアと携帯機器のあいだに金属物を挟まない
- 充電エリアや携帯機器にアルミなどのシールや金属製のものを貼り付けてない
- 布などをかぶせて充電しない
- 指定された携帯機器以外は充電しない
- 分解や改造、取りはずしをしない
- 強い力や衝撃をかけない



■機能が正常に働かないおそれのある状況

次のような場合は正常に充電しない場合があります。

- 携帯機器が満充電
- 充電エリアと携帯機器のあいだに異物がある
- 充電により、携帯機器の温度が高温になっている
- 携帯機器の充電面を上にして置いた

⚠ 注意

- 携帯機器の置き場所が充電エリアからずれている
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 携帯機器が、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・ アルミ箔を使用したタバコの箱
 - ・ 金属製の財布やかばん
 - ・ 小銭
 - ・ カイロ
 - ・ CD や DVD などのメディア
- 近くで電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

また、上記以外で、充電が正常に行われない、または、作動表示灯が点滅したままのときは、ワイヤレス充電器の異常が考えられます。トヨタ販売店へお問い合わせください。

■ 故障やデータ破損を防止するために

- 充電中に、充電エリアにクレジットカード・ETC カードなどの磁気カードや磁気記録メディアなどを近付けると、磁気の影響によりデータが消えるおそれがあります。また、腕時計などの精密機器を近付けると、こわれたりするおそれがありますので、近付けないでください。
- 携帯機器は車室内に放置しないでください。炎天下など車室内が高温となり、故障の原因となります。

■ バッテリーあがりを防止するために

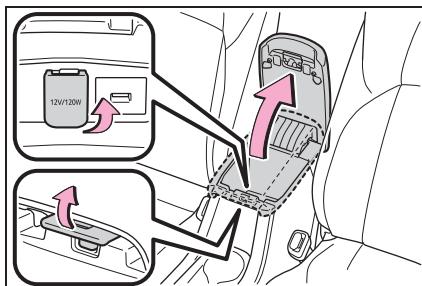
エンジンを停止した状態で、ワイヤレス充電器を長時間使用しないでください。

■ アクセサリーソケットを使うには

DC12V/10A (消費電力 120W)

未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

フタを開けて使用する



□ 知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが ACC または ON のとき

■ エンジンスイッチを OFF にするとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。接続したままにしておくと、エンジンスイッチを正常に OFF することができなくなる場合があります。

⚠ 注意

■ ヒューズが切れるのを防ぐために

DC12V/10A (消費電力 120W) 以上の電気製品を使用しないでください。

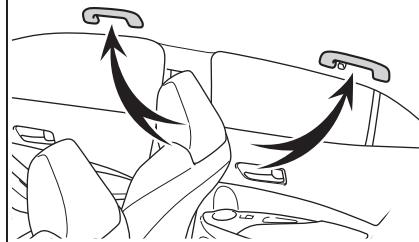
⚠ 注意

■ ショートや故障を防ぐために

ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかってたりしないように、使用しないときはフタを閉めておいてください。

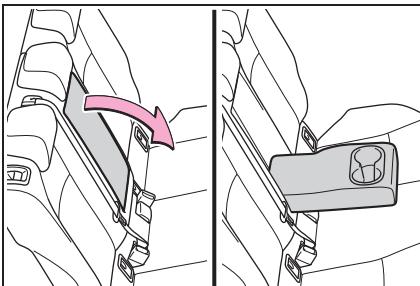
■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止した状態でアクセサリーソケットを長時間使用しないでください。



リヤアームレスト

手前に倒して使用します。



⚠ 注意

■ アームレストの破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

⚠ 警告

■ アシストグリップについて

アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

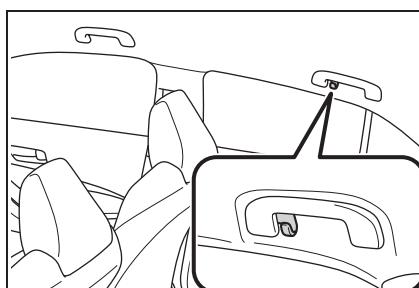
⚠ 注意

■ 破損を防ぐために

アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。

コートフックを使うには

コートフックは、リヤのアシストグリップに付いています。



アシストグリップ

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。

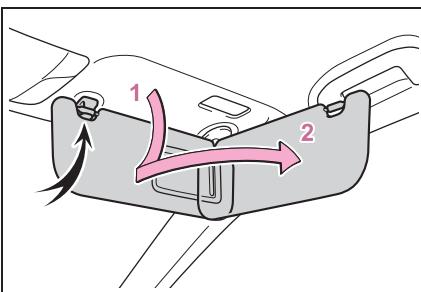
⚠ 警告

■コートフックへかけてはいけないもの

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。

SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

サンバイザーを使うには



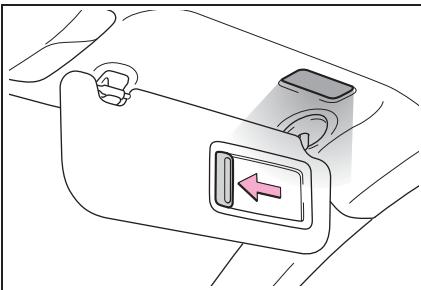
1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

バニティミラーを使うには

カバーをスライドして開ける

ランプが点灯します。



□ 知識

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンスイッチが OFF の場合、バニティランプが点灯したままのときは約 20 分後に自動消灯します。

⚠ 注意

■使用しないときは

バニティミラーを必ず閉じてください。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止した状態で長時間ランプを点灯しないでください。

お手入れのしかた

6

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ	266
内装の手入れ	268

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	271
ガレージジャッキ	272
ウォッシャー液の補充	273
タイヤについて	274
タイヤ空気圧について	277
エアコンフィルターの交換	278
電子キーの電池交換	279
ヒューズの点検・交換	281
電球(バルブ)の交換	283

外装の手入れ

お手入れは、部位や素材にあつた適切な方法で実施してください。

手入れの作業要領

- 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックス掛けを行う

ボディの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■自動洗車機を使うとき

- ドアミラーを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。

● 洗車機によっては、リヤスポイラーが引っかかり洗車できない場合や、傷付いたり破損したりするおそれがあります。

■高圧洗浄機を使うとき

室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

■洗車などで車に水をかけたとき

キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

- 電子キーを車両から2m以上離れた場所に保管する（電子キーの盗難に注意してください）
- 電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→P.86）

■ホイール・ホイールキャップについて

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落してください。
- 洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。
- 塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
 - ・ 酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
 - ・ 硬いブラシを使用しない
 - ・ 夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■フロントドアガラスの撥水コーティングについて

- 撥水効果を長持ちさせるため、次のこととに注意してください。
 - ・ フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
 - ・ 汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
 - ・ コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
 - ・ 金属製の道具で霜取りをしない
- 水滴のはじきが悪くなったときは補修することができます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

■メッキ部品のお手入れについて

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

- 中性洗剤を水で約5%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る
- 油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る

▲ 警告

■洗車をするとき

エンジンルーム内に水をかけないでください。

電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあります。

■ブラインドスポットモニター★について

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

リヤバンパーの塗装に傷がつくと、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。トヨタ販売店にご相談ください。

▲ 注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

- 次のような場合は、ただちに洗車してください。
 - ・ 海岸地帯を走行したあと
 - ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・ コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ・ ほこり・泥などで激しく汚れたとき
 - ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。
- ランプの清掃
 - ・ 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ランプを損傷させるおそれがあります。
 - ・ ランプにワックス掛けを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。



注意

■ 高圧洗浄機を使用するときは

- 洗浄時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。
高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近づけすぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。
- ・ 駆動系部品
- ・ ステアリング部品
- ・ サスペンション部品
- ・ ブレーキ部品
- モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を30cm以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。
- フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。

内装の手入れ

お手入れは、部位や素材に合った適切な方法で実施してください。

■ 室内の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る



知識

■ カーペットの洗浄について

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーをご利用になります。スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■ シートベルトの取り扱いについて

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

⚠ 警告

■車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあります。
- SRSエアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。
(→P.26)
電気の不具合により、SRSエアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■清掃するとき使用する溶剤について

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
 - ・シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
 - ・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール、他の酸性やアルカリ性の溶剤

- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。
インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボーダーが錆びるおそれがあります。

■フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。
また、レンズにはふれないでください。
(→P.141)

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

●熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

- 熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■サテン仕上げ金属コーティング部分の手入れをするには

- 水で湿らせたやわらかい布または合成セーム皮で汚れをふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面に残った水分を完全にふき取る

□ 知識

■ サテン仕上げ金属コーティング部分のお手入れについて

表面に本物の金属層を使用していますので、普段のお手入れが大切です。汚れたまま長い間放置すると、汚れが落ちにくくなります。

- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■ 本革部分の手入れをするには

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- 薄めた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

■ 合成皮革部分の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

□ 知識

■ 本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に2回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

⚠ 注意

■ 革の傷みを避けるために

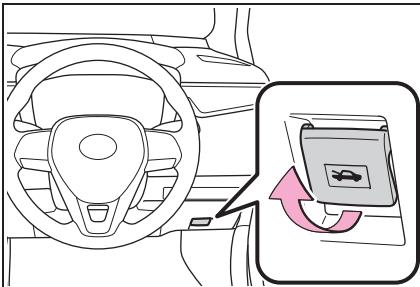
皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く
- 直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する

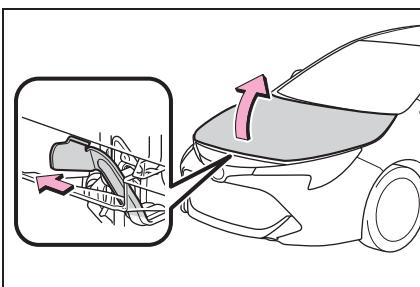
ボンネット

ボンネットを開けるには

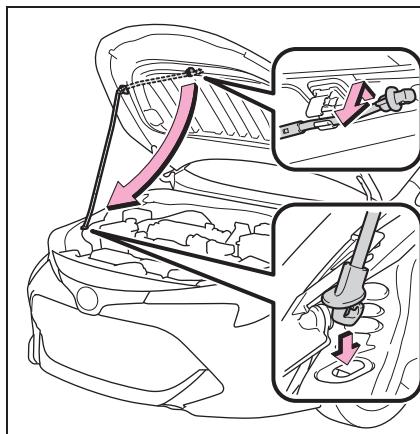
1 ボンネット解除レバーを引く
ボンネットが少し浮き上がります。



2 レバーを左方向に押して、ボンネットを開ける



3 ボンネットステーをステー穴に差し込む

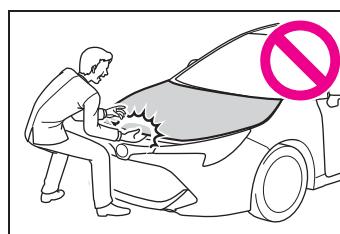


警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりとロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ボンネットを閉めるとき



手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■ エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあります。

■ ボンネットステーをステー穴に差し込んだあとは

ボンネットが頭や体の上に落ちてこないように、正しく差し込まれているか確認してください。

⚠ 注意

■ ボンネットへの損傷を防ぐために

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

■ ボンネットを閉めるときは

ボンネットステーを取りはずし、クリップに正しくもどしてください。ボンネットステーが差し込まれた状態で閉めると、ボンネットが損傷するおそれがあります。

ガレージジャッキ

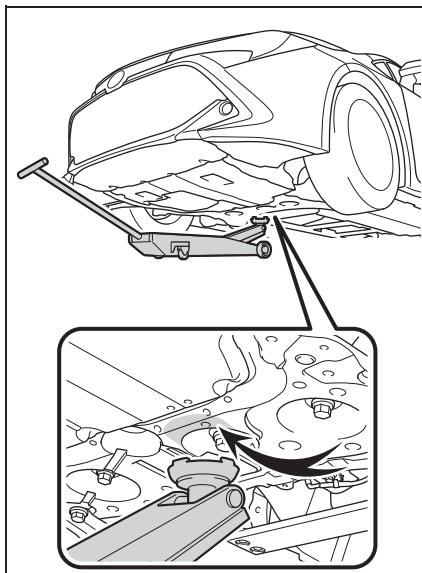
ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。

正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

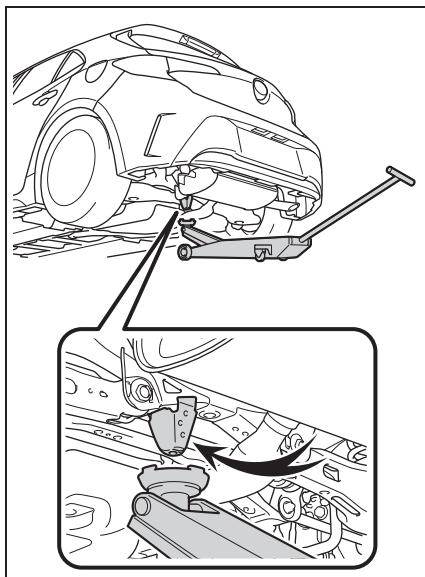
ジャッキポイントの位置を確認する

■ フロント側

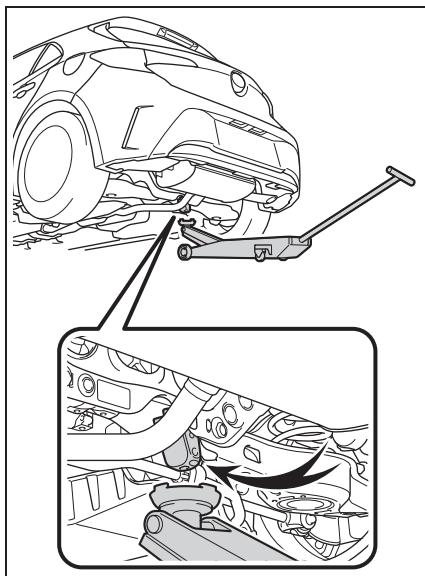


■ リヤ側

▶ FF 車



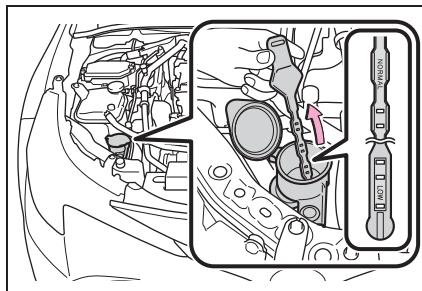
▶ 4WD 車



ウォッシャー液の補充

補充をするには

液面が LOW の位置に近づいたら
ウォッシャー液を補給してください。

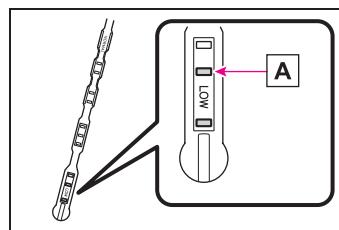


□ 知識

■ ゲージの使い方

ウォッシャー液の膜が張っているゲージの穴部の位置を確認して、ウォッシャー液の残量を判断します。

残量がゲージの先端から 2 つめの穴部より下まわった (LOW の位置まで低下した) ら、ウォッシャー液を補給してください。



■ A 現在の液量

⚠ 警告

■ ウオッシャー液を補充するとき

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。

ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ ウオッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ ウオッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を5,000kmごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

● タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

● タイヤの亀裂・損傷の有無

● タイヤの溝の深さ

● タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

□ 知識

■ タイヤ空気圧について

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

▶ 195/65R15 91H

前輪：250kPa (2.5kg/cm²) *

後輪：240kPa (2.4kg/cm²) *

▶ 205/55R16 91V

前輪：250kPa (2.5kg/cm²) ※後輪：240kPa (2.4kg/cm²) ※

▶ 225/40R18 88W

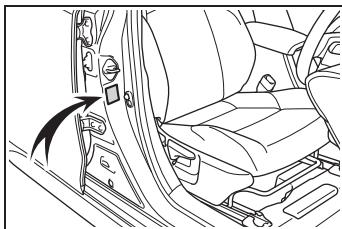
前輪：230kPa (2.3kg/cm²) ※後輪：210kPa (2.1kg/cm²) ※

▶ 応急用タイヤ★

420kPa (4.2kg/cm²) ※

※ タイヤが冷えているときの空気圧

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■ 低偏平タイヤについて (225/40R18 88W 装着車)

雪道や凍結路では、普通のタイヤとくらべてグリップ力が低下します。冬用タイヤを使用し、道路状態に応じた速度で注意深く運転するようにしてください。

■ 低偏平タイヤの空気圧点検
(225/40R18 88W 装着車)

低偏平タイヤは、走行性能を優先したタイヤです。特に空気圧は定期的に点検してください。2週間に1回（最低でも1ヶ月に1回）、または長距離ドライブの前には、必ず空気圧を点検してください。

■ タイヤのバルブについて

タイヤを交換するときは、バルブに変形・亀裂・損傷がないか点検してください。



■ 点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない
- 他の車両で使用していたタイヤを使用しない
以前どのように使用されていたか不明なタイヤは使用しない

■ 異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

⚠ 警告

■ タイヤ交換時の注意

- 必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。P.322
テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しそれぞれ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります
- ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。
またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。
オイルやグリースがねじ部についている場合はふき取ってください。

■ 異常があるホイールの使用禁止（アルミホイール装着車）

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。
走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ 低偏平タイヤについて (225/40R18 88W 装着車)

低偏平タイヤのホイールは、路面から衝撃を受けたとき、ホイールに通常より大きなダメージを与えることがあります。そのため次のことに注意してください。

- 適切なタイヤ空気圧で使用する
空気圧が低すぎると簡単に損傷することがあります。

● 段差や凹凸のある路面、路上に空いた穴、平らでない舗道・縁石や他の障害物を避ける
タイヤおよびホイールがひどく損傷することがあります。

■ 走行中に空気もれが起こったら

走行を続けれでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

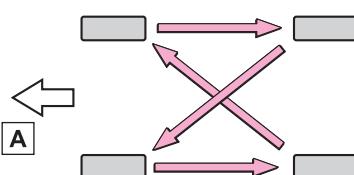
■ 悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤローテーションをするには

図で示すようにタイヤのローテーションを行います。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。



A 前側

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に1回以上実施してください。低偏平タイヤの場合、2週間に1回、または長距離ドライブの前には必ず空気圧を点検してください。（→P.342）

□ 知識

■ タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■ タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

⚠ 警告

■ タイヤの性能を発揮するために

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだから空気漏れ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
(路上障害物、道路のつなぎ目や段差など)

⚠ 注意

■ タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

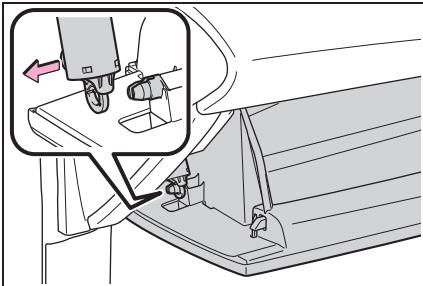
バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

エアコンフィルターの交換

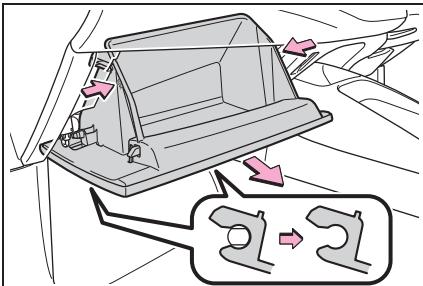
エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換するには

- エンジンスイッチをOFFにする
- グローブボックスを開き、ダンパーステーのピンをはずす

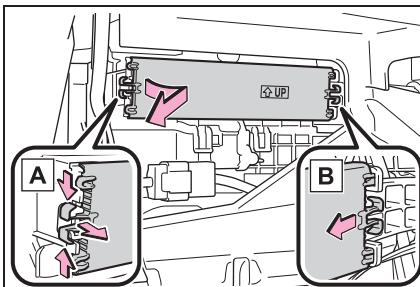


- グローブボックス側面を内側に押して上部のツメを片側ずつはずし、下部のツメをはずしてとりはずす

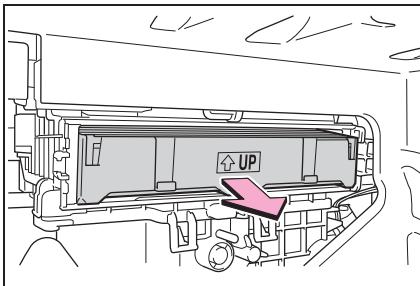


- フィルターカバーのロックをはずし (A)、ツメからフィル

ターカバーを抜き (B)、フィルターカバーを取りはずす

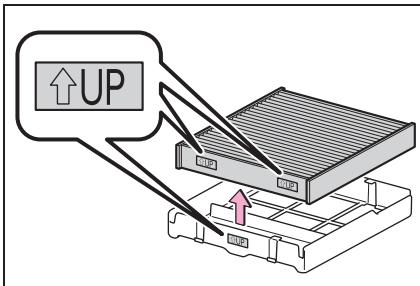


- フィルターケースを取りはずす



- フィルターケースからフィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

“↑ UP”マークの矢印が上を向くように取り付けます。



知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは下記の時期を目安

に交換してください。

15000km [7500km^{※1}] ごと、ただし12ヶ月をこえないこと^{※2}

*¹大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

*²芳香剤などの使用により脱臭寿命が著しく低下する場合があります。エアコンの臭いが気になりだしたらフィルターを交換してください。

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。



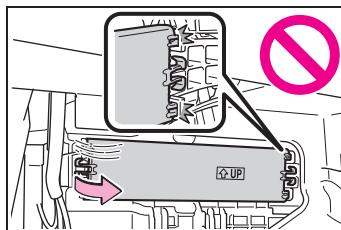
注意

■エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは、交換するタイプです。水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

■フィルターカバーの破損を防ぐために

フィルターカバーのロックをはずすときに、フィルターカバーを矢印の方向に動かす際は、ツメに無理な力がかかるないように注意してください。ツメが破損するおそれがあります。



電子キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。電池はご自身で交換できますが、部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。



知識

■電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

- スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

事前に準備するもの

- マイナスドライバー
- リチウム電池 CR2032



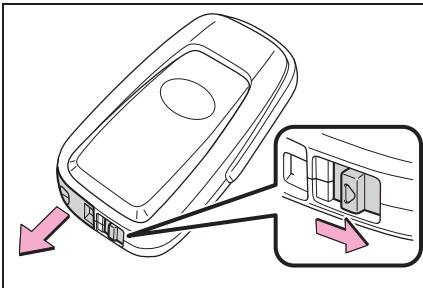
知識

■リチウム電池 CR2032 の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

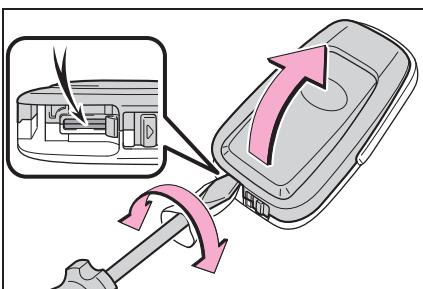
電池を交換するには

1 ロックを解除してメカニカルキーを抜く



2 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

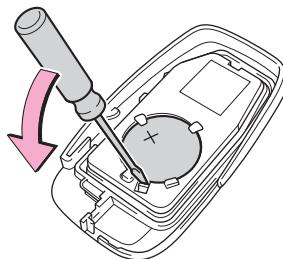


3 消耗した電池を取り出す

カバーをはずしたときに、上側のカバーに電子キーのモジュールが貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子キーのモジュールをひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

新しい電池は、+極を上にして取り付け

ます。



4 カバーを取り付け、メカニカルキーを差し込む

5 ボタン（ または ）を操作して、ドアが施錠または開錠されることを確認する

▲警告

■電子キーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
- 電子キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか2時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。
- カバーがしっかりと閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

- 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。
- 電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために
- 同じタイプの電池と交換してください。異なるタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
- 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
- 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

⚠ 注意

■ 電池を交換するときは

適切なサイズのマイナスドライバーを使用してください。無理な力がかかると、カバーが変形したり破損したりするおそれがあります。

■ 交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

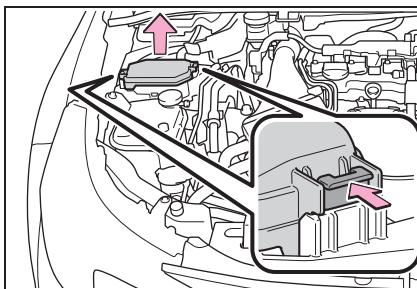
- ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

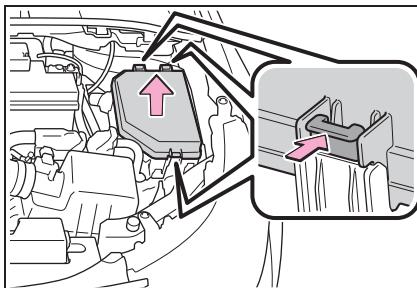
ランプがつかないときや電気系統の装置が動かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

ヒューズの点検・交換をするには

- エンジンスイッチを OFF にする
- ヒューズボックスを開ける
 - エンジンルーム（運転席側）



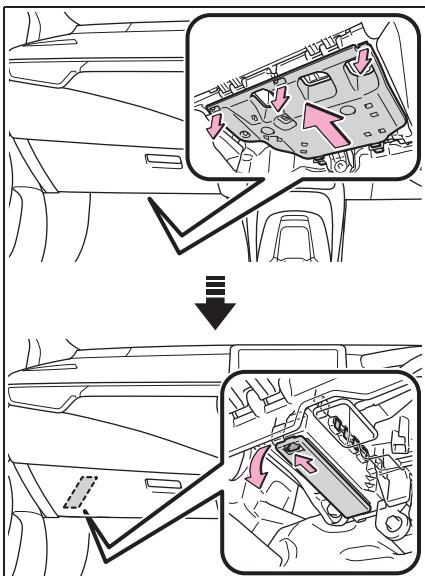
- エンジンルーム（助手席側）
ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



- 助手席足元
足元のカバーをとりはずし、ヒューズボックスのカバーをとり

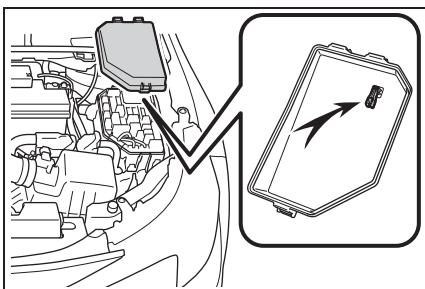
はずす

ヒューズボックスのカバーを取りはずすときや、取り付けるときはツメを押してください。

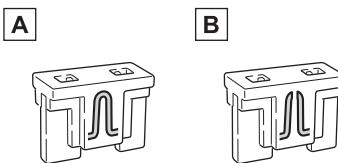


3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。



4 ヒューズが切れていないか点検する



A 正常

B ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。

□ 知識

■ ヒューズを交換したあとは

- カバーを取り付けるときは、ツメをしっかり取り付けてください。
- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■ 電球（バルブ）を交換するときは

この車両に指定されているトヨタ純正品のご使用をおすすめします。一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のトヨタ純正品以外は使用できない場合があります。

⚠ 警告

■ 車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

⚠ 注意

■ ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

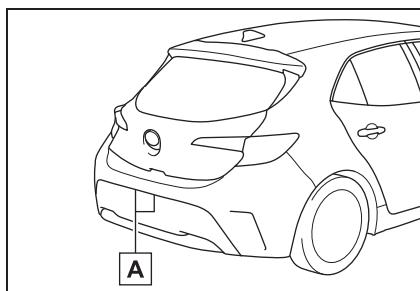
電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球のW（ワット）数を確認してください。（→P.343）

バルブ位置



A 番号灯

■ トヨタ販売店で交換が必要な電球

次のランプが切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドライト
- 車幅灯
- LED デイライト★
- 方向指示灯／非常点滅灯
- フロントフォグランプ★
- 尾灯
- 制動灯

- 後退灯
- リヤフォグランプ★

- ハイマウントストップランプ

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

□ 知識

■ LED ランプについて

番号灯以外のランプは、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■ レンズ内の水滴と曇り

次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

■ 電球（バルブ）を交換するとき

→P.282

電球交換のしかた

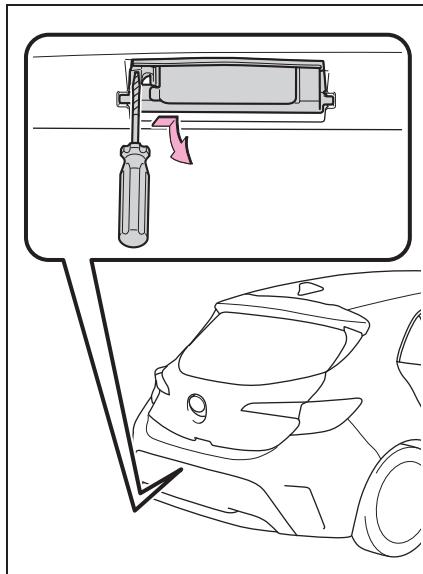
■ 番号灯

1 ランプ本体のツメをはずす

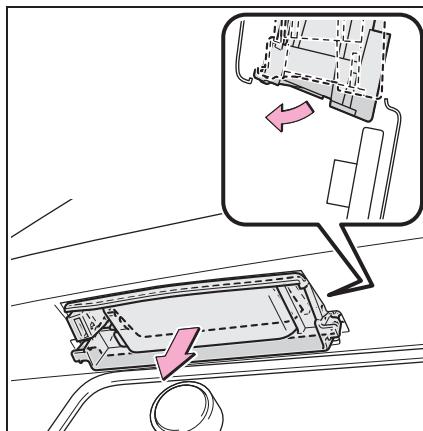
マイナスドライバーなどをランプ横の穴に挿し込み、図のようにはします。

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端にテープなどを巻いて保護し

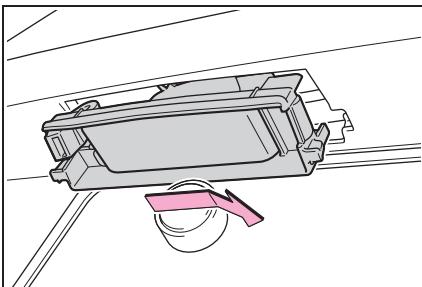
てください。



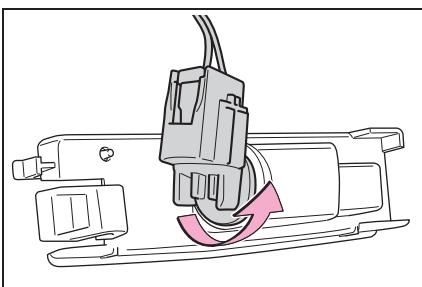
2 ランプ本体を車両後方に傾けて少し引き出す



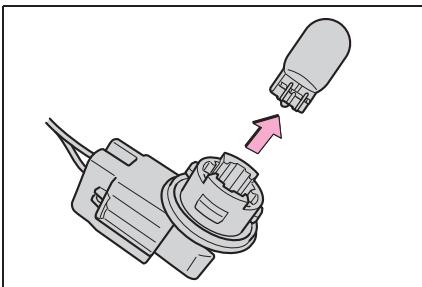
3 ランプ本体を右方向に引き出す



4 ソケットをまわして取りはずす



5 電球を取りはずす



6 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

⚠ 警告

■ 電球を交換するとき

- ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。

● 電球のガラス部を素手でふれないでください。やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。

● 電球や電球を固定するための部品はしっかりと取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、または内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

■ お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

7-1. まず初めに

故障したときは	288
非常点滅灯（ハザードランプ）	289
発炎筒	289
車両を緊急停止するには	290
水没したときは	291

7-2. 緊急時の対処法

けん引について	292
フューエルポンプシャットオフシス テム	297
警告灯がついたときは	298
警告メッセージが表示されたときは	305
パンクしたときは（タイヤパンク応 急修理キット装着車）	307
パンクしたときは（応急用タイヤ装 着車）	318
エンジンがかからないときは ..	325
キーをなくしたときは	326
電子キーが正常に動かないときは	327
バッテリーがあがったときは ..	329
オーバーヒートしたときは ..	332
スタックしたときは	334

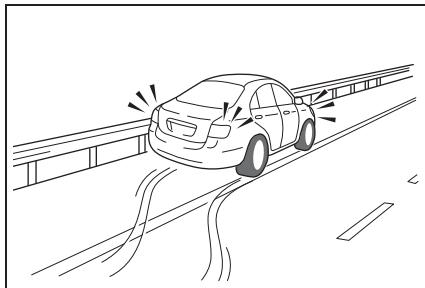
故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

対処のしかた

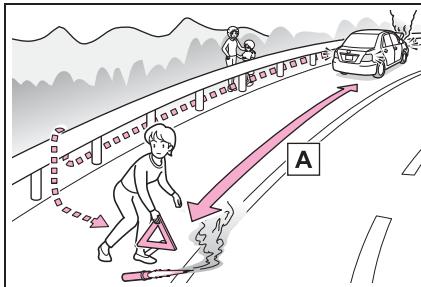
- 非常点滅灯（→P.289）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



- 高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う
 - 1 同乗者を避難させる
 - 2 車両の 50m 以上後方（A）に発炎筒（→P.289）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
 - 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
 - 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください

い。

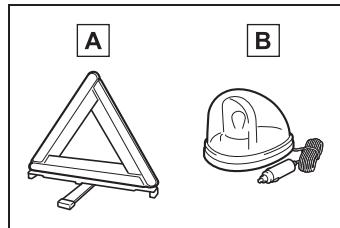


3 その後、ガードレールの外側などに避難する

□ 知識

■ 停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。



A 停止表示板

B 停止表示灯

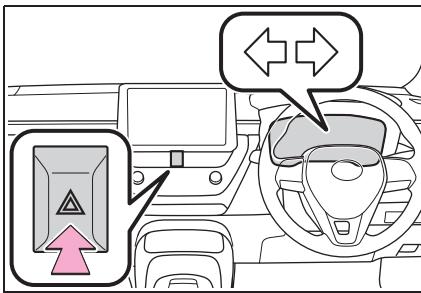
非常点滅灯（ハザードランプ）

事故などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

点滅させるには

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

■非常点滅灯について

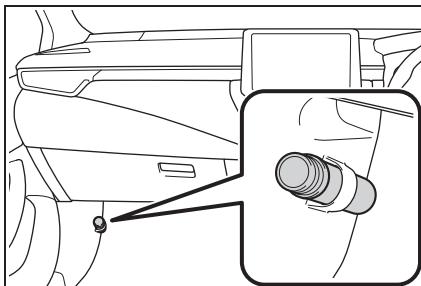
- エンジン停止中に、非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。
- SRSエアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、非常点滅灯が自動で点滅します。
非常点滅灯スイッチを2回押すか、約20分経過すると消灯します。
(衝撃の度合いや事故の状況によっては点滅しないことがあります。)

発炎筒

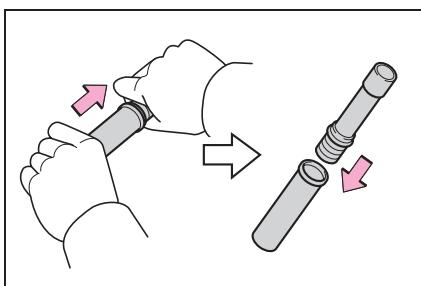
高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
(トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください)
発炎時間は約5分です。非常点滅灯と併用してください。

発炎筒を使うには

1 助手席足元の発炎筒を取り出す



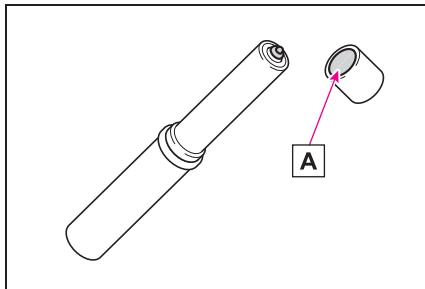
2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



3 先端のフタを取り、すり薬Aで発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けな

いでください。



知識

■発炎筒の交換について

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。



警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。

煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、手順に従って車両を停止させてください。

車を停止するには

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトレバーを N に入れる

▶ シフトレバーが N に入った場合

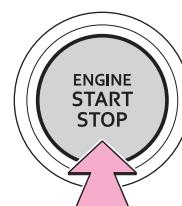
3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 エンジンを停止する

▶ シフトレバーが N に入らない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してエンジンを停止する



5 車を安全な道路脇に停める

⚠ 警告

■ 走行中にやむを得ずエンジンを停止するとき

ブレーキの効きが悪くなると共にハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようしてください。

水没したときは

万一、車両が水没したときは、落ち着いて次のように対処してください。

- まずシートベルトをはずしてください。
- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウィンドウスイッチでドアガラスを開けて窓から車外に出てください。
- パワーウィンドウスイッチでドアガラスが開けられない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

⚠ 警告

■ 緊急脱出用ハンマー* の使用について

この車両のフロントドアガラス・リヤドアガラス・リヤウィンドウガラスは緊急脱出用ハンマー*で割ることはできますが、フロントウィンドウガラスは合わせガラスのため、緊急脱出用ハンマー*で割ることができません。

* 詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

■ 窓から車外に出るときは

着座位置、乗員の体格等によっては、窓から車外に脱出できない場合があります。

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

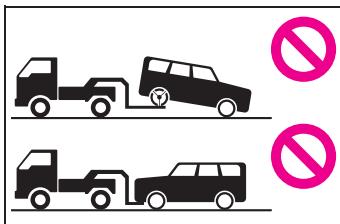
⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ レッカー車でけん引するとき

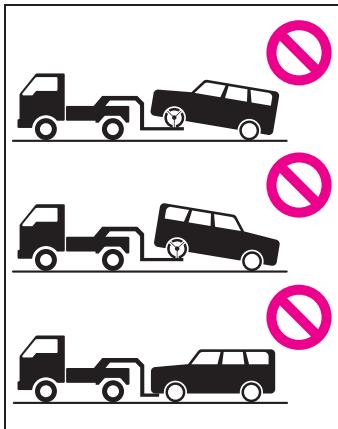
▶ FF車

必ず前輪を持ち上げるか、4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損するおそれがあります。



▶ 4WD車

4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり車が台車から飛び出したりするおそれがあります。



■ 他車にけん引してもらうときの運転について

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。

けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。

- エンジンスイッチをOFFにしないでください。

ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

■ けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。

指定の位置にしっかりと取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。



■ 注意

■ 車両の損傷を防ぐために

- 他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。
 - ・ ワイヤーロープは使用しない
 - ・ 速度 30km/h 以下、距離 80km 以内でけん引する
 - ・ 前進方向でけん引する
 - ・ サスペンション部などにロープをかけない
- この車両で他車やボート（トランク）などをけん引しないでください。

■ 長い下り坂でけん引するときは

▶ FF車

レッカーカー車で前輪を持ち上げるか、4輪とも持ち上げた状態でけん引してください。

レッカーカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

▶ 4WD車

レッカーカー車で4輪とも持ち上げた状態でけん引してください。

レッカーカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■ 輸送用フックについて

輸送用フックで他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりしないでください。装置の変形や、車両の損傷などにつながるおそれがあります。

■ 緊急用フックについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

- やむを得ない場合以外は使用しないでください。
- 緊急用フックで他車をけん引しないでください。

■ Stop & Startシステム装着車をけん引するときは（Stop & Startシステム装着車）

4輪すべてを接地した状態でけん引が必要な場合は、システム保護のため、けん引される前にいったんエンジンスイッチを OFF にしてから、エンジン始動またはエンジンスイッチを ON にしてください。

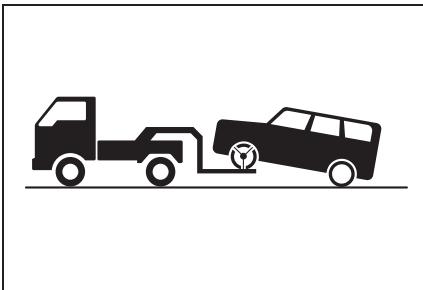
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- エンジンはかかるが車が動かない
- 異常な音がする

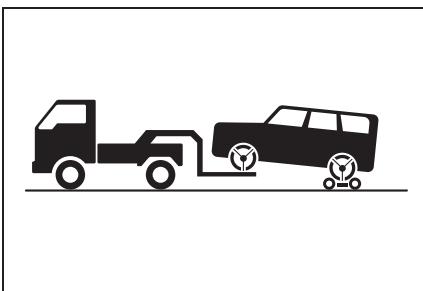
レッカー車でけん引するとき

- ▶ 前向きにけん引するときは（FF車）

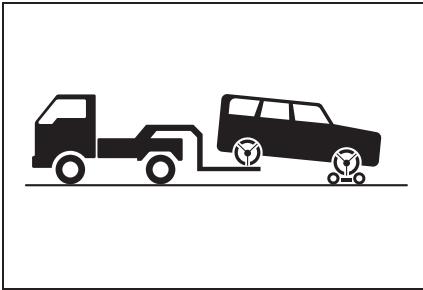


パーキングブレーキを解除する
オートモードを OFF にしてください。
(→P.126)

- ▶ 前向きにけん引するときは（4WD 車）



台車を使用して後輪を持ち上げる
▶ うしろ向きにけん引するときは

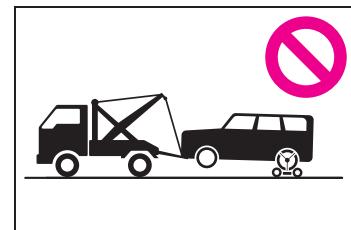


台車を使用して前輪を持ち上げる

注意

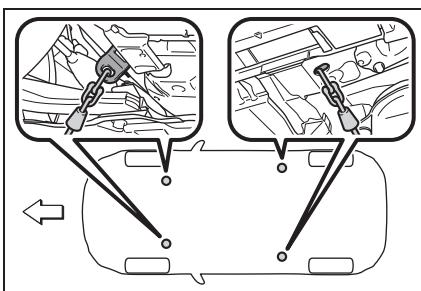
■ レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のような
レッカー車ではけん引しないでください。

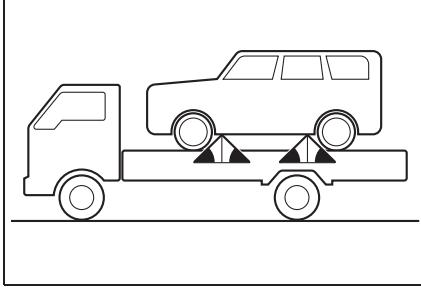


車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図
の場所で固縛する



鎖やケーブルなどを使用して車両
を固縛する場合は図に黒く示す角
度が 45° になるように固縛する





■車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

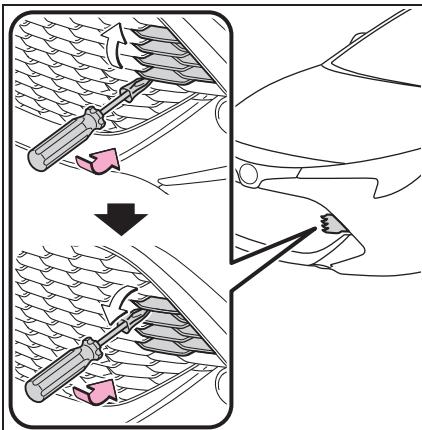
他車にけん引してもらうとき

他車にけん引してもらうときは、けん引フックを取り付ける必要があります。手順に従って取り付けてください。

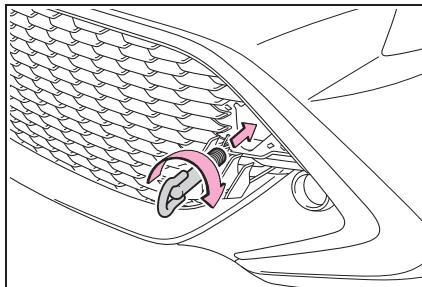
1 ラゲージルーム内のホイールナットレンチ、マイナスドライバー、けん引フックを取り出す
(→P.308,319)

2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

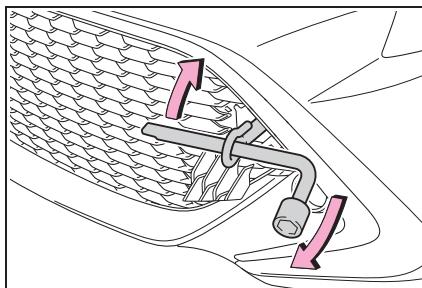
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



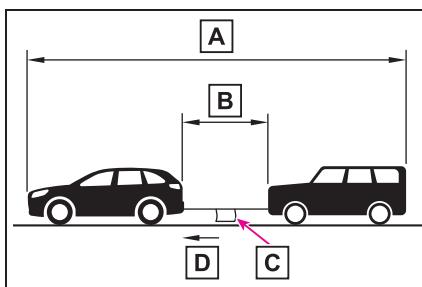
4 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける



5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

6 ロープの中央に白い布を付ける
布の大きさ：
0.3m 平方 (30cm×30cm) 以上



- A 25m 以内
- B 5m 以内
- C 白い布
- D けん引方向

7 運転者はけん引される車両に乗り、エンジンを始動する

エンジンが始動しないときは、エンジンスイッチを ON にしてください。

8 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

オートモードを OFF にしてください。
(→P.126)

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

オートマチック車：シフトレバーがシフトできないときは：→P.119

□ 知識

■ けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■ 他車にけん引してもらうときに

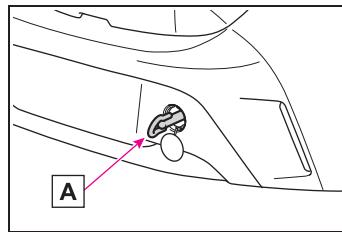
エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ ホイールナットレンチについて

ラゲージルームに搭載されています。
(→P.308,319)

■ 輸送用フックについて

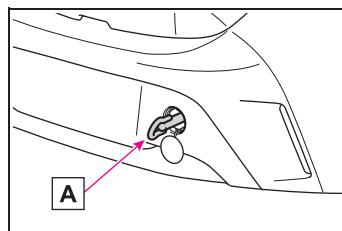
このフックは船舶固縛で車両を輸送するときに固定するためのものです。他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりすることはできません。



A 輸送用フック

■ 緊急用フックについて

雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったとき、やむを得ず他車に引っ張り出してもらうために使用することができます。他車をけん引することはできません。



A 緊急用フック

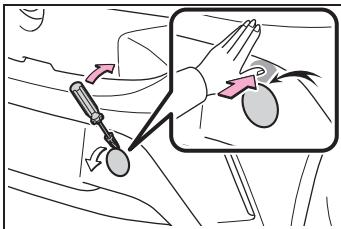
■ 緊急用フックを取り付けるには

緊急用フックを取り付けるときは、手順に従って取り付けてください。

- 1 ラゲージルーム内のホイールナットレンチ、マイナスドライバー、けん引フックを取り出す (→P.308,319)
- 2 図に示す部分を手で押して隙間を作り、マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください

ださい。



- 3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める
- 4 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

フューエルポンプシャットオフシステム

エンジン停止時およびSRSエアバッグ作動時は、フューエルポンプシャットオフシステムが作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。

エンジンを始動するには

システムが作動したあと、エンジンを始動するには、次の手順に従ってください。

- 1 エンジンスイッチをACCまたはOFFにする
- 2 エンジンを再始動する

⚠ 注意

■ エンジンを始動する前に

車両下をよく確認してください。地面に燃料もれを見つけた場合は、燃料システムに損傷があり、修理する必要があります。その場合はエンジンを再始動しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザーへの対応

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (赤色)	<ul style="list-style-type: none"> ●ブレーキ液の不足 ●ブレーキ系統の異常 <p>→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。</p>

■ ブレーキ警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	<p>パーキングブレーキシステムの異常</p> <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>

■ 高水温警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>エンジン冷却水の高温異常</p> <p>→ ただちに安全な場所に停車し、対処方法（→P.332）に従ってください。</p>

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 充電警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>充電系統の異常</p> <p>→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。</p>

■ 油圧警告灯 ※ (警告ブザー)

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジンオイル圧力の異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ エンジン警告灯 (警告ブザー)

警告灯	警告内容・対処方法
	<ul style="list-style-type: none"> ● エンジンの異常 ● エンジン電子制御システムの異常 ● 電子制御スロットルの異常 ● トランスミッション電子制御システム★の異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 (警告ブザー)

警告灯	警告内容・対処方法
	<ul style="list-style-type: none"> ● SRS エアバッグシステムの異常 ● プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ ABS & ブレーキアシスト警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	<ul style="list-style-type: none"> ● ABS の異常 ● ブレーキアシストの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ ブレーキオーバーライドシステム／ドライブスタートコントロール※
(警告ブザー)

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>ブザーが鳴った場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ブレーキオーバーライドシステムの異常 ● ドライブスタートコントロール★の異常 <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p> <p>アクセルペダルを踏んだ状態でシフト操作が行われたことにより、ドライブスタートコントロール★が作動</p> <p>→ ただちにアクセルペダルを離してください。</p> <p>ブザーが鳴らなかつた場合：</p> <p>アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたことにより、ブレーキオーバーライドシステムが作動</p> <p>→ アクセルペダルを離し、ブレーキペダルを踏んでください。</p>

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ パワーステアリング警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (赤色)	EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常
 (黄色)	→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 燃料残量警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>燃料の残量が約 7.5L 以下になった</p> <p>→ 燃料を補給する</p>

■ 運転席・助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー）*

警告灯	警告内容・対処方法
	運転席・助手席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する 助手席乗員がいるときは、助手席乗員もシートベルトを着用してください。

* 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：

運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

■ リヤ席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー）*

警告灯	警告内容・対処方法
	リヤ席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する

* リヤ席シートベルト非着用警告ブザー：

リヤ席シートベルト非着用（いずれかのシートベルト脱着により、リヤ席シートベルト非着用警告灯が点灯し続けているとき）のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

リヤドアを開けると、ブザー吹鳴条件が解除されます。

■ LTA 表示灯★／LDA 表示灯★（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	LTA（レントレーシングアシスト）／LDA（レーンディビューチャーアラート【ステアリング制御機能付き】）の異常 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.160, 167）

*：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ Stop & Start キャンセル表示灯★

警告灯	警告内容・対処方法
	Stop & Start システムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

*：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ クリアランスソナー OFF 表示灯★ (警告ブザー)

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅)	クリアランスソナーの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。 センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。 (→P.205)

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ RCTA OFF 表示灯★ (警告ブザー)

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅)	RCTA (リヤクロストラフィックアラート) の異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。 レーダーセンサー周辺のリヤバンパー (→P.199) に汚れや付着物がある → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。 (→P.210)

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ PKSB OFF 表示灯★ (警告ブザー)

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅)	ブザーが鳴った場合： PKSB (パーキングサポートブレーキ) の異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。 ブザーが鳴らなかつた場合： センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。 (→P.218, 305)

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ PCS 警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅または点灯)	<p>警告ブザーが鳴った場合： ブリクラッシュセーフティの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p> <p>警告ブザーが鳴らない場合： ブリクラッシュセーフティが一時的、または対処を行うまで作動停止している → 要因と対処方法 (→P.144, 305)</p> <p>ブリクラッシュセーフティが OFF、または VSC (ビークルスタビリティコントロール) システムが停止しているときは点灯します。 → P.151</p>

■ スリップ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	<ul style="list-style-type: none"> ● VSC (ビークルスタビリティコントロール) システムの異常 ● TRC (トラクションコントロール) システムの異常 ● ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ パーキングブレーキ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅)	<p>パーキングブレーキが完全にかかっていない、または解除されていない可能性があります。 → パーキングブレーキスイッチを再度操作してください。</p> <p>パーキングブレーキが解除されていないときは点灯します。解除後、消灯すれば正常です。</p>

■ ブレーキホールド作動表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅)	ブレーキホールドシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ iMT 表示灯★

警告灯	警告内容・対処方法
	iMT の異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■ シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

● 助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅し、ブザーが鳴ることがあります。

● 助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■ リヤ席シートベルト非着用警告灯の作動について

● リヤドアを開閉すると約 60 秒間点灯します。

● いずれかのリヤシートベルトを脱着すると点灯し続けます。点灯し続けているときに、リヤドアを開閉すると約 60 秒後に消灯します。

■ パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

警告

■ ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは

ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。

ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ パワーステアリング警告灯が点灯したときは

黄色に点灯したときは操作力補助が制限され、赤色に点灯したときは操作力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

また、メッセージと同時に専用警告灯が点灯・点滅する場合があります。その際は、各警告灯が点灯・点滅したときの対処方法（→P.298）に従ってください。

□ 知識

■ 警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■ 警告ブザーについて

メッセージの内容によってブザーが鳴る場合があります。

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■ “駐車時はPレンジに入れてください”が表示されたときは

駐車時はPにしてください。

■ “エンジンオイル量不足 補充するか、交換してください”が表示されたときは

エンジンオイルが不足しているときにメッセージが表示されます。エンジンオイル量を点検し、オイルを補給してください。

また、傾斜路などに停車したときに表示される場合があります。水平な路面に移動し、メッセージが表示されるか確認してください。

■ “エンジン停止のためハンドルが重くなります”が表示されたときは

走行中にエンジンが停止したときにメッセージが表示されます。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■ “バッテリー保護のため自動で電源をOffしました”が表示されたときは

自動電源OFF機能が作動したときにメッセージが表示されます。次回エンジン始動時にエンジン回転数を少し高めにして約5分間その回転数を保持し、バッテリーを充電してください。

■ “ヘッドラランプシステム故障 販売店で点検してください”が表示されたときは

次のシステムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

● LED ヘッドラランプ

● オートマチックハイビーム

■ “4WDシステム故障 2WD走行になります 販売店で点検”が表示されたときは★

前輪駆動走行に切り替わります。すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ “4WD システム高温 2WD 走行に切りかわりました” が表示されたときは★

システムがオーバーヒートしています。車速を下げるか、安全な場所に停車してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 前方カメラの異常を示すメッセージが表示されたときは

次のシステムが一時的、または対処を行うまで使用できません。（→P.144, 298）

- PCS（プリクラッシュセーフティ）
- LTA（レーントレーシングアシスト）★
- LDA（レーンディバーチャーラート [ステアリング制御機能付き]）★
- オートマチックハイビーム
- RSA（ロードサインアシスト）
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）★
- レーダークルーズコントロール★
- 先行車発進告知機能

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ “クルーズコントロール現在使用できません” が表示されたときは

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）またはレーダークルーズコントロールのシステムが一時的に使用不可と判断されています。しばらく走行してからレーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）またはレーダークルーズコントロールを再設定してください。

■ 販売店での点検をうながすメッセージが表示されたときは

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 取扱書の確認をうながすメッセージが表示されたときは

- “エンジン冷却水高温” が表示されたときは、対処方法（→P.332）に従ってください。
- 次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
 - ・ “スマートエントリー＆スタートシステム故障”
- 次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
 - ・ “故障のためブレーキ力が低下します”
 - ・ “充電システム故障”
 - ・ “エンジン油圧不足”



注意

■ “電力消費が大きいため一部の空調・ヒータ作動を制限中” がひんぱんに表示されるときは

充電系の異常やバッテリーが劣化している可能性があります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）

タイヤパンク応急修理キット装着車には、スペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液1本につき、応急修理できるタイヤは1本です）パンクしたタイヤの損傷状況により、応急修理キットでは応急修理できない場合があります。（→P.307）

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■パンクしたままの走行について

タイヤがパンクした状態で走行を続けるでください。短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

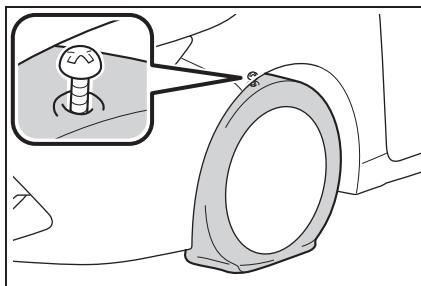
応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーをPにする
- エンジンを停止する

- 非常点滅灯を点滅させる
- タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

- ・ タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。
- ・ パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かれている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。



知識

■応急修理キットで修理できないパンク

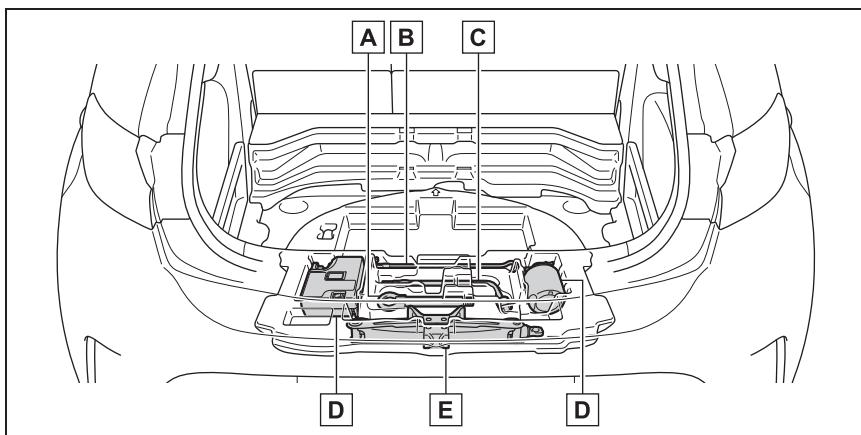
次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに4mm以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき

- 2本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1本のタイヤに2箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき

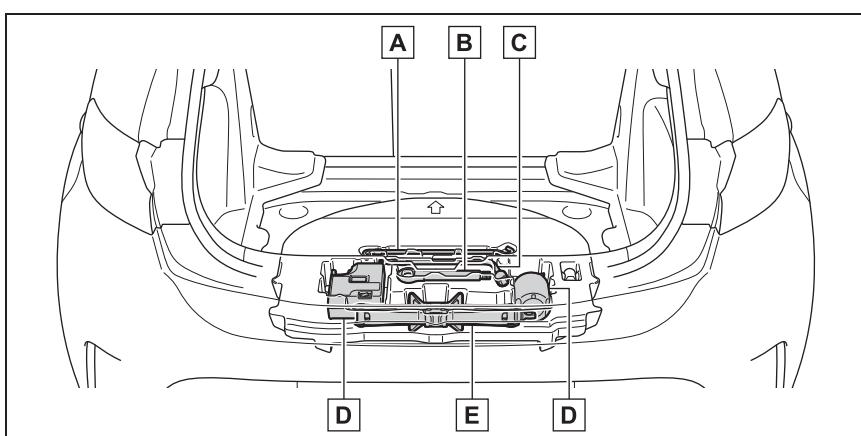
タイヤパンク応急修理キット・工具の搭載位置

- ▶ 4WD車以外



- A** けん引フック
- B** ジャッキハンドル
- C** ホイールナットレンチ
- D** タイヤパンク応急修理キット
- E** ジャッキ*

- ▶ 4WD車

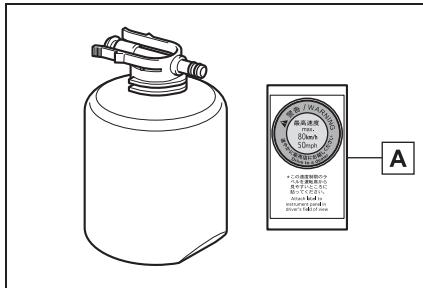


- A** ジャッキハンドル
- B** けん引フック
- C** ホイールナットレンチ
- D** タイヤパンク応急修理キット
- E** ジャッキ *

* ジャッキの使い方 (→P.320)

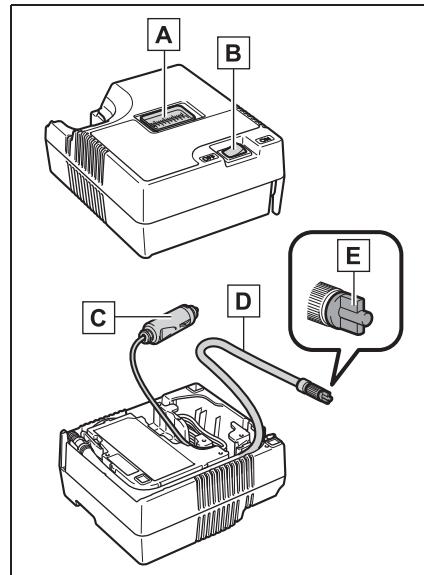
タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称

▶ ボトル



A 速度制限ラベル

▶ コンプレッサー



- A** 空気圧計
- B** 電源スイッチ
- C** 電源プラグ
- D** ホース
- E** 空気逃がしキャップ

□ 知識

■ 応急修理キットについて

- パンク補修液ボトル1本でタイヤ1本を1回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。コンプレッサーは、く

- り返し使用できます。
- 外気温度が-30℃～60℃のときに使用できます。
- 応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。
- パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。
- パンク補修液がホイールやボディーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。
- 応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。
- タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

■応急修理キットの点検について

- パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。有効期限はボトルに表示されています。
- 有効期限が切れたパンク補修液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。
- 有効期限が切れる前に交換してください。交換については、トヨタ販売店にご相談ください。



■応急修理キットについて

- 応急修理キットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

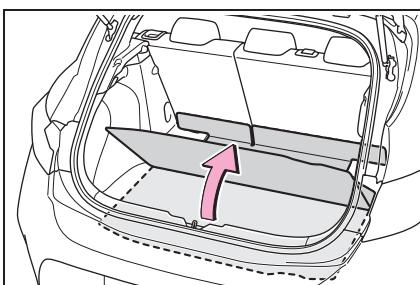
■パンク補修液について

- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさん水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

タイヤパンク応急修理キットの取り出し方

1 デッキボードを開く

▶ アジャスタブルデッキボード非装着車



▶ アジャスタブルデッキボード装着車

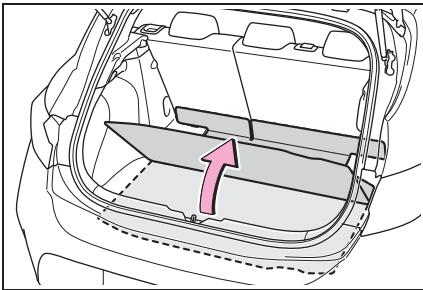
→P.253

2 応急修理キットを取り出す (→P.308)

ジャッキの取り出し方

1 デッキボードを開く

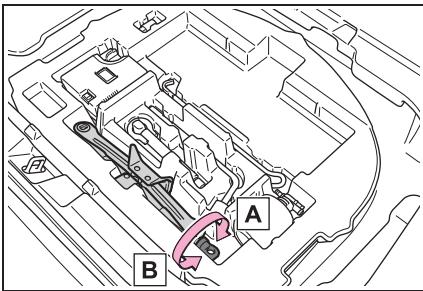
- ▶ アジャスタブルデッキボード非装着車



- ▶ アジャスタブルデッキボード装着車

→P.253

2 ジャッキをゆるめて取りはずす



A 締まる

B ゆるむ

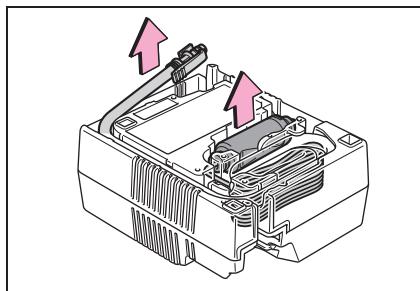
ジャッキを収納するときは、
ジャッキを締めてトレイへ押し付
けてください。

応急修理するときは

1 応急修理キットをビニール袋から取り出す

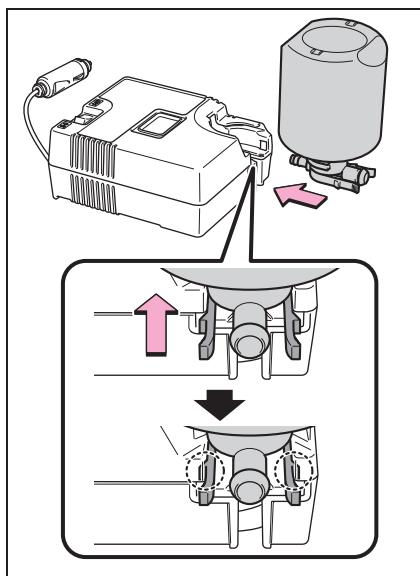
ボトルに同封されているラベルは指定の
位置へ貼り付けます。(手順 10 へ)

2 コンプレッサーからホースを取りはずし、電源プラグを取り出す



3 ボトルをコンプレッサーに接続する

図のよう、ボトルをまっすぐコンプレッサーに挿入・接続し、ボトルのツメが穴に隠れていることを確認してください。

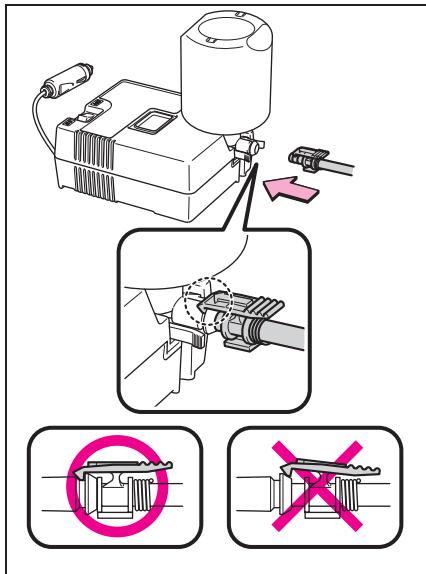


4 ホースをボトルに取り付ける

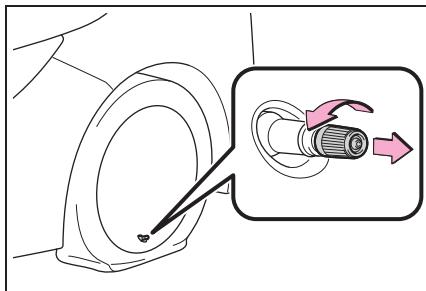
図のよう、ボトルにホースがしっかりと

接続しているか確認してください。

なくさないように保管してください。

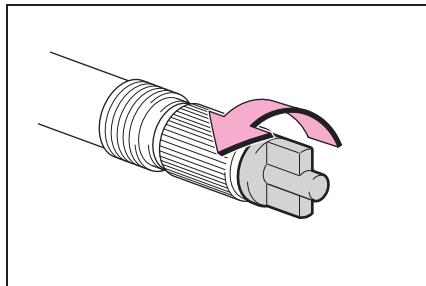


5 パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす



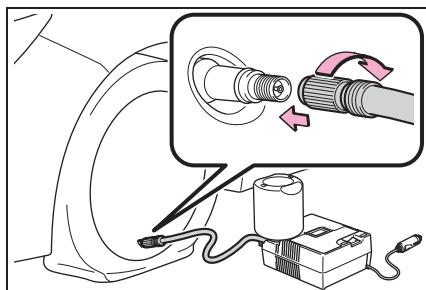
6 ホースをのばし空気逃がしキャップを取りはずす

空気逃がしキャップは再度使用するため、

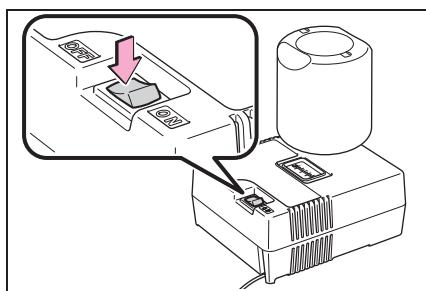


7 ホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

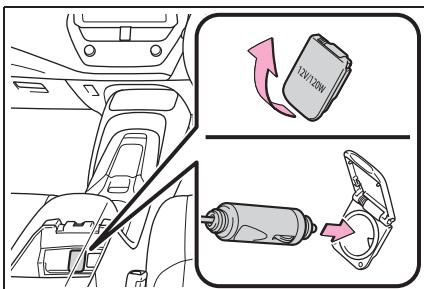
ホース先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込みます。



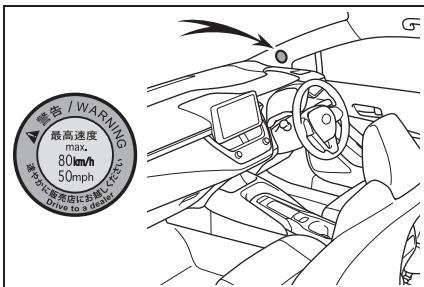
8 コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認する



9 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む (→P.262)

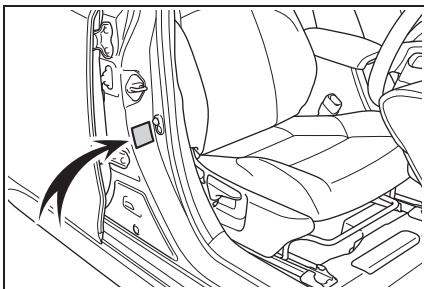


10 運転席から見やすい位置に、付属のラベルを貼り付ける



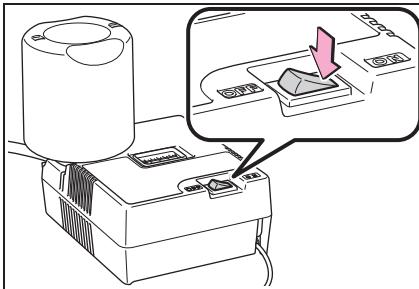
11 タイヤの指定空気圧を確認する

運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。 (→P.274)

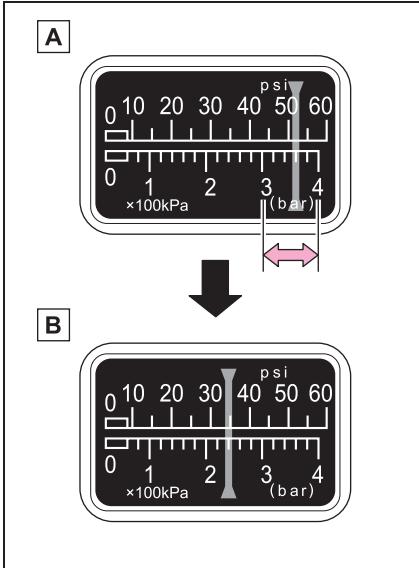


12 エンジンを始動する

13 コンプレッサーのスイッチをONにし、パンク補修液と空気を充填する



14 空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填する



A 一時的に空気圧計が 300 ~ 400kPa (3.0 ~ 4.0kg/cm²) まで上昇し、徐々に減少します。

B スイッチを ON にしてから約 1 ~ 5 分程度で実際の空気圧になります。

空気圧を確認するときは、コンプレッ

サーのスイッチを OFF にしてください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

充填までに必要な時間は、約 5 ~ 20 分です（外気温により異なります）。25 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。コンプレッサーのスイッチを OFF にして、トヨタ販売店にご連絡ください。

空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。
(→P.315, 342)

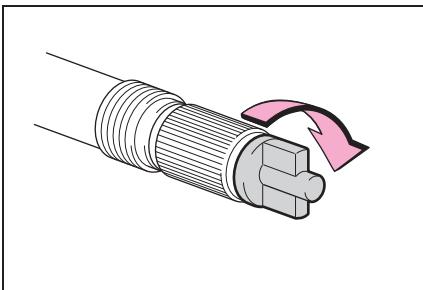
15 コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認した上で、アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブからホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

16 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

17 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。

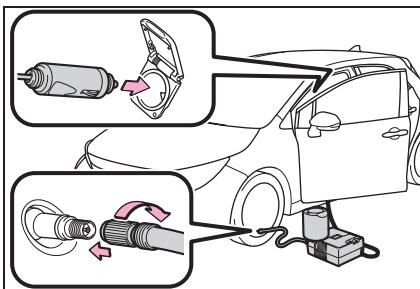


18 いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納する

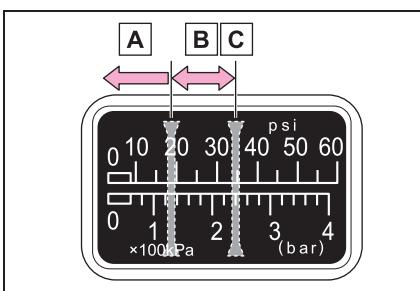
19 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約 5 km、速度 80km/h 以下で安全に走行する

20 走行後、平坦な場所に停車して再度、応急修理キットを接続する

ホースを接続する前に、空気逃がしキャップを取りはずしてください



21 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にしてから再度 OFF し、空気圧を確認する



A 空気圧が 130kPa

(1.3kg/cm²) 未満の場合：応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

B 空気圧が 130kPa

(1.3kg/cm²) 以上、指定空気圧未満の場合：手順 **22** へ

C 空気圧が指定空気圧

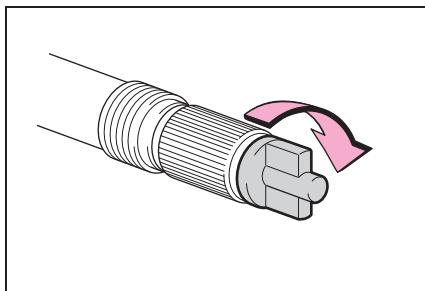
(→P.342) の場合：手順 **23**

へ

22コンプレッサーのスイッチをONにして指定空気圧まで空気を充填し、再度約5km走行後にあらためて手順**20**から実施する

23ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



24ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納する

25急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、走行距離が約100km以内、80km/h以下の速度で、トヨタ販売店まで慎重に運転する

タイヤの修理・交換、応急修理キットの処理についてはトヨタ販売店にご相談ください。

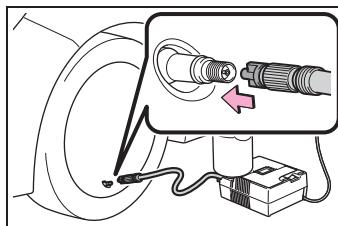
トヨタ販売店でタイヤを修理・交換するときに、パンク補修液注入済みであることを必ずお伝えください。



■空気を入れすぎてしまったとき

1 タイヤからホースを取りはずす

2 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付け、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあて、空気を抜く



3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する

4 コンプレッサーのスイッチを数秒間ONにし、OFFにしてから空気圧計を確認する

指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチをONにし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■応急修理後のタイヤのバルブについて

応急修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■補修液を廃棄するときは

補修液には環境に有害な物質が含まれています。補修液のボトル、および補修液の廃棄が必要な際は、トヨタ販売店、または都道府県知事の許可を受けた、専門の廃棄物処理業者に処理をご依頼ください。

⚠ 警告

■ タイヤがパンクしているときは

タイヤがパンクした状態で走行を続けれ
ないでください。

短い距離でもパンクしたタイヤで走行
すると、タイヤおよびホイールが損傷
し修理できなくなります。パンクした
状態で走行を続けると、タイヤ側面に
円周状の溝ができる場合があります。
この状態で応急修理キットを使用する
と、タイヤが破裂する危険があります。

■ パンクしたタイヤを応急修理する とき

- 車両を安全で平坦な場所に停止させて
ください。

- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

- タイヤを車両に取り付けた状態で、
バルブとホースをしっかりと接続して
ください。ホースの接続が不十分な
場合、空気がもれたり、パンク補
修液が飛散したりするおそれがあります。

- 空気充填中にホースがはずれると、
圧力でホースが爆れ大変危険です。

- 空気充填後は、ホースを取りはずす
ときや空気を抜くときにパンク補修
液が飛散する場合があります。

- 作業手順に従って応急修理を行って
ください。

手順どおりに行わないとパンク補修
液が噴出する場合があります。

- 破裂の危険があるので、応急修理
キットの作動中は補修中のタイヤか
ら離れてください。タイヤに亀裂や
変形が発生している場合、ただちに
コンプレッサーのスイッチを OFF に
し、修理を中止してください。

- 応急修理キットは、長時間作動させ
るとオーバーヒートする可能性があ
ります。40 分以上連続で作動させ
ないでください。

- 応急修理キットが作動すると部分的
に熱くなります。使用中または使用
後の取り扱いには注意してください。
ボトルとコンプレッサー接続箇所付
近の金属部分は特に熱くなるのでふ
れないでください。

- 速度制限シールは指定位置以外に貼
らないでください。ハンドルのパッ
ド部分などの SRS エアバッグ展開
部に貼ると、SRS エアバッグが正常
に作動しなくなるおそれがあります。

■ 補修液を均等に広げるための運転に ついて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコント
ロールが不能となり、重大な傷害を受
けたり、最悪の場合死亡事故につなが
るおそれがあります。

- 低速で慎重に運転してください。特
にカーブや旋回時には注意してくだ
さい。

- 車がまっすぐ走行しなかったり、ハ
ンドルをとられたりする場合は、運
転を中止し、次のことを確認してく
ださい。

- タイヤを確認してください。タイヤ
がホイールからはずれている可能
性があります。

⚠ 警告

- 空気圧を確認してください。
130kPa (1.3kg/cm²) 未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、空気圧計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

⚠ 注意

■ 応急修理をするとき

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないうようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。
- 応急修理キットは倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。

■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットはDC12V専用です。他の電源での使用はできません。
- 応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- 応急修理キットはビニール袋に入れて砂ぼこりや水を避けて収納してください。
- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。

パンクしたときは（応急用 タイヤ装着車）

パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。（タイヤについての詳しい説明は P.274 を参照してください）

⚠ 警告

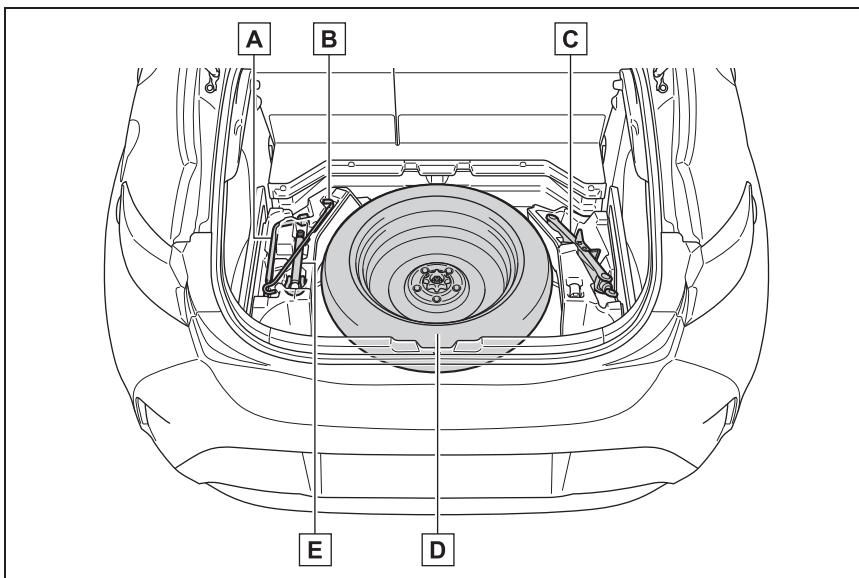
■ タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P（オートマチック車）もしくは R（マニュアル車）にする
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

工具とジャッキの位置



- A** ホイールナットレンチ
- B** ジャッキハンドル
- C** ジャッキ
- D** 応急用タイヤ
- E** けん引フック

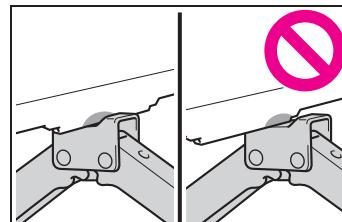
警告

■ ジャッキの使用について

次のことをお守りください。ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない

- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける (→P.320)



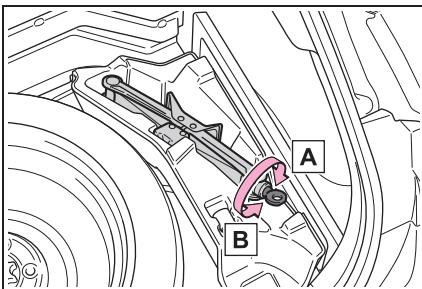
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、エンジンを始動したり車を走らせない

⚠️ 警告

- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

ジャッキの取り出し方

- 1 デッキボードを開く
(→P.253)
- 2 ジャッキをゆるめて取りはずす



A 締まる

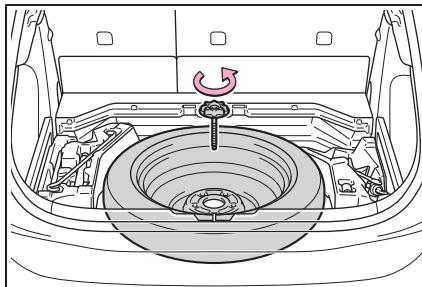
B ゆるむ

ジャッキを収納するときは、ジャッキを締めてトレイへ押し付けてください。

応急用タイヤの取り出し方

- 1 デッキボードを開く
(→P.253)

- 2 留め具をはずし、スペアタイヤを取り出す



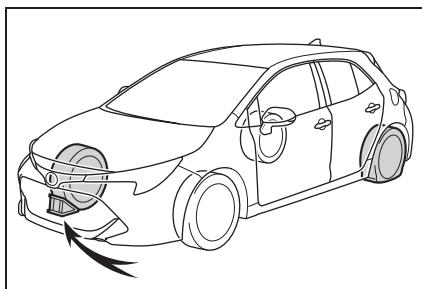
⚠️ 警告

- 応急用タイヤを収納するとき

ボディと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

パンクしたタイヤの交換

- 1 輪止め※をする



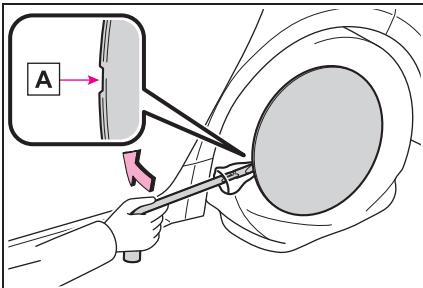
パンクしたタイヤ	輪止めの位置
左側前輪	右側後輪うしろ
右側前輪	左側後輪うしろ
左側後輪	右側前輪前
右側後輪	左側前輪前

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

- 2 ホイールキャップをはずす（スチールホイールのみ）

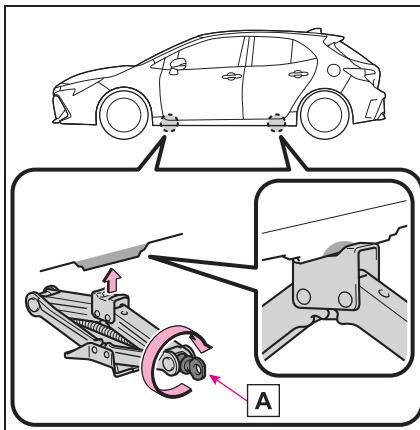
ホイールナットレンチを、ホイールキャップ外周上にある切り欠き部**A**に挿入してください。

傷が付くのを防ぐため、ホイールナットレンチの先端に布などを巻いて保護してください。

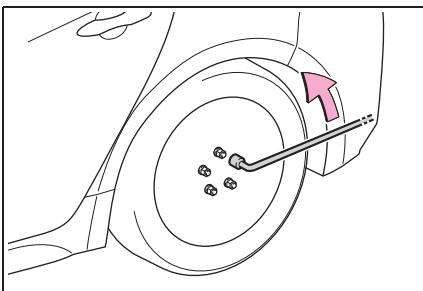


3 ナットを少し（約1回転）ゆるめる

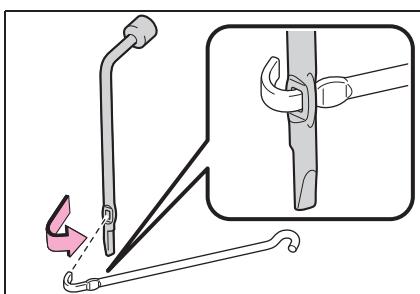
りに軽くあたるまで、ジャッキの**A**部を手でまわす



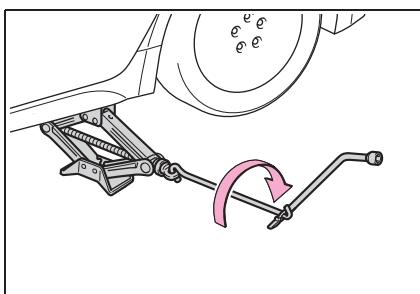
5 ホイールナットレンチをジャッキハンドルに組み付ける



4 ジャッキ頭部の凹み部が、ジャッキセット位置の中央あた



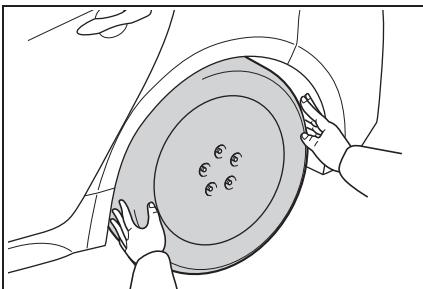
6 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



7 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイー

ルの表面に傷が付かないよう表面を上にします。



⚠ 警告

■ タイヤ交換について

● 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

● 次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・ねじ部にオイルやグリースを塗らない

ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またナットがゆるみホイールが落下するおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

・ホイールの交換後は、すぐに $103\text{N}\cdot\text{m}$ ($1050\text{kgf}\cdot\text{cm}$) の力でナットを締める

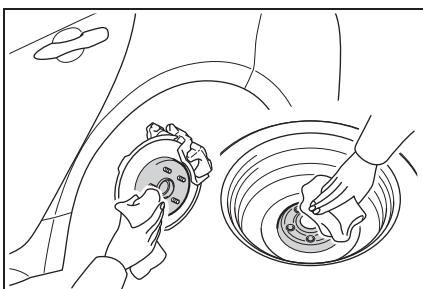
・タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する

- ・ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
- ・ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける。

応急用タイヤの取り付け

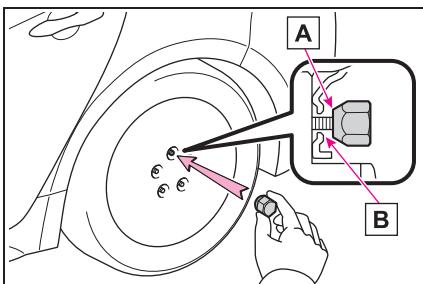
1 ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。



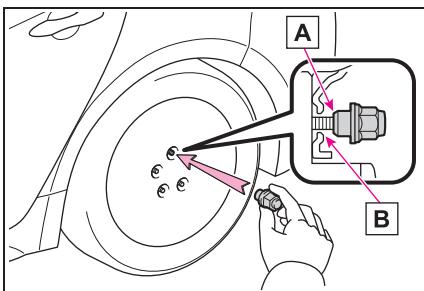
2 応急用タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

スチールホイールから応急用タイヤにかえるとき：ナットのテーパー部 **A** がホイールのシート部 **B** に軽くあたるまでまわす

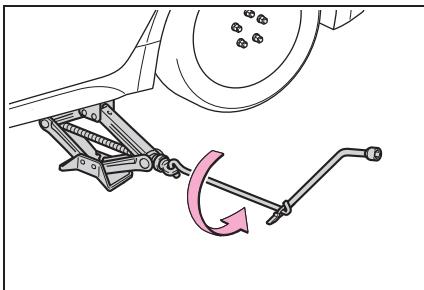


アルミホイールから応急用タイヤにかえ

るとき：ナットのテーパー部**A**がホイールのシート部**B**に軽くあたるまでまわす

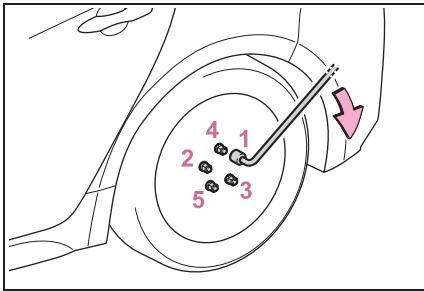


3 車体を下げる



4 図の番号順でナットを2、3度 しっかり締め付ける

締め付けトルク：103N・m
(1050kgf・cm)



5 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

□ 知識

■ 応急用タイヤについて

- タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみ使用してください。
- 空気圧を必ず点検してください。
(→P.342)

■ 応急用タイヤを装着しているとき

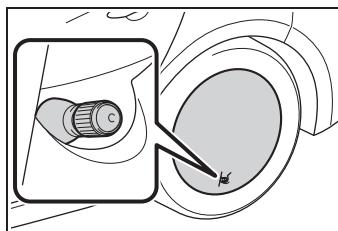
標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。

■ 雪道・凍結路で前輪がパンクしたとき

- 1 後輪を応急用タイヤに交換する
- 2 パンクした前輪をはずした後輪に交換する
- 3 タイヤチェーンを前輪に装着する

■ ホイールキャップを取り付ける時は (スチールホイール装着車)

タイヤのバルブ（空気口）に切り欠きを合わせてホイールキャップを確実に取り付けてください。



⚠ 警告

- 応急用タイヤを使用するとき
 - お客様の車専用になっているため、他の車には使用しないでください。
 - 同時に2つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。
 - できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。

⚠ 警告

- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避けてください。
- 摩耗限度（トレッドウェアインジケーターまたはスリップサイン）をこえて使用しないでください。

■ 応急用タイヤを装着しているとき

正確な車両速度が検出できない場合があり、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- ・ ABS
- ・ ブレーキアシスト
- ・ VSC
- ・ オートマチックハイビーム
- ・ レーダークルーズコントロール★
- ・ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）★
- ・ TRC
- ・ EPS
- ・ PCS（プリクラッシュセーフティ）
- ・ LDA（レーンディィパーチャーラート [ステアリング制御機能付き]）★
- ・ LTA（レーントレーシングアシスト）★
- ・ クリアランスソナー★
- ・ RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★
- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）★

また、次のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

- ・ 4WD システム★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 応急用タイヤ使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、80km/h 以上の速度で走行しないでください。

応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ 応急用タイヤ装着中は段差に注意

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。段差を乗りこえるときは注意してください。

■ タイヤチェーンの装着について

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。タイヤチェーンが車体にあたり、車を損傷したり走行に悪影響をおよぼしたりするおそれがあります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P.113）に従っても、エンジンがかからないときは、次のことを確認してください。

スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。再度、正しい手順（→P.113）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→P.49）

スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドライトが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→P.329）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

スターターがまわらない場合

電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、

エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→P.325）

スターターがまわらない／室内灯・ヘッドライトが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→P.329）
- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急時の始動について

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、次の手順でエンジンが始動する場合があります。

緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを引く（→P.125）

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

- 2 シフトレバーがP（オートマチック車）もしくはN（マニュアル車）の位置にあることを確認する

- 3 エンジンスイッチをACCにする

4 ブレーキペダル（オートマチック車）もしくはクラッチペダルとブレーキペダル（マニュアル車）をしっかり踏んでエンジンスイッチを約15秒以上押し続ける

上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

キーをなくしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

⚠ 注意

■電子キーを紛失したとき

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーをすべてお持ちの上、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

電子キーが正常に動かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P.87）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー＆スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

□ 知識

■ 電子キーが正常に動かないときは

- 車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。（→P.344）
- 電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。設定されている場合は解除してください。（→P.86）

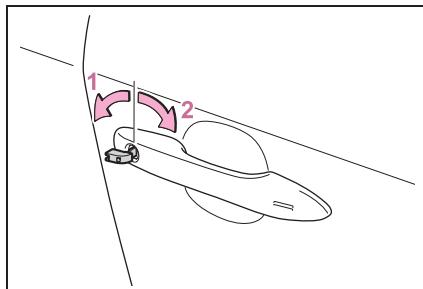
⚠ 注意

■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

ドアの施錠・解錠

メカニカルキー（→P.78）を使って次の操作ができます。

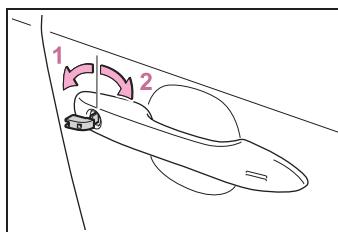


1 全ドア解錠

2 全ドア施錠

□ 知識

■ キー連動機能



1 ドアガラスが開く（まわし続ける）*

2 ドアガラスが閉まる（まわし続ける）*

* トヨタ販売店での設定が必要です。

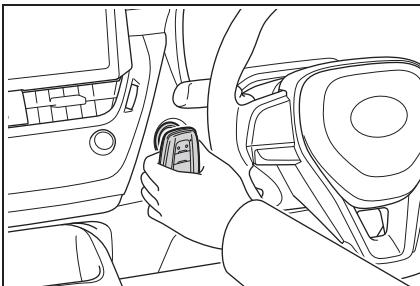
⚠ 警告

■ メカニカルキーを使ってドアガラスを操作するとき

ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

エンジン始動の方法

- 1 オートマチック車：シフトレバーが P の状態でブレーキペダルを踏む
マニュアル車：シフトレバーが N の状態でクラッチペダルを踏む
- 2 電子キーのトヨタエンブレム面で、エンジンスイッチにふれる
電子キーを認識するとブザーが鳴り、ON へ切りかわります。
車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定が非作動になっているときは、ACC へ切りかわります。



- 3 オートマチック車はブレーキペダル、マニュアル車はクラッチペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイに  が表示されていることを確認する

- 4 エンジンスイッチを短く確実に押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

□ 知識

■ エンジンの停止方法

通常のエンジンの停止方法と同様に、

パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをオートマチック車は P、マニュアル車は N にしてエンジンスイッチを押します。

■ 電池交換について

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。（→P.279）

■ モードの切りかえ

エンジン始動方法の手順 3 で、オートマチック車はブレーキペダル、マニュアル車はクラッチペダルから足を離してエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。（→P.115）

バッテリーがあがったときは

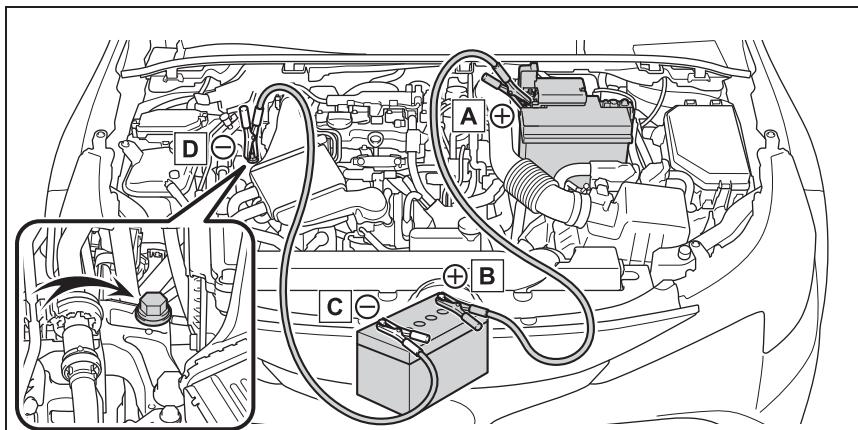
バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

エンジンを再始動するには

ブースターケーブルと12Vのバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

1 ボンネットを開ける (→P.271)

2 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの+端子[A]につなぎ、もう一方の端を救援車のバッテリーの+端子[B]につなぐ。その後、黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの-端子[C]につなぎ、もう一方の端を未塗装の金属部[D]につなぐ



[A] バッテリーの+端子（自車）
[B] バッテリーの+端子（救援車）
[C] バッテリーの-端子（救援車）
[D] 未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）

3 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約5分間自車のバッテリーを充電する

4 エンジンスイッチがOFFの状態でいずれかのドアを開閉する

5 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったんONにしてからエンジンを始動する

6 エンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではすす
エンジンが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

□ 知識

■ バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■ バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンが停止しているときは、ランプやオーディオの電源を切ってください。(Stop & Start システム装着車は、システムによるエンジン停止中を除く)

- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要的電装品の電源を切ってください。

■ バッテリーがあがってしまったときは

- コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

- 初期設定が必要な機能があります。
(→P.352)

■ バッテリー端子をはずすときは

バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■ バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。(バッテリーは走行中に自動で充電されます)

■ バッテリーあがり時や取りはずし時など

- バッテリー脱着直後はスマートエントリー＆スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠

できなかった場合はワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。

- バッテリー脱着後、最初の始動操作ではエンジンが始動できないことがありますが異常ではありません。再度始動操作を行ってください。

- 車両は常にエンジンスイッチの状態を記憶しています。バッテリーあがり時、バッテリー脱着後は、バッテリーをはずす前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、エンジンスイッチを OFF にしてから行ってください。バッテリーがあがる前の状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。

- Stop & Start システム装着車：バッテリー交換したあと、またはバッテリー端子をはずしたあとは約 5～60 分間、Stop & Start システムが作動しないことがあります。

■ バッテリーを交換するときは

- 欧州規格バッテリーを使用してください。

- Stop & Start システム装着車：装着されているバッテリーは、Stop & Start システム専用品です。純正品と同等またはそれ以上の性能を持つバッテリーと交換してください。適切なバッテリーをご使用いただかない場合、バッテリー保護のために Stop & Start システムの作動が制限されます。さらにバッテリーの早期劣化や、最悪の場合にはエンジンが再始動しなくなるおそれがあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

- Stop & Start システム非装着車：交換前と同一のケースサイズ (LN2)、20 時間率容量 (20HR) が同等 (60Ah) 以上、かつ性能基準値 (CCA) が同等 (360A) 以上のバッテリーを使用してください。

Stop & Start システム装着車：交換前と同一のケースサイズ (LN2)、20 時間率容量 (20HR) が同等 (60Ah) 以上、かつ性能基準値 (CCA) が同等 (530A) 以上のバッテリーを使用してください。

- ・大きさが異なると、バッテリーが正しく固定されません。
- ・20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない時期が短い期間であってもバッテリーがあがって、エンジンの始動ができなくなるおそれがあります。

- 詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■ バッテリー端子をはずすときは

必ず-端子を先にはずしてください。
+端子を先にはずすと、+端子が周辺の金属部分にぶれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがある他、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない
- +端子に接続したブースターケーブルの先を付近のプラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは+側と-側の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■ バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに關し、次のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、バッテリー液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようする
- 必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- バッテリーや周辺部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近付けない
- バッテリーのマイナス端子について
ボデーに接続されたバッテリーのマイナス端子をはずさないでください。
誤ってはずすとプラス端子と接触し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

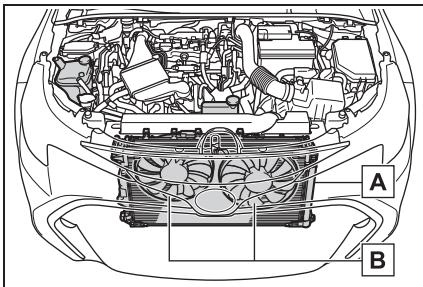
次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 水温計（→P.56, 59）の針がレッドゾーンに入ったり、エンジン出力が低下する（スピードが出ないなど）
- マルチインフォメーションディスプレイに“エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください”が表示される
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

- 1 安全な場所に停車し、エアコンをOFFにしてから、エンジンを停止する
- 2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける
- 3 エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）

やホースなどからの冷却水もれを点検する



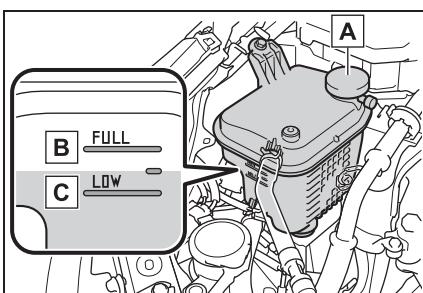
A ラジエーター

B ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

4 冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する

- エンジン

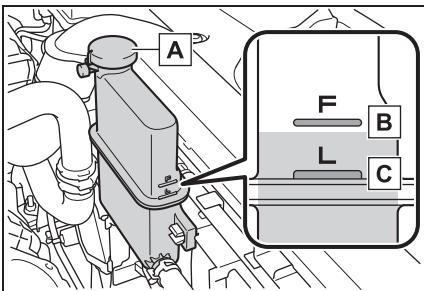


A リザーバータンク

B “FULL”（上限）

C “LOW”（下限）

- インタークーラー



A リザーバータンク

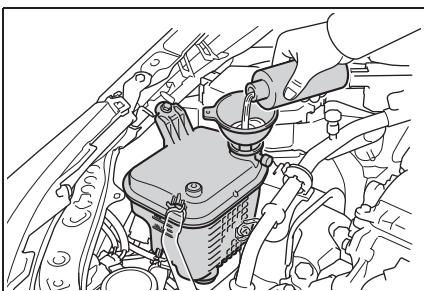
B “F” (上限)

C “L” (下限)

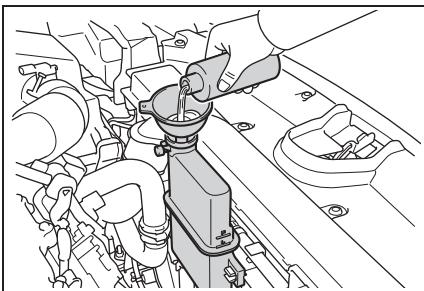
5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

● エンジン



● インタークーラー



6 エンジンを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、お

よびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

エンジンが冷えた状態での始動直後は、エアコンをONにすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンのON・OFFをくり返してください。(ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります)

7 ファンが作動していない場合：すぐにエンジンを停止し、トヨタ販売店に連絡する
ファンが作動している場合：最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

⚠ 警告

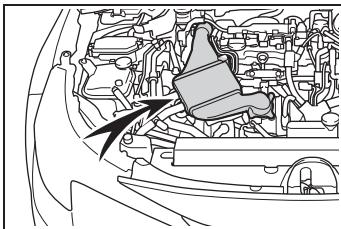
■ エンジンルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- エンジンおよびラジエーターが熱いうちにはリザーバータンクキャップを開けないでください。高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあり危険です。

⚠ 警告

- エンジンが熱いうちはインタークーラーにふれないでください



⚠ 注意

冷却水を入れるとき

エンジンが十分に冷えてからゆっくり入れてください。

エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 冷却水用添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなつたときは次の方法を試みてください。

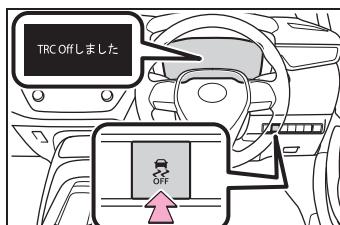
脱出するには

- パーキングブレーキをかけシフトレバーをP（オートマチック車）もしくはN（マニュアル車）にして、エンジンを停止する
- 前輪周辺の土や雪などを取り除く
- 前輪の下に木や石などをあてがう
- エンジンを再始動する
- シフトレバーを確実にDまたはR（オートマチック車）もしくはNまたはR（マニュアル車）にし、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

□ 知識

脱出しにくいとき

 スイッチを押してTRCをOFFにしてください。



⚠ 警告

■ 脱出するとき

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。

スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■ シフトレバーを操作するとき（オートマチック車）

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。

車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- 前輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。

- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など） **338**

8-2. カスタマイズ機能

ユーザー カスタマイズ機能一覧 **344**

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目 **352**

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。

お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L] (参考値)
・ 無鉛レギュラーガソリン	
・ バイオ混合ガソリン（レギュラー）*	50

* エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

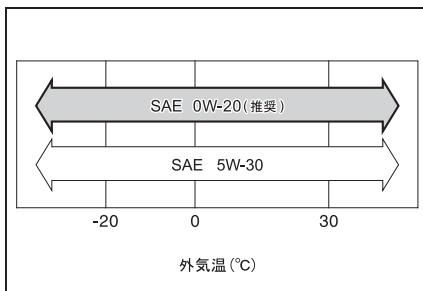
エンジンオイル

指定銘柄	容量 [L] (参考値 *)	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推薦： トヨタ純正モーターオイル SN PLUS 0W-20 — API SN PLUS/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20		
適合： トヨタ純正モーターオイル SN 5W-30 — API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30	3.7	4.0

* エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



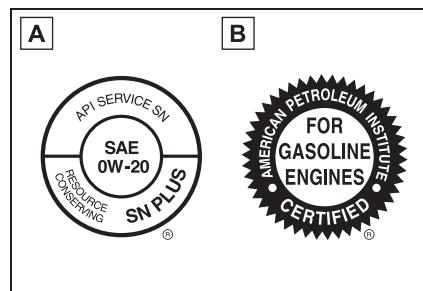
オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

- 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SN PLUS/RC、

SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。0W-20 は、新車時に工場充填されている推奨オイルであり、優れた省燃費性能を発揮できます。0W-20 が入手困難な場合は、5W-30 もご使用いただけます。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークがついています。



A API マーク

B ILSAC CERTIFICATION マーク

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L] (参考値)	
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント	エンジン	6.5 ^{※1}
凍結保証温度		6.3 ^{※2}
濃度 30% - 12° C	インターラー	1.9
濃度 50% - 35° C		

※1 オートマチック車

※2 マニュアル車

オートマチックトランスミッション

指定銘柄	容量 [L] (参考値 ^{※1})
トヨタ純正 CVT フルード FE	7.5 ^{※2}
	7.4 ^{※3}

^{※1}交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください

^{※2}FF 車

^{※3}4WD 車



■ CVT フルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

マニュアルトランスミッション

オイルタイプ・推奨粘度	容量 [L] (参考値)
次のいずれかをご使用ください。 - “トヨタ純正マニュアルトランスミッションギヤオイル LV” - API GL-4 SAE 75W の規格に適合する他のオイル	2.4



■ マニュアルトランスミッションギヤオイル

使用されるギヤオイルの特性や使用環境により、アイドリング音、シフトレバーの操作感や燃費が影響を受けることがあります。最適な性能を実現するため、“トヨタ純正マニュアルトランスミッションギヤオイル LV” のご使用をおすすめします。

トランスファー (4WD 車)

オイルタイプ・推奨粘度	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正ディファレンシャルギヤオイル LT (API GL-5 SAE 75W-85)	0.45

リヤディファレンシャル（4WD車）

オイルタイプ・推奨粘度	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正ディファレンシャルギヤオイル LT (API GL-5, SAE 75W-85)	0.5

クラッチ

■ クラッチフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ クラッチペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	3 ~ 15
クラッチ切れ残り代 ※	25 以上

* クラッチが切れた位置からクラッチペダルを床いっぱいまで踏み込んだ位置までの動き量

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ~ 6
踏み込んだときの床板とのすき間 ※	105

* エンジン回転時に 300N (30.6kgf) の踏力をかけたときのコラムホールカバーとのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目 (エンジン始動時)	パーキングブレーキ表示灯の状態
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上 2 秒以内で引いたとき	点灯
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上 2 秒以内で押したとき	消灯

このとき、ブレーキ警告灯（黄色）が点灯しないことを確認してください。

（警告灯が点灯した場合の対処については、P.298 を参照してください）

■ ウォッシャータンク

容量 [L] (参考値)
2.5 ^{※1}
4.8 ^{※2}

※¹ステアリングヒーター非装着車

※²ステアリングヒーター装着車

■ タイヤ・ホイール

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの 空気圧 kPa (kg/cm ²)		
		前輪	後輪	
標準タイヤ	195/65R15 91H	15 × 6 1/2J	250 (2.5)	240 (2.4)
	205/55R16 91V	16 × 7J		
	225/40R18 88W	18 × 8J	230 (2.3)	210 (2.1)
応急用タイヤ★	T125/70D17 98M	17 × 4T	420 (4.2)	

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電球 (バルブ) ※

電球		W (ワット) 数
車外	番号灯	5
車内	フロントインテリアランプ／パーソナルランプ	5
	バニティミラーランプ	8
	リヤインテリアランプ	8
	ラゲージルームランプ	5

※ 表に記載のないランプは LED を採用しています。

車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
NRE210H	8NR-FTS (1.2L ガソリン)	FF (前輪駆動)
NRE214H		4WD (4 輪駆動)

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。また、マルチメディア・マルチインフォメーションディスプレイの操作により設定を変更することができる機能もあります。

設定を変更するには

■ マルチメディアで設定するには

- 1 設定ボタンを押し、「設定・編集」を選択する
- 2 「設定・編集」画面の「運転支援」／「車両」を選択する
- 3 設定を変更したいカテゴリーを選択する
- 4 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する
- 5 機能の作動内容を選択する

作動・非作動を変更できる機能では、「する」(作動)・「しない」(非作動)を選択します。

音量やセンサーの感度などを変更できる機能では、「+」または「-」を選択してレベルを調整します。

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

A マルチメディアの画面操作で設定変更可能

B マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

- 1 メーター操作スイッチの〈または〉を押して  を選択する
- 2 ▲または▼を押して設定変更したい項目にカーソルを合わせる
- 3 OKスイッチを短押しまたは長押しする

OKスイッチの短押し・長押しで設定できる内容が異なります。

画面に表示されている内容に従って操作してください。



■ カスタマイズ設定を行うとき

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素(CO)により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



■ カスタマイズを行うときは

バッテリー上がりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

C トヨタ販売店で設定変更可能

■ メーター、マルチインフォメーションディスプレイ (→P.52, 56, 59, 62)

機能の内容 ^{※1}	初期設定	変更後	A	B	C
言語	日本語	英語	—	○	—
単位	km/L	L/100km	—	○	—
メーター表示 ^{※2}	アナログ	デジタル	—	○	—
エコドライブインジケーター★	あり (自動点灯)	なし	—	○	—
燃費ランキング	非表示	表示	—	○	—
燃費推移	非表示	表示	—	○	—
燃費履歴	非表示	表示	—	○	—
燃費グラフ	リセット後平均燃費	始動後平均燃費	—	○	—
		給油後平均燃費	—	○	—
燃費推移	1分間刻み	5分間刻み	—	○	—
4WD (トルク配分表示) ★	表示	非表示	—	○	—
ドライブインフォタイプ	始動後	リセット後	—	○	—
ドライブインフォ項目 (1行目)	走行距離	平均車速	—	○	—
		走行時間	—	○	—
ドライブインフォ項目 (2行目)	走行時間	平均車速	—	○	—
		走行距離	—	○	—
割り込み表示	あり	なし	—	○	—

※¹機能についての詳しい説明は P.67 を参照してください

※² フィンチディスプレイ

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ヘッドアップディスプレイ★ (→P.69)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ヘッドアップディスプレイ表示	あり	なし	—	○	—
タコメーター切りかえ	タコメーター	エコドライブインジケーター★	—	○	—
		表示なし			
運転支援システム表示	あり	なし	—	○	—
オーディオ表示	あり	なし	—	○	—

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通 (→P.79, 85)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
作動の合図 (ブザー音量調整)	レベル 5	OFF	○	—	○
		レベル 1 ~ 7			
作動の合図 (非常点滅灯)	あり	なし	○	—	○
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒	—	—	○
		120 秒			
半ドア警告ブザー	あり	なし	—	—	○

■ スマートエントリー＆スタートシステム (→P.79, 85)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
スマートエントリー＆スタートシステム	あり	なし	○	—	○
解錠されるドアの選択	全席解錠	運転席のみ解錠	○	—	○
全席解錠までのドアハンドル保持時間	非作動	1.5 秒	—	—	○
		2.0 秒			
		2.5 秒			
連続ロック操作の有効回数	2 回	無制限	—	—	○

■ ワイヤレスドアロック (→P.76, 79)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ワイヤレス機能	あり	なし	—	—	○
解錠時の操作	1回で全ドア解錠	1回で運転席ドア解錠、連続2回で全ドア解錠	○	—	○

■ ドアミラー (→P.97)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
オート電動格納作動★	ドアの施錠・解錠と連動	OFF	—	—	○
		エンジンスイッチと連動			

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ パワーウィンドウ (→P.99)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
メカニカルキー連動開閉機能	なし	あり	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉作動の合図 (ブザー)	あり	なし	—	—	○

■ ランプ自動点灯・消灯システム (→P.130)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ライトセンサーの感度調整	標準	-2 ~ 2	○	—	○
ランプを点灯するまでの時間	標準	長め	○	—	○
ランプ消し忘れ防止機能	運転席ドアと連動	エンジンスイッチと連動	—	—	○
ワイパー連動ヘッドラップ点灯機能	なし	あり	—	—	○

■ ランプ (→P.130)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
LED デイライト	あり	なし	○	—	○

■ PCS (プリクラッシュセーフティ) (→P.145)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
プリクラッシュセーフティ	あり	なし	—	○	—
警報タイミング	中間	遠い	—	○	—
		近い	—	○	—

■ LTA (レーントレーシングアシスト) ★ / LDA (レーンディバーチャーアラート [ステアリング制御機能付き]) ★ (→P.152, 161)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
車線維持支援機能 (センタートレース) ★	あり	なし	—	○	—
操舵支援機能	あり	なし	—	○	—
警報感度	高	普通	—	○	—
ふらつき警報機能	あり	なし	—	○	—
ふらつき警報機能の感度	普通	高	—	○	—
		低	—	○	—

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ RSA (ロードサインアシスト) (→P.168)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
RSA (ロードサインアシスト) 機能	あり	なし	—	○	—
制限速度超過告知	なし	告知表示のみ	—	○	—
		告知表示とブザー	—	○	—
制限速度超過の告知タイミング	2km/h	10km/h	—	○	—
		5km/h	—	○	—
追い越し禁止告知	告知表示のみ	なし	—	○	—
		告知表示とブザー	—	○	—

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
その他の告知（進入禁止告知）	告知表示のみ	なし	—	○	—
		告知表示とブザー	—	○	—

■ 先行車発進告知機能 (→P.188)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
先行車発進告知機能	あり	なし	—	○	—
告知距離	中間	近い	—	○	—
		遠い	—	○	—

■ Stop & Start システム (→P.190)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
エアコンが ON のときのアイドリングストップ時間	普通	長め	—	○	—

■ BSM (ブラインドスポットモニター) ★ (→P.198)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ブラインドスポットモニター機能	あり	なし	—	○	—
ドアミラーインジケーターの明るさ	明るい	暗い	—	○	—
接近車両を知らせるタイミング（感度）	普通	早い	—	○	—
		遅い	—	○	—
		死角領域の車両のみ検知	—	○	—

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ クリアランスソナー★、RCTA (リヤクロストラフィックアラート) ★ 共通 (→P.79, 85)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ブザー音量	レベル 2	レベル 1	—	○	—
		レベル 3	—	○	—

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ クリアランスソナー★ (→P.203)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
クリアランスソナー機能	あり	なし	—	○	—

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ RCTA (リヤクロストラフィックアラート) ★ (→P.209)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
RCTA (リヤクロストラフィックアラート) 機能	あり	なし	—	○	—

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ PKSB (パーキングサポートブレーキ) ★ (→P.213)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
PKSB (パーキングサポートブレーキ) 機能	あり	なし	—	○	—

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ エアコン (→P.240)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない	○	—	○

■ イルミネーション (→P.248)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
室内灯の消灯までの時間	15秒	OFF	○	—	○
		7.5秒			
		30秒			
エンジンスイッチ OFF 後の照明の点灯	あり	なし	—	—	○
解錠時の照明の点灯	あり	なし	—	—	○

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
接近時の照明の点灯	あり	なし	—	—	○
ドアトリム照明、カッブホルダ照明の点灯	あり	なし	—	—	○

□ 知識

■車両カスタマイズについて

解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、“作動の合図（非常点滅灯）”・“作動の合図音量（ブザー音量調整）”の設定に依存します。

■車両カスタマイズ画面について

次の状態になるとマルチインフォメーションディスプレイの車両カスタマイズ画面は自動的に終了します。

- 車両カスタマイズ画面表示後に警告メッセージが表示された
- エンジンスイッチが OFF になった
- 車両カスタマイズ画面表示中に走行し始めた

初期設定が必要な項目

次の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

初期設定が必要な項目

項目	初期設定が必要なとき	参照先
PKSB (パーキングサポートブレーキ) ★	・ バッテリーの充電・交換後の再接続時	P.213

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）	354
車から音が鳴ったときは（音さくいん）	356
アルファベット順さくいん	358
五十音順さくいん	360

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

（→P.87）



リヤドアが開かない

施錠／解錠／ドアの開閉ができない



キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→P.326）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→P.326）



施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→P.279）
- エンジンスイッチが ON になつていませんか？
- 施錠するときは、エンジンスイッチを OFF にしてください。（→P.115）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？

施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。

● 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。

- チャイルドプロテクターがかかっていませんか？

チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→P.81）

故障かな？と思ったら



エンジンがかからない

- オートマチック車：ブレーキペダルをしっかりと踏みながらエンジンスイッチを押していますか？（→P.113）
- マニュアル車：クラッチペダルをしっかりと踏みながらエンジンスイッチを押していますか？（→P.113）
- オートマチック車：シフトレバーは P になっていますか？（→P.113）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→P.86）
- ステアリングロックされていませんか？（→P.113）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？

このときは、一時的な方法でエン

ジンをかけることができます。

（→P.328）

- バッテリーがあがっていませんか？（→P.329）



ブレーキペダルを踏んでいても
シフトレバーが P から動かない
(オートマチック車)

- エンジンスイッチは ON になっていますか？

エンジンスイッチが ON でブレーキを踏んでも解除できないときは
(→P.119) を参照してください。



エンジンを停止したあとにハン
ドルがまわせなくなった

- 盗難防止のため、自動的にロックされます。（→P.113）



パワーウィンドウスイッチを操
作してもドアガラスが開閉しない

- ウィンドウロックスイッチが押
されていませんか？

ウィンドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウィンドウは操作できなくなります。（→P.101）



エンジンスイッチが自動的に
OFF になった

- 一定時間 ACC または ON (エンジンがかっていない状態) にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→P.116）



警告音が鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→P.356）をご確認ください。



警告灯や警告メッセージが表示
されたとき

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P.298、305をご確認ください。

トラブルが発生した



タイヤがパンクした

- タイヤパンク応急修理キット装着車：車を安全な場所に停め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→P.307）

- 応急用タイヤ装着車：車を安全な場所に停め、パンクしたタイヤを応急用タイヤに交換してください。（→P.318）



立ち往生した

- ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→P.334）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
ドアを開閉したとき	シフトポジションがP以外になっている★	P.305
エンジンを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P.279
施錠しようとしたとき (施錠できないとき)	いずれかのドアが確実に閉まっていない 電子キーを車内に置き忘れている	P.86 P.305

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドア・バックドアが確実に閉まっていない	P.81
	パーキングブレーキが解除されていない	P.127
	シートベルトを着用していない ※	P.301

状況	原因	詳細
シフトダウンしたとき	シフトダウン制限をこえて操作した★	P.121
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P.108
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロールを使用している	P.176, 184
前方の障害物と衝突しそうになつたとき	PCS（ブリクラッシュセーフティ）が作動した	P.145
車線から逸脱しそうになつたとき	LTA（レーンレーシングアシスト）★を使用している	P.152
車線から逸脱しそうになつたとき	LDA（レーンディパーチャーラート【ステアリング制御機能付き】）★を使用している	P.161
制限速度より一定の速度を超過したとき	RSA（ロードサイニアシスト）が作動した	P.168
はみ出し通行禁止の道路で追い越しをかけたとき		

状況	原因	詳細
障害物との距離が近付いたとき	クリアランスソナー★が作動した	P.203
後退時に左右からの車を検知したとき	RCTA (リヤクロストラフィックアラート) ★が作動した	P.209

* 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アルファベット順さくいん

A/C

(エアコン) 240

ABS

(アンチロックブレーキシステム)
..... 230

ACA

(アクティブコーナリングアシスト)
..... 231

AI-AVS

(アーティフィカルインテリジェン
スアダプティブバリアブルサスペン
ションシステム) 231

AVS

(アダプティブバリアブルサスペン
ションシステム) 231

BSM

(ブラインドスポットモニター)
..... 198

EDR

(イベントデータレコーダー) 6

EPS

(エレクトリックパワーステアリン
グ) 231

FF

(フロントエンジンフロントドライ
ブ) 343

HUD

(ヘッドアップディスプレイ) 69

ILSAC CERTIFICATION

(イルサックサーティフィケーショ
ン) 339

ISOFIX

(アイソフィックス／イソフィック
ス) 34

LDA

(レーンディパーチャーラート)
..... 161

LED

(ライトエミッティングダイオード)
..... 130

LTA

(レーントレーシングアシスト)
..... 152

PCS

(プリクラッシュセーフティ) .. 145

PKSB

(パーキングサポートブレーキ)
..... 213

RCTA

(リヤクロストラフィックアラート)
..... 209

RSA

(ロードサインアシスト) 168

SRS

(サプリメンタルレストRAINTシ
ステム) 26

S-VSC

(ステアリングアシstedビーク
ルスタビリティコントロール) 230

Toyota Safety Sense

LDA (レーンディパーチャーラ
ート) 161

LTA (レーントレーシングアシ
スト) 152

PCS (プリクラッシュセーフティ)
..... 145

RSA (ロードサインアシスト) 168

オートマチックハイビーム 132

先行車発進告知機能 188

レーダークルーズコントロール
..... 171, 180

TRC

(トラクションコントロール) 231,
334

VSC

(ビーカルスタビリティコントロー
ル) 230

五十音順さくいん

あ

アースポイント（バッテリーあがりの処置）	329
アームレスト	263
アイドリングストップ	
Stop & Start システム	190
アウターミラー（ドアミラー）	
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）	209
格納のしかた	98
操作	97
ブライムドスポットモニター（BSM）	198
ミラーヒーター	242
アクセサリーソケット	262
アクセサリーモード	115
アクティブコーナリングアシスト（ACA）	231
アシストグリップ	263
アダプティブバリアルサスペンションシステム（AVS）	231
アラーム	
音さくいん	356
警告ブザー	298
アンチロックブレーキシステム（ABS）	230
警告灯	299
アンテナ（スマートエントリー＆スタートシステム）	85

い

イグニッションスイッチ（エンジンスイッチ）	
エンジンのかけ方	113
自動電源 OFF 機能	116
車両を緊急停止するには	290
モードの切り替え	115

イグニッションスイッチ（パワースイッチ）

車両を緊急停止するには	290
位置交換（タイヤローテーション）	276
イベントデータレコーダー（EDR）	6
イモビライザーシステム	49
イルミネーテッドエントリーシステム	249
インジケーター（表示灯）	54
インテリアランプ	248
ワット数	343
インナーミラー	96

う

ワインカー（方向指示灯）	
電球（バルブ）の交換	283
方向指示レバー	124
ウインドウ	
ウォッシャー	136
パワーウィンドウ	99
リヤウインドウデフォッガー	242
ウインドウロックスイッチ	101
ウォッシャー	
液の補給	273
スイッチ（フロント）	136
スイッチ（リヤ）	138
タンク容量	342
冬の前の準備・点検	236
フロント	136
リヤ	138
動けなくなったときは（スタック）	334
運転	
雨の日の運転	105
運転を補助する装置	230
寒冷時の運転	236
正しい運転姿勢	21
手順	104

運転支援機能情報表示.....	66
運転席シートベルト非着用警告灯 ...	301

え

エアコン	
オートエアコン	240
曇り取り（フロントガラス）	242
フィルターの清掃.....	278
エアコン・デフォッガー.....	240
エアバッグ	
SRS エアバッグ警告灯	299
改造・廃棄	31
警告ブザー	299
作動条件	27
正しい姿勢	21
配置	26
エコドライブインジケーター	65, 72
エネルギーモニター	73
LED デイライト	130
エレクトリックパワーステアリング (EPS)	231
警告灯	300
エンジン	
イグニッションスイッチ（エンジンスイッ チ）	113
エンジンイモビライザーシステム	49
エンジンがかからない（エンジンが始動で きない）	325
エンジンスイッチ	113
エンジンの始動方法	113
オーバーヒート	332
緊急時の停止方法	290
タコメーター	56, 59
フューエルポンプシャットオフシステム	297
ボンネット	271
エンジンイモビライザーシステム	49

エンジンオイル

警告灯	299
冬の前の準備・点検	236
メンテナンスデータ	338
容量	338

エンジン回転計（タコメーター）56, 59

エンジンスイッチ

エンジンのかけ方	113
自動電源 OFF 機能	116
モードの切りかえ	115

エンジンフード（ボンネット）

開け方	271
-----------	-----

エンジンルーム

エンジンルームから蒸気が出ている ...	332
----------------------	-----

お

オイル（エンジンオイル）.....338

応急用タイヤ	318
交換方法	318

オーディオシステム連携表示.....66

オートエアコン

オートマチックトランスマッision

オートマチックトランスマッision ...	117
------------------------	-----

オートマチックハイビーム

オーバーヒート

オープナー

給油扉	140
バックドア	84
ボンネット	271

オープントレイ

おくだけ充電（ワイヤレス充電器）.258

お子さまを乗せるとき

ウインドウロックスイッチ	101
お子さまの安全のために	33
キーの電池	280
シートベルトの着用	23, 24
ステアリングヒーター・シートヒーターに 関する警告	246

チャイルドシート	34
チャイルドシートの取り付け	34
チャイルドプロテクター	81
発炎筒の取り扱いに関する警告	290
バッテリーに関する警告	331
パワーウィンドウに関する警告	100
オドメーター／トリップメーターディスプレイ	57, 62
表示切りかえボタン	57, 62
表示項目	58, 62

か

カーテンシールドエアバッグ	26
カーペット	
洗浄	268
フロアマットの取り付け方	20
外気温度表示	56, 59, 72
外装の電球（バルブ）	
交換要領	283
ワット数	343
買い物フック	253
カスタマイズ機能	344
型式	343
カップホルダー	251
カメラ	
前方カメラ（PCS）	141
白線認識用カメラ（LTA）	152
白線認識用カメラ（LDA）	161
ガラスの曇り取り（リヤウィンドウデフオッガー）	242
ガレージジャッキ	272
冠水路走行	111
寒冷時の運転	236

き

キー	
エンジンが始動できない	325

キーナンバープレート	76
キーの構成	76
キーレスエントリー	77, 85
キーをなくした	326
正常に動かない	327
施錠・解錠ができる	327
電子キー	76
電池が切れた	279
メカニカルキー	78
ワイヤレスリモコン	77
キーレスエントリー	
スマートエントリー＆スタートシステム	85
ワイヤレスドアロック	77
給油	
給油のしかた	139
メンテナンスデータ	338
緊急時シートベルト固定機構	24
緊急時の対処	
エンジンが始動できない	325
オーバーヒートした	332
キーの電池が切れた	279, 327
キーをなくした	326
警告灯がついた	298
警告メッセージが表示された	305
けん引	292
故障したときは	288
車両を緊急停止する	290
水没したときは	291
スタックした	334
電子キーが正常に動かない	327
発炎筒	289
バッテリーがあがつた	329
パンクした	307, 318
緊急ブレーキシグナル	231

く

空気圧（タイヤ）

メンテナンスデータ 342

区間距離計（トリップメーター） 57, 62

曇り取り

フロントガラス 242

ミラーヒーター 242

リヤウインドウデフォッガー 242

クラクション（ホーン） 95

クラッチ

メンテナンスデータ 341

クラッチフルード 341

クリアランスソナー 203

警告メッセージ 205

操作 203

クリアランスランプ（車幅灯）

スイッチ 130

電球（バルブ）の交換 283

クリップ

フロアマット 20

クルーズコントロール

レーダークルーズコントロール 180

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き） 171

グローブボックス 251

け

警音器（ホーン） 95

計器類（メーター） 56, 59

警告灯 298

RCTA OFF 表示灯 302

iMT 表示灯 304

ABS & ブレーキアシスト 299

SRS エアバッグ 299

LTA 表示灯 301

LDA 表示灯 301

エンジン 299

クリアランスソナー OFF 表示灯 302

高水温 298

シートベルト非着用 301

充電 298

Stop & Start キャンセル表示灯 301

スリップ表示灯 303

ドライブスタートコントロール 300

燃料残量 300

パーキングブレーキ表示灯 303

パワーステアリング 300

PKSB OFF 表示灯 302

PCS 303

ブレーキ 298

ブレーキオーバーライドシステム 300

ブレーキホールド作動表示灯 303

油圧 299

警告ブザー

RCTA (リヤクロストラフィックアラート) 302

ABS & ブレーキアシスト 299

SRS エアバッグ 299

LDA (レーンディバーチャーアラート) 163, 301

LTA (レントレーシングアシスト) 154, 301

エンジン 299

クリアランスソナー 302

高水温 298

シートベルト非着用 301

衝突警報 145

接近警報（レーダークルーズコントロール） 176, 184

手放し運転警報（LTA） 159

手放し運転警報（LDA） 166

ドライブスタートコントロール 300

パワーステアリング 300

半ドア 80

半ドア走行時 81

PKSB (パーキングサポートブレーキ)	302
ふらつき警報機能 (LTA)	160
ふらつき警報機能 (LDA)	167
プリクラッシュセーフティシステム	303
プリクラッシュブレーキ	145
ブレーキ	298
ブレーキオーバーライドシステム	300
ブレーキホールド	303
窓開	100
油圧	299
リバース	117
警告メッセージ	305
化粧ミラー (バニティミラー)	264

こ

交換

キーの電池	279
タイヤ	318
電球 (バルブ)	283
ヒューズ	281
工具 (ツール)	308, 319
航続可能距離	64, 65, 73
後退灯 (バックアップランプ)	
電球 (バルブ) の交換	283
コートフック	263
子供専用シート	
取り付け方	35
コンソールボックス	252
コンライト (自動点灯・消灯装置)	130

さ

サイドエアバッグ	26
サイド方向指示灯	
電球 (バルブ) の交換	283
方向指示レバー	124

サイドミラー (ドアミラー)	
格納のしかた	98
操作	97
ブライドスポットモニター (BSM)	198
ミラーヒーター	242
リヤクロストラフィックアラート (RCTA)	209
サスペンションコントロール (PCS)	
	145
サンバイザー	264

し

シート

正しい運転姿勢	21
チャイルドシート	34
調整	90
手入れ	268
ヘッドレスト	92
シートヒーター	246
シートベルト	23
お子さまの着用	23, 24
緊急時シートベルト固定機構	24
正しく着用するには	24
着け方・はずし方	24
手入れ	268
妊娠中の着用	23
非着用警告灯	301
シートベルト非着用警告灯	301
シートベルトプリテンショナー	
機能	25
プリテンショナー警告灯	299
室内灯 (インテリアランプ)	248
始動のしかた	113
シフトポジション	117
シフトレバー	
シフトポジションの切りかえ	118
シフトレンジの切りかえ	119
操作	117, 121

リバース警告ブザー	117
締め付けトルク（ホイール）	322
ジャッキ	
ガレージジャッキ	272
車載ジャッキ	308, 319
ジャッキハンドル	308, 319
車幅灯	
電球（バルブ）の交換	283
ランプスイッチ	130
車両型式	343
車両仕様（スペック）	338
車両情報表示	66
車両を緊急停止するには	290
充電用USB端子	258
瞬間燃費	64, 73
仕様（車両仕様）	338
初期化	
パワーウィンドウ	99
初期設定	352
助手席シートベルト非着用警告灯	301

す

水温計	56, 59
スイッチ	
RCTA	209
イグニッション	113
ウインドウロック	101
LDA（レーンディバーチャーアラート）	165
LTA（レーントレーシングアシスト）	156
エンジンスイッチ	113
オートマチックハイビーム	132
クリアランスソナー	203
シート調整	90
シートヒーター	246
車間距離切りかえ（レーダークルーズコントロール）	171, 180
ステアリングヒーター	246

Stop & Start キャンセル	196
TRC OFF	231
ドアミラー	97
ドアロック	81
ドライブモードセレクト	229
パーキングブレーキ	125
パドルシフト	119
パワーウィンドウ	99
PKSB	214
PCS OFF	147
表示切りかえ	57, 62
VSC OFF	232
フォグランプ	135
ブレーキホールド	128
フロントウォッシャー	136
フロントワイパー	136
フロントワイパー・デアイサー	240
方向指示レバー	124
ホーン（警音器）	95
メーター操作	63
ランプ	130
リヤウインドウデフォッガー	240
リヤウォッシャー	138
リヤフォグランプ	135
リヤワイパー	138
レーダークルーズコントロール	171, 180
スタック	334
ステアリングヒーター	246
ステアリングホイール（ハンドル）	
位置調整	95
ステアリングヒーター	246
メーター操作スイッチ	63
ステアリングロック	113
解除できないとき	113
警告メッセージ	113
Stop & Start システム	
警告灯	301
システム情報表示	68

Stop & Start システム情報表示	68
ストップランプ（制動灯）	
電球（バルブ）の交換	283
スノータイヤ（冬用タイヤ）	236
スピードメーター	56, 59
スペアタイヤ（応急用タイヤ）	318
交換方法	318
スペック（車両仕様）	338
スマートエントリー＆スタートシステム	
アンテナの位置	85
エンジンの始動	113
カスタマイズ設定	344
緊急始動機能	325
作動範囲	86
正常に働かないとき	327
節電機能	86
電波がおよぼす影響について	89
ドアの解錠・施錠	79
バックドアの解錠・施錠	84
スマールランプ（車幅灯）	
電球（バルブ）の交換	283
ランプスイッチ	130
スリップ表示灯	231

せ

清掃	
外装	266
シートベルト	268
内装	268
ホイール・ホイールキャップ	266
レーダー	142
制動灯	
電球（バルブ）の交換	283
セカンダリーコリジョンブレーキ	230
積算距離計（オドメーター）	57, 62
セキュリティインジケーター	49

接近警報（レーダークルーズコントロール）	176, 184
先行車発進告知機能	188
センサー	
インナーミラー	96
LDA（レーンディバーチャーアラート）	161
LTA（レーントレーシングアシスト）	152
後側方レーダーセンサー	199
ライトセンサー	130
レーダー	141
洗車	266
前照灯（ヘッドライト）	
電球（バルブ）の交換	283
マニュアルレベリングシステム	131
ライトセンサー	130
ランプ消し忘れ防止機能	130
ランプスイッチ	130

そ

走行距離	66
走行時間	66
走行情報表示	64
走行モード（ドライブモード）	119, 229
速度計（スピードメーター）	56, 59

た

ターンシグナルランプ（方向指示灯）	
電球（バルブ）の交換	283
方向指示レバー	124
タイヤ	
応急用タイヤ	318
空気圧	277, 342
交換	318
締め付けトルク	322
チェーン	236

点検	274
パンク応急修理キット	307
パンクしたときは	307, 318
冬用タイヤ	236
ホイールサイズ	342
ローテーション（位置交換）	276
タイヤが空まわりする（スタッカした）	334
タイヤチェーン	236
タコメーター	56, 59

ち

チェーン（タイヤチェーン）	236
チャイルドシート	
ISOFIX ロアアンカレッジでの取り付け	46
シートベルトでの固定	44
選択方法	34
駐車ブレーキ（パーキングブレーキ）	
警告灯	303
警告メッセージ	126
操作	125
冬季の注意	236
未解除走行時警告ブザー	127
メンテナンスデータ	342

つ

ツール（工具）	308, 319
---------	----------

て

ディスプレイ	
ヘッドアップディスプレイ	69
マルチインフォメーションディスプレイ	
.....	62
ディファレンシャル	
リヤディファレンシャル	341

手入れ

外装	266
シートベルト	268
内装	268
ホイール・ホイールキャップ	266
レーダー	142

テールランプ（尾灯）

電球（バルブ）の交換	283
ランプスイッチ	130

デフォッガー（リヤウインドウデフォッガ）

電球（バルブ）	242
---------	-----

電球（バルブ）

交換要領（外装バルブ）	283
-------------	-----

ワット数	343
------	-----

点検基準値（メンテナンスデータ）

電子キー

作動範囲	86
------	----

正常に働かないとき	327
-----------	-----

節電機能	86
------	----

電池が切れた	327
--------	-----

電池交換	279
------	-----

電池交換（キー）

.....	279
-------	-----

と

ドア

スマートエントリー＆スタートシステム	
--------------------	--

.....	85
-------	----

チャイルドプロテクター	81
-------------	----

ドアガラス	99
-------	----

ドアロックスイッチ	81
-----------	----

バックドア	82
-------	----

ロックレバー	81
--------	----

ワイヤレスリモコン	79
-----------	----

ドアポケット

.....	250
-------	-----

ドアミラー

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）	
-----------------------	--

.....	209
-------	-----

格納のしかた	98
--------	----

操作	97
ブライムスポットモニター (BSM)	198
ミラーヒーター	242

盗難防止装置

エンジンアイモビライザーシステム	49
時計	56, 59
トップテザーアンカレッジ	47
ドライブスタートコントロール	106
ドライブモードセレクトスイッチ	229
トラクションコントロール (TRC)	231
トランスファー	

メンテナンスデータ	340
-----------	-----

トランスミッション

オートマチックトランスミッション	117
操作	118
パドルシフトスイッチ	119
マニュアルトランスミッション	121
メンテナンスデータ	340
トリップメーター	57, 62
トルク配分	67

な

内装

収納装備	250
手入れ	268

に

ニーエアバッグ	26
荷物	
積むときの注意	111
バックドア	82
ラゲージルーム内装備	253

ぬ

ぬかるみにはまった (スタック)	334
------------------	-----

ね

燃費

エネルギー モニター	73
給油後平均燃費	73
瞬間燃費	64, 73
平均燃費	64, 73
燃費推移 (1分間 / 5分間燃費)	65
燃費ランキング	65
燃費履歴	65
燃料	

給油	139
種類	338
燃料計	56, 59
燃料残量警告灯	300
フューエルポンプシャットオフシステム	297
容量	338
燃料計	56, 59

は

パーキングサポートブレーキ

操作	214
パーキングサポートブレーキ (後方接近車両)	225
パーキングサポートブレーキ (静止物)	219

パーキングブレーキ	125
警告灯	303
警告メッセージ	126
操作	125
冬季の注意	236
未解除走行時警告ブザー	127
メンテナンスデータ	342
パーソナルランプ	249
ワット数	343
排気ガス	32

ハイビーム (ヘッドライト)	
オートマチックハイビーム	132
電球 (バルブ) の交換	283
ランプスイッチ	130
ハイブリッドシステム	
エネルギーモニター	73
ハイマウントストップランプ	
電球 (バルブ) の交換	283
ハザードランプ (非常点滅灯)	
電球 (バルブ) の交換	283
挟み込み防止機能	
パワーウィンドウ	99
発炎筒	289
バックアップランプ (後退灯)	
電球 (バルブ) の交換	283
バックドアオープナー	84
バッテリー	
警告灯	298
バッテリーがあがった	329
パドルシフトスイッチ	119
バニティ (化粧用) ミラー	264
バニティミラーランプ	
装備について	264
ワット数	343
バルブ (電球)	
交換要領 (外装のバルブ)	283
ワット数	343
パワーウィンドウ	
ウインドウロックスイッチ	101
閉めることができないときは	99
初期化	99
操作	99
ドアロック連動ドアガラス開閉機能	100
挟み込み防止機能	99
巻き込み防止	99
パワーステアリング	231
警告灯	300
パンクした	
応急用タイヤ装着車	318
タイヤパンク応急修理キット装着車	307
番号灯 (ライセンスプレートランプ)	
電球 (バルブ) の交換	283
ランプスイッチ	130
ワット数	343
ハンドル (ステアリングホイール)	
位置調整	95
ステアリングヒーター	246
メーター操作スイッチ	63
ひ	
ビーコルスタビリティコントロール (VSC)	230
ヒーター	
エアコン・デフォッガー	240
シートヒーター	246
ステアリングヒーター	246
ミラーヒーター	242
非常点滅灯	
緊急ブレーキシグナル	231
非常点滅灯 (ハザードランプ)	
電球 (バルブ) の交換	283
尾灯 (テールランプ)	
電球 (バルブ) の交換	283
ランプスイッチ	130
ヒューズ	281
表示切りかえボタン	57, 62
表示灯	54
日よけ (サンバイザー)	264
ヒルスタートアシストコントロール	231
ふ	
ブースターケーブルのつなぎ方	329
フォグランプ	135
電球 (バルブ) の交換	283

ランプスイッチ	135	ブレーキアシスト	230
ブザー		ブレーキフルード	341
接近警報（レーダークルーズコントロール）	176, 184	ブレーキホールド	128
手放し運転警告（LTA）	159	フロアマット	20
手放し運転警告（LDA）	166	フロントシート	
パーキングブレーキ未解除走行時警告	127	シートヒーター	246
半ドア走行時警告	81	正しい運転姿勢	21
ふらつき警報機能（LTA）	160	調整	90
ふらつき警報機能（LDA）	167	手入れ	268
窓開警告	100	ヘッドライト	92
リバース警告	117	フロント方向指示灯	
フック		電球（バルブ）の交換	283
買い物物フック	253	方向指示レバー	124
けん引フック	295	フロントワイパーデアイサー	244
コートフック	263		
フロアマット固定フック	20	平均車速	66, 73
フューエルポンプシャットオフシステム	297	平均燃費	64, 73
フューエルメーター	56, 59	ヘッドアップディスプレイ	69
フューエルリッド（給油口）		運転支援システム表示	71
給油のしかた	139	エコドライブインジケーター	72
冬の前の準備（寒冷時の運転）	236	外気温度表示	72
冬用タイヤ	236	設定	70
ブラインドスポットモニター（BSM）	198	割り込み表示	71
ブリクラッシュセーフティ（PCS）		ヘッドライト	
機能	145	電球（バルブ）の交換	283
PCS OFF スイッチ	147	マニュアルレベリングシステム	131
ブリクラッシュセーフティシステム（PCS）		ライトセンサー	130
PCS 警告灯	303	ランプ消し忘れ防止機能	130
ブレーキ		ランプスイッチ	130
緊急ブレーキシグナル	231	ヘッドライト	92
警告灯	298		
パーキングブレーキ	125	ホイール	
ブレーキホールド	128	交換（タイヤ）	318
メンテナンスデータ	341	メンテナンスデータ	342

方向指示灯	
電球（バルブ）の交換	283
方向指示レバー	124
ホーン（警音器）	95
保証	7
ボトルホルダー	251
ボンネット	271
開け方	271

ま

マニュアルトランスマッision	
マニュアルトランスマッision	121
マルチインフォメーションディスプレイ	
運転支援機能情報表示	62
エコドライブインジケーター	66
オーディオシステム連携	66
警告メッセージ	305
航続可能距離	65
車両情報表示	66
Stop & Start システム情報	68
設定	67
走行情報表示	64
ドライブインフォメーション	66
トルク配分表示	67
燃費グラフ	64
燃費推移（1分間／5分間燃費）	65
燃費ランキング	65
燃費履歴	65
メーター操作スイッチ	63
メニューアイコン	63

み

ミラー	
アウターミラー	97
インナーミラー	96
ドアミラー	97

バニティミラー	264
ミラーヒーター	242

め

メーター	
計器類	56, 59
警告灯	298
警告メッセージ	305
設定	67
時計	56, 59
表示灯	54
マルチインフォメーションディスプレイ	
メーター操作スイッチ	63
メーター照度調整	57, 62
メカニカルキー	78
メニューアイコン	63
メンテナンスデータ	338

ゆ

ユザーカスタマイズ機能	344
雪道ですべって動けない（スタックした）	334
油脂類	338

よ

4WD（4ホイールドライブ）	343
----------------	-----

ら

ライセンスプレートランプ（番号灯）	
電球（バルブ）の交換	283
ランプスイッチ	130
ラゲージルーム	82, 253
ラゲージルーム内の装備	253
ラゲージルームランプ	84
ワット数	343

ラジエーター

オーバーヒート 332
メンテナンスデータ 339

ランプ

室内灯 248
電球 (バルブ) の交換 283
非常点滅灯 (ハザードランプ) 289
フォグラム 135
ヘッドラム (前照灯) 130
方向指示灯 (ターンシグナルランプ/ワインカー) 124
ライトセンサー 130
ランプ消し忘れ防止機能 130
リヤフォグラム 135
ランプ消し忘れ防止機能 130

り

リヤウインドウデフォッガー 242
リヤクロストラフィックアラート (RCTA) 209
警告メッセージ 210
リヤシート 91
ヘッドレスト 92
リヤ席シートベルト非着用警告灯 301
リヤフォグラム 135
電球 (バルブ) の交換 283
ランプスイッチ 135
リヤ方向指示灯
電球 (バルブ) の交換 283
方向指示レバー 124

る

ルームミラー (インナーミラー) 96

れ

冷却水

冬の前の準備 236

メンテナンスデータ 339

冷却装置 (ラジエーター)

オーバーヒート 332
メンテナンスデータ 339

レーダークルーズコントロール

警告メッセージ 178, 186
接近警報 176, 184
レーダー 141

レーンディィパーチャアラート (LDA)

警告メッセージ 167
操作 165

レントレーシングアシスト (LTA)

警告メッセージ 160
操作 156

レバー

シフト 117, 121
方向指示 124
ボンネット解除 271

ろ

ロードサインアシスト (RSA) 168

ロック

ウインドウロック 101
スマートエントリー&スタートシステム 85
チャイルドプロテクター 81
ドア 79
ワイヤレスリモコン 77

わ

ワイパー＆ウォッシャー

ウォッシャー液の補充 273

フロント 136

リヤ 138

ワイパー・ブレード（寒冷地用） 237

ワイヤレス充電器（おくだけ充電）.258

ワイヤレスリモコン

作動の合図 80

操作 77

電池の交換 279

半ドア警告ブザー 80

ワックス 266

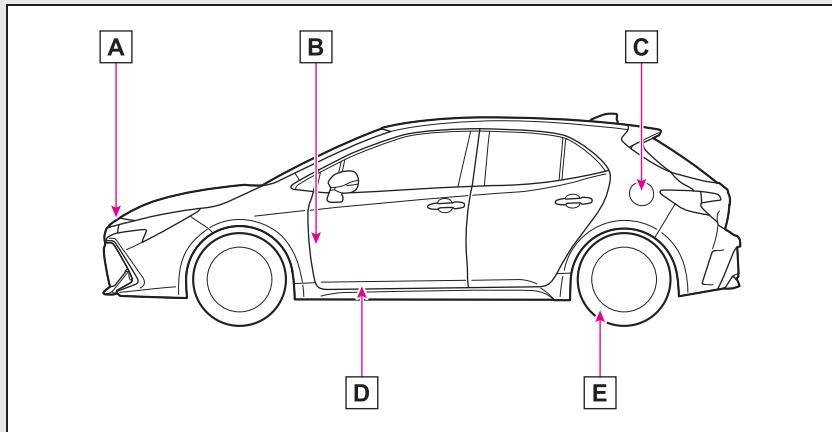
ワット数 343

次の装備は、別冊「マルチメディア取扱書」または「ナビゲーション取扱書」をお読みください。

- ・オーディオ
- ・ナビゲーションシステム
- ・音声操作システム
- ・ハンズフリー
- ・T-Connect
- ・ETC2.0 システム

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。



- A** ボンネットフック (→P.271)
- B** ボンネット解除レバー (→P.271)
- C** 給油口 (→P.140)
- D** 給油扉オーブナースイッチ (→P.140)
- E** タイヤ空気圧 (→P.342)

燃料の容量 (参考値) 50L

燃料の種類	・ 無鉛レギュラーガソリン	P.338
	・ バイオ混合ガソリン (レギュラー) ※ ※ エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン (酸素含有率 3.7%以下) を使用することができます。	
タイヤが冷えていると きの空気圧		P.342
エンジンオイル容量 (参考値)		P.338
エンジンオイルの種類	トヨタ純正キヤッスルモーターオイル	P.338

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願ひいたします。

トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター
全国共通・フリーコール

0800-700-7700

オーブン時間 365日 9:00~18:00

所在地 〒450-8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）をご用意頂くとスムーズな対応が可能です。

「個人情報保護方針」については、
https://toyota.jp/privacy_statement/ にて
掲載しております。

「リコール等情報」については、
<https://toyota.jp/recall/index.html> にて
掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
<https://toyota.jp>

力 J-3



M 12P36
01999-12P36
NAC-2020年7月22日
2020年6月1日初版
2020年7月29日2版
カローラスポーツ(ガソリン車)